

尼ヶ辻遺跡・荒田遺跡 発掘調査報告書

－ 県道泉佐野岩出線道路改良工事に伴う発掘調査 －

2001年 3 月

財団法人 和歌山県文化財センター

尼ヶ辻遺跡・荒田遺跡 発掘調査報告書

－ 県道泉佐野岩出線道路改良工事に伴う発掘調査 －

2001年 3 月

財団法人 和歌山県文化財センター

序

和歌山県の北部を西流する紀の川の流域は、早くから人々の営みが盛んな地域であります。なかでも岩出町は、吉田遺跡や西国分廃寺、また、根来寺坊院跡などからは貴重な埋蔵文化財が数多く発見されているのをはじめ、古くからの重要建造物がいくつも現存するなど、紀北地域はもとより県下でも重要な位置を占めています。

財団法人和歌山県文化財センターでは、和歌山県による県道泉佐野岩出線の道路改良工事に先立ち、平成8年度から平成10年度までの3箇年にわたり、同町内に所在する尼ヶ辻遺跡及び荒田遺跡の発掘調査を行いました。

調査の結果、弥生時代を中心として、古くは縄紋時代にまで遡ることができるこの地域に暮らす人々の営みを示す数多くの遺構や遺物を発見することができました。

当文化財センターでは、発掘調査の終了に引き続き、平成11年度から平成12年度にかけて出土遺物をはじめとする調査資料の整理作業を行ってまいりましたが、ここにその成果を取りまとめ発掘調査報告書を刊行いたします。この報告書が、紀北地域のみならず県下の歴史を知るうえで皆様方の調査研究の一資料となれば幸いに存じます。

最後に、発掘調査及び出土遺物の整理作業、また、本書の作成にあたり、種々御指導・御協力をいただきました関係各位ならびに地元の方々に厚くお礼申し上げますとともに、当文化財センターへの今後もより一層のご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

平成13年3月

財団法人 和歌山県文化財センター

理事長 木 村 良 樹

例 言

1. 本書は、和歌山県那賀郡岩出町に所在する尼ヶ辻遺跡及び荒田遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は、県道泉佐野岩出線道路改良工事に伴う事前調査として、尼ヶ辻遺跡は平成8年度に、荒田遺跡は平成8年度から同10年度にかけて発掘調査を行ない、出土遺物整理は平成11年度及び同12年度に実施した。
3. 発掘調査及び出土遺物整理業務は、和歌山県の委託を受け、和歌山県教育委員会の指導のもとに財団法人和歌山県文化財センターが実施した。
4. 財団法人 和歌山県文化財センター事務局
専務理事（事務局長兼務） 中谷博昭（平成12年6月まで、同年3月まで事務局長兼務）
 〃 （ 〃 ） 田中嘉一（平成12年6月から、同年4月から6月まで事務局長）
事務局次長 菅原正明（平成12年3月まで）
 〃 吉田宣夫（平成11年4月から）
 〃 畑中照雄（平成12年4月から）
管理課長 西本悦子
埋蔵文化財課長 松田正昭
埋蔵文化財課 主査 佐伯和也（尼ヶ辻遺跡発掘調査担当）
 〃 主査 井石好裕（荒田遺跡発掘調査、出土遺物整理担当）
5. 調査及び報告書作成に際し、那賀振興局建設部（旧岩出土木事務所）・県文化財課をはじめ地元諸氏の助言・協力を得た。
6. 航空写真撮影及び航空写真図化は、株式会社ウエスコ及び和歌山航測株式会社に委託した。
7. 胎土分析・微化石分析等の分析調査は、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。
8. 石製品の使用痕観察等の分析調査は、株式会社アルカに委託した。
9. 出土木製品及び金属製品の保存処理は、財団法人元興寺文化財研究所に委託した。
10. 本文は、第2章を佐伯が、それ以外は井石が執筆した。
ただし、第4章については、各分析調査委託会社の報告書を基にしている。
11. 遺構写真は、調査担当者である佐伯及び井石が撮影を行った。
12. 遺物写真は、井石の他、村田 弘（主査）・三浦基行（専門調査員）が撮影を行った。
ただし、石器の顕微鏡写真は株式会社アルカが撮影したものである。
13. 本書の編集は、井石が担当した。
14. 調査及び整理作業で作成した実測図・写真・台帳等の記録資料は財団法人和歌山県文化財センターが、出土遺物は和歌山県教育委員会が各々保管している。

凡 例

1. 遺構実測図及び地区割の基準線は、平面直角座標系（第Ⅵ系）に基づき、方位は座標北を示す。

地区割の詳細については、第1章第3節に記述する。

2. 遺構実測図の基準高は、東京湾標準潮位（T.P.）である。

3. 発掘調査で使用した調査コードは、以下のとおりである。

尼ヶ辻遺跡（1996年度）――― 96-11・024

荒田遺跡 第1次調査（1996年度・B区）―― 96-11・006

 〳 第2次調査（1996年度・B区）―― 96-11・006-II

 〳 第3次調査（1997年度・A区）―― 97-11・006-III

 〳 第3次調査（1997年度・E区）―― 97-11・006-III-2

 〳 第4次調査（1997年度・E区）―― 97-11・006-IV

 〳 第5次調査（1998年度・C区）―― 98-11・006-V

 〳 第5次調査（1998年度・D区）―― 98-11・006-V-2

4. 荒田遺跡の調査区名は、本書作成に際し北から順にA区、・・・、E区と呼称する。

5. 遺構番号は、調査時の番号をそのまま使用し、頭に調査区名を付した。

例 尼ヶ辻遺跡：北1、イ2、・・・ 荒田遺跡：A1、B2・・・

6. 遺物番号は、土器は遺跡別に1番からの通し番号とし、石器については第4章第2節に掲載した一覧表の番号を使用し、頭にSを付した。

7. 遺物番号は、本文・実測図・写真図版において一致する。

8. 遺物実測図の縮尺は、土器類は1／4、石器は2／3及び1／2を基本としている。

遺物写真の縮尺は、特に統一はしていない。

9. 土器及び調査時の土層の色調は、日本色研事業株式会社発行 小山正忠・竹原秀雄編著

『新版標準土色帖 16版』（1995年後期版）を使用した。

10. 本書では、一部を除き原則として年号は西暦表示とした。

目 次

序
例言
凡例

第1章 はじめに	1
第1節 調査の経過	1
第2節 遺跡の位置と環境	3
第3節 調査と整理の方法	6
1. 調査の方法	6
2. 整理の方法	8
第2章 尼ヶ辻遺跡	9
第1節 調査の経過と概要	9
第2節 遺構と遺物	13
第3章 荒田遺跡	20
第1節 A区の調査	20
1. 概要	20
2. 遺構と遺物	23
第2節 B区の調査	32
1. 概要	32
2. 遺構と遺物	34
第3節 C区の調査	65
1. 概要	65
2. 遺構と遺物	66
第4節 D区の調査	82
1. 概要	82
2. 遺構と遺物	88
第5節 E区の調査	91
1. 概要	91
2. 遺構と遺物	96
第4章 分析調査	103
第1節 荒田遺跡の自然科学分析調査	103
第2節 荒田遺跡の剥片石器群	133
第3節 荒田遺跡における磨製石器類と礫石器	153
第4節 荒田遺跡における石包丁の使用痕分析	157
第5章 まとめ	163
遺物一覧表	167
抄録	198

図 版 目 次

P L. 1	1	遺跡遠景	P L. 12	1	B区全景
	2	尼ヶ辻遺跡		2	B 1 区土層
P L. 2	1	A区	P L. 13	1	B 1 区北半部
	2	C区		2	B 2 区全景
P L. 3		B区	P L. 14	1	B 1
P L. 4	1	D区		2	B14
	2	E区		3	B401
P L. 5	1	A区 A501西壁面土層		4	B13
	2	B区 柱穴検出状況 (B80他)		5	B14土層
	3	B区 柱穴断面 (建物1)		6	B403
	4	B区 柱穴断面 (建物1)	P L. 15	1	B142・161土層
	5	B 1 区 南東壁面土層		2	B141
	6	D790土層	P L. 16	1	B381
	7	E区 中世溝検出状況		2	B381土層
	8	E630土層		3	B315
P L. 6	1	イ〜ハ段全景		4	B315土層
	2	イ133・142・143		5	B118土層
	3	北195		6	B 4 区全景
	4	イ133	P L. 17	1	B 1 区建物1・2
P L. 7	1	ハ31		2	B64断面
	2	ハ段溝状遺構		3	B225断面
	3	南203土層		4	B87瓦器出土状況
	4	ハ31土器出土状況		5	B90瓦器出土状況
	5	南拡張区土層	P L. 18	1	B 3 区南半部
	6	ハ段セクションベルト土層		2	B 3 区建物5
P L. 8	1	北拡張区	P L. 19	1	B232
	2	南拡張区北半部		2	B232断面
P L. 9	1	A区全景		3	B404出土状況
	2	A501		4	B302
P L. 10	1	A 6 区全景		5	B302土層
	2	A506		6	B302土層
	3	A506	P L. 20	1	C区全景
	4	A 5・6 区拡張部		2	C14区全景
P L. 11	1	A513土層	P L. 21	1	C805
	2	A556		2	C735
	3	A558			
	4	A556土層			
	5	A559土層			

P L. 22 1 C 701
 2 C 701土層
 3 C 735中央部Pit
 4 C 739土層
 5 C 725土器出土状況
 6 C 15区拡張部
 7 C 703土器出土状況
 P L. 23 1 C 706
 2 C 15区
 3 C 799土器出土状況
 4 C 800土器出土状況
 P L. 24 1 D区全景
 2 D区全景
 P L. 25 1 D794
 2 D794土層
 3 D784
 4 D784土層
 P L. 26 1 D790
 2 D790土層
 3 D790土層
 P L. 27 1 D18区南半部
 2 D802土層
 3 D798土層
 4 D796・797
 P L. 28 1 E区全景
 2 E11・12区上面遺構
 P L. 29 1 E630
 2 E630土層
 3 E11区第4 C層土層

P L. 30 1 E617土層
 2 E619
 3 E622
 4 E617
 5 E619土器出土状況細部
 6 E618土層
 P L. 31 尼ヶ辻遺跡出土遺物
 P L. 32 尼ヶ辻遺跡出土遺物
 P L. 33 A区遺構出土遺物
 P L. 34 A区遺構出土遺物
 P L. 35 B区包含層出土遺物
 P L. 36 B区包含層出土遺物
 P L. 37 B区遺構出土遺物
 P L. 38 B区遺構出土遺物
 P L. 39 B区遺構出土遺物
 P L. 40 B区遺構出土遺物
 P L. 41 B区遺構出土遺物
 P L. 42 C区包含層出土遺物
 P L. 43 C区包含層出土遺物
 P L. 44 C区遺構出土遺物
 P L. 45 C区遺構出土遺物
 P L. 46 D区出土遺物
 P L. 47 E区出土遺物
 P L. 48 E区出土遺物
 P L. 49 E区出土遺物
 P L. 50 弥生土器細部
 P L. 51 弥生土器細部
 P L. 52 石器
 P L. 53 石器
 P L. 54 石器
 P L. 55 石器

挿 図 目 次

第1図	調査区位置図	2
第2図	遺跡位置図	3
第3図	紀伊国分寺跡	4
第4図	周辺の遺跡	5
第5図	地区割模式図	6
第6図	尼ヶ辻遺跡地区割図	6
第7図	荒田遺跡地区割図	7
第8図	尼ヶ辻遺跡基準土層	9
第9図	包含層出土遺物分布図	10
第10図	遺構配置図	11・12
第11図	遺構実測図	14
第12図	遺構実測図	15
第13図	包含層出土遺物実測図	16
第14図	ハ31出土遺物実測図	17
第15図	遺構出土遺物実測図	19
第16図	A区基準土層図	20
第17図	A区包含層出土遺物分布図	20
第18図	A区遺構配置図	21・22
第19図	A区包含層出土遺物実測図	23
第20図	A区遺構実測図	25
第21図	A501出土遺物実測図	26
第22図	A501出土遺物実測図	27
第23図	A区遺構出土遺物実測図	28
第24図	A513出土遺物実測図	29
第25図	A558・556出土遺物実測図	30
第26図	A区遺構実測図	31
第27図	B区基準土層図	32
第28図	B区包含層出土遺物分布図	33
第29図	B区遺構配置図	35
第30図	B区遺構配置図	37・38
第31図	B1・2区包含層出土遺物実測図	39
第32図	B1区包含層出土遺物実測図	40
第33図	B3区包含層出土遺物実測図	41
第34図	B3区包含層出土遺物実測図	42
第35図	B3区包含層出土遺物実測図	43
第36図	B3区包含層出土遺物実測図	44
第37図	B3区包含層出土遺物実測図	45

第38図	B区遺構実測図	47
第39図	B区遺構実測図	48
第40図	B区遺構実測図	49
第41図	B区遺構実測図	50
第42図	B区遺構実測図	51
第43図	B区遺構出土遺物実測図	53
第44図	B区遺構出土遺物実測図	54
第45図	B区遺構出土遺物実測図	55
第46図	B315出土遺物実測図	56
第47図	B315出土遺物実測図	57
第48図	B315出土遺物実測図	58
第49図	B区遺構出土遺物実測図	59
第50図	B区遺構出土遺物実測図	60
第51図	B区遺構実測図	61
第52図	B区遺構実測図	62
第53図	B232実測図	63
第54図	B3区遺構出土遺物実測図	64
第55図	C区基準土層図	65
第56図	C区包含層出土遺物分布図	66
第57図	C区包含層出土遺物実測図	67
第58図	C区包含層出土遺物実測図	68
第59図	C区包含層出土遺物実測図	69
第60図	C区包含層出土遺物実測図	70
第61図	C区包含層出土遺物実測図	71
第62図	C区遺構配置図	73・74
第63図	C区遺構配置図	75
第64図	C区遺構配置図	76
第65図	C区遺構配置図	77
第66図	C区遺構出土遺物実測図	78
第67図	C区遺構出土遺物実測図	79
第68図	C706出土遺物実測図	80
第69図	C703出土遺物実測図	81
第70図	D区基準土層	82
第71図	D区包含層出土遺物分布図	82
第72図	D区包含層出土遺物	83
第73図	D区遺構実測図	84
第74図	D区遺構実測図	85・86
第75図	D区遺構実測図	87
第76図	D790土層図	88

第77図	D区遺構出土遺物	89
第78図	E区基準土層図	91
第79図	E区包含層出土遺物分布図	92
第80図	E区遺構配置図	93・94
第81図	E区包含層出土遺物実測図	95
第82図	E区包含層出土遺物実測図	96
第83図	E区遺構実測図	97
第84図	E区遺構出土遺物実測図	98
第85図	E区遺構出土遺物実測図	99
第86図	E 619実測図	100
第87図	E 619出土遺物実測図	101

表 目 次

表 1	調査工程表	1	表 7	C区含層出土遺物数量表	65
表 2	尼ヶ辻遺跡 包含層出土遺物数量表	9	表 8	D区包含層出土遺物数量表	82
表 3	A区包含層出土遺物数量表	20	表 9	E区包含層出土遺物数量表	91
表 4	A501出土遺物数量表	24	表10	荒田遺跡土器等数量一覧表	163
表 5	B区包含層出土遺物数量表	32	表11	区別石器数量表	164
表 6	B区 区別出土遺物数量表	34	表12	B区層別石器数量表	164

写 真 目 次

写真 1	根来寺坊院跡	3	写真 6	B区田畑への進入路	32
写真 2	根来寺坊院跡	3	写真 7	C・D区調査前の状況	65
写真 3	西国分Ⅱ遺跡	4	写真 8	礫層の断面	90
写真 4	遺物の整理	8	写真 9	試掘調査（中世溝検出状況）	91
写真 5	図版の作成	8			

第4章 図・表・写真目次

第1節

表 1	珪藻分析・花粉分析用試料	105
表 2	胎土薄片作成観察用試料	106
図 1	主要珪藻化石群集	109
図 2	花粉化石群集	111
表 3	リン・カルシウム分析結果	112
表 4	胎土薄片観察結果	113
図版 1	珪藻化石 (1)	123
図版 2	珪藻化石 (2)	124
図版 3	花粉化石 (1)	125
図版 4	花粉化石 (2)	126
図版 5	胎土薄片 (1)	127
図版 6	胎土薄片 (2)	128
図版 7	胎土薄片 (3)	129
図版 8	胎土薄片 (4)	130
図版 9	胎土薄片 (5)	131

第2節

押圧剥離の種類	135
石核の構造表	136
剥片石器の構造表	136
石鏃と整形加工の構造表 1	137
石鏃と整形加工の構造表 2	137
石錐と整形加工の構造表 1	137
図 1 荒田遺跡の石器組成 (1)	139
図 2 荒田遺跡の石器組成 (2)	140
表 石器属性表 1	141
表 石器属性表 2	142
表 石器属性表 3	143
図 3 石器実測図	144
図 4 石器実測図	145
図 5 石器実測図	146
図 6 石器実測図	147
図 7 石器実測図	148
写真 1	149
写真 2	150
写真 3	151
写真 4	152

第3節

図 1 石器実測図	155
図 2 石器実測図	156

第4節

図版 1	160
図版 2	161
図版 3	162

第1章 はじめに

第1節 調査の経過（表1、第1図）

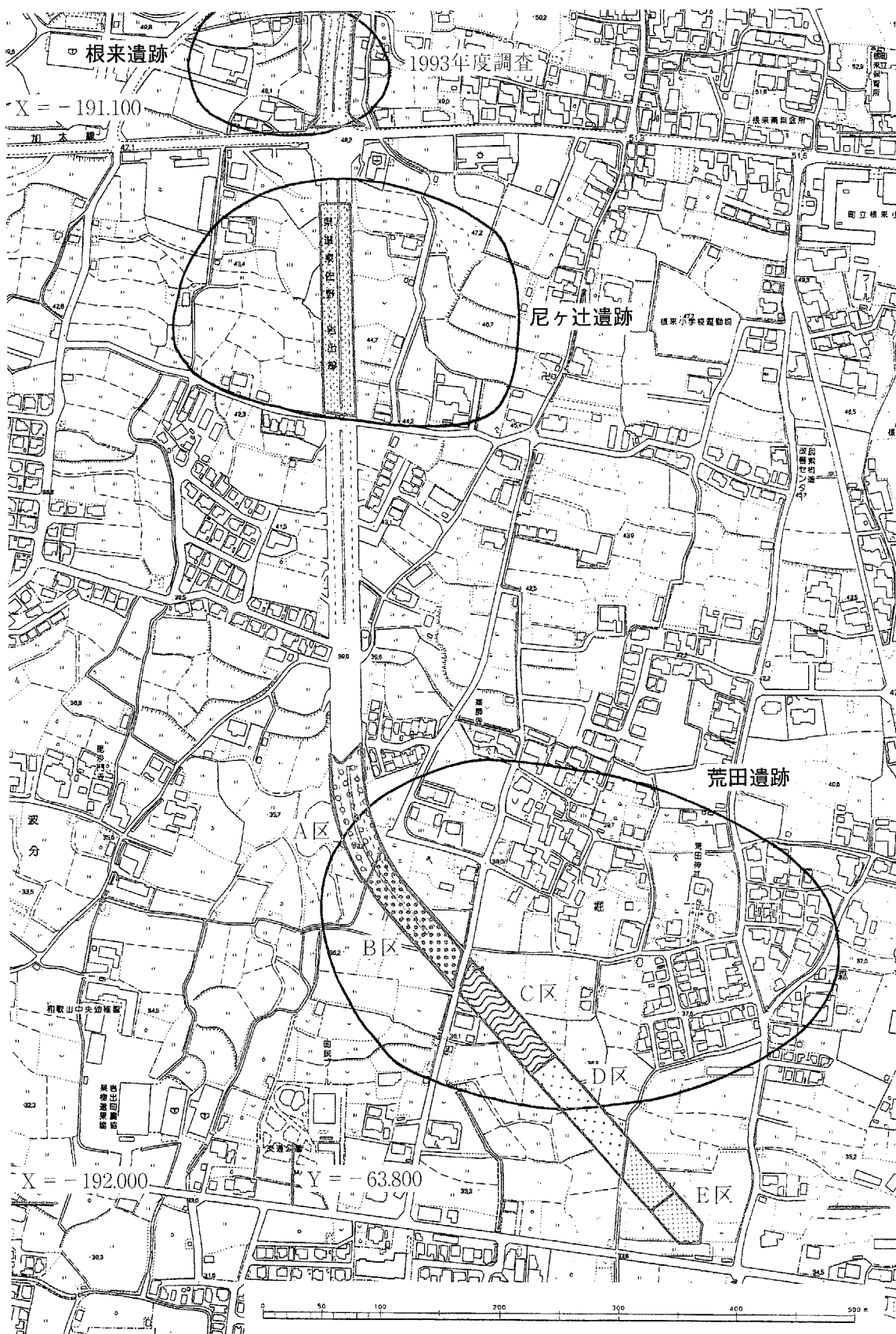
和歌山県と大阪府南部の境界となる和泉山脈を横断する幹線道路の1つである泉佐野岩出線は、和歌山県から関西国際空港へのアクセス道として、また、近年の岩出町の人口の増加に伴い交通量が増大している。このため、現在2車線の同道路を4車線化し、交通渋滞の緩和と地域の活性化を図るため、道路の拡幅工事が1988年度から行なわれてきた。これに伴い、県道粉河加太線以北については、1991年度から範囲確認調査が実施され、1993年度から1995年度にかけて発掘調査が行なわれている。今回の発掘調査は、粉河加太線以南の工事に伴うものである。

調査は、道路擁壁工事に伴い県教育委員会が確認調査を行ない、県岩出土木事務所（現那賀振興局）と協議を重ねた結果、遺物包含層等が確認された範囲を対象として当センターに調査依頼があり、尼ヶ辻遺跡については1996年6月から、荒田遺跡は同年8月から現地調査を開始した。

尼ヶ辻遺跡及び荒田遺跡共に調査実施途中において、遺構及び遺物包含層が当初の調査範囲を超えてさらに南北方向に延びていくことが確実となった。このため再度協議が行なわれ、尼ヶ辻遺跡については当該年度の事業として南北両側に調査範囲を拡張すること、荒田遺跡については擁壁工事が行なわれるに際しての立会い調査と、次年度事業として改めて遺跡範囲確認のための試掘調査を行い、その結果を基にして調査範囲の見直しが行なわれることとなった。試掘調査の結果、遺物包含層や遺構が確認された範囲（A・C～E区）について1997年度及び1998年度に調査を実施した。

遺跡名	次	区	1996												1997												1998												1999		
			6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3					
荒田遺跡																																									
	1	B																																							
	2	B																																							
	3	試掘																																							
		A																																							
		E																																							
	4	E																																							
	5	C																																							
D																																									

表1 調査工程表



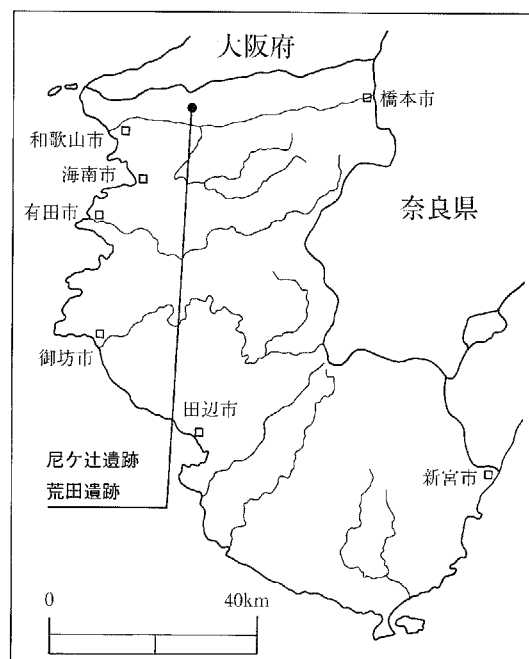
第1図 調査区位置図

第2節 遺跡の位置と環境（第2～4図、写真1～3）

尼ヶ辻遺跡及び荒田遺跡は紀ノ川の北方約2km、標高30～40m前後の段丘上に位置し、調査地周辺では概ね北西から南東方向に向かって傾斜（下降）している。周辺は水田・畑地及び住宅地である。

荒田遺跡は1970年代の初頭に今回の調査地の約300m東方に位置する荒田神社近辺で弥生土器や石器が多量に採取され、遺跡として周知されるようになったが、発掘調査が行われるのは今回が最初である。

一方、尼ヶ辻遺跡は地表面での遺物の散布が確認され、1996年3月発行の『和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図』に初めて記載された遺跡である。



第2図 遺跡位置図

両遺跡周辺の遺跡密度は低く、北には根来遺跡（奈良～中世）・根来寺坊院跡、西には山崎遺跡（古墳～奈良）、赤垣内遺跡、南には荊本遺跡（弥生）などが点在している。これに対し、東方約2～3kmの地域には、西国分廃寺・岡田遺跡・西国分Ⅱ遺跡や紀伊国分寺等をはじめとする縄紋時代から奈良時代にかけての遺跡が、また、同じく西方2～3kmには吉田遺跡を中心とする遺跡群が密集して分布している。

旧石器時代から縄紋時代にかけての遺物が出土している遺跡は少なく、ナイフ型石器が出土した西国分Ⅱ遺跡、石棒や縄紋中期から晩期の土器が出土する岡田遺跡、縄紋時代の磨製石斧が出土した不動谷遺跡等がある。

弥生時代になると遺跡数は大幅に増加するが、本格的な調査が実施された遺跡は少なく、遺物の出土が確認されているのみで、上記地図において散布地とのみ記載されている例が多い。



写真1 根来寺坊院跡（1990年度調査）

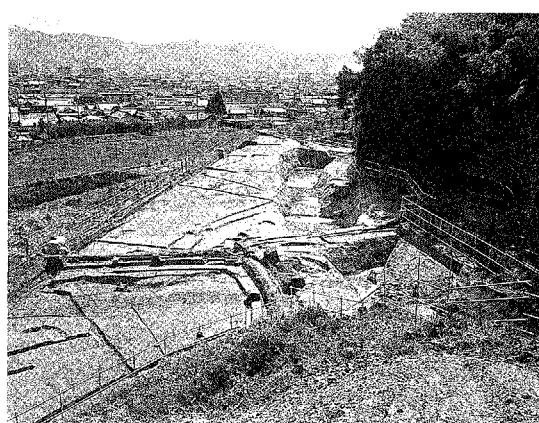


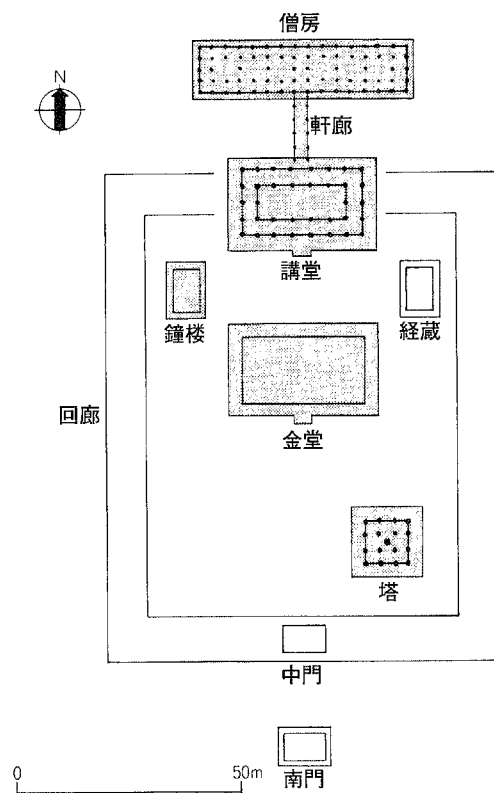
写真2 根来寺坊院跡（1993年度調査）

この時代の代表的な遺跡には吉田遺跡がある。1969年から2ヵ年調査が行なわれ、弥生中期から後期にかけての遺構と多量の遺物が検出されている。竪穴住居は中期に属するものが12棟、後期のものが17棟確認され、また、中期の壺棺墓や方形周溝墓も検出されている。

古墳は少なく、八幡塚古墳や三昧塚古墳群をはじめ10数基が確認されているものの、この内の多くは現在既に消滅している。

奈良時代から平安時代にかけての遺跡は多く、紀伊国分寺跡や西国分廃寺の寺院跡をはじめ、西国分Ⅱ遺跡・岡田遺跡・吉田遺跡等がある。紀伊国分寺跡は、2町四方の寺域の西側に伽藍を建立し、8世紀中頃には完成していたと考えられている。発掘調査は1973年以来随時行なわれ、また、1989年からは史跡整備に伴う調査や復元事業が実施され、2001年度には史跡緑地としてオープンする予定となっている。西国分廃寺は、1975年から1976年にかけて調査が行なわれ、塔の位置や規模は明らかになっているが、伽藍や寺域については不明である。西国分Ⅱ遺跡・岡田遺跡は、これまでの調査により奈良時代から平安時代にかけての建物が多数検出されており、古代那賀郡の郡衙跡である可能性も指摘されている。吉田遺跡では、奈良時代の竪穴住居や掘立柱建物の他、火葬墓が検出されている。

中世以降の遺跡で著名なのは根来寺坊院跡である。発掘調査は、1970年代中頃から、県教育委員会・岩出町教育委員会・(社)和歌山県文化財研究会・当センターによって、大規模農道の建設や宅地開発に伴い、また、1980年からは保存資料作成のための第1期(10年)及び第2期(5年)に亘る発掘調査が連綿と行なわれている。1988年度から1990年度にかけて行なわれた調査では、多くの地下式倉庫や高さ4mにも及ぶ石垣が、1991年度からの県道泉佐野岩出線の建設工事に伴う発掘調査では、幅が平均15m・深さ4m前後の大規模な堀が検出されている。



第3図 紀伊国分寺跡

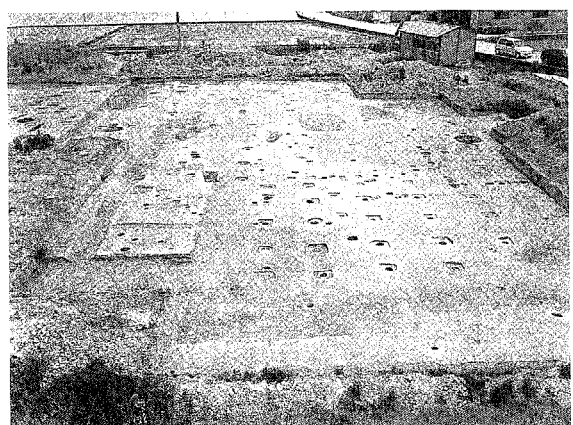
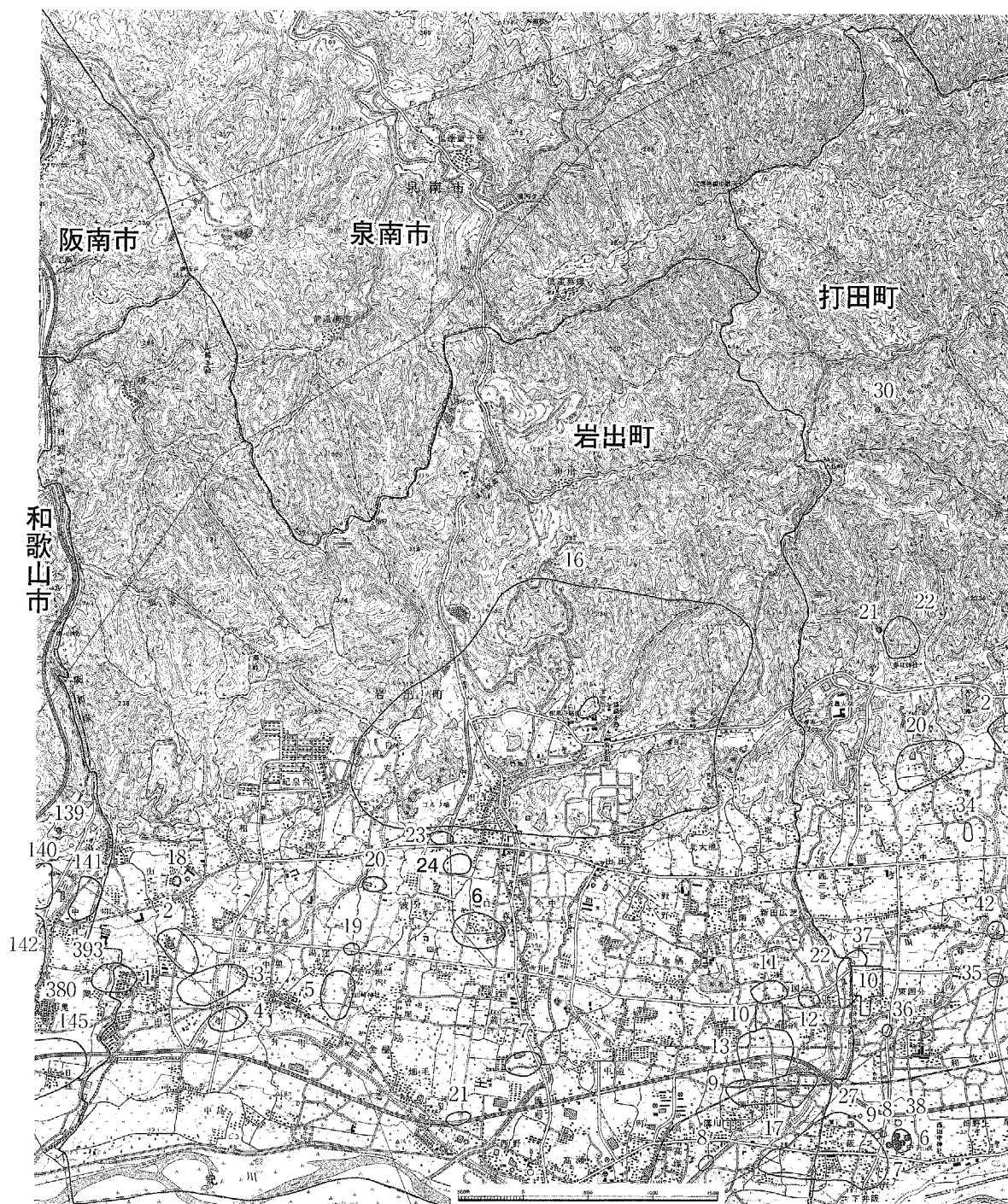


写真3 西国分Ⅱ遺跡



第4図 周辺の遺跡

	岩 出 町	10	西国分廃寺 (西国分塔跡)	22	東国分Ⅱ遺跡	10	紀伊国分寺跡	38	轟塚古墳
1	吉田遺跡	11	西国分Ⅰ遺跡	23	根来遺跡	20	東三谷遺跡	42	王城跡
2	山一遺跡	12	上器田遺跡	24	尼ヶ辻遺跡	21	不動寺谷遺跡		和歌山市
3	中黒Ⅰ遺跡	13	西国分Ⅱ遺跡		打 田 町	22	春日山城跡	139	山口ⅠⅠ号墳
4	中黒Ⅱ遺跡	16	根来寺坊院跡	2	枇杷谷遺跡	27	岡田Ⅱ遺跡	140	山口廃寺跡
5	山崎遺跡	17	岡田Ⅱ遺跡	3	枇杷谷古墳	30	倉谷山経塚	141	中筋日延遺跡
6	荒田遺跡	18	山遺跡	6	三味塚古墳群	34	池田遺跡	142	山口遺跡
7	荊本遺跡	19	赤垣内遺跡	7	八幡塚古墳	35	古和田遺跡	145	川辺遺跡
8	高塚遺跡	20	波分遺跡	8	じょう穴古墳	36	東国分Ⅰ遺跡	380	山口御殿跡
9	岡田遺跡	21	畑毛遺跡	9	無名塚古墳	37	東国分Ⅱ遺跡	393	吉田遺跡

第 3 節 調査と整理の方法

1. 調査の方法（第 5 ～ 7 図）

調査区名

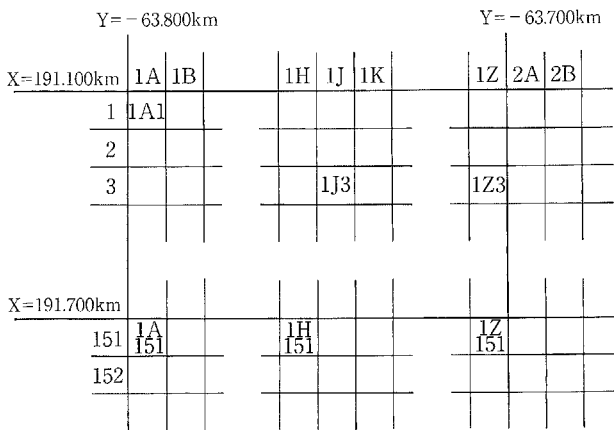
調査対象地は、幅20m前後であるが南北方向に細長い。このため、調査の便宜上水田の畦畔等をもとに、尼ヶ辻遺跡ではイ～ハ段（後拡張した部分については、各々北及び南拡張区）、荒田遺跡では1～19区を設定した（第 6 ・ 7 図）。

地区割

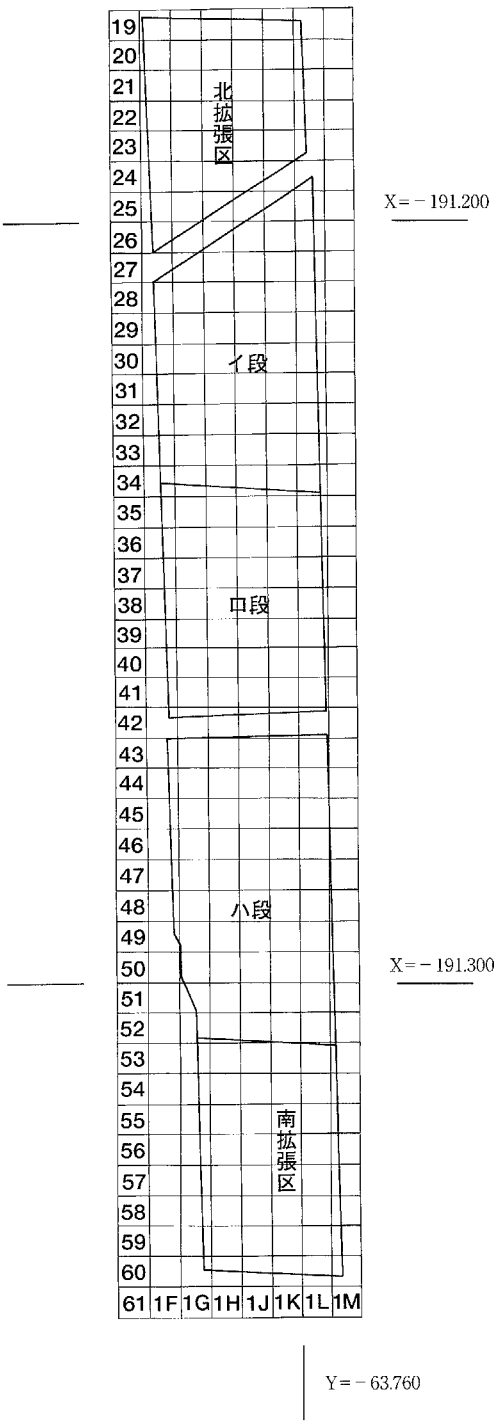
出土遺物の取上げ等に使用する地区割は、今後の調査や、尼ヶ辻遺跡及び荒田遺跡の調査との関連性を考慮し、統一した呼称が行えるようにした。基準線は、 $X = -191.100\text{km}$ ・ $Y = -63.800\text{km}$ の交点を基点とし、4 m 毎に割り付けた。地区の呼称は第 5 図に示すように、東西方向は西から東方向に向かってローマ字を（I を除く25文字）、南北方向は北から南方向に向かって算用数字（1～）を使用し、地区名はこれを組み合わせて呼称した。

調査の方法

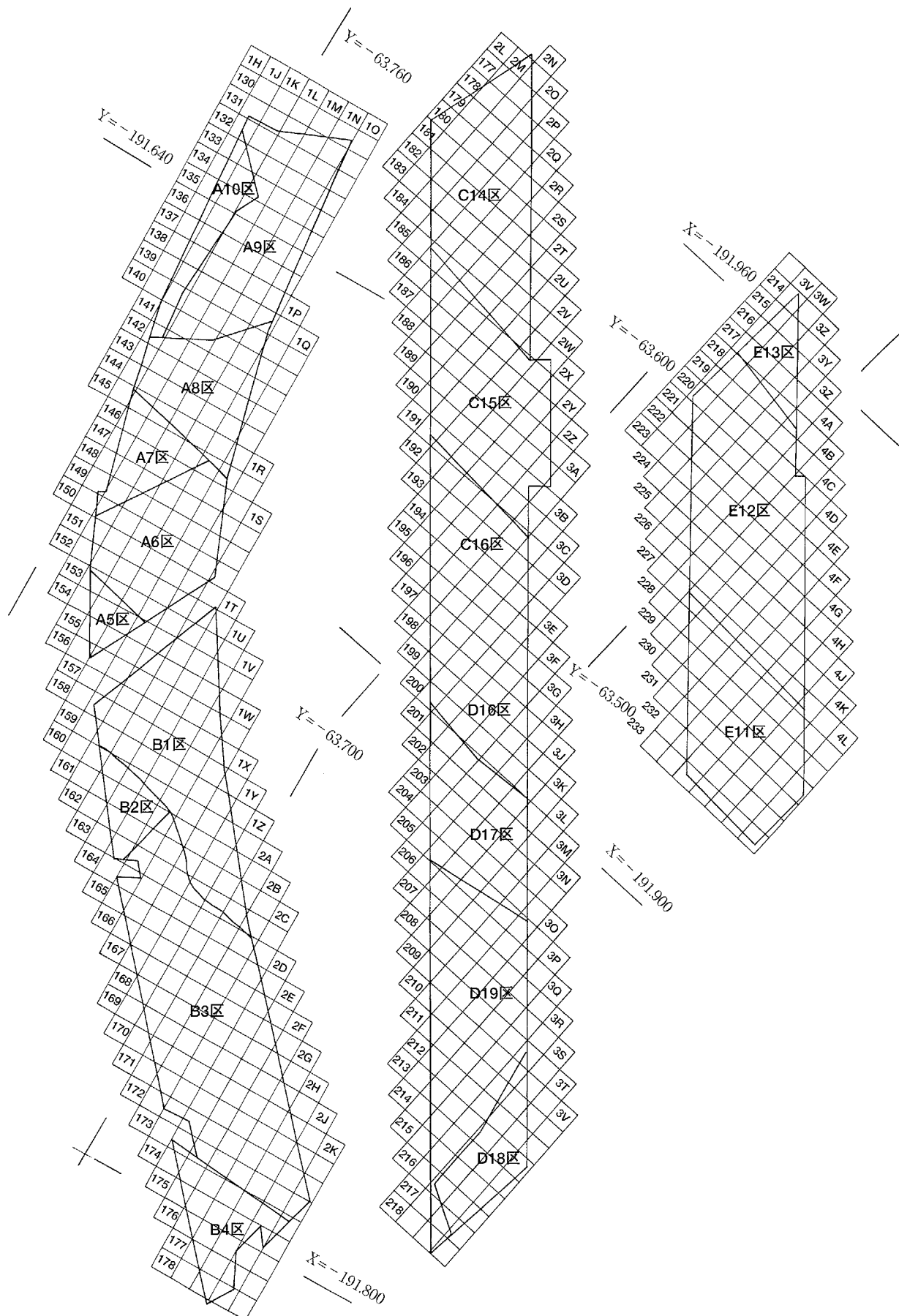
擁壁工事に伴う建設機械進入のため、調査区のほぼ全域に客土或いは碎石が敷かれていた。このためこれらの客土・碎石及び表土層と耕作土・床土については重機により掘削・排土し、包含層以下は人力で掘削を行った。



第 5 図 地区割模式図



第 6 図 尼ヶ辻遺跡地区割図



第7図 荒田遺跡地区割図

遺構番号は、遺物が出土したものについてのみ、両遺跡個別に、調査区に係らず1番からの通し番号とした。

ただし、荒田遺跡については、調査が3ヵ年（5次）にわたるため、遺構番号の重複を避けるため、調査区により501番から、或いは601番から等々とした。従って、荒田遺跡に関しては必ずしも番号は連続しておらず、いくつかの欠番がある。

出土遺物の登録は、基本的には遺物収納袋（ビニール袋）を1単位として行っている。

2. 整理の方法（写真4・5）

尼ヶ辻遺跡及び荒田遺跡の調査終了時の出土遺物量は、尼ヶ辻遺跡ではコンテナ（容量平均28ℓ）24箱、荒田遺跡が同346箱（土壌サンプル等を含む）である。調査と並行しての応急遺物整理として、洗浄作業の殆どと注記作業の一部を行っている。

今回の、調査報告書作成を伴う遺物整理事業では、主に以下の作業を行った。

登録・洗浄・注記・接合は、全出土遺物を対象に作業を行った。荒田遺跡分は、各調査次毎に登録をし、登録台帳を作成した。また、石器及び剥片が多量に出土した遺構の埋土を土嚢袋にて収集していたので、洗浄後剥片・碎片等の抽出を行った。注記は、例言に記した調査コードと登録番号のみを記した。接合は、登録番号毎・層毎・遺構毎に各々行い、その後、遺構及び包含層の内容が把握できるよう主たる遺物を抽出し、実測・復元等の各作業を実施した。さらに、報告書に使用する遺構及び遺物を再度検討し、トレース・実測図版の作成を行うと共に、遺物写真撮影・遺構及び遺物の写真図版の作成を行なった。



写真4 遺物の整理

出土遺物の破片点数は、尼ヶ辻遺跡と荒田遺跡では遺物の内容が大きく異なるため、表2及び表3等の分類基準により集計を行い、一覧表及び分布図を作成した。

その他、遺物カード作成、各種台帳の作成とパソコンへの入力、調査資料の長期保存を目的とした、カラー写真の褪色やカビ・埃等による悪影響から保護するためにフォトCDを作成し、また、主要な遺構実測図面についてはスキャナーで読み取りCDに保存した。

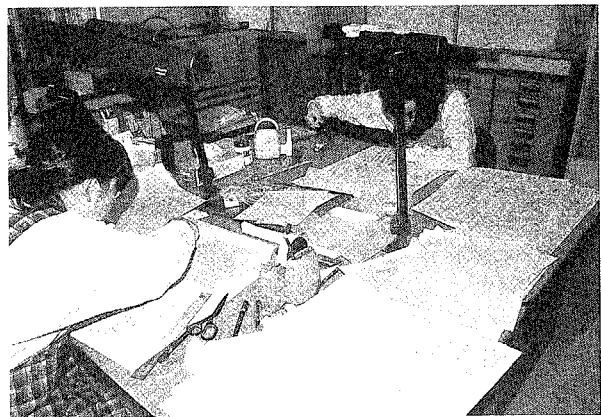


写真5 図版の作成

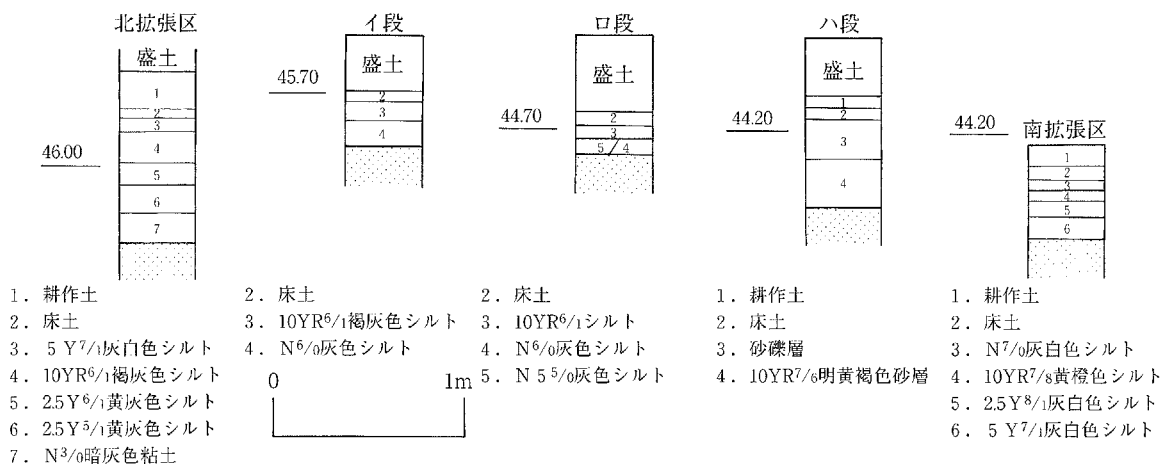
第2章 尼ヶ辻遺跡

第1節 調査の経過と概要（第8・10図）

本遺跡は県道泉佐野岩出線建設工事に伴うものである。調査の発端はこれの擁壁および水路工事の際の立合い調査において、遺構や包含層が検出され土器の出土が確認された。そこで、このことについて協議の結果、発掘調査の必要性があると判断され、当初、尼ヶ辻地内の道路建設部分の2,100㎡に調査地を定め、最終的には約3,140㎡を調査対象とした。また新発見の遺跡でもあるため、調査に必要不可欠である基点をこの遺跡の北方に設定した。

調査前の状況は工事用の盛土で覆われていた。まず、この盛土および耕作土と床土を重機により除去した。次いで、除去後の地形は北から南に向かって低くなり3段の高低差がついていたため調査の便宜上北からイ段・ロ段・ハ段と調査区を呼称した。床土より下層の土（遺物包含層）については人力で掘削した。

調査の途中で上記の検出した包含層が調査区の北方向、南方向に延びていると判断し、それぞれ新たに調査区を設定した。これらの調査区を北拡張区、南拡張区と呼称した。

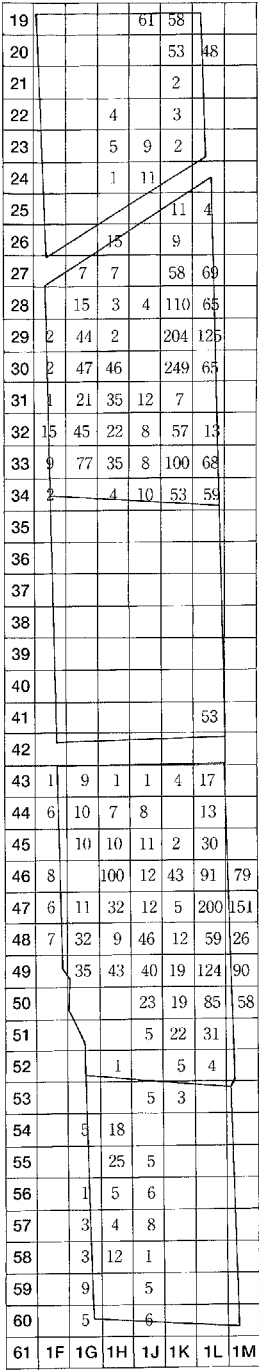


第8図 尼ヶ辻遺跡基準土層図

層	計	古墳～平安		鎌倉～室町					近世以降			不明・その他
		土師器	須恵器	土師器	瓦器	須恵器	陶磁器	瓦	陶磁器	瓦	その他	
第1層	7	0	0	1	0	0	5	1	0	0	0	0
第2層	441	1	25	309	66	0	20	10	0	8	0	2
第3層	3,953	0	169	2,416	886	67	267	39	17	68	1	23
第4層	985	0	56	588	269	9	24	16	11	3	0	9
第5層	322	0	26	206	72	4	7	4	0	1	0	2
第7層	114	0	10	59	22	0	16	4	0	1	0	2
合計	5,822	1	286	3,579	1,315	80	339	74	28	81	1	38

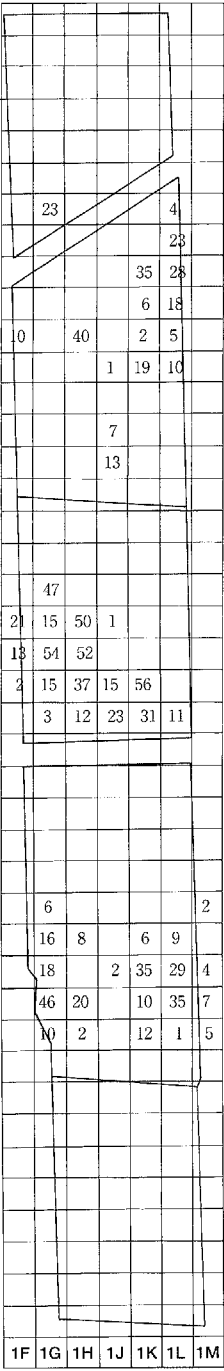
表2 尼ヶ辻遺跡包含層出土遺物数量表

第3層



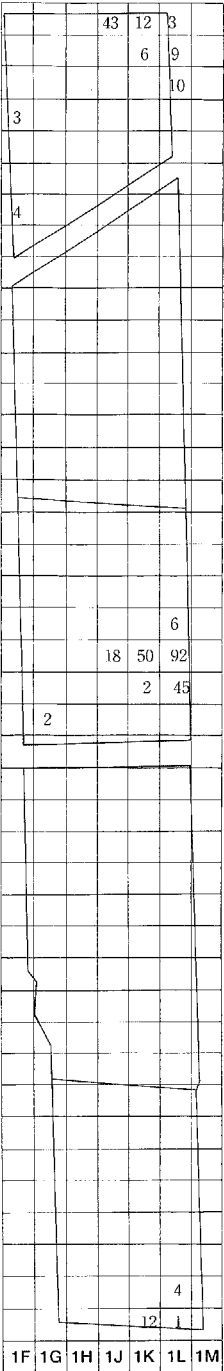
第4層

X = - 191.200

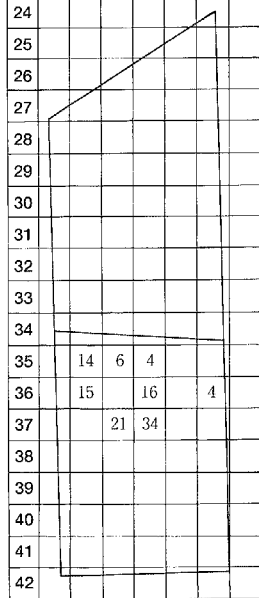


第5層

X = - 191.200



第7層



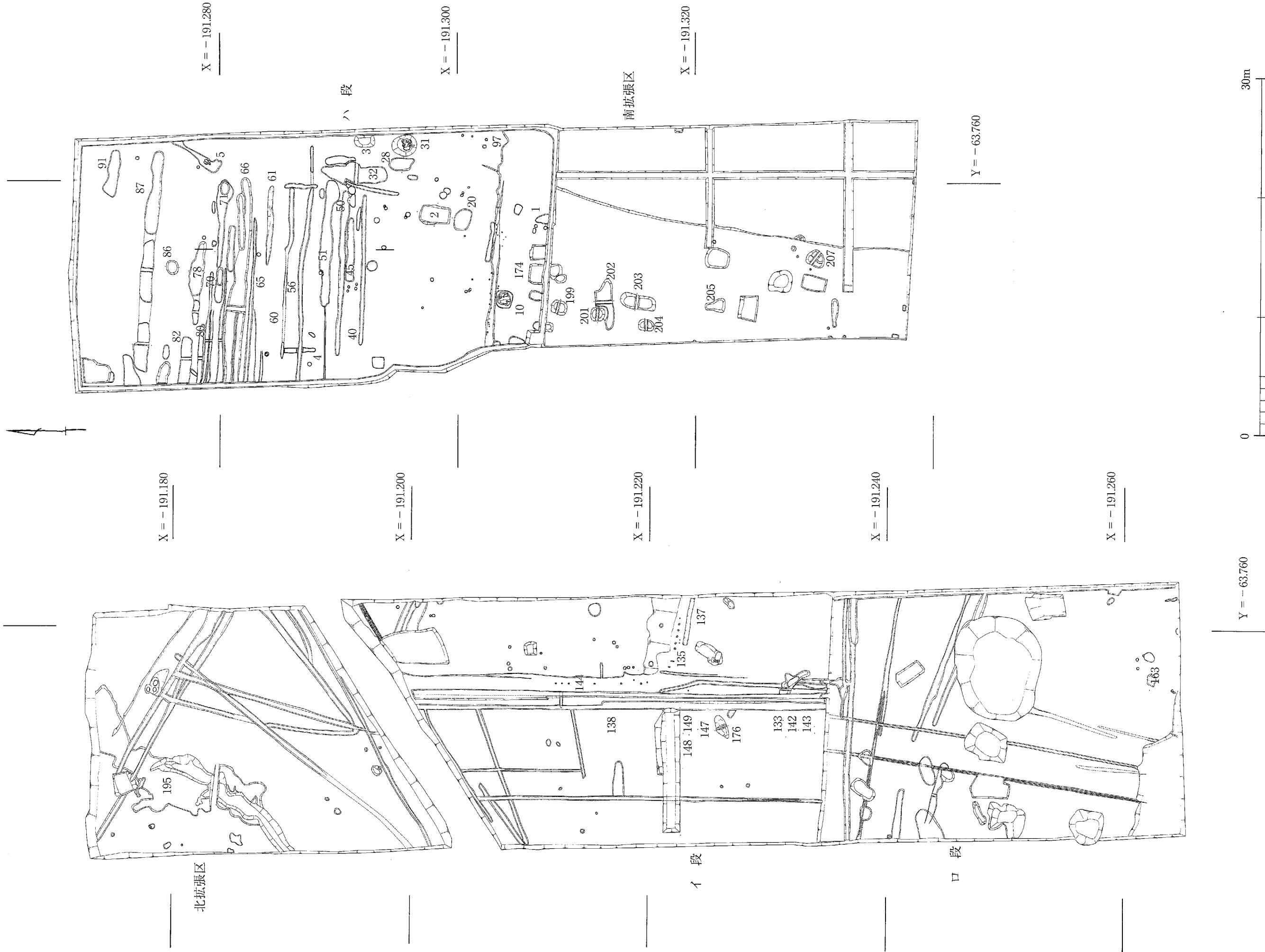
イ段

ロ段

Y = - 63.760

Y = - 63.760

第9図 包含層出土遺物分布図



第10図 遺構配置図

第2節 遺構と遺物（第8～15図、表2、PL.1・6～8・31・32）

調査地の現況はすべて水田であった。基本的な層序はいずれの調査区も第1層を耕作土、第2層を床土、第3層以下を順次包含層にした。今回の調査における包含層はすべて中世のもので、旧水田と考えられる。出土遺物の大半は中近世のものであった。古墳時代から古代にかけての遺物も微量ではあるが出土している。しかしながら、これらに伴う遺構は皆無であった。また中近世以外の遺物の殆んどはローリングをうけ、調査地の北東の微高地から流されてきたものと考えられる。以下主だった遺構と遺物について記す。

北 拡 張 区（第8～10・13図、PL.6・8・32）

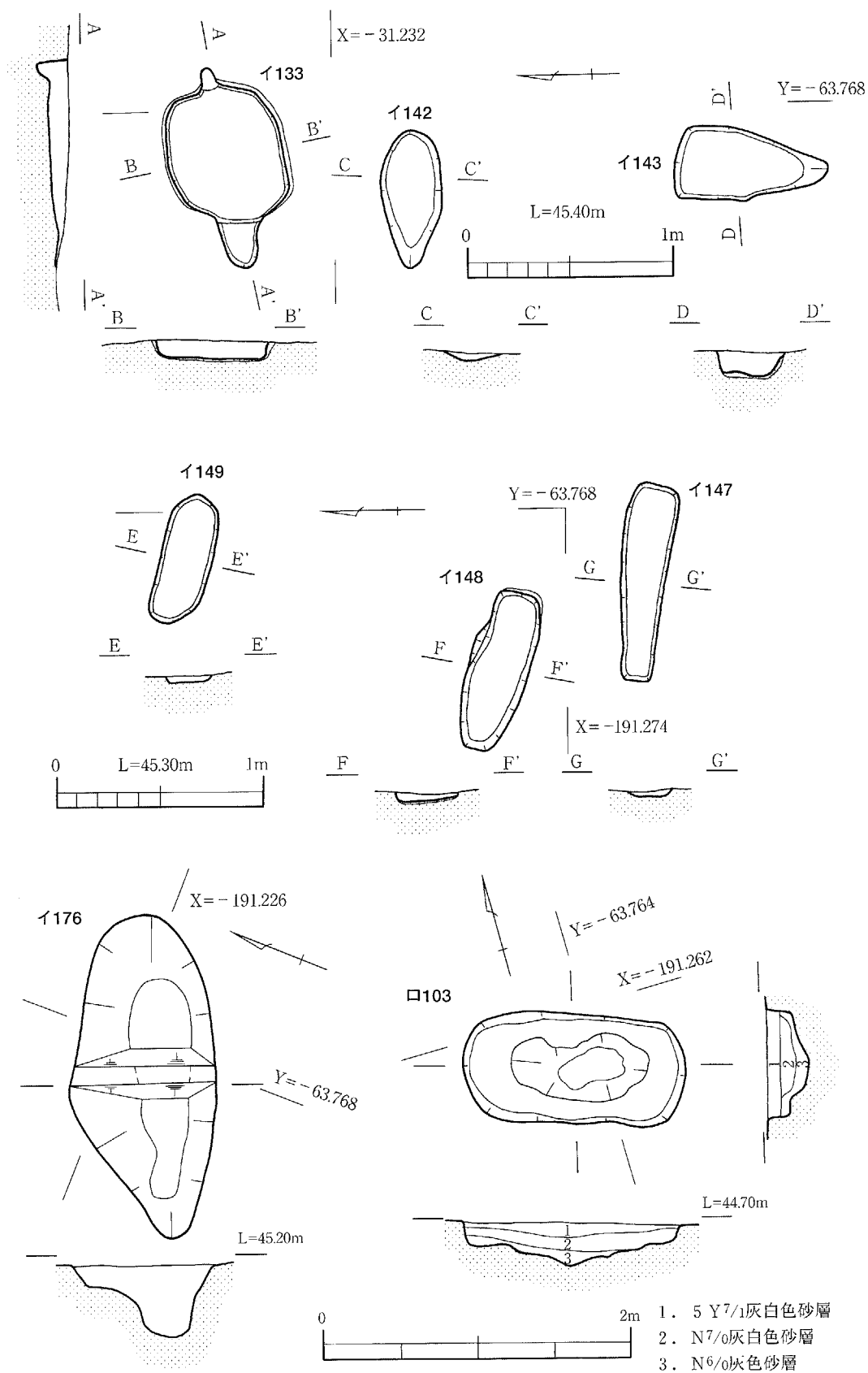
この調査区の北東隅は一段高くなり、中世の包含層を3層検出した。これらの層からはいずれも破片であるが瓦器・土師器皿・土師質鍋・焼締陶器・須恵器等が出土した。出土した須恵器の殆んどはローリングをうけ、著しく磨耗しているものもある。北側の高所から流れてきたものと思われる。検出遺構は低い箇所で溝状遺構（北195）・柱穴・近世あるいは近代の暗渠排水溝を検出した。この溝状遺構からの出土遺物は皆無で、覆土に微量の炭片を含むのみであった。

イ 段（第8～11・13・15図、PL.6・31・32）

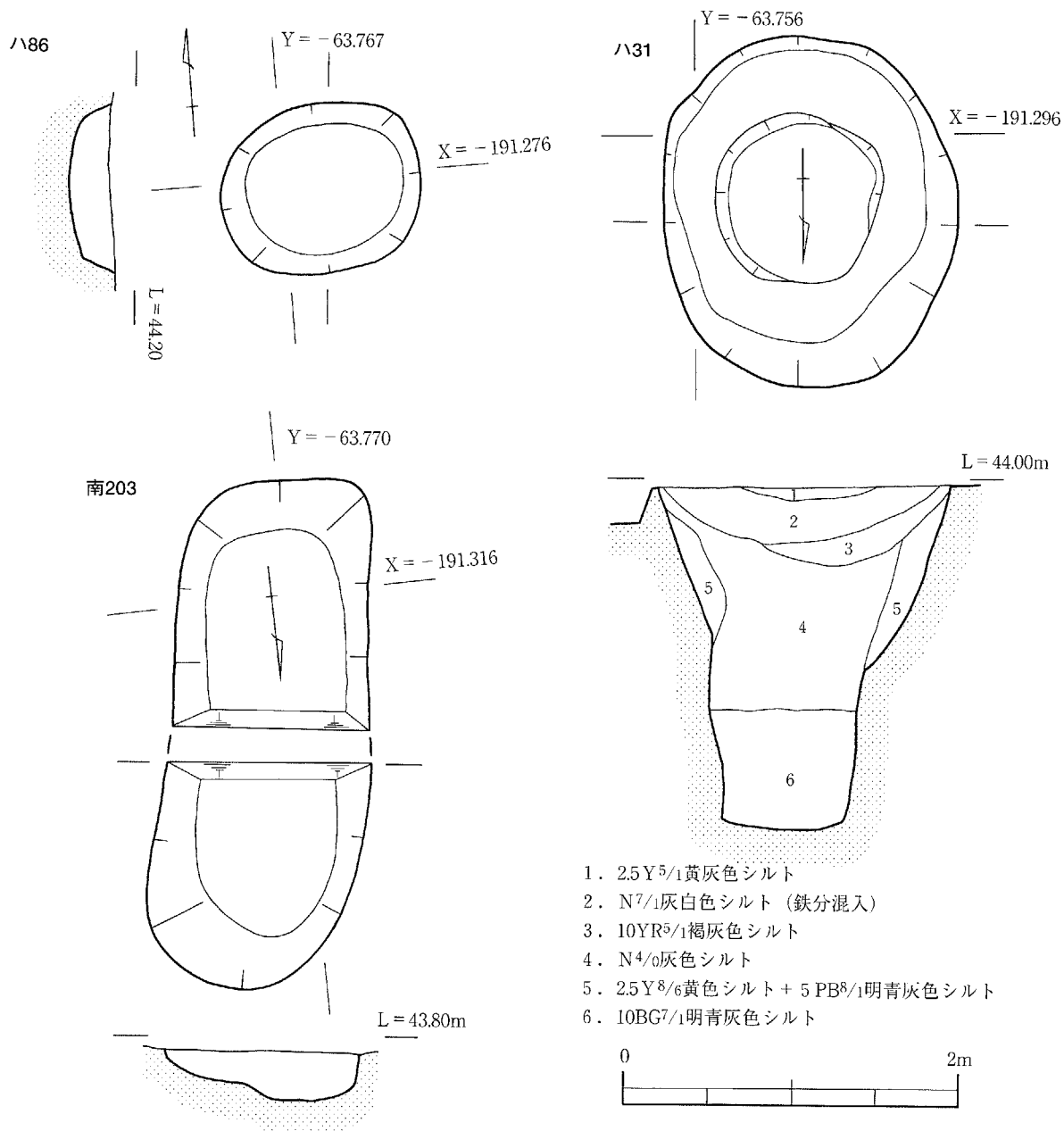
床土直下で2層の中世包含層（第3・4層）を確認した。これの第3層上面から窯あるいは竈の一部と考えられる近世遺構を6基検出した（第11図 イ133・142・143・147～149）。これらの遺構からは平瓦片と燃料に使用したと考えられる焦げた木切れが出土した。この中で最も遺構の形状がはっきりしているものはイ133であった。この遺構の検出規模は約1.0m×0.6mで、残存の深さは約10cmを測る。造りはベース土を掘り込み、黄色粘土を貼り付け構築している。構造的には焚き口、燃烧部、煙出し部の三施設に分かれる。焚き口部分は幅15～20cmで、床面は緩やかに窪む。燃烧部の床面の幅は65～70cmのやや楕円形を呈し、赤黒く焼け、焚き口に近い箇所に木炭片、奥に平瓦を意図的に敷いていると考えられる箇所もあった。内壁は2cm程度の幅で赤く焼き締まっていた。次に煙出しの床部分は燃烧部の床面より約8cm程度低く掘り窪められている。他の5基については削平が著しく遺存状態が良好ではなかった。床面が赤く変色していることから類似する遺構と考えられ、燃烧部部分のみ残存したと考えられる。また、これらは互いに隣接し合い、5基の軸は東西方向、他の1基は南北方向を呈していた。

イ176は長楕円形の上坑状遺構である（第11図）。規模は2.1m×0.9mで、遺存の深さは約0.5mを測る。埋土は暗灰色（N^{3/0}）シルトの単一層であった。

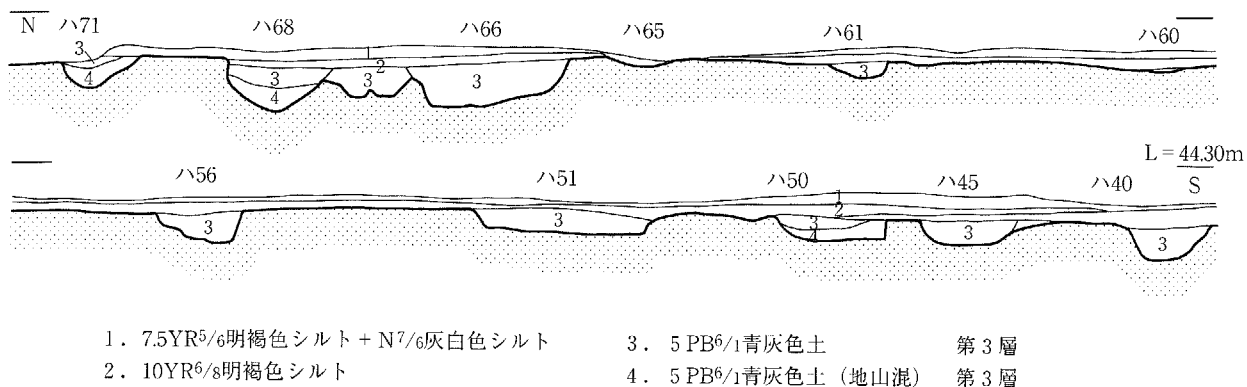
イ135・137は近世の暗渠排水溝である。これらの遺構からはメンコ状の遺物が出土している。第15図の47は中国製青磁碗、48は伊万里染付け網目文碗の転用品である。双方共に高台部分を利用し、48は高台を打ち欠いている。第13図の包含層出土遺物19～21・23～25は瓦転用品である。



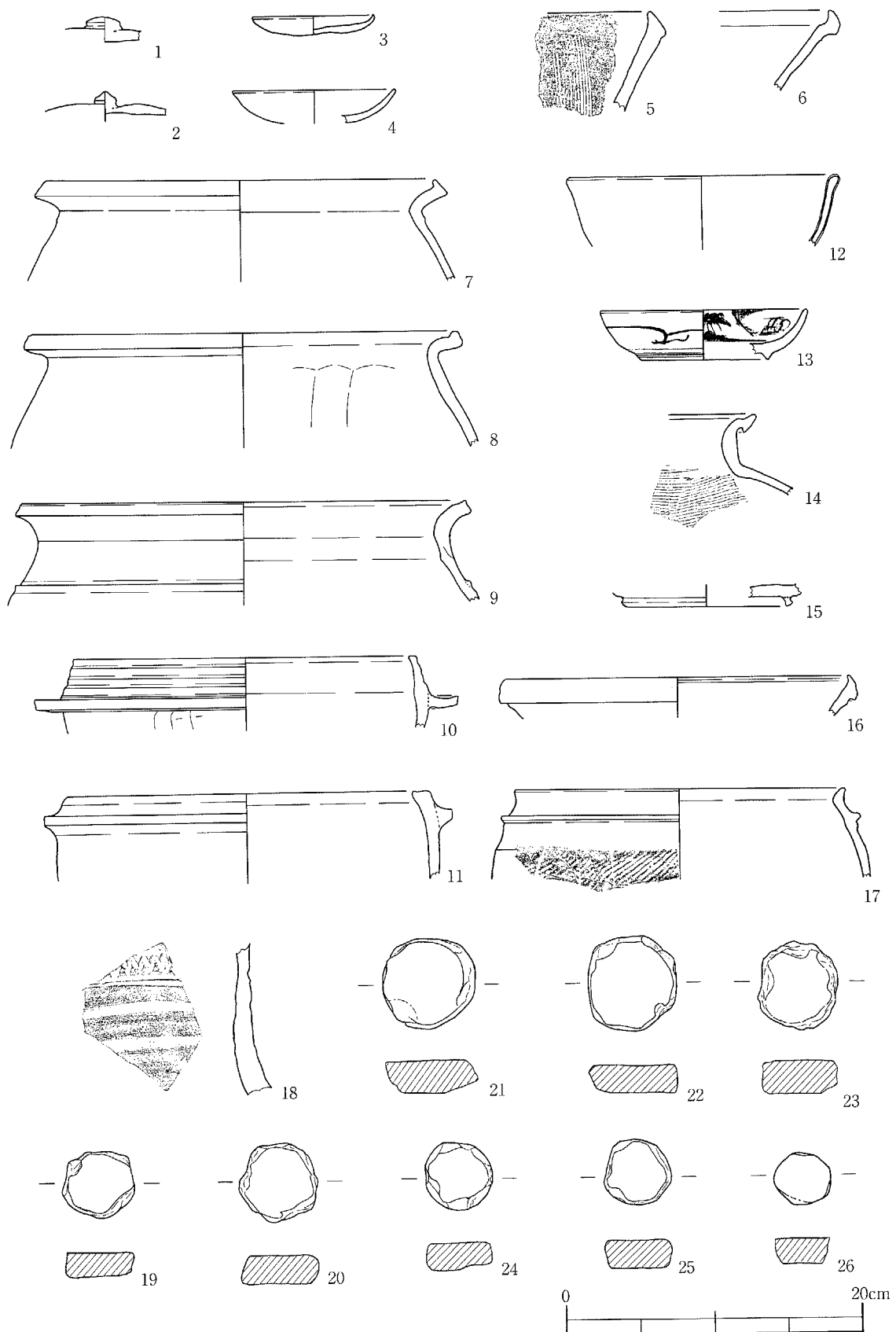
第11図 遺構実測図



八段セクションベルト土層図



第12図 遺構実測図

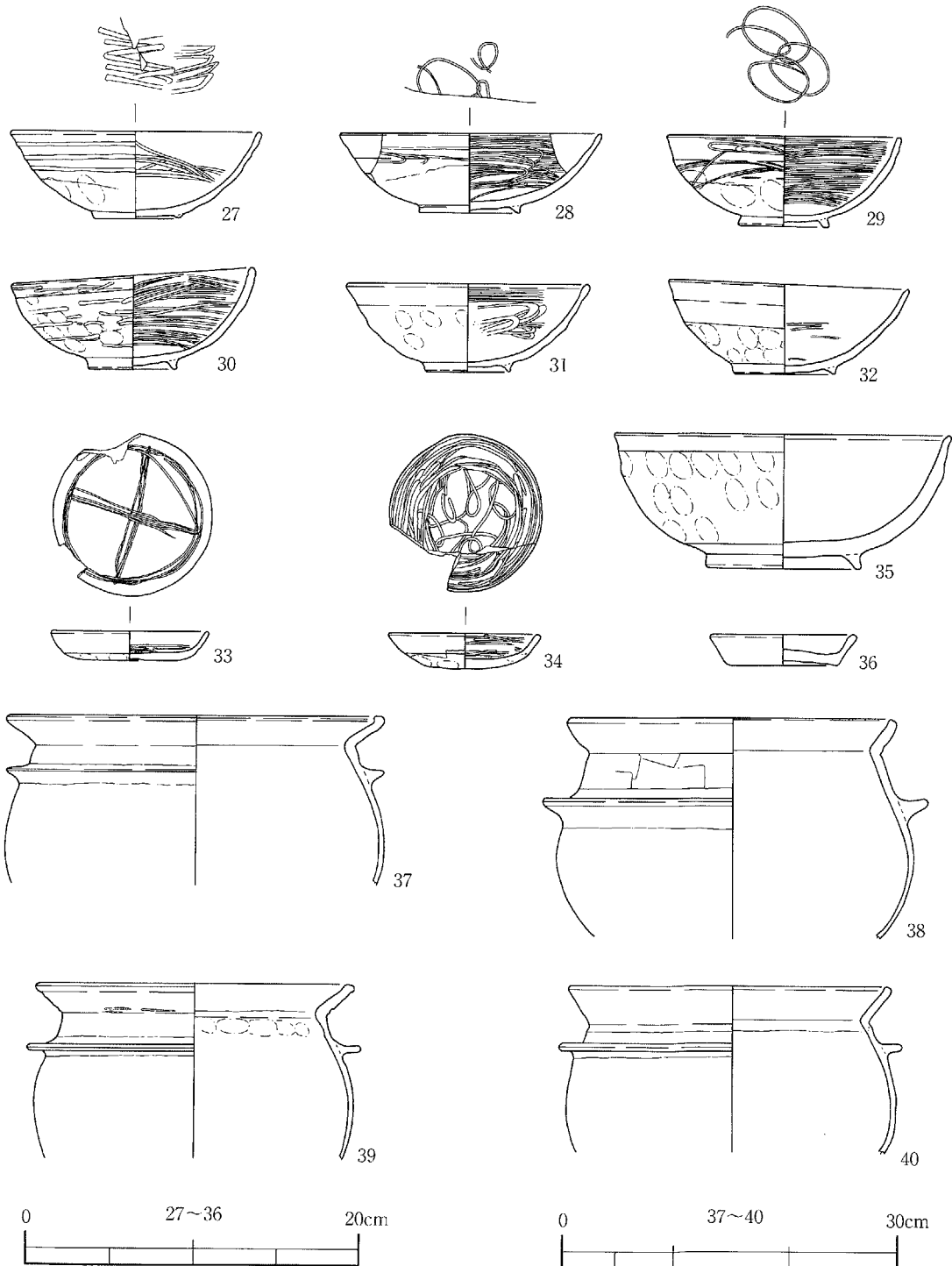


1・19・20：第2層、2～14・21～25：第3層、15～17：第4層、18・26：第5層

第13図 包含層出土遺物実測図

大きさは直径4～6cmで周囲を打ち欠いた後、何かに擦り付け滑らかに仕上げている。

この地区の遺物の出土状況を総合的に判断すると、第3層・4層の包含層には多少の遺物量の差はあれ、満遍なく遺物が包含されていた。また、包含層は時期的には大差の無いものと思われ、15～16世紀と考えられる。1・2・15等の古代の須恵器なども見うけられるが、特に1の杯蓋は激しく磨耗している。



第14図 ハ31 出土遺物実測図

□ 段（第8～11・13図、PL.6）

Ⅰ段同様に中世の包含層2層を部分的ではあるが確認した。これらもまた旧耕作土と考えられる。検出し得た遺構は近世暗渠排水溝、溝状遺構、中世土坑などであった。

土坑状遺構（ロ103）は第3層上面から検出した。形状は長楕円形で規模は1.5m×0.7mを呈する。遺存の深さは約25cmでかなり削平されていると思われる。埋土は灰色微砂層がレンズ状に堆積し3層に分層できた。ここからの出土遺物は瓦器碗片が1片出土したのみである。

包含層の遺物は第4層から出土するものが圧倒的に多く、第16図の16・17・26などがある。16の東播系捏鉢は器面の磨耗が著しい。17は焙烙と思われる。外面頸部から胴部にかけてタタキを施している。26はⅠ段包含層でも記した瓦転用のメンコで、側面の打ち欠きが雑である。

ハ 段（第8～10・12～15図、PL.6・7）

この区の包含層も前述の区と同様の傾向を示し、第3層に中世の遺物が集中している。近世瓦片も出土しているが暗渠排水溝掘削時の混入遺物と考えられる。包含層出土の遺物には3・4の土師器皿、7～9の土師質鍋、14の細かいタタキを施した須恵器甕（東播系？）等がある。

検出遺構としては調査区南側で近世の土坑（ハ1・ハ2・ハ174）、中央で東西方向の鋤跡（ハ40・ハ45・ハ50・ハ56・ハ60等）と考えられる浅い溝状遺構を数条、また東端で中世の井戸（ハ31）、土坑（ハ3・ハ86）、溝状遺構（ハ5）、柱穴（ハ97）等を検出した。

近世の土坑からは肥前系磁器（第15図43～46）が出土している。43・44は「くらわんか茶碗」で草花文を描く。45は湯呑み、46は広東碗の蓋であろうか。ハ5・ハ97からは土師器小皿（41・42）が出土している。

井戸（ハ31）は素掘りである。検出プランはやや楕円形を呈し、規模は2.1m×1.8mに南北に長い。底の形状は直径約0.75mの円形を呈する。遺存の深さは約2.0mである。掘り方は2段に掘削され、検出面から中程までは掘鉢状に掘り込まれ、それから以下を垂直ぎみに掘っている。埋土は5層に分層され、いずれも灰色系のシルト層であった。なお、最も土器が出土したのは第12図の第4層からである。これらの土器は出土状況から一括投棄されたと考えられる。底には曲物などの井筒は確認できなかった。ここからの出土遺物には瓦器、土師器などがある。第14図27～32は瓦器碗である。いずれも内面を丁寧に磨き上げ、見込みには連結輪状あるいはジグザグ状の暗文を施している。33・34は瓦器小皿である。これらもまた、内面の口縁部から見込みにかけて丁寧に磨かれている。35は瓦器鉢で稀に出土する。口径は約20cmで器壁は肉厚である。外面体部は3段に指押えを施しているが、他のミガキなどの調整は器面が著しく摩滅しているため詳細は不明である。高台部分は「ハ」の字状にしっかりと開く。36は土師器小皿である。外面底部は回転系切り調整を施す。37～40は土師質羽釜である。受け口状の短い鰐を貼り付けている。頸部は「く」の字状にシャープに屈曲する。38は頸部直下を板状工具でナデている。

南拡張区（第8～10・12・13・15図、PL.7・8・32）

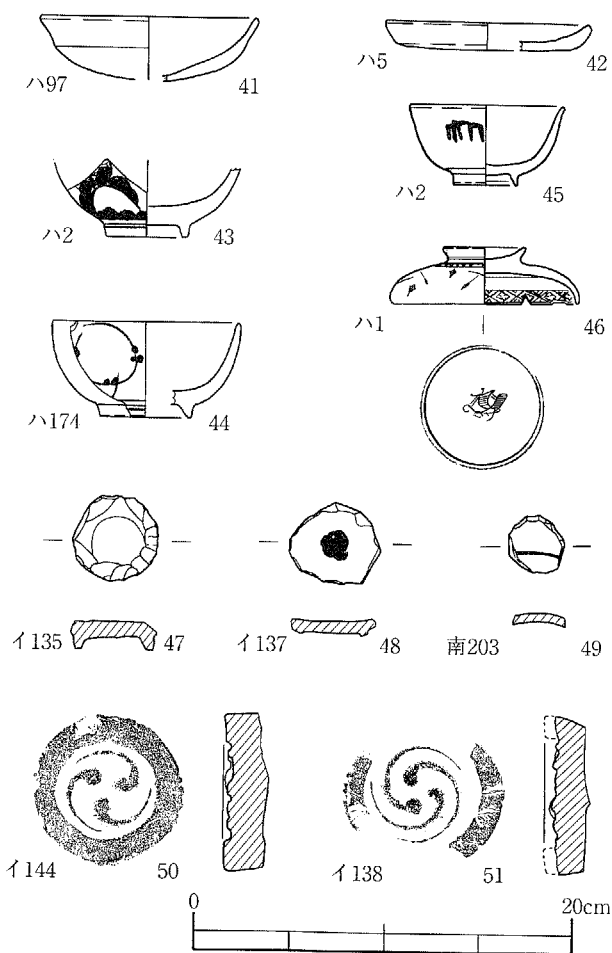
現状の水田の高低差が東と西にある。東側の一段高い箇所は中世包含層下に厚さ約30cmの整地土と考えられる礫混じりの層を検出した。ハ段で検出した井戸もこの整地土層上から検出している。この層からの出土遺物は瓦器片1片のみであったが、中世の時期にこのあたりが大きく改変されたと考えられる。また、この区では整地土層上からの遺構は皆無であった。西側の低い箇所では中世包含層上から近世の土坑状遺構を数基検出した。この内の一つとして、南北方向を軸とする南203（第12図）からは肥前系磁器を転用した小さいメンコ（第15図49）が一つだけ出土している。この遺構の形状は長楕円形を呈する。規模は2.8m×1.2mである。遺存の深さは約30cmで、埋土は灰黄褐色微砂層の単一層であった。

ま と め

以上、今回の発掘調査の成果としては、ハ段で検出した中世集落の一部と考えられる井戸（ハ31）・土坑（ハ3）・他に纏まりの無い柱穴、各地区で単発的に検出した中近世の土坑状遺構、北側の高所から流れ込んだと考えられる中世包含層出土の磨耗した古代の遺物などであった。

井戸を検出した位置は今回の調査地の東端にあたり、地形的には他の調査地より一段高くなっていた。また反対に、上述の中世改変期の西側縁辺部にあたると思われ、中世集落（12世紀）がこれより東側に展開されていたと考えられる。また西側の低い箇所については2層あるいは3層の中世包含層（旧耕作土）が認められ、この時期水田として利用されていたものと思われる。

調査地の東約200mの地点に「五智房堂」と称する根来寺開祖覚鑑の伯父の御霊を祀ったお堂が存在する。また、西は谷状の地形が南方向に延び一段低くなっている。以上の事や調査地の字名等を勘案すれば、中世根来寺と何らかの因果関係が窺われ、以後、この周辺の調査の機会がもたれる事があるならば、この地における中世集落の展開状況が明らかになると考えられる。



第15図 遺構出土遺物実測図

第3章 荒田遺跡

第1節 A区の調査（第18図、P L.2）

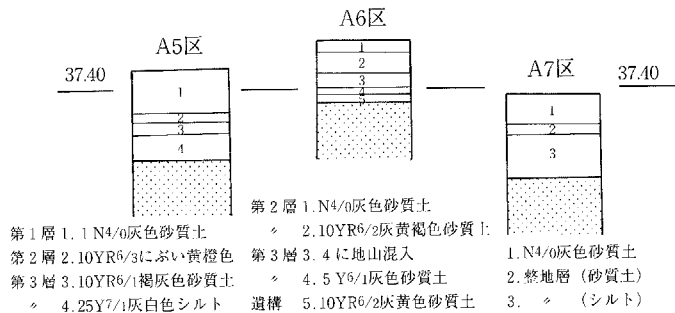
1. 概要（第18図）

第1次及び第2次調査地であるB区とは用水路を挟んで北側に位置する面積約1,800㎡の調査区である。調査区の北側にある水田への進入路を確保する必要があるため、幅18～20mの範囲を先ず調査し、その後、後述する遺構が多数検出されたA5・6区の西側隣接部のみ拡張を行った（P L.10）。

調査区内、特にA6区においては、植木用の苗木が植栽されており、工事（調査）に先立ってこれを重機により掘り起こしたため、径2m前後の多数の攪乱が散見される。

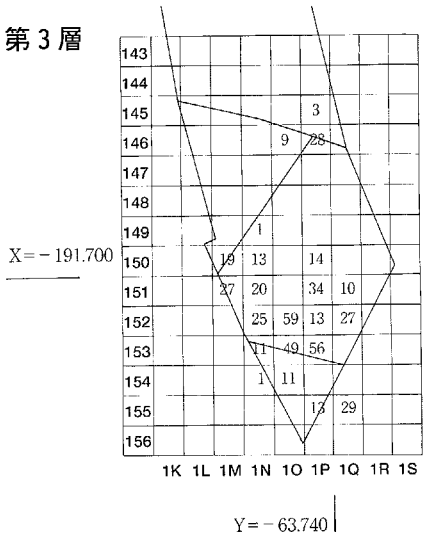
層序（第16・17図、表3）

第1層は現在の耕作土、第2層は床土、第3層以下が包含層である。なお、第1層及び第2層については、全ての

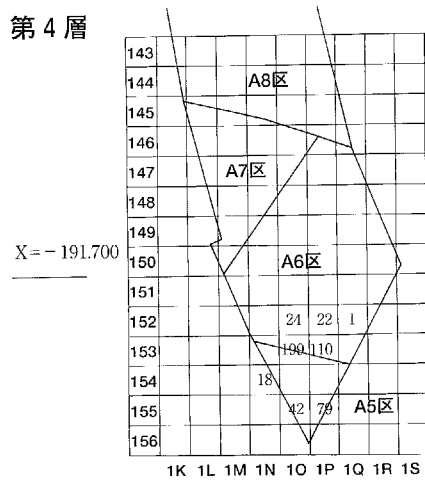


第16図 A区基準土層図

第3層



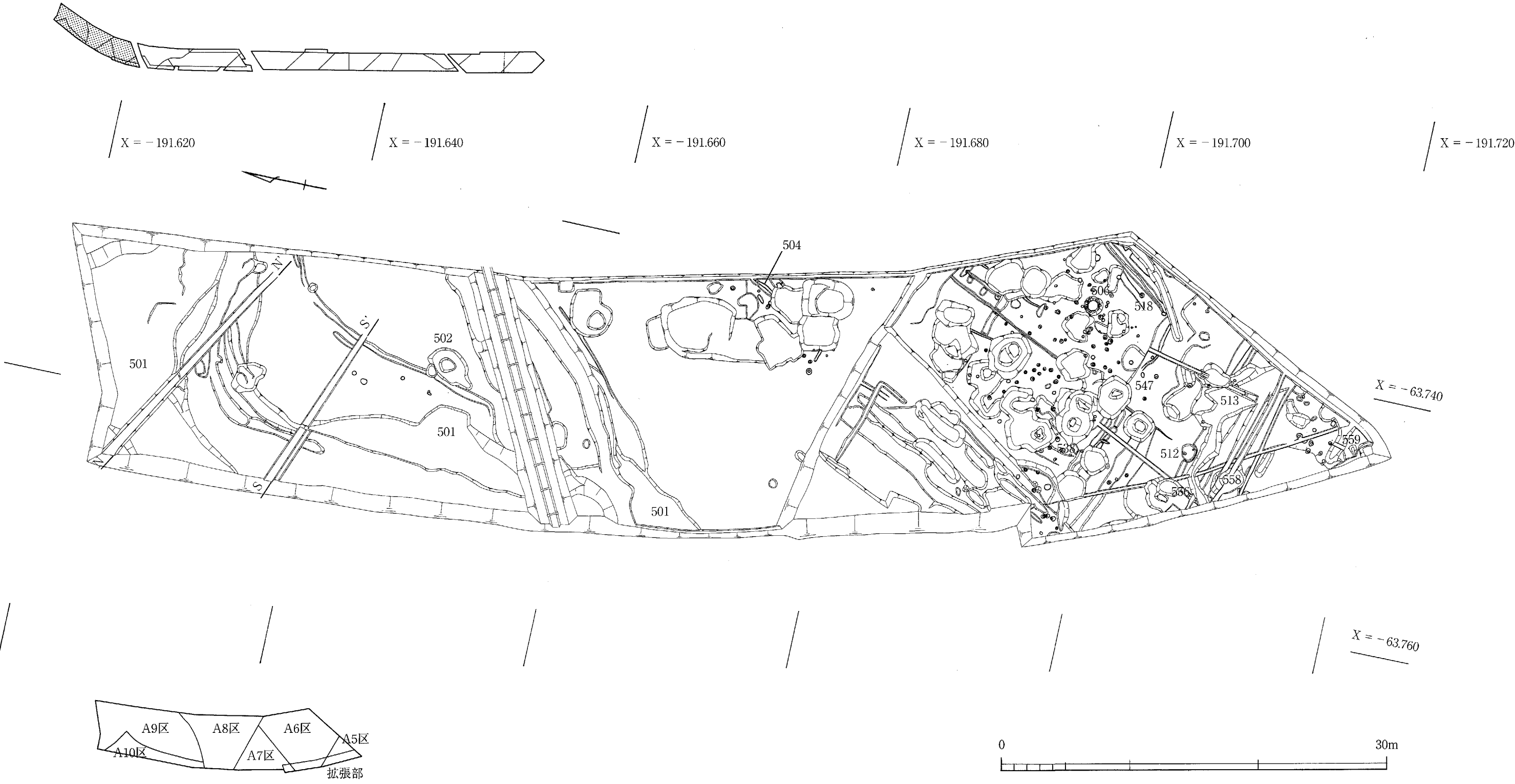
第4層



第17図 A区包含層出土遺物分布図

層	区	計	縄紋	弥 生		古墳～平安		鎌 倉～室 町					近世以降	不明・その他
				中期	後期	土師器	須恵器	土師器	瓦器	須恵器	陶磁器	瓦		
第 3 層	5 区	68	0	48	0	0	1	10	6	1	0	0	2	0
	6 区	355	0	144	0	1	4	70	133	1	1	0	1	0
	7 区	9	0	3	0	0	0	4	0	0	0	0	0	2
	8 区	40	0	0	0	0	0	9	29	0	2	0	0	0
	計	472	0	195	0	1	5	93	168	2	3	0	3	2
第 4 層	5 区	121	0	104	0	0	0	1	15	0	1	0	0	0
	6 区	375	0	366	0	0	0	4	4	0	0	0	1	0
	計	496	0	470	0	0	0	5	19	0	1	0	1	0

表3 A区包含層出土遺物数量表



第18図 A区遺構配置図

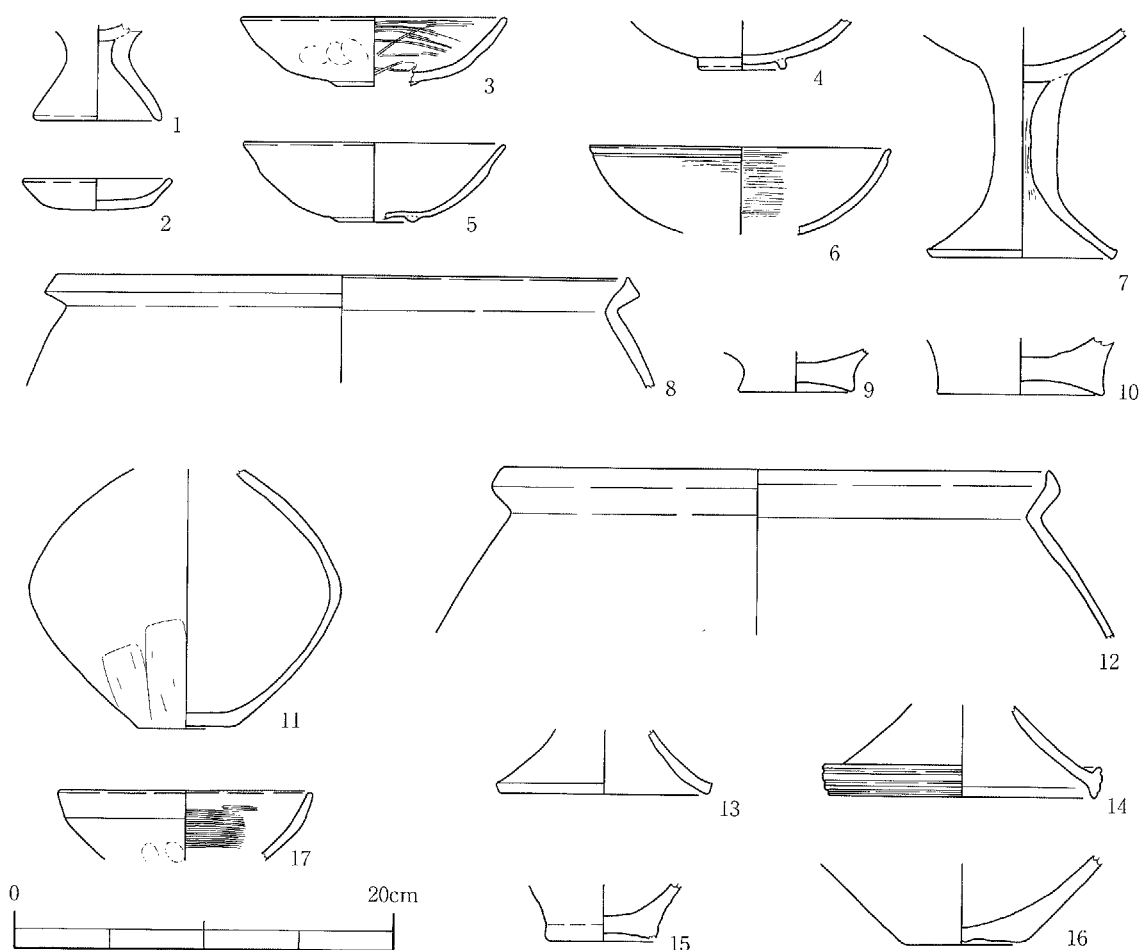
調査区において共通する層であることから、次節以降においては遺物包含層である第3層以下についてのみ記述する。第3層は主にA6区南半部からA5区にかけて認められる旧耕作土と思われる中世の遺物包含層で、厚さ約5cmの灰色砂質土である。第4層はA5区及びA6区南半部にのみ堆積する弥生時代中期の土器を含む包含層で、南下するに従って厚くなり、A5区では約20cmである。A7～9区では一部を除き床土直下が地山となり、包含層は遺存していない。また、A7区の地山面はA6・8区に比べ最大0.8m低くなる。A10区では現在の耕作土及び床土の下に厚さ約0.5mの客土（第20図C）が置かれ、その下に旧の耕作土及び床土があり、さらにその下に後述する谷地形（A501）の堆積層がある。

2. 遺構と遺物（第17～26図、表3・4、P L.2・5・9～11・33・34）

包含層出土遺物（第19図）

第3層及び第4層出土遺物の内容と数量は表3に示すとおりである。この内、第3層における弥生土器と中世の遺物の比率は、約4：6である。図示した以外の遺物では、東播系こね鉢や備前焼の擂鉢、近世の染付碗や瓦がある。

A501（第18・20～23図、表4、P L.2・5・33）



1・2：第1層、3・4：第2層、5～10：第3層、11～17：第4層

第19図 A区包含層出土遺物実測図

A 8 区から A10 区にかけて広がる谷状地形の東肩部分に相当する。深さは最も深いところで約 1 m である。堆積層は色調及び土質から 6 層に分層が可能である。この内、第 1・2・4・5 層からは瓦器等中世以降の遺物が、第 3・6 層からは弥生時代中期の土器が多量に出土する。各層毎の遺物量は表 4 に示すとおりである。全体で 3,289 点が出土し、その内の約 7 割が弥生土器である。特に、第 3 層からは多量に出土し、A501 出土弥生土器全体の 76% を占める。また、最も多く出土する範囲は、A 9 区と A10 区の境界をなす水田用水路の東側部分（1 L 136～139）である。

A502（第 18・20 図）

A 9 区で検出した深さ 0.5 m 程の土坑である。床面は中央部分が一段凹む。埋土は耕作土に近似した灰色砂質土とそれへの地山混入土である。遺物は 19 点出土し、弥生土器 9 点の他、古墳時代の須恵器 1 点、中世の土師器及び瓦器 9 点がある。

A506（第 18・20・23 図、P L.10）

A 6 区で検出した石組の井戸で、河原石及び砂岩を使用している。直径は約 0.8 m で、地山面からの深さは約 0.9 m である。井戸の底からは直径約 40 cm の曲物を検出している。遺物は、45 点が出土し、土師器 27 点・瓦器 12 点の他、瓦が 3 点出土する。

A513（第 18・24・26 図、P L.11・33・34）

A 6 区検出の第 4 層を埋土とする溝状の遺構である。深さは最大 0.5 m で、L 字形に折れ曲がる。遺物は 1,753 点が出土し、弥生土器は中期の土器が 1,740 点、後期の土器が 11 点ある。

A556（第 18・25・26 図、P L.11・34）

拡張部で、第 4 層掘削後に検出した楕円形を呈する土坑で、規模は 2 m × 1.3 m、深さは約 30 cm である。292 点の土器が出土し、弥生土器は、中期 262 点・後期 27 点である。

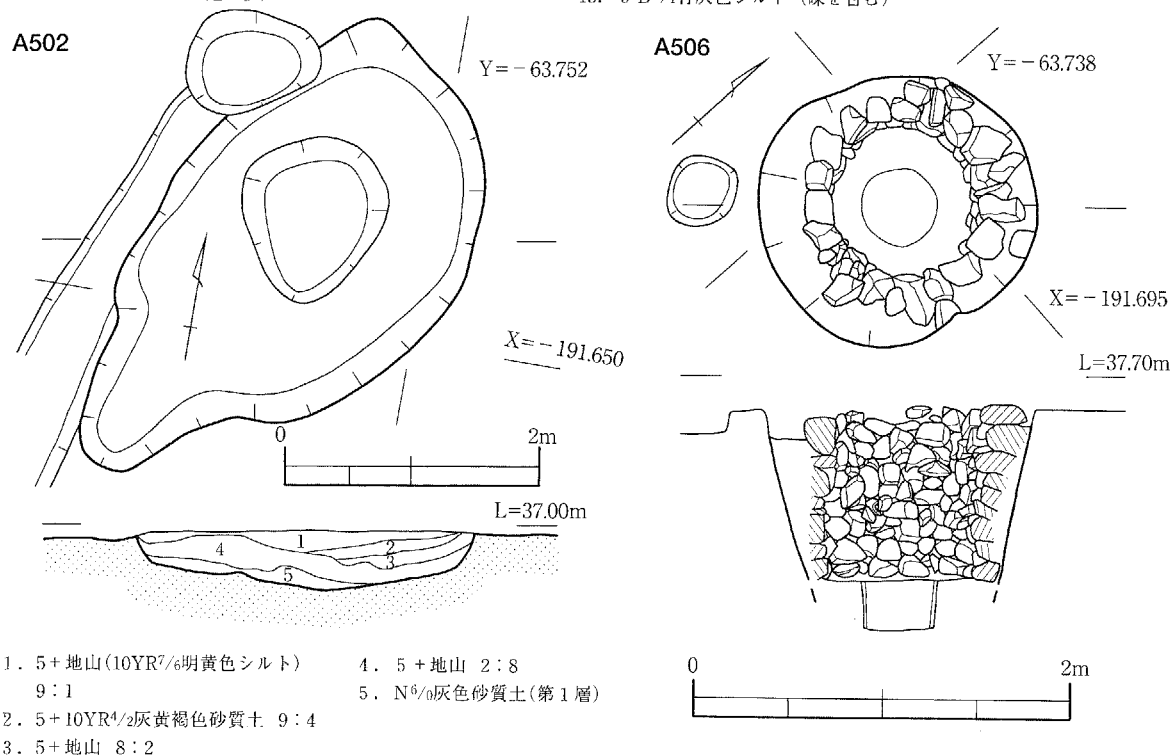
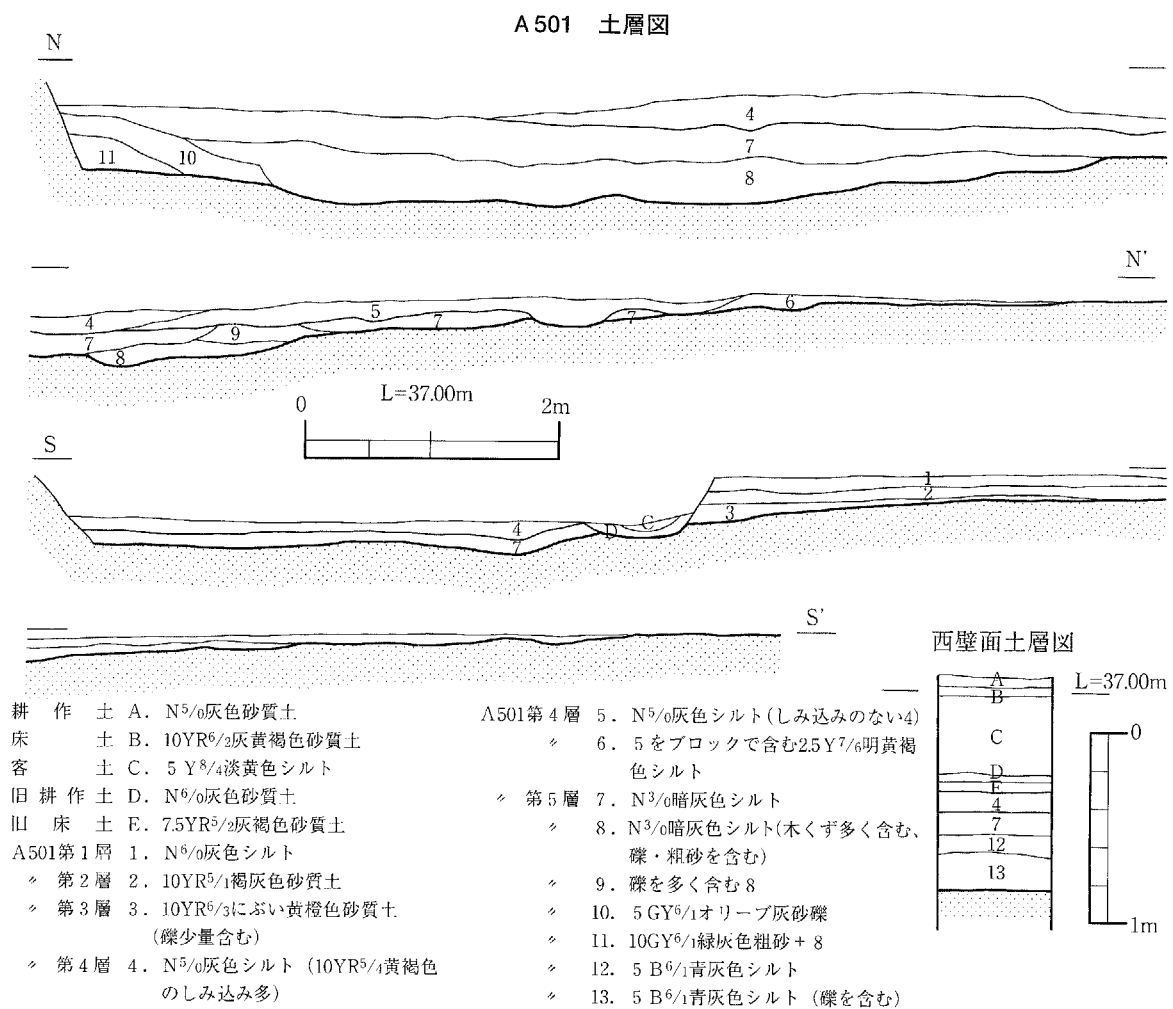
A558（第 18・25・26 図、P L.11・34）

A556 と同様に A 6 区の拡張した範囲で検出した弥生時代の土坑である。深さは 30 cm 前後とほぼ同じであるが、大きさは 3 m × 2 m と A556 より一回り大きい。遺物は全て弥生中期の土器で、634 点が出土している。

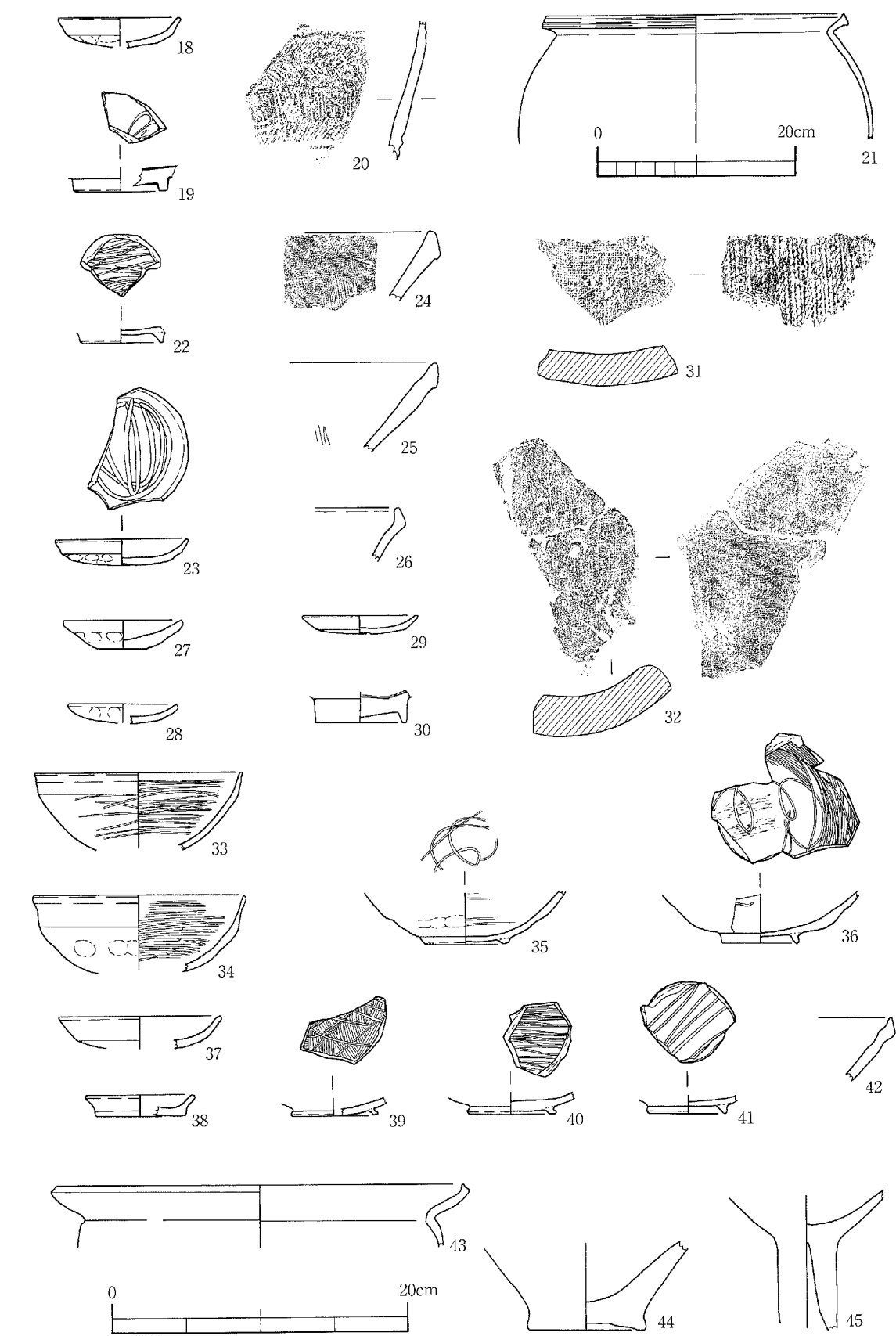
A559（第 18・23 図、P L.11）

層	計	弥 生		古墳～平安		鎌 倉～室 町					近世 以降	不明・ その他
		中期	後期	土師器	須恵器	土師器	瓦器	須恵器	陶磁器	瓦		
第 1 層	319	88	0	0	4	101	117	5	2	1	1	0
第 2 層	231	166	0	0	2	20	43	0	0	0	0	0
第 3 層	1,700	1,654	12	0	0	10	21	0	1	0	2	0
第 4 層	319	45	0	0	3	110	138	8	4	6	5	0
第 5 層	591	97	0	0	2	95	379	2	2	8	3	3
第 6 層	129	125	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3
合 計	3,289	2,175	12	1	11	336	698	15	9	15	11	6

表 4 A501 出土遺物数量表

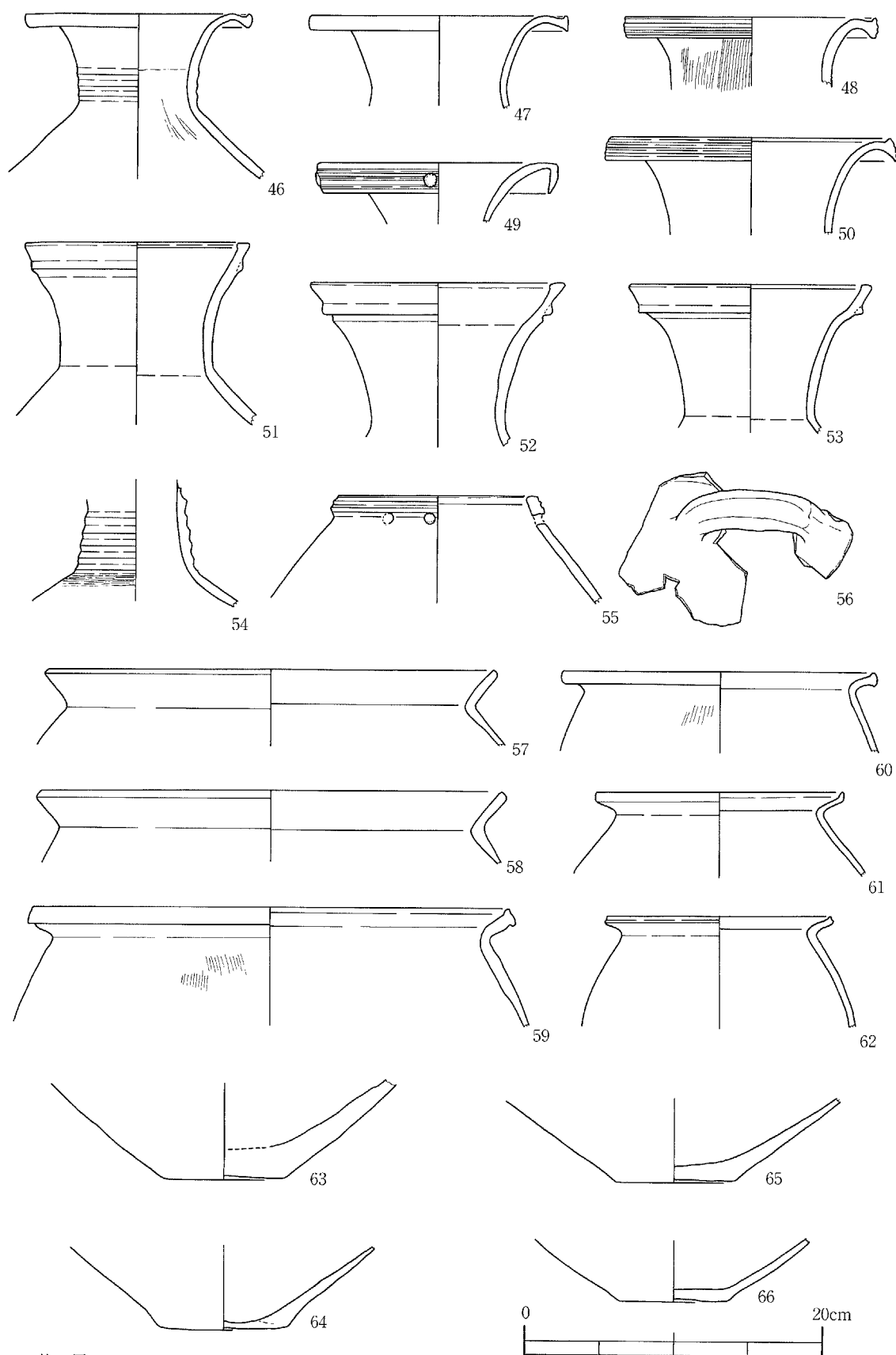


第20図 A区遺構実測図



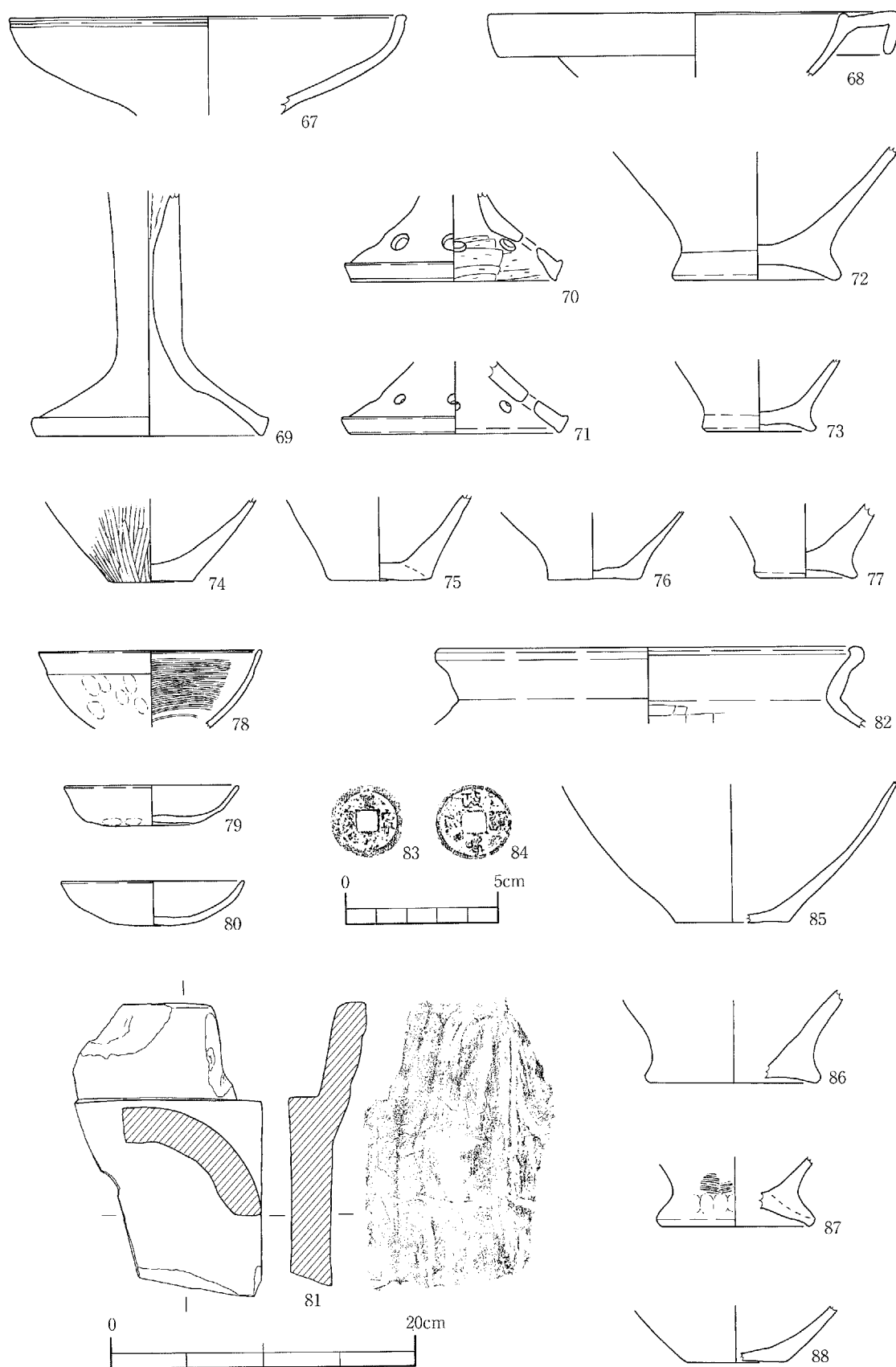
18・19：第1層、20・21：第2層、22～31：第4層、32～43：第5層、44・45：第6層

第21図 A501出土遺物実測図



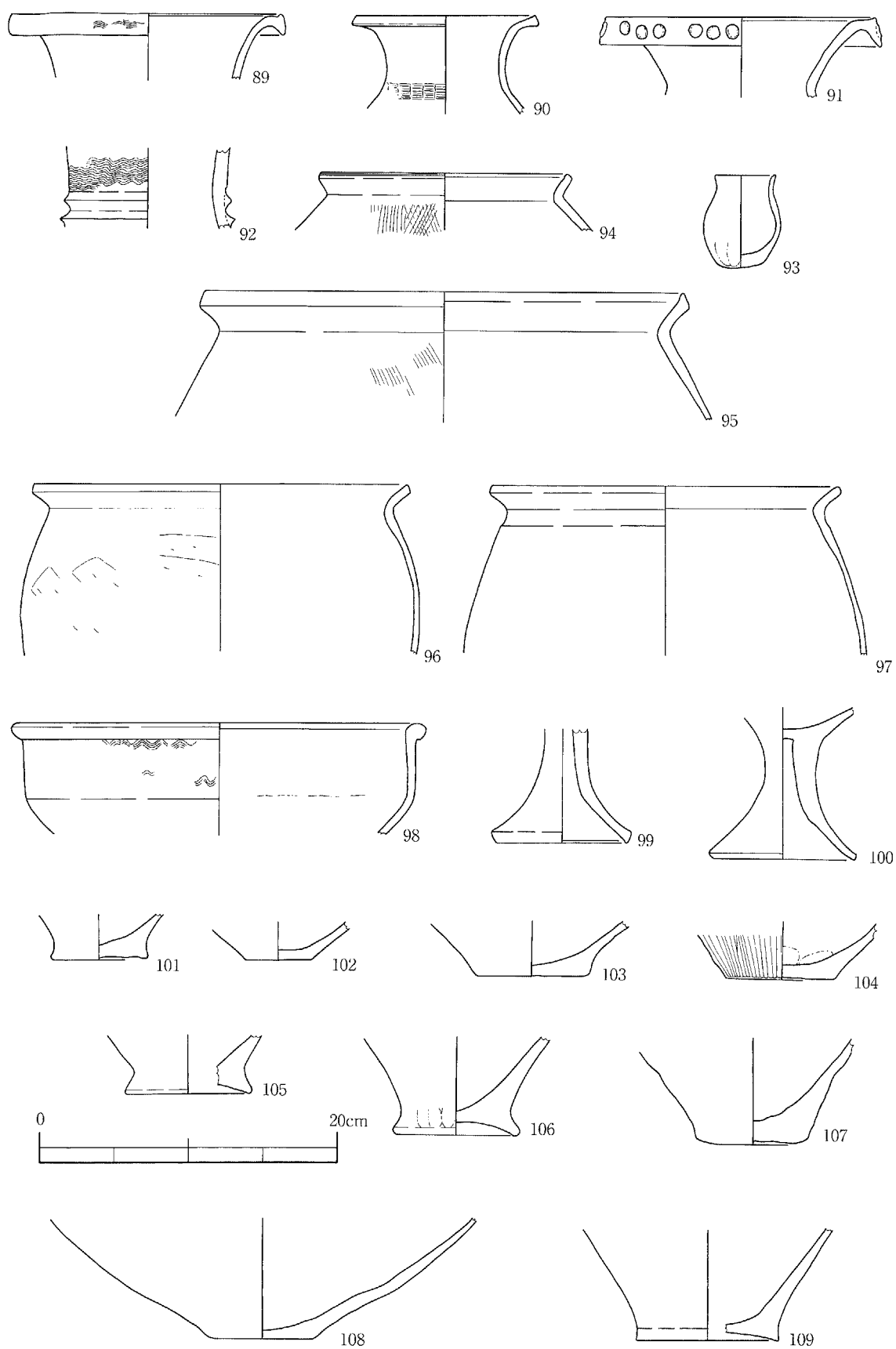
46~66：第3層

第22図 A501出土遺物実測図

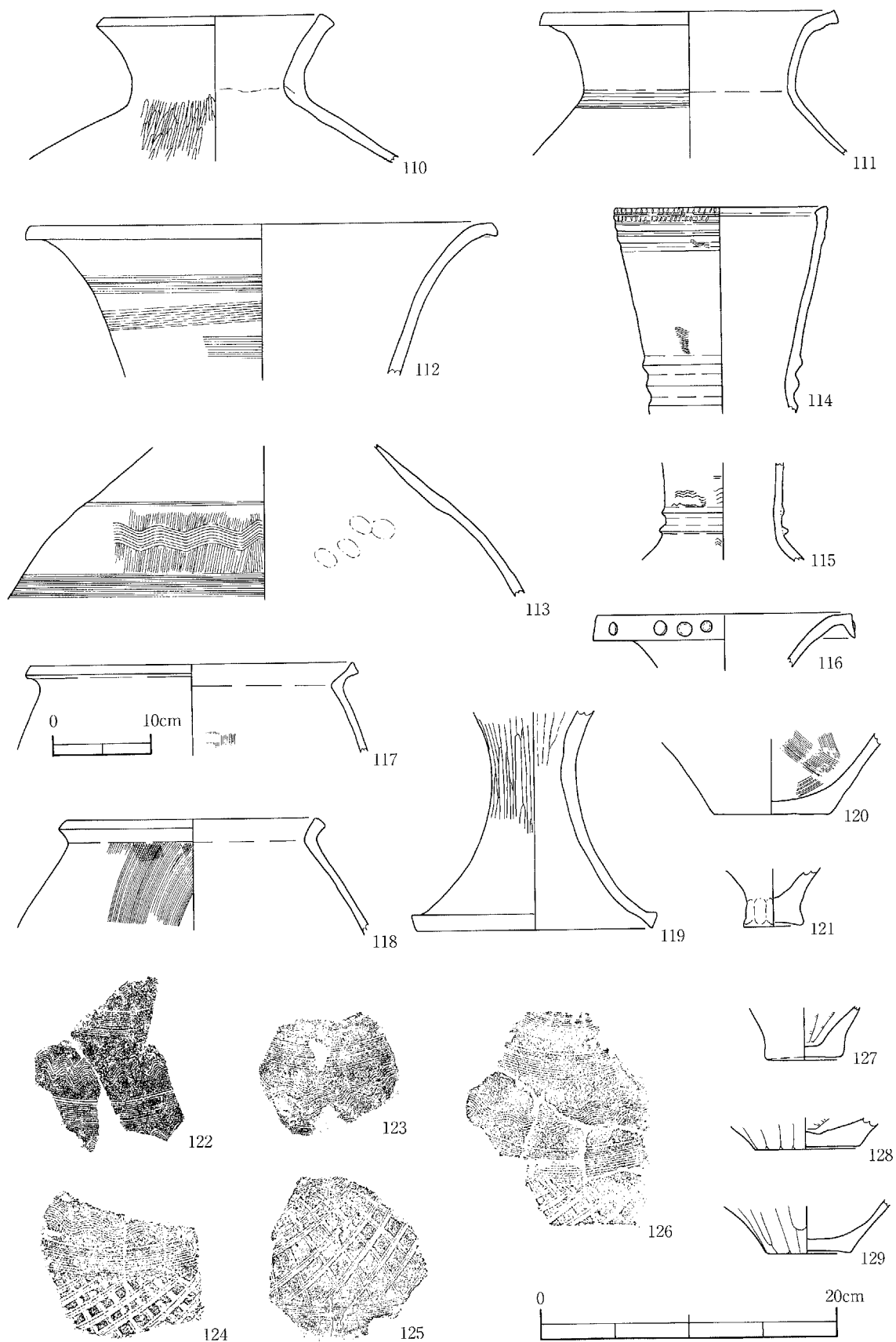


67~77 : A501第3層、78 : A538、79~81 : A506、82 : A518、83・84 : A504、85 : A547、86 : A512、87・88 : A559

第23図 A区遺構出土遺物実測図



第24図 A513出土遺物実測図

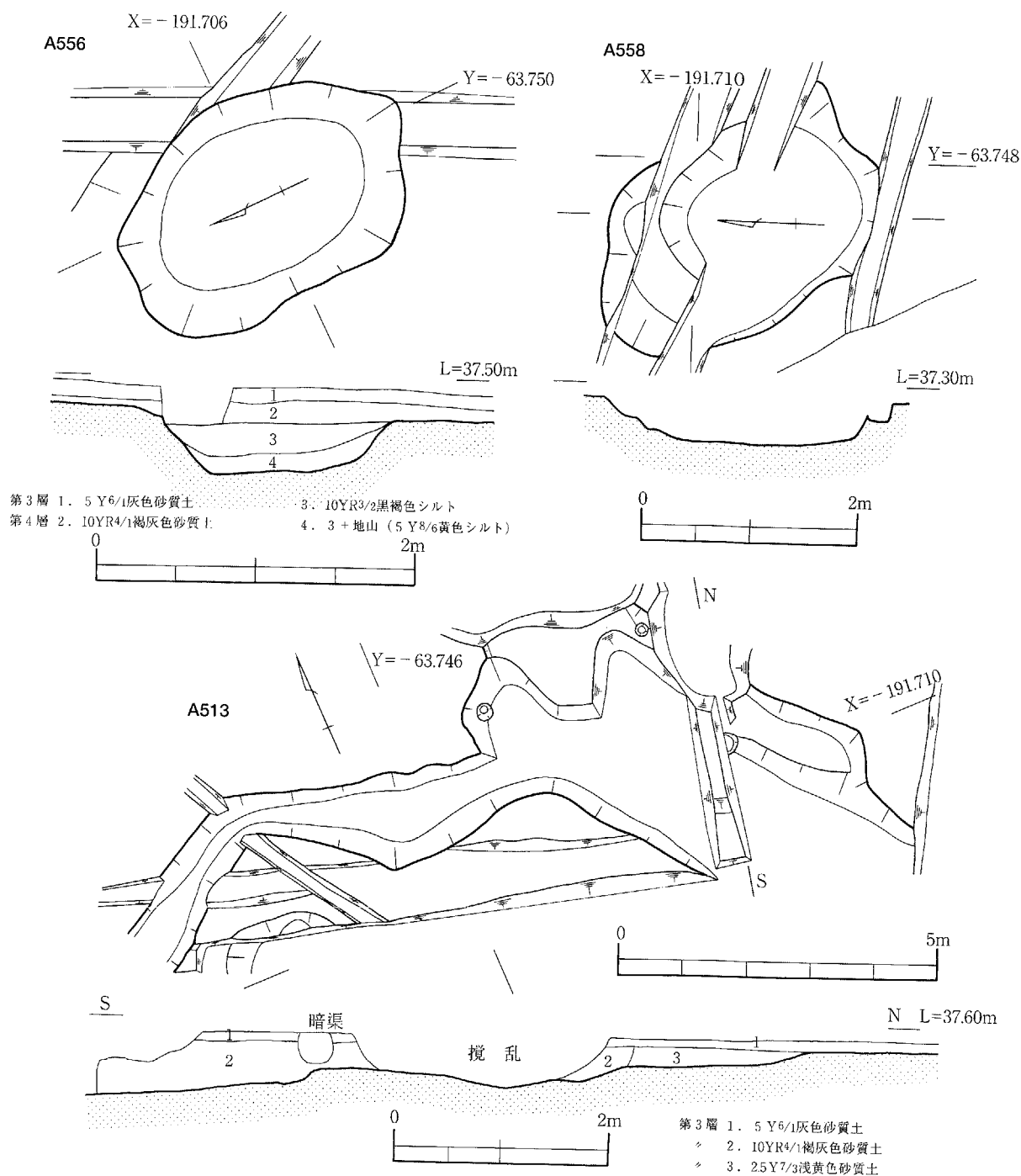


110~122 : A558、123~129 : A556

第25図 A558・556出土遺物実測図

A5区の拡張部で検出した弥生時代の溝である。幅は1m前後、深さは約20cmである。調査区外－現用水路部分－に延びるため断定はできないが、A513と同一の溝である可能性がある。弥生時代中期の土器168点が出土している。

A7・8区では、いくつかのピットと水田に伴うと思われる数条の中世以降の溝を検出したのみである。この内、A8区検出の溝A504（第18・23図、P.L.34）からは北宋銭2枚（83・84）が出土している。



第26図 A区遺構実測図

第2節 B区の調査（第29・30図、写真6、P.L.3）

1. 概要（第29図、表6、写真6、P.L.5）

調査対象地は、長さ約110m×幅23mの略平行四辺形の範囲であるが、隣接する田畑への進入路を確保する必要が生じたため、第1次調査として進入路部分を除く面積約1,800㎡について先ず調査を行った。第2次調査地は、その進入路部分に相当し、面積は約500㎡である。また、第2次調査にあっても、西側の田畑への通行を確保するため、第1次調査範囲の中央部に侵入路を設置し調査を進めた。

遺構と遺物の殆どは、B1～B3区から検出されている。B1区とB2区、B2区とB3区との比高差は、各々20cmと40cmである。

遺構の検出は、第3～7層の各包含層を掘削した段階でその都度行った。第4層上面で検出した第3層を埋土とする遺構については、一部縮尺1/50で実測を行った以外は1/100の遺構略図を作成した。第4～7層を埋土とする遺構で新旧の遺構が重複するものについては、B3区の谷状地形の部分を除き、新しい遺構の

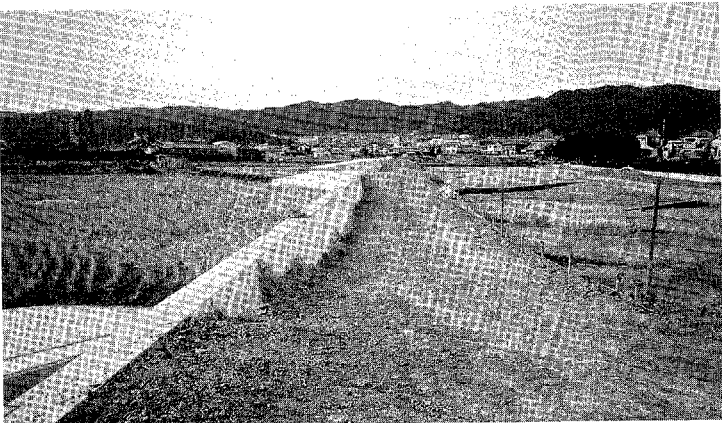
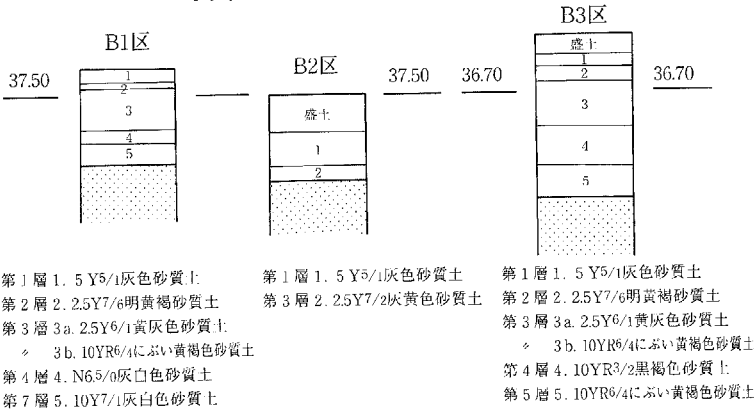


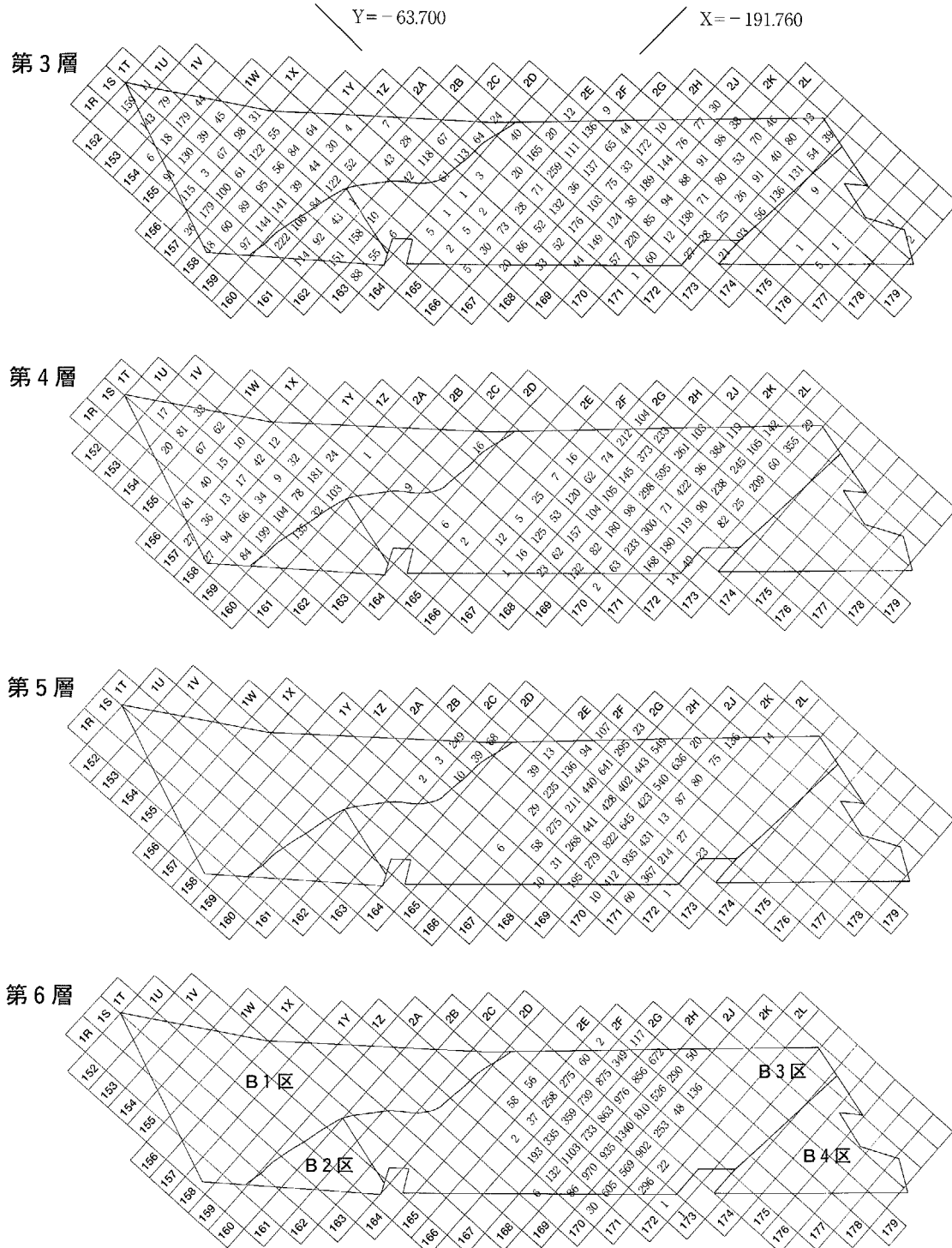
写真6 B区田畑への進入路



第27図 B区基準土層図

層	区	計	縄紋	弥生		古墳～平安		鎌倉～室町					近世以降	不明・その他
				中期	後期	土師器	須恵器	土師器	瓦器	須恵器	陶磁器	瓦		
第3層	1区	3,699	0	1,406	0	1	3	1,074	1,127	35	37	11	3	2
	2区	905	0	435	0	15	6	118	330	1	2	1	0	0
	3区	5,300	0	1,817	0	7	61	1,521	1,708	42	92	31	15	6
	4区	11	0	3	0	1	1	0	0	1	1	1	0	3
	計	9,915	0	3,661	0	24	71	2,713	3,165	79	132	44	18	11
第4層	1区	1,780	0	814	0	0	0	265	683	7	3	4	2	2
	3区	7,610	159	3,230	0	0	72	1,568	2,508	24	38	5	3	3
	計	9,390	159	4,044	0	0	72	1,833	3,191	31	41	9	5	5
第5層	1区	368	0	351	0	1	0	12	4	0	0	0	0	0
	3区	11,625	0	10,006	0	0	5	539	1,061	5	4	1	3	2
	計	11,993	0	10,357	0	1	5	551	1,065	5	4	1	3	2
第6層	3区	13,550	0	13,413	0	0	0	33	97	2	0	0	0	5
第7層	1区	915	0	853	0	0	1	28	30	1	0	1	0	1
	2区	46	0	44	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
	計	961	0	897	0	0	1	28	32	1	0	1	0	1

表5 B区包含層出土遺物数量表



第28図 B区包含層出土遺物分布図

肩を残し全ての検出作業を行った段階で空中写真測量を実施した。

層序（第27・28図、表5、P L.5・12）

第27図に示した柱状図は各地区の標準的な層序と土層名である。地区により土色及び土質に若干の相違が見られる。このため、以下の遺構と遺物の説明を行なう場合、第○区第○層という記述のしかたを行う場合がある。なお、B4区は、ごく一部を除き包含層は遺存しておらず、床土の直下が地山であった。

各層毎の出土分布範囲を詳しくみると、第3層は、B4区を除く調査区のほぼ全域に認められるが、B1区及びB3区からは全点数の90%以上が出土している。第4層は主にB1区西半部分とB3区の谷状地形及びその東側部分－172Line－にその出土範囲が認められる。第5層は、B1区の東端部分と、第4層と同じくB3区の谷状地形内に分布の範囲が限定される。第6層は、ほぼB3区の谷状地形の部分のみに堆積する。また、第7層は、第28図には図示していないが、主として、B1区及びB2区の1T以西にその分布範囲が限定される。ただし、後述するように1U以東の地区で検出したB142他の遺構埋土が、この第7層を主とすることから、本来の分布範囲はB1区及びB2区のほぼ全域であった可能性も考えられる。

2. 遺構と遺物（第28～54図、表5・6、P L.3・5・12～19・35～41）

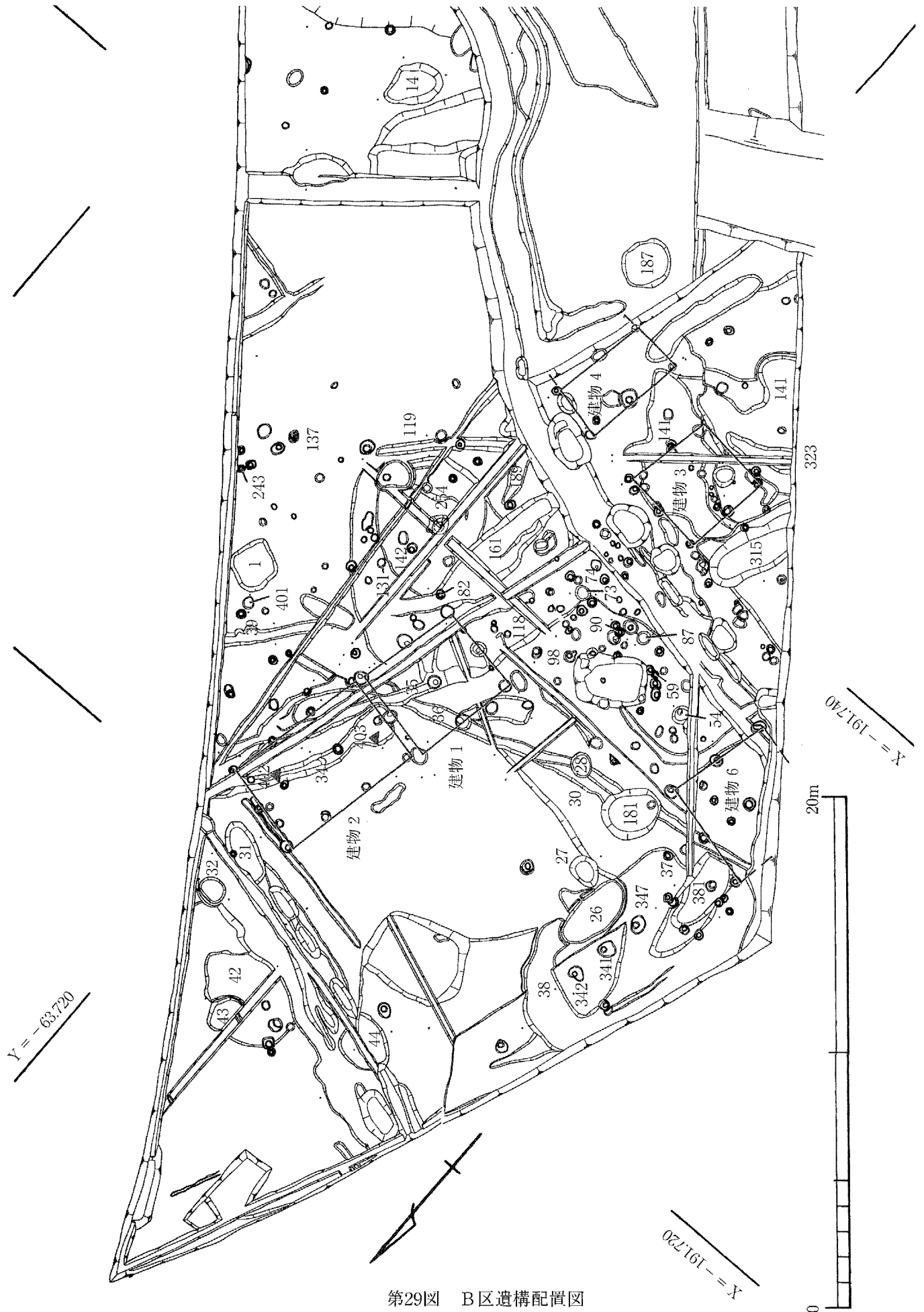
包含層出土遺物（第31～37図、表5・6、P L.34・35・36）

包含層出土遺物の、各区における層別の分布と出土数量は表5及び第28図のとおりである。全区を通しての弥生土器と中世の遺物の層別の大まかな比率は、第3層が40：60、第4層が45：55、第5層が85：15、第6層が99：1、第7層が95：5である。B3区の第4～6層出土遺物の大半は区全体の約1/2の面積を占める浅い谷状地形から出土したものである。

各層毎に出土遺物をみると、第1層からは、主に近世以降の陶磁器が数点出土しているのみである。これは、機械により掘削を行なったことにもよるが、周辺の水田等の地表面にもそれほど遺物がみられないことから、弥生土器等は本来殆ど含まれていないものと思われる。第3層の遺物には、弥生土器や中世の土師器・瓦器の他に、古墳時代から奈良時代にかけての須恵器71点が出土している。また、製塩土器も数点であるが出土を確認している。第4層からは、B3区で縄紋土器159点が出土している。いずれも細片であるが、晩期に属するものである。また、B3区

区	計	縄紋	弥生		古墳～平安		鎌倉～室町					近世以降	不明・その他
			中期	後期	土師器	須恵器	土師器	瓦器	須恵器	陶磁器	瓦		
1区	10,921	0	6,170	0	3	4	1,979	2,372	54	54	17	250	18
2区	9,066	0	7,470	0	15	10	386	938	7	31	1	203	5
3区	45,677	159	35,050	0	7	139	4,002	5,993	75	140	46	41	25
4区	84	0	10	0	1	1	1	5	1	7	8	45	5
その他	615	0	317	0	0	1	91	109	2	60	0	35	0
計	66,363	159	49,017	0	26	155	6,459	9,417	139	292	72	574	53

表6 B区 区別出土遺物数量表



第29図 B区遺構配置図

からは、台形土器（196）や、第3層と同じく製塩土器の出土もみられる。製塩土器は全て脚台式のものである。第5層からの出土遺物の点数は12,000点弱と包含層中最も多い。この内、B3区から出土した遺物の中に14%弱の中世の遺物が含まれている。前述したように、B3区における第4層以下の堆積範囲は、谷状地形とその周辺に限定される。これら各層の土色及び土質は近似しているため、一部で上層掘削段階において掘り残しをした可能性も少なくない。このため、B3区第5層出土中の中世の遺物については、本来は上層である第4層に属する遺物が含まれている可能性も考えられる。第5層出土遺物の中には、図示したのは231の1点のみであるがいわゆる複合土器が4点出土している。出土したのは、全て複合土器の鉢部のみの破片であり、脚部等については確認できなかった。なお、第6層からも鉢部の破片1点の出土がみられる。層序の項で記したように、第6層はB3区のみ、第7層はB1区及び2区のみ地区が限定される。B3区からは、台形土器2点（263・264）が出土している。第4層出土の196に比べ、上端面の直径はやや小さい。

B1（第30・38・43図、P L.14・37）

B1区中央部の北東壁面近くで検出した、深さ10cm前後、一辺1.6m前後の正方形を呈する土坑である。土師器78点、瓦器47点をはじめ全137点の遺物が出土している。土師器は、口径15cm前後のものが多く、底部は糸切りのものと板目圧痕を残すものがある。瓦器の内面は丁寧にミガキが施され、暗紋は、ジグザグ状・連結輪状・格子状など様々である。

B13（第30・38・45図、P L.14・38）

B1区南端で検出した幅1.5～1.8mの溝である。深さは約30cmであるが、南端部分が一段低くなる。土層図の1は弥生の包含層であるA1区第5層に相当し、また、埋土には礫が多く含まれている。遺物は253点出土し、その内、完形品の壺（355）を含む弥生中期の遺物は249点である。

B14（第30・38・45図、P L.14・38）

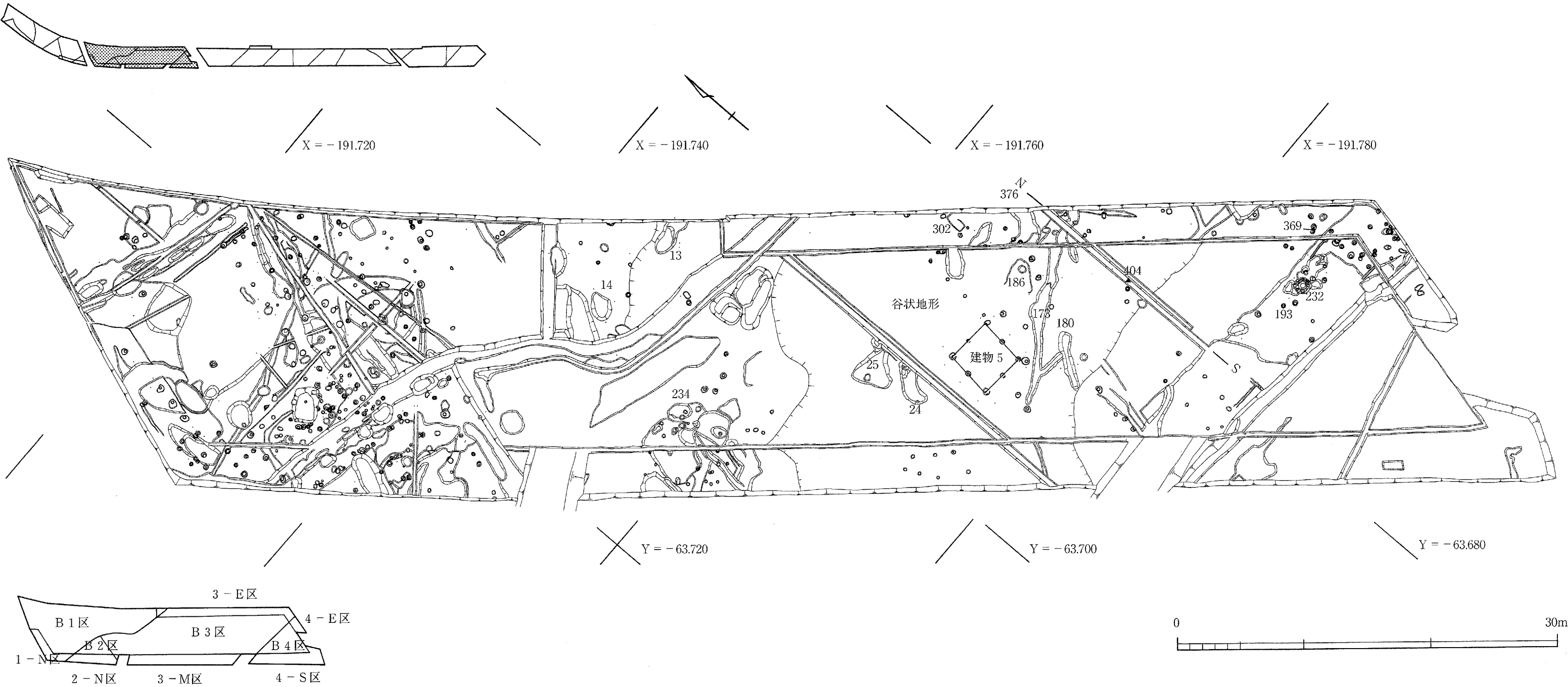
B13の約6m西で検出した深さ40cm前後の土坑で、平面形はやや不整形な楕円形を呈し、大きさは2.4m×1.6mである。埋土はB1区第5層に近似した褐色系の砂質土で、133点の弥生中期の土器が出土する。

B27（第29・38図）

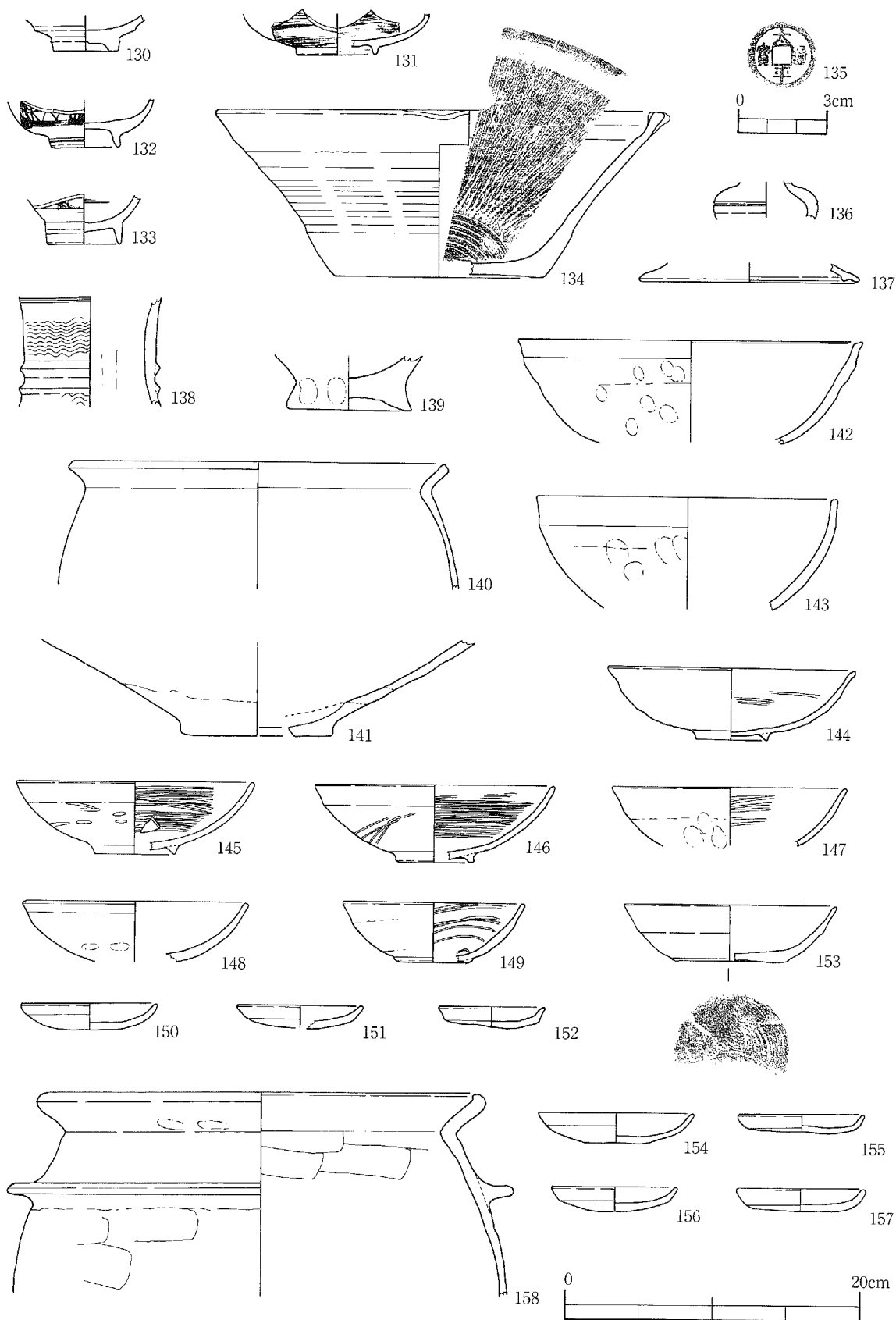
B1区西半部で検出した土坑である。深さは約20cmで、埋土は黒褐色砂質土の単一層である。出土遺物は少なく、弥生中期の土器が3点、中世の土師器1点・瓦器2点である。

B401（第29・38・45図、P L.14・38）

B1区の北西部で検出した、深さ30～40cm前後の土坑である。削平のため上半部は失われているが、甕及び壺の底部が各1個体分出土している。

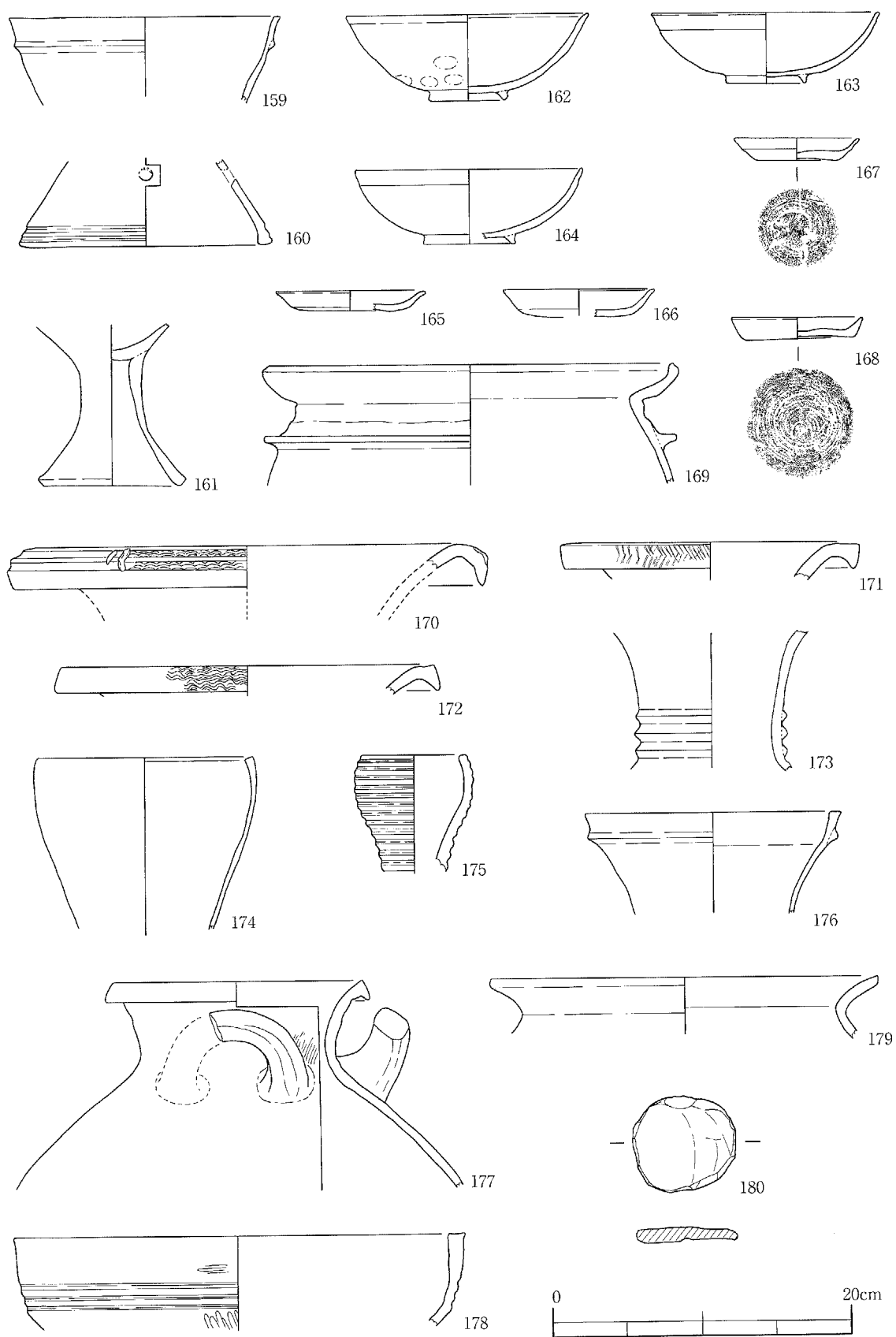


第30図 B区遺構配置図

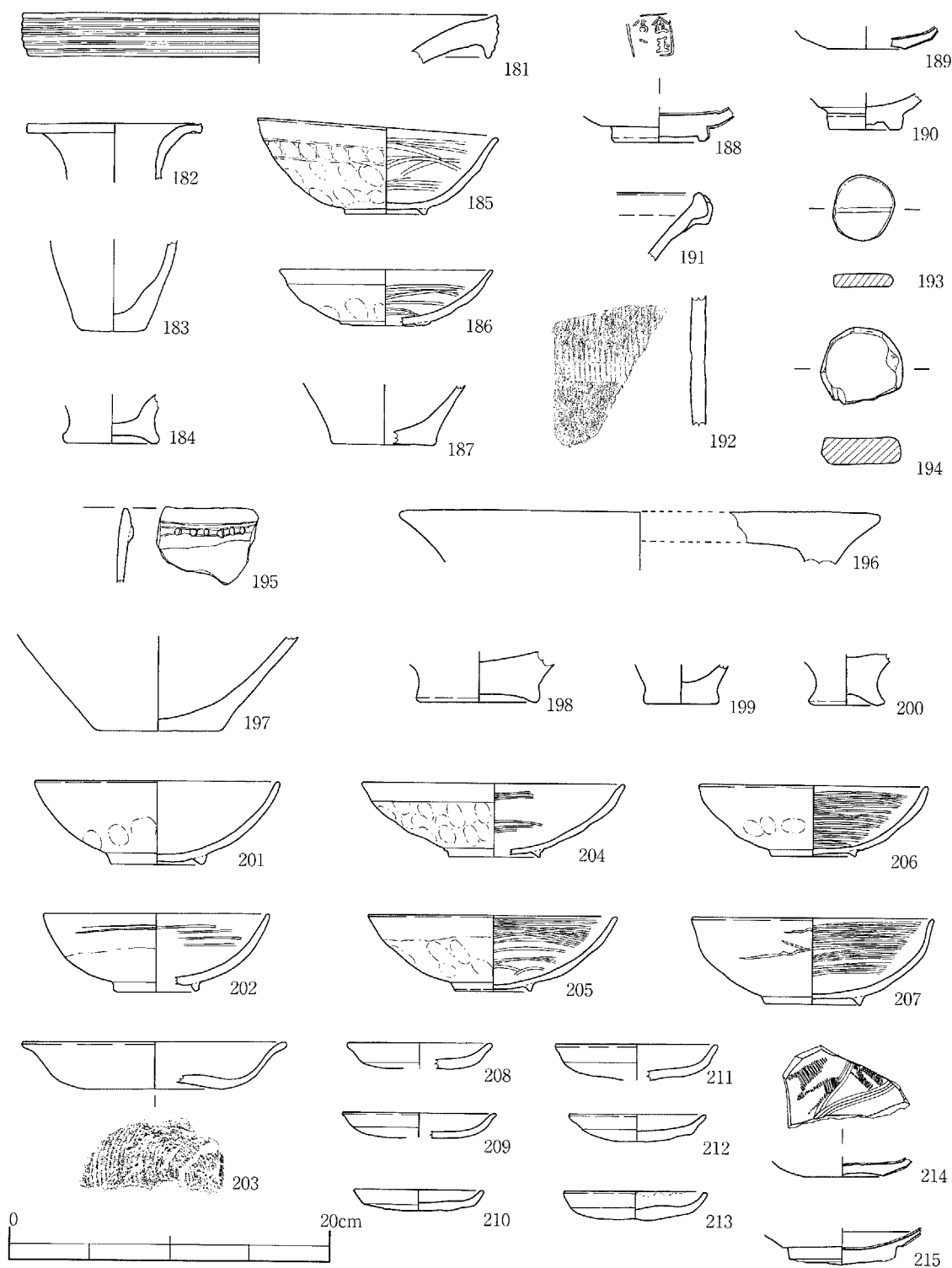


130～134：第1層他、135～158：第3層

第31図 B1・2区包含層出土遺物実測図

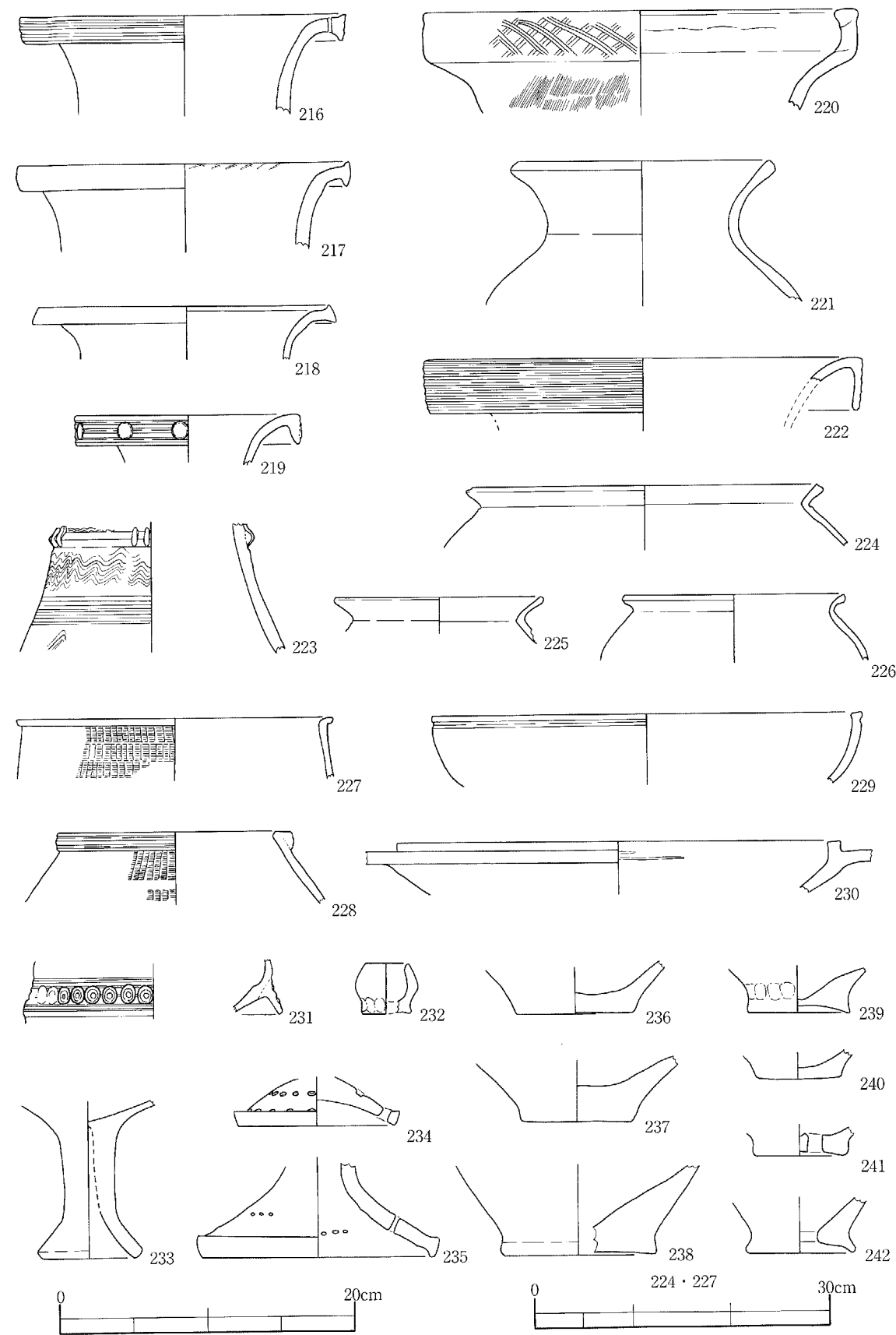


159～169：第 4 層、170～173：第 5 層、174～180：第 7 層
第32図 B1 区包含層出土遺物実測図



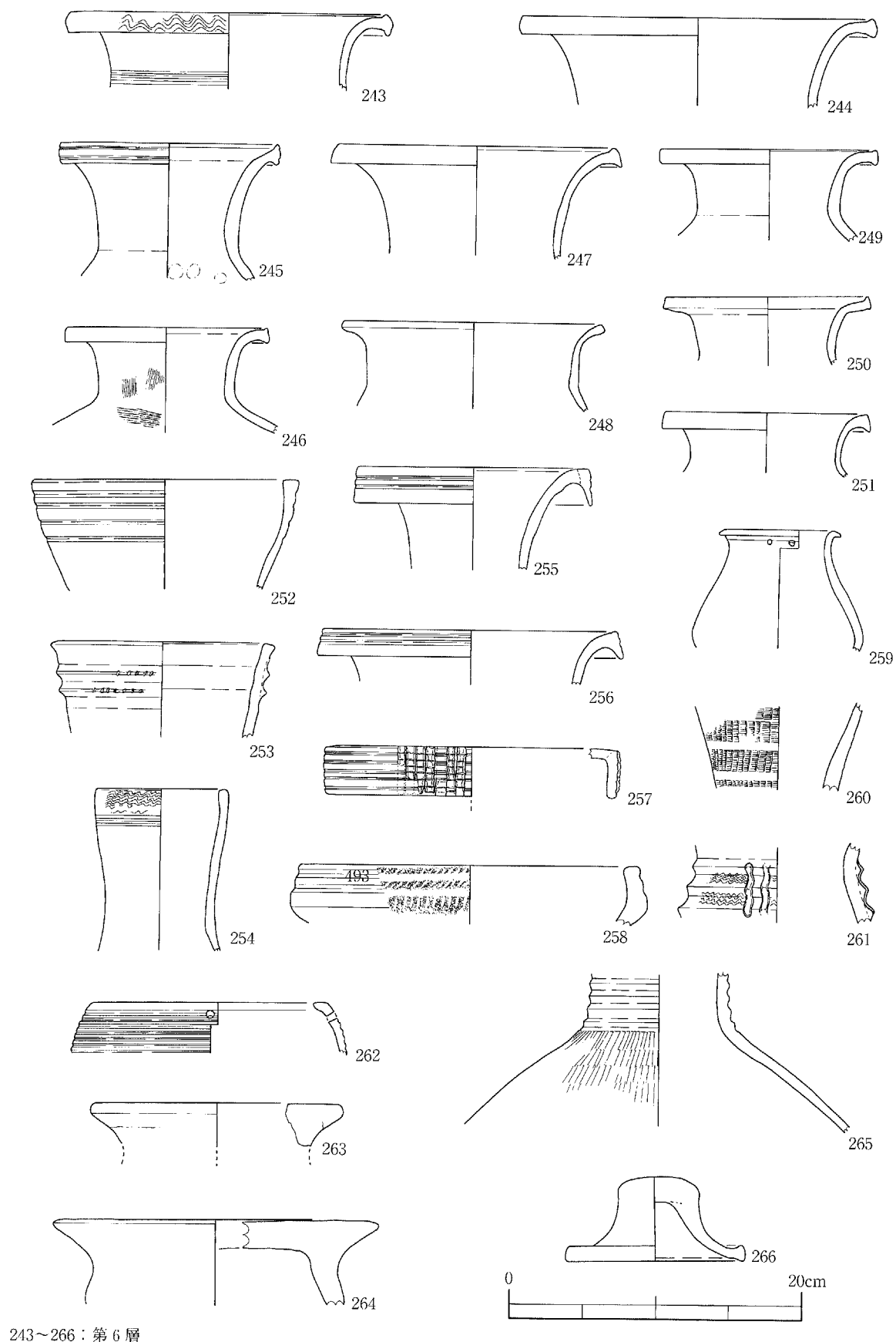
181～194：第3層、195～203・208～210・214・215：第4層、204～207・211～213：第5層

第33図 B3区包含層出土遺物実測図

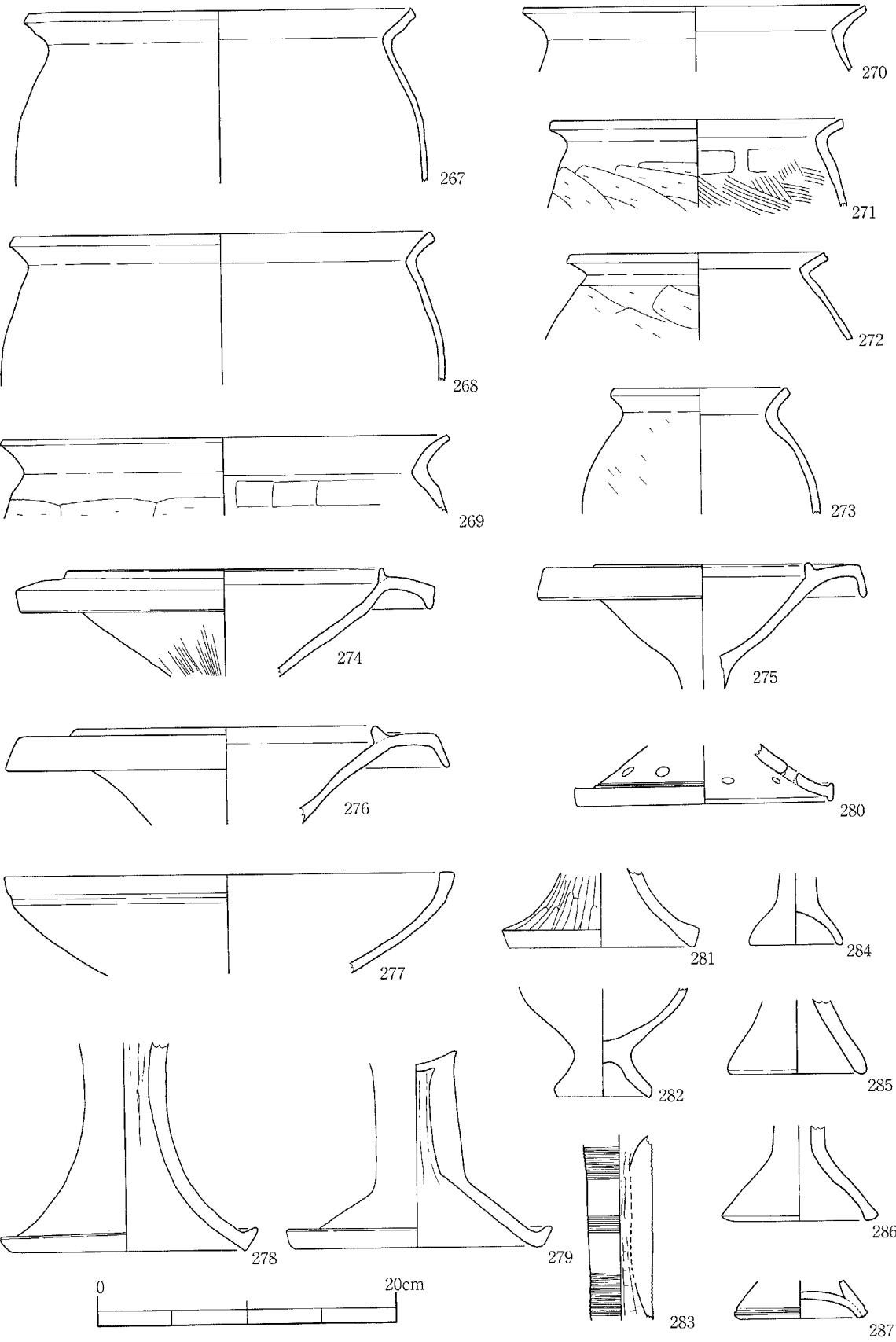


216~242：第 5 層

第34図 B 3 区包含層出土遺物実測図



第35図 B3区包含層出土遺物実測図



267～287：第 6 層

第36図 B 3 区包含層出土遺物実測図

B34 (第30図)

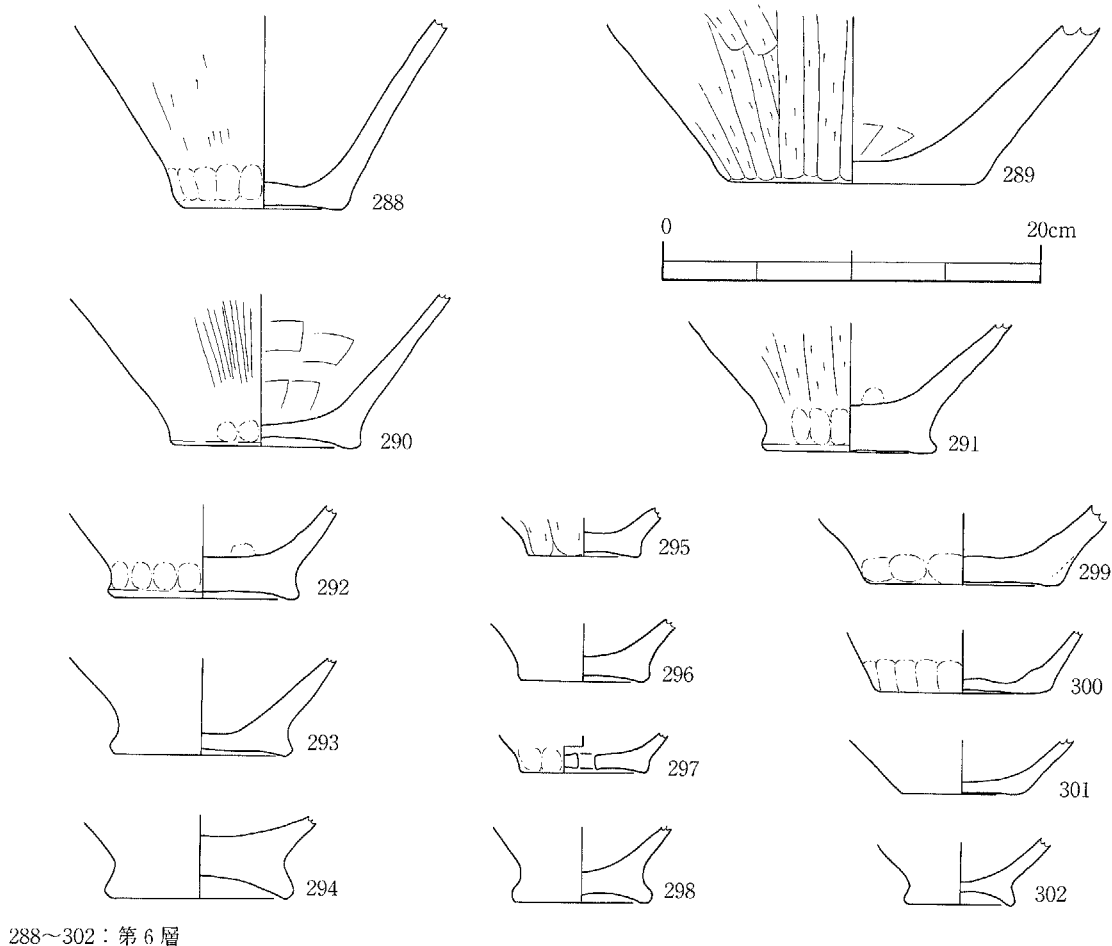
B1区中央部で検出した、幅0.6m、深さ約20cmの溝である。弥生土器27点が出土する。

B403 (第30・45図、P L.14・38)

B1区中央部、1U157地区で検出した土器単独出土の遺構である。溝B34と重複するため掘形等は不明である。

B142他 (第29・39・44図、P L.15・16・37)

B1区中央部で検出した。土層断面から判断される重複関係は、B161が最も新しく、次いでB142、B118の順で古くなる。B142とB119の新旧については不明である。B142をはじめ、これらの遺構埋土の多くはB1区第7層である灰白色砂質土を主とする。このことや、出土遺物の時期から判断すると、B161を除けば、重複関係は認められるものの、これらB142・119・118・254は一連の遺構である可能性が大きいものと考えられる。B142の中央部やや東よりの位置で検出したB254は、深さ30cm前後、大きさは1.1m×0.8mあり、埋土中には炭が多量に含まれていた。また、B161の埋上下半にも炭が多く含まれる。出土遺物は弥生土器がその殆どを占め、各遺構の出土点数は、B142：270点、B119：86点、B118：159点、B254：8点、B189：12点、B161：580点である。



第37図 B3区包含層出土遺物実測図

また、これらの遺構からはサヌカイトの剥片・碎片が多量に出土していた。このため、埋土の一部を土嚢袋に収納し、後日水洗作業を行なった。点数は製品を含め全体で1,371点あり、B142からは744点が、B161では176点が、B161からは422点が出土する。持ち帰った埋土は、上記のとおり一部であるため、全体ではこれに倍する数量の剥片等が含まれていたと思われる。製品には、B118から石匙が1点、B142から石鏃2点、B161からは石錐1点が各々出土している。

建物1（第29・41・50図、P L.5・17）

B1区で検出した2間×2間の総柱の建物である。柱掘形は略円形で径60cm前後、柱根は径約20cm・深さ50cm前後である。柱間は南北方向が2.1m、東西方向は1.9mである。建物の主軸方位は、磁北に対して（以下、同様。）N-21°-Eである。

建物2（第29・42・50図、P L.17）

建物1の北側で検出した2間×2間の建物で、南北棟の建物南側に庇をもつ。建物1とは重複関係があり、建物1より古い。柱穴の規模は建物1に比べて小さく、掘形は径30cm前後、深さ約40cm、柱の太さは10~20cm内外である。柱間は、南北方向及び東西方向共に1.8mで、建物1に比べ柱穴同様に若干狭くなっている。方位は建物1とほぼ同じでN-21°30'-Eである。

建物3（第29図）

B2区で検出した2間×2間の建物である。柱掘形は径30~40cm前後、深さ約20cmで、柱の太さは10~20cm内外である。柱間は、南北方向が2.1m、東西方向は1.7~1.8mとやや不揃いである。

建物4（第29・42図）

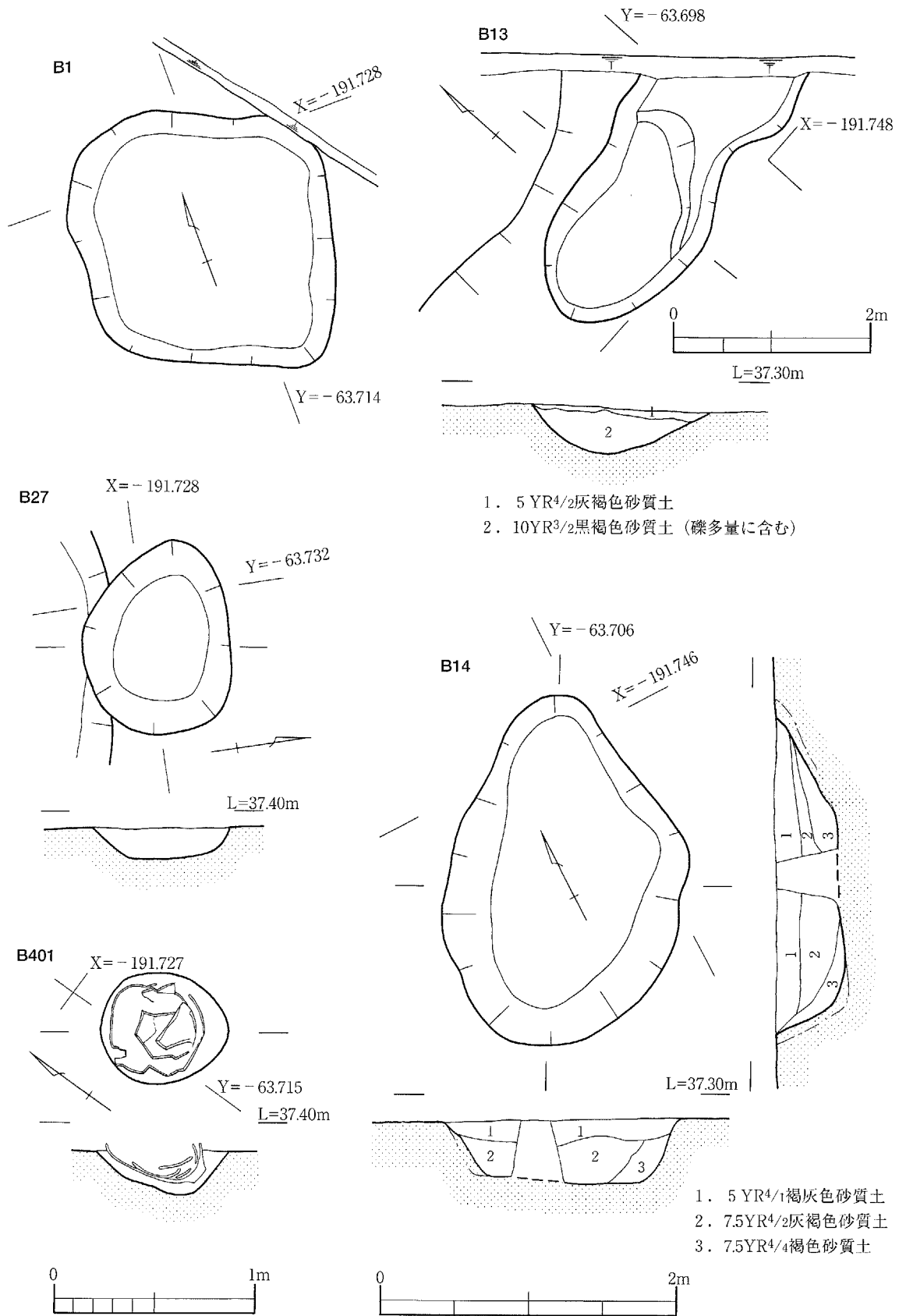
建物3同様、B2区で検出した2間×1間以上の建物である。東側が地山面が一段低くなるB3区にかかるため、推定でしかないが、他の建物同様2間×2間の規模であろうと思われる。柱掘形の形状及び深さは一様では無く、最も大きなもの（B154）は約60cmである。柱間は、南北方向は2m、東西方向が2.2mあり、方位はN-19°-Eである。

建物6（第29・41・50図、P L.40）

B1区から2区にかけて検出した総柱の建物である。南西部は調査区外となるが、建物1同様2間×2間の規模をもつと考えている。柱掘形は50cm前後の円形を呈するものが多く、柱根の径は30cm、深さは平均30cm遺存している。柱間は、東西・南北方向共に2.2mである。建物1~4の掘形の基底線はほぼ水平であるのに対し、この建物の南東隅の柱穴（B321）のみ一段下がる。また、方位もN-23°-Eと他の建物と比べやや東に偏している。

B341・342・347（第29・40図）

第2次調査時に検出した柱穴である。掘形は不整形で一定していないが、径は概ね50cm前後、深さは40cm、柱根の太さは約20cmである。各々の間隔は1.5mと揃っているが、他に並ぶ柱穴が見当たらないため建物の一部かどうかは不明である。遺物は、3つの遺構を合わせて全24点が出土

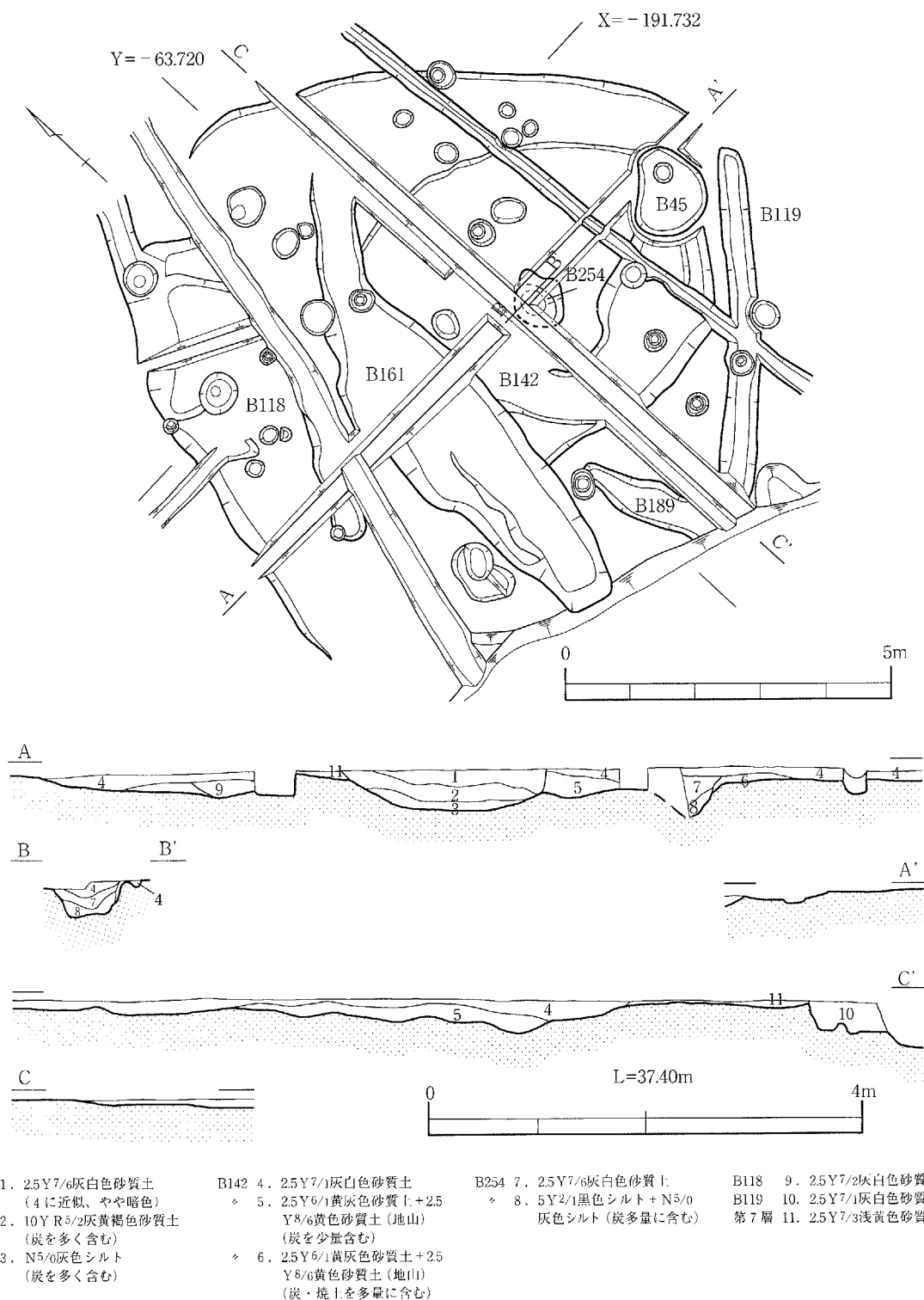


第38図 B区遺構実測図

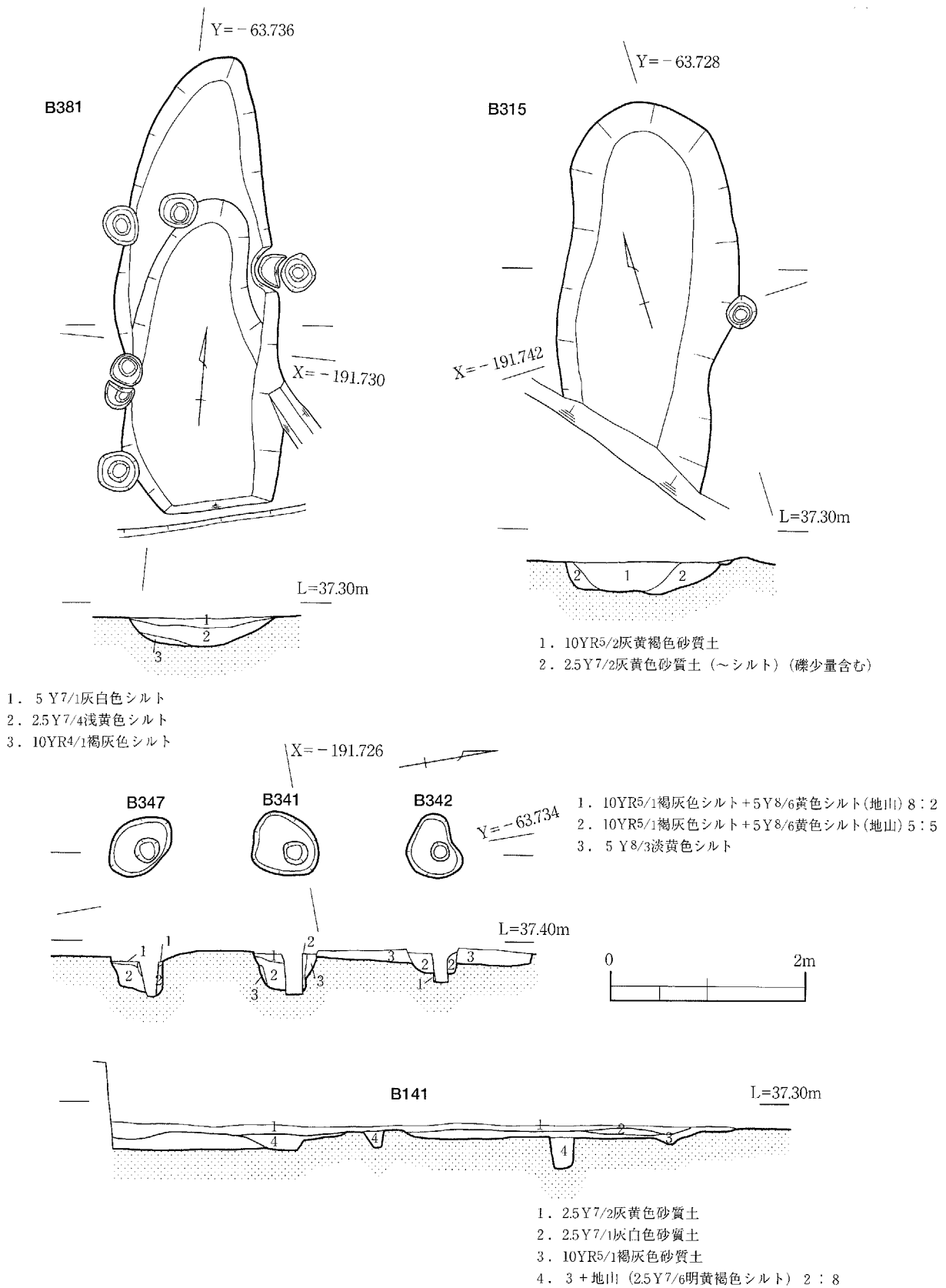
し、土師器5点・瓦器11点の他、弥生土器8点がある。

B87・90（第29・49図、P L.17・40）

B1区で検出した柱穴で、完形に近い瓦器の椀及び皿が出土している。瓦器は、B87では中心部からずれた位置で、B90では柱穴の中心部から出土している。各々の規模は、B87が径50cm・深さ

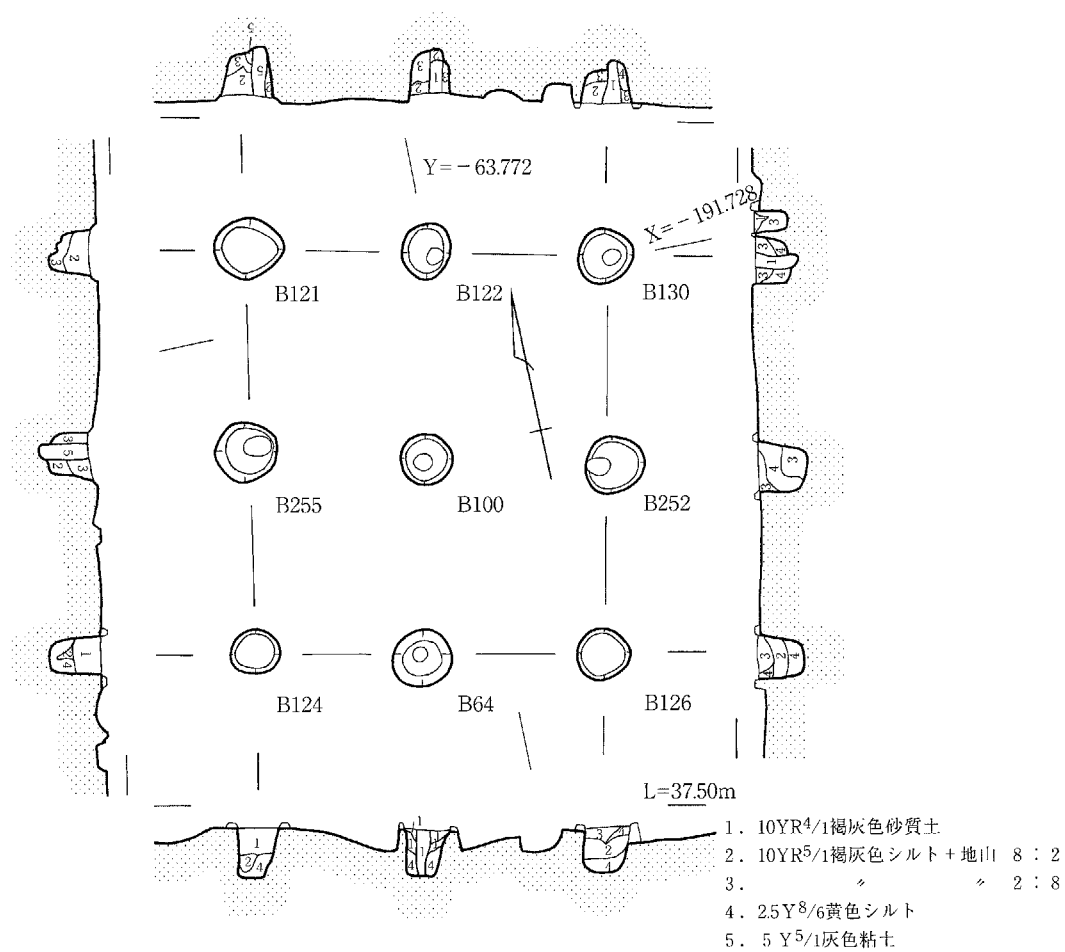


第39図 B区遺構実測図

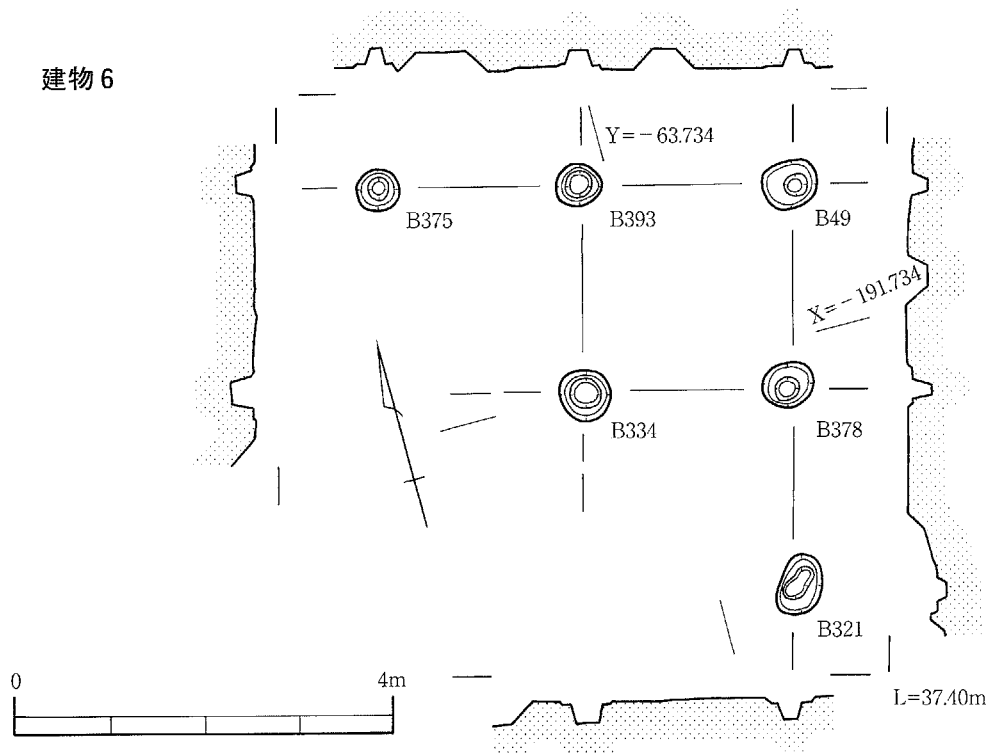


第40図 B区遺構実測図

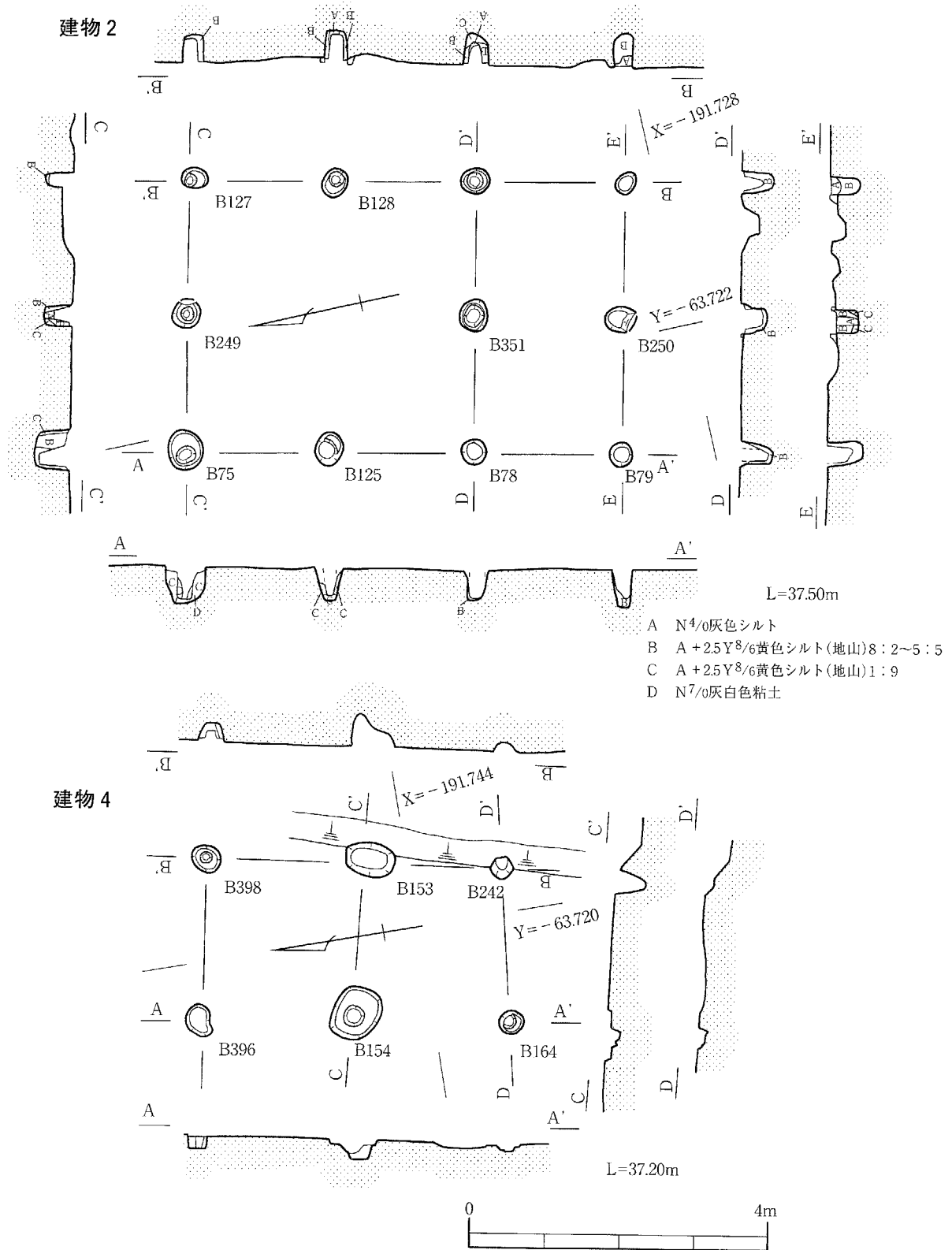
建物 1



建物 6



第41図 B区遺構実測図



第42図 B区遺構実測図

30cm、B90は径40cm・深さ10cm前後である。2つの柱穴からは、土師器16点や瓦器22点をはじめ44点の土器が出土している。

B35（第29・45図）

B34とほぼ同方向の溝で、幅は20cm・深さは10cm程度が遺存している。遺物は弥生中期の土器19点が出土する。

B141（第29図、P L.15）

B2区で検出した浅い落込み状の遺構である。南西側は調査区外となるため規模は不明である。深さは10cm弱でB2区第3層である灰色系の砂質土を埋土とする。遺物は367点が出土し、内訳は、弥生土器：83点・土師器：99点・瓦器：276点の他、中世の須恵器や陶器がある。

B381（第29・40・49図、P L.16）

B1区で検出したほぼ南北方向の溝である。幅は2m弱、深さは30cm前後で、南側が一段深くなる。186点の弥生土器が出土する。

B315（第29・40・46～48・50図、P L.16・38～40）

B2区検出の幅1.4m前後・深さ約30cmの弥生時代の溝状遺構である。断面は台形を呈し、埋土は灰黄褐色の砂質土～シルトで、礫が少量含まれている。遺物は多量で全6,766点が出土し、内6,674点が弥生土器である。その他、古墳時代の須恵器や中世の土師器・瓦器等が90点程度出土しているが、上部にあるB141の遺物が混入した為であろう。

B3区第3層埋土の遺構（第51図）

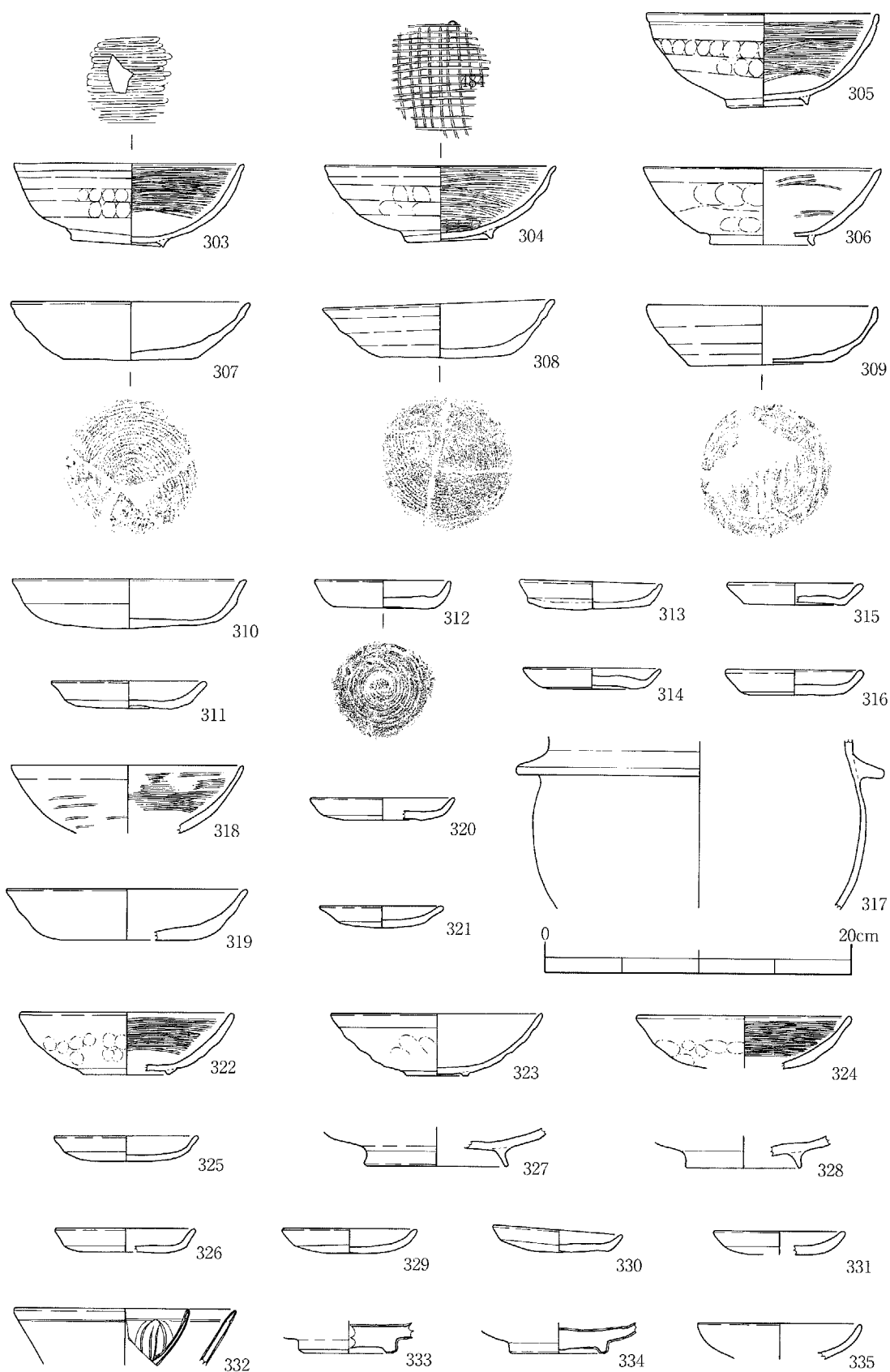
B3区で検出した第3層を埋土とする遺構には、土坑（B2・7）や溝がある。B2は2.5m×2m、B7は3.5m×2.5m前後の規模で、深さは共に10cm前後である。溝は2条あり、東西方向に平行して検出された。幅は0.3～0.2m、深さは5cm前後が遺存するのみである。

B3区第5層埋土の遺構（第51・54図）

第5層埋土の遺構は、第3層埋土と同様に、土坑や溝がある。また、ピットが数個検出される。土坑の平面形は不整形で、深さは5～6cm前後のものが殆どである。B8は幅が最大0.8m、深さ10cm程の溝で、西端部で南方向に折れ曲がる。

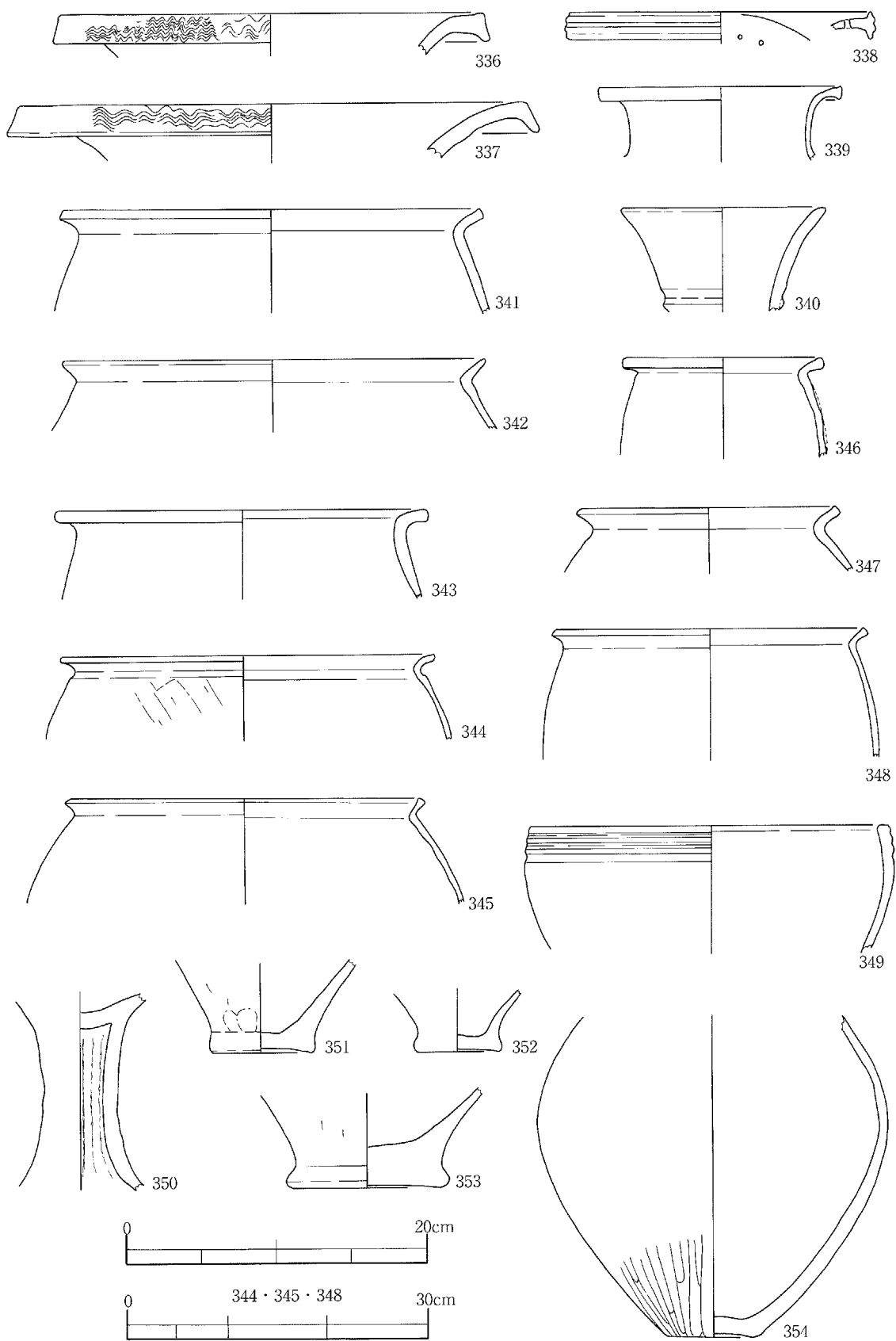
B302（第30・52・54図、P L.19）

第2次調査の3-E区で検出した、B3区第5層を埋土とする、1.7×0.8m、深さ約20cmの規模をもつやや隅丸の長方形を呈する土坑である。調査区外である北東部を除く3つのコーナーのやや外側に径30cm前後のピットを検出しているが、この遺構に伴うものかどうかは明らかにできなかった。遺物は134点が出土し、内訳は、弥生中期の土器が44点、中世の土師器22点・瓦器68点である。



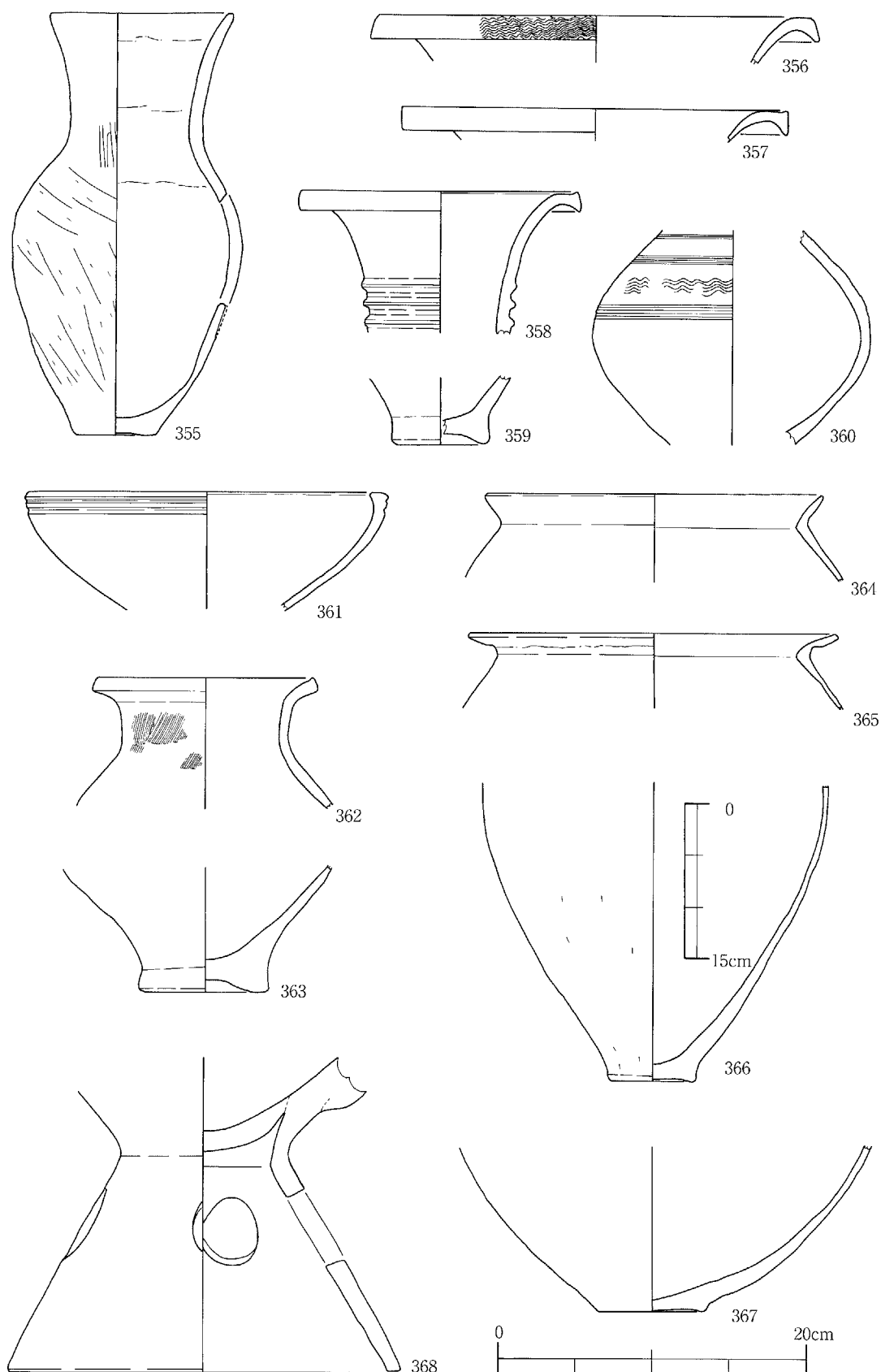
303~317 : B1、318・319 : B37、320 : B38、321 : B26、322~335 : B141

第43図 B区遺構出土遺物実測図



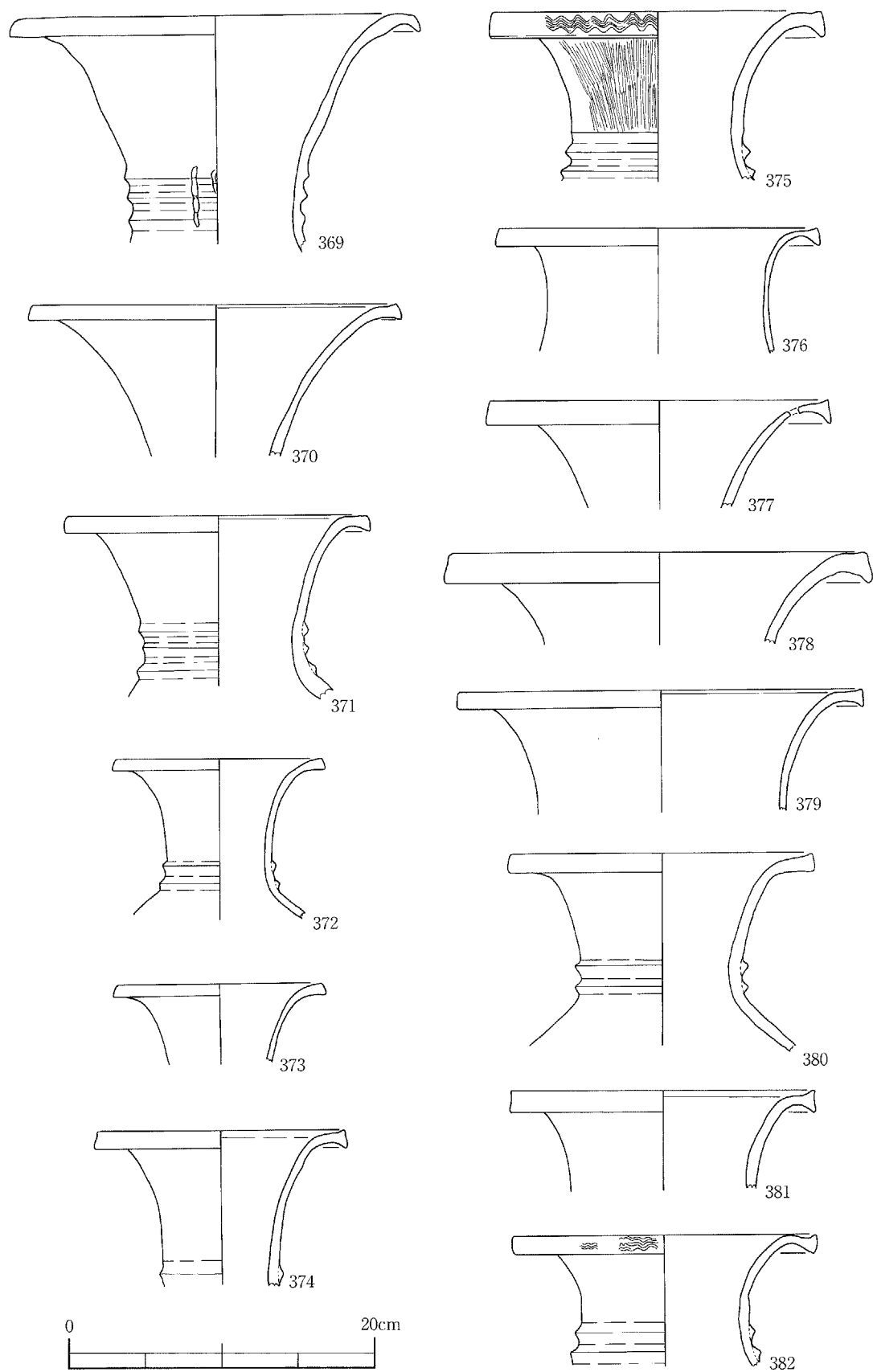
336・337・341～350・352～354：B161、338：B189、339：B119、340・351：B142

第44図 B区遺構出土遺物実測図

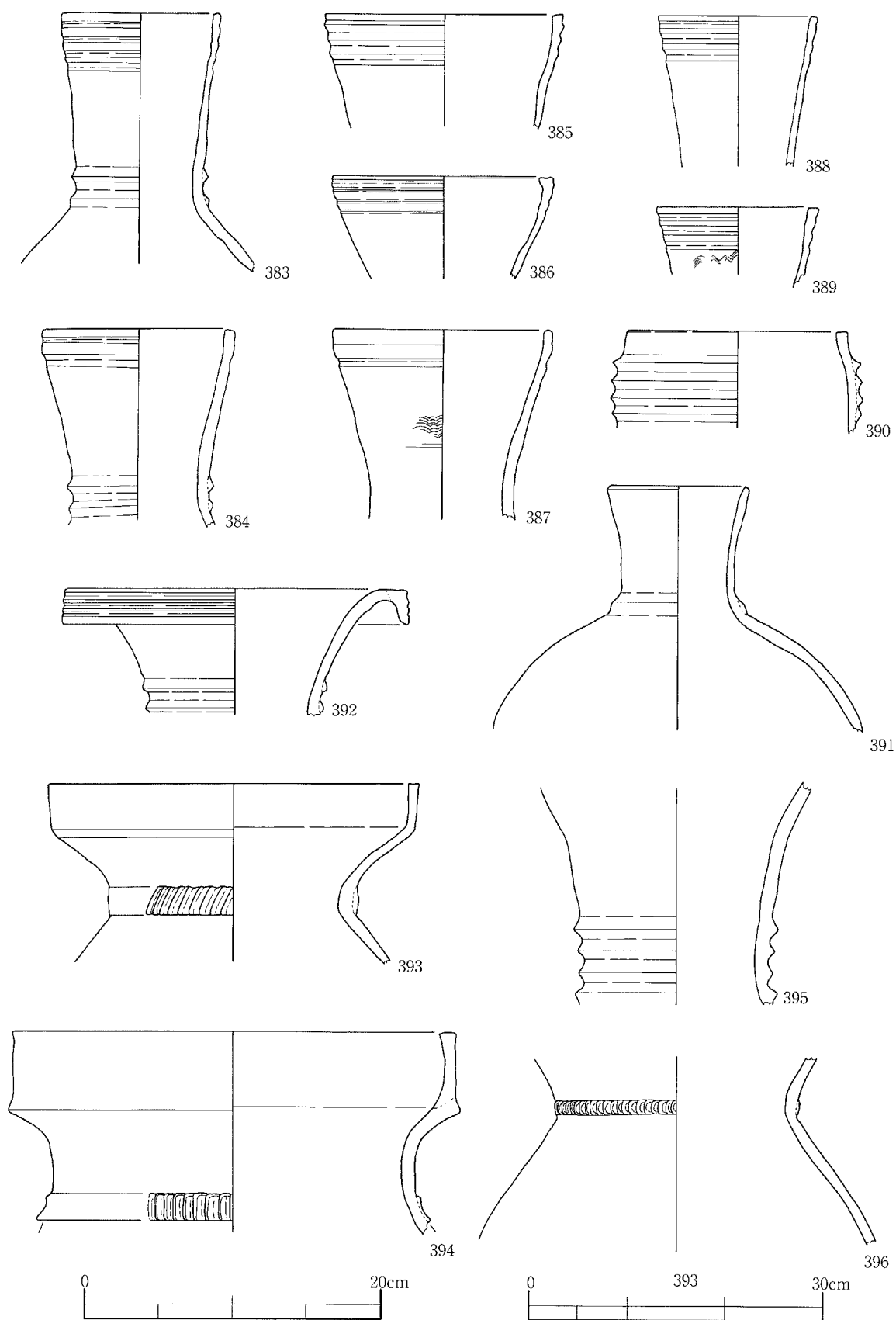


355～361 : B13、362・363 : B14、364・365 : B35、366・367 : B401、368 : B403

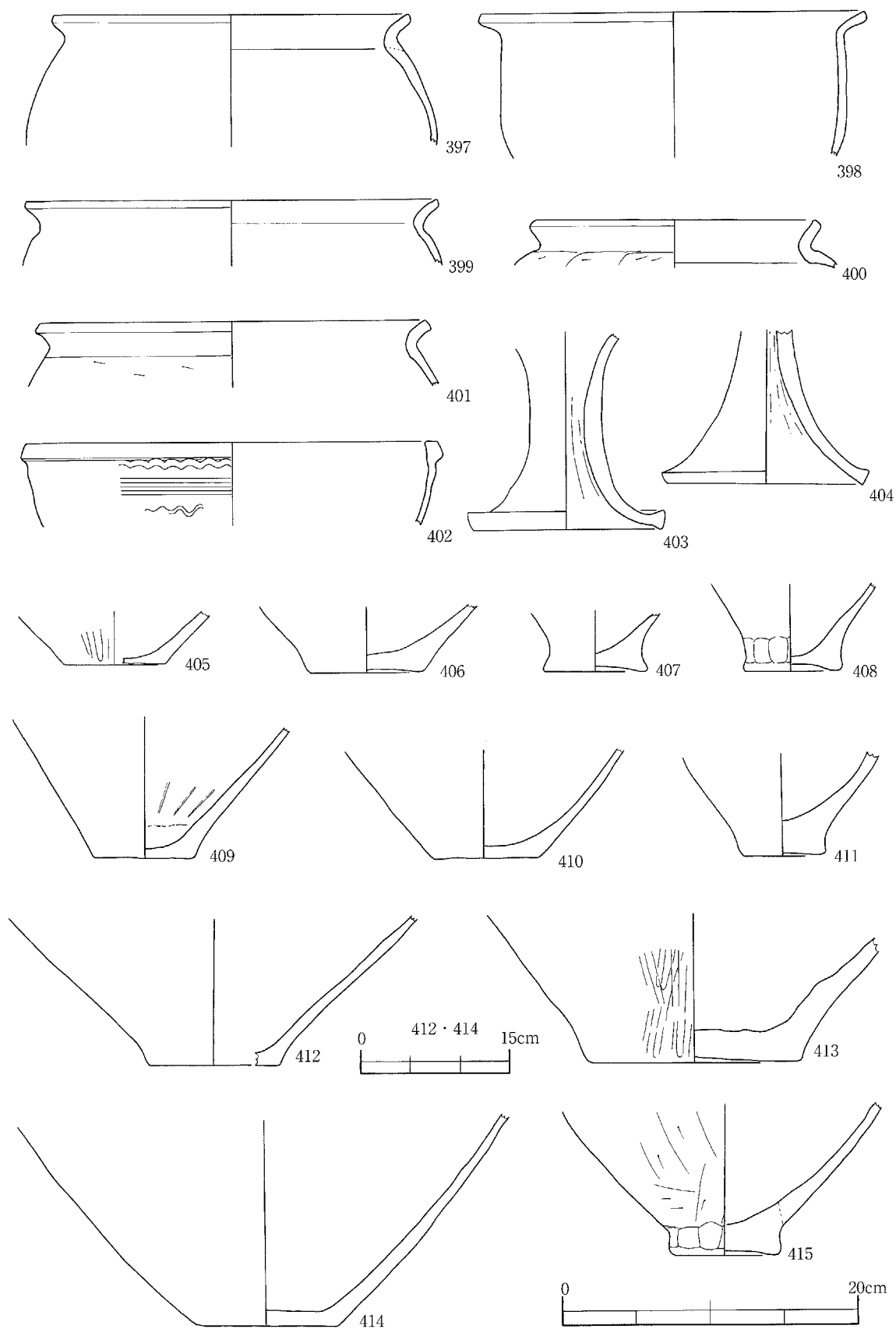
第45図 B区遺構出土遺物実測図



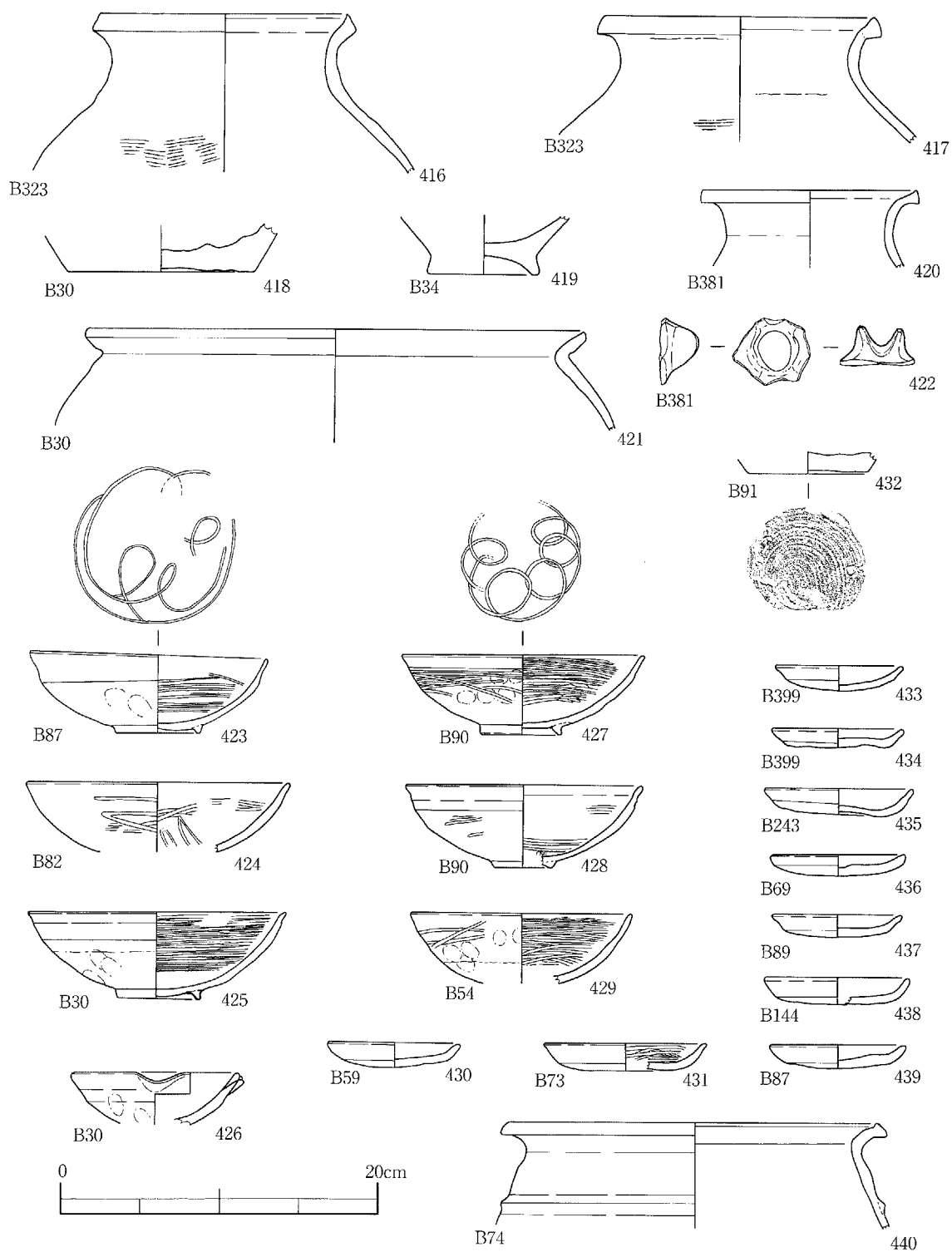
第46図 B315出土遺物実測図



第47図 B315出土遺物実測図



第48図 B315出土遺物実測図



第49図 B区遺構出土遺物実測図

建物 5 (第30・52図、P L.18)

B3区中央部で検出した2間×2間の建物である。地山面で検出したが、本来は弥生の包含層である第6層の上面を遺構面とすると考えられ、中世の遺構である可能性が強いと思われる。柱掘形は円形で、径0.4～0.5m、深さは約20cm遺存する。柱間は、南北方向が2m、東西方向は1.8mあり、方位はN-15°30'-Eである。

B404 (第30・52・54図、P L.19・41)

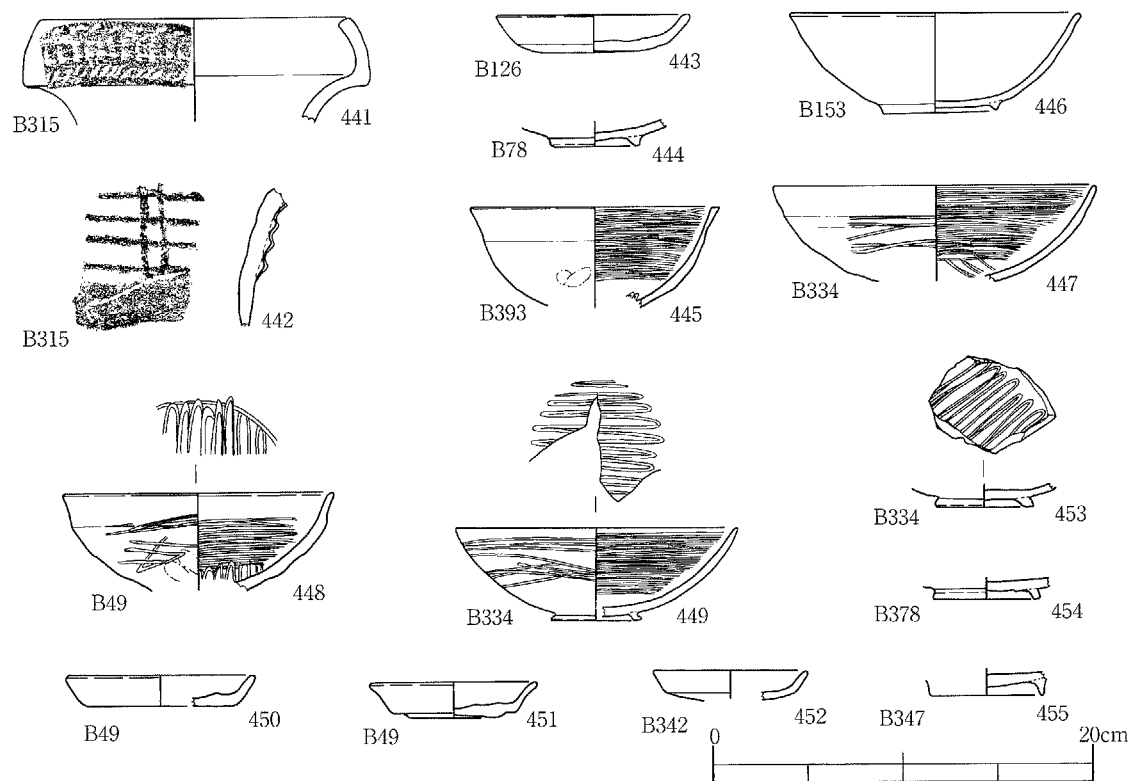
B3区の谷状地形に設定したセクションベルトを撤去する際に検出したため、掘形等は不明である。器高40cm弱の甕(483)を棺身とし、口径37cm・器高約26cmの台付鉢(482)を棺蓋とする土器棺であろうと考えていたが、リン・カルシウム分析をおこなったところ、内容物に関する検討を行なうことは難しいとの結果が出ている。

谷状地形 (第30・51図)

B3区の中央部に拡がり、東西方向の幅は20～30mである。B3区第4層から第6層が堆積する。

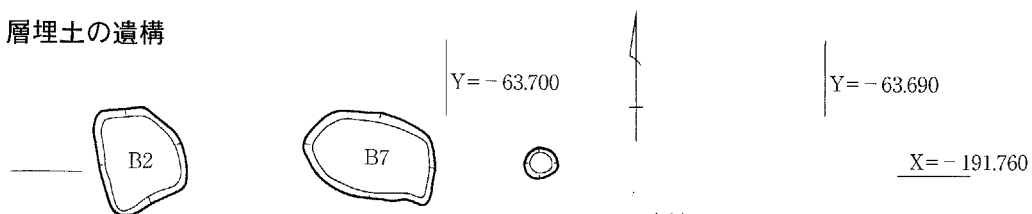
B173・376・377 (第30・54図、P L.18)

B3区第6層を埋土とする弥生時代の溝及び不定形な土坑である。遺物は、B173からは58点、B376からは421点、B377からは33点の土器が出土している。いずれも弥生中期の土器である。

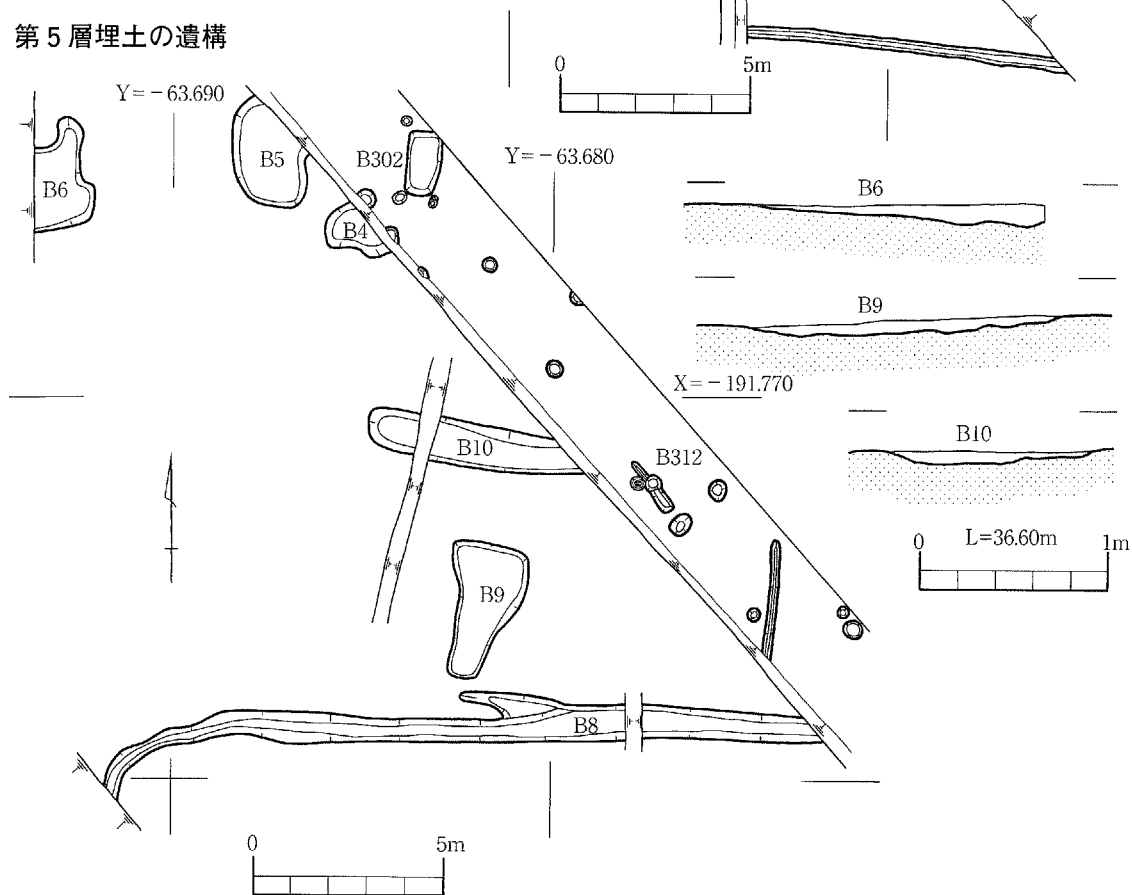


第50図 B区遺構出土遺物実測図

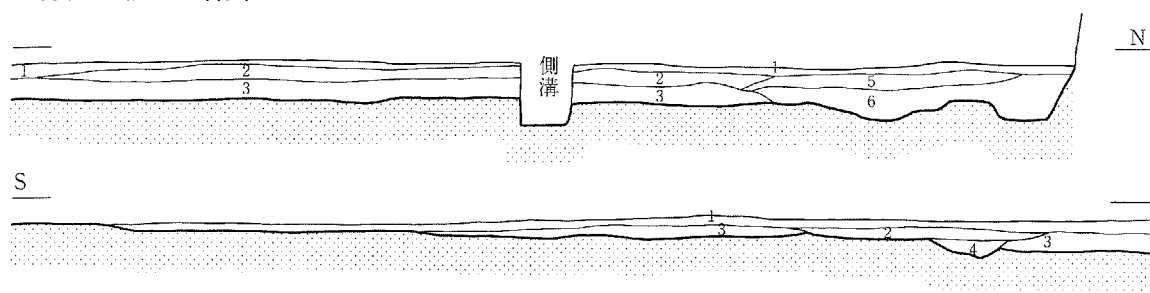
第3層埋土の遺構



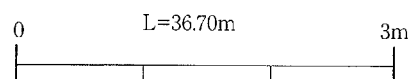
第5層埋土の遺構



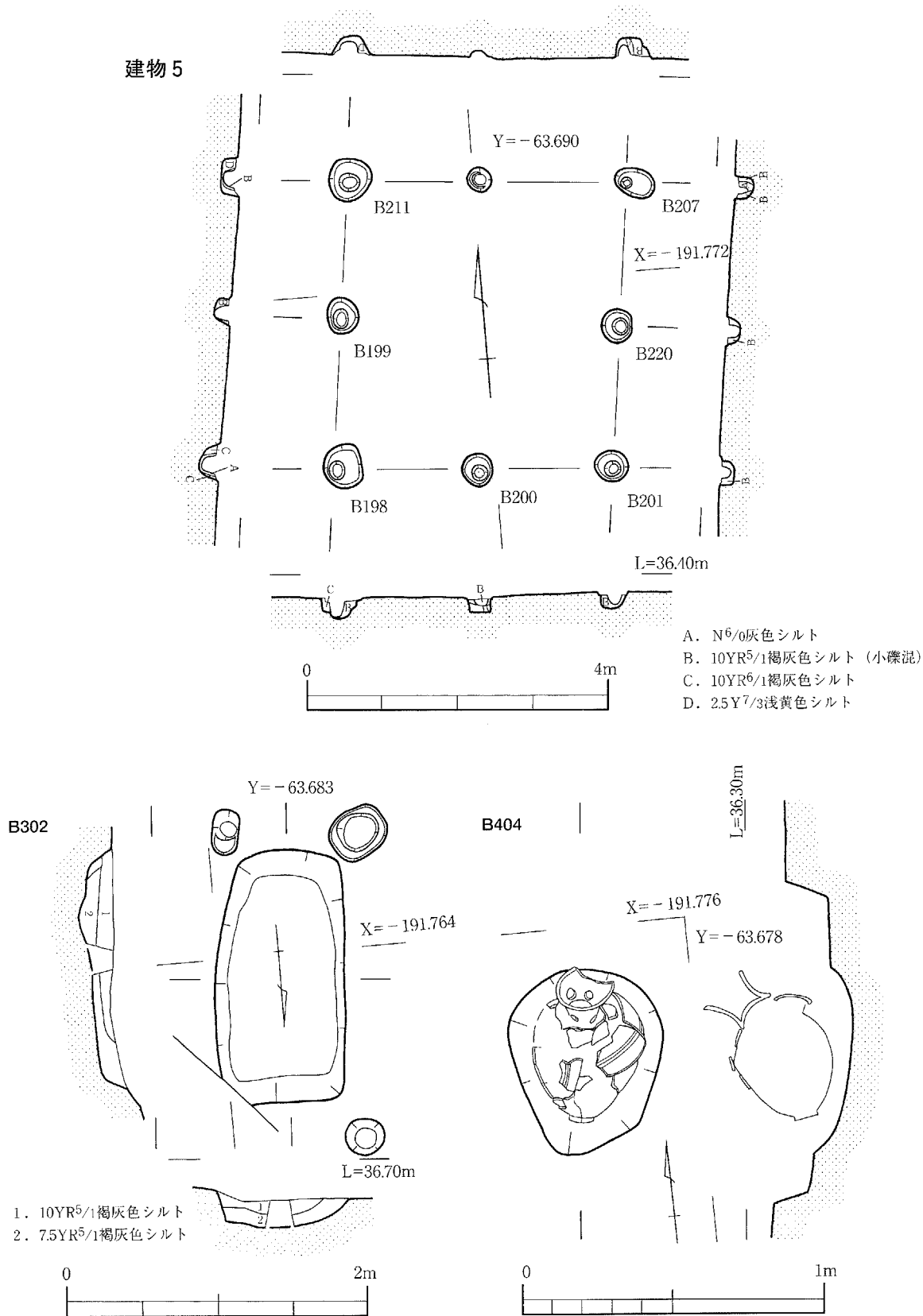
谷状地形 土層図



- | | | | |
|-----|---|---|--------------------------------------|
| 4 | 層 | 1 | 10YR ⁶ /1 褐灰色砂質土 |
| 5 | 層 | 2 | 10YR ³ /2 黒褐色砂質土 |
| 6-3 | 層 | 3 | 2.5Y ⁷ /2 灰黄色シルト |
| B 8 | 層 | 4 | 10YR ⁵ /1 褐灰色砂質土 |
| 6 | 層 | 5 | 10YR ⁵ /2 灰黄褐色シルト(小礫少量含む) |
| 6-2 | 層 | 6 | 10YR ⁴ /2 灰黄褐色シルト |



第51図 B区遺構実測図



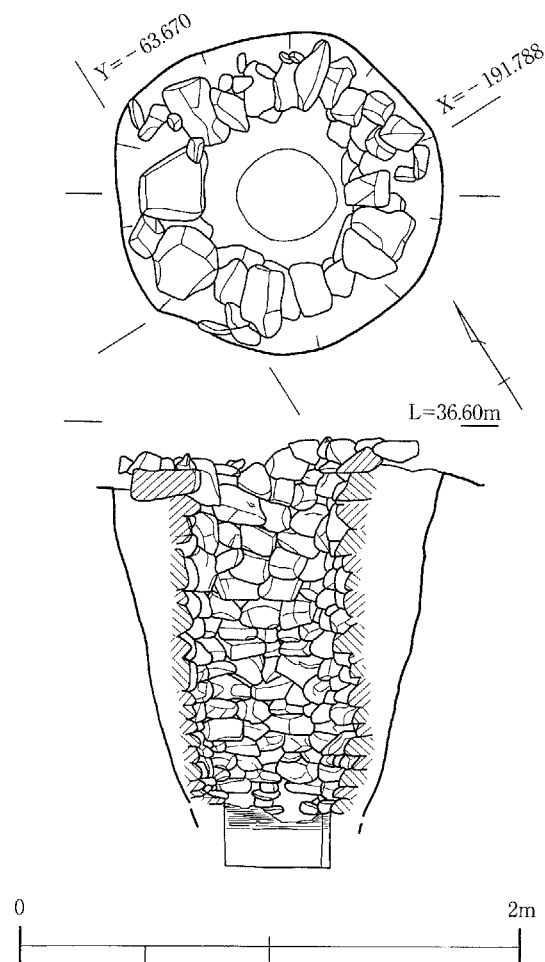
第52図 B区遺構実測図

B232 (第30・53・54図、P L.19)

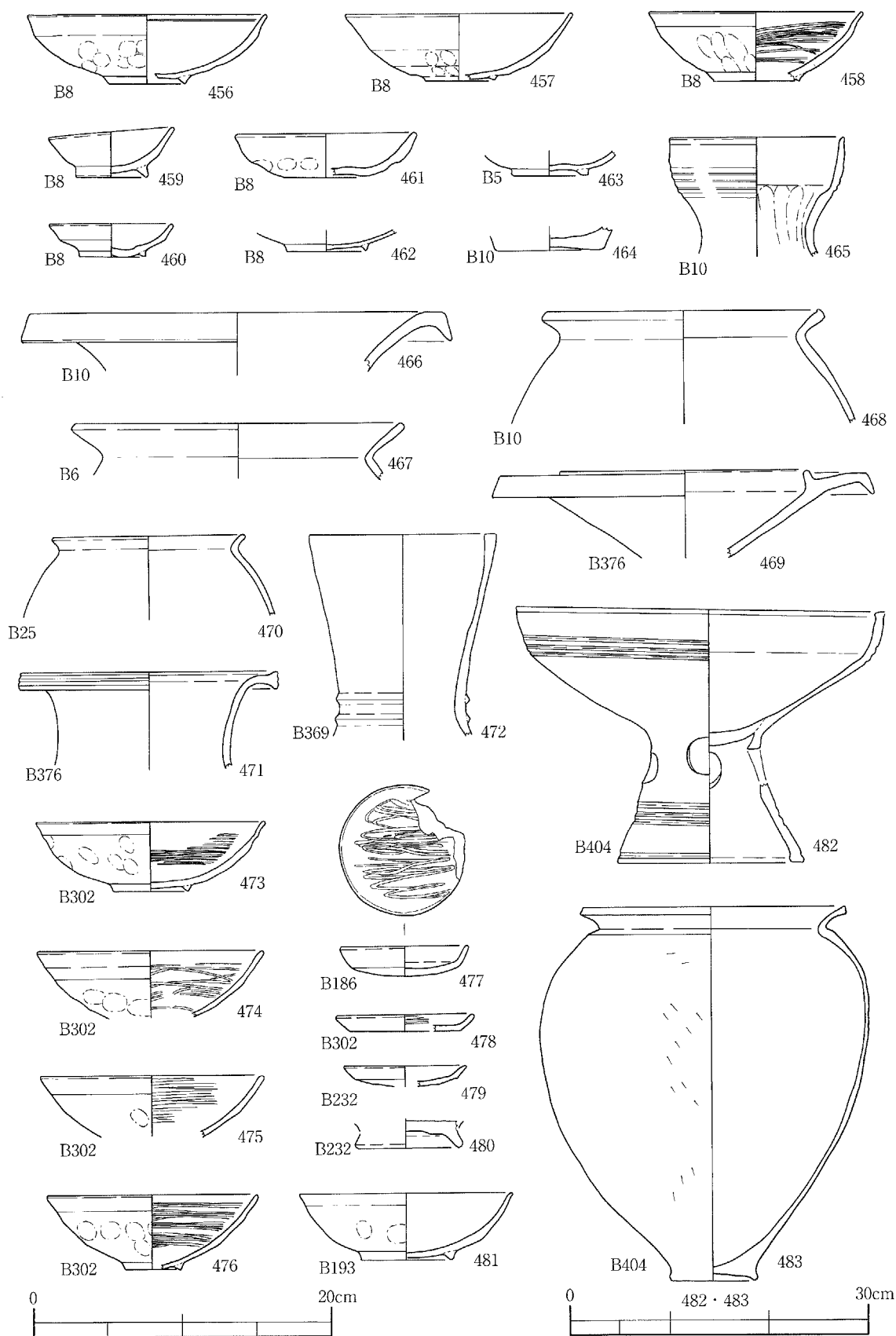
B3区の谷状地形の東側で検出した、河原石を使用した石組みでの井戸である。掘形は径1.3m、井戸の直径は約0.6m、検出面からの深さは約1.7mである。井戸の底から直径40cm前後・高さ約25cmの曲物を検出している。遺物は土師器30点と瓦器83点の他、瓦2点、弥生土器45点等を含め全161点が出土している。

B4区 (第30図、表6、P L.3・12・16)

B3区より一段低くなり、地山面での比高差は約30cmである。遺構は第1層である耕作土を埋土とする土坑或いは溝状のものがいくつか検出されているのみである。出土遺物は表6に示すように、近世以降(近・現代)のものがその大半を占める。



第53図 B232実測図



第54図 B3区遺構出土遺物実測図

第3節 C区の調査（第62図、P.L.2）

1. 概要（第62図、写真7）

B区（第1次及び第2次調査地）とは町道を挟んでその南東側に位置する面積約1,700㎡の調査区である。B区同様に調査区の両側にある水田への進入路を確保するため、幅17m×長さ95mの範囲を調査し、その後、後述する遺物が多量に出土した15区の東側部分を、幅3m×長さ22mの範囲で拡張した。

遺構は近世以降に掘削されたと思われる暗渠排水溝等を除けば、中世と弥生時代中期の2時期に分けられる。それぞれ第3層掘削後及び第4層掘削後（地山面）に検出を行ったが、第3層及び第4層が細分可能な地点では、各層の掘削が終了した時点でその都度遺構の検出作業を実施した。

弥生時代の遺構には竪穴住居・土坑・溝等がある。主にC14区で土坑及び溝状の遺構が多く検出されているが、C15区からC16区へと南に向かうに従って次第に遺構の密度は希薄になる。

層序（第55図、表7）

第3層からは弥生土器と土師器や瓦器を主とした中世の遺物が出し、その比率は45：55である。また、C15区では削平を受けたため出土量は少なく、出土範囲も東

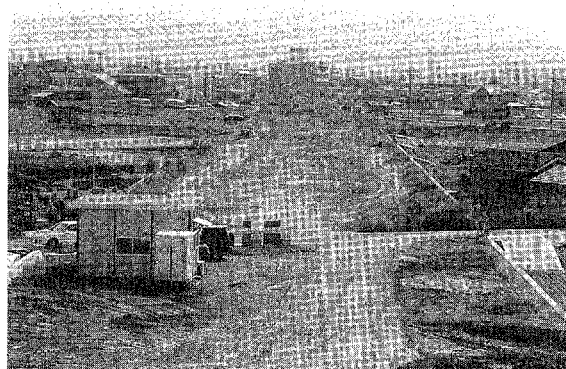
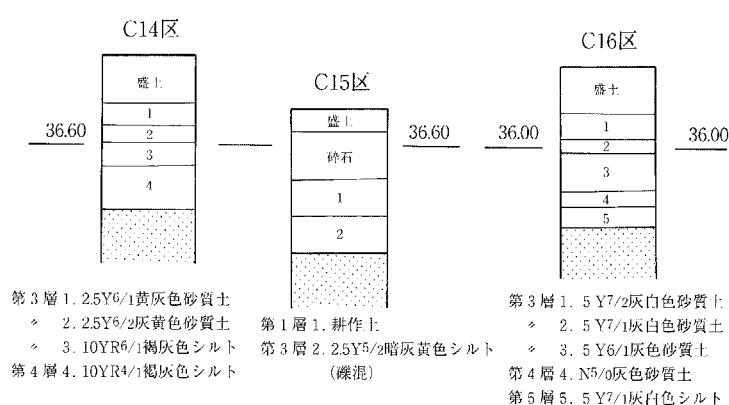


写真7 C・D区調査前の状況



第55図 C区基準土層図

層	区	計	縄紋	弥 生		古墳～平安		鎌 倉～室 町						近世 以降	不明・ その他
				中期	後期	土師器	須恵器	土師器	瓦器	須恵器	陶磁器	瓦			
第 3 層	14区	1,820	0	1,372	13	0	11	292	94	3	10	30	24	0	
	15区	301	0	214	0	0	1	37	39	2	5	0	3	0	
	16区	2,272	0	297	1	0	58	1,116	660	50	13	5	54	18	
	計	4,393	0	1,883	14	0	70	1,445	793	55	28	35	81	18	
第 4 層	14区	5,591	0	5,551	0	4	0	23	9	0	0	0	1	3	
	15区	20,615	0	20,468	0	0	3	63	70	0	5	1	3	2	
	16区	88	0	78	0	0	0	6	4	0	0	0	0	0	
	計	26,294	0	26,097	0	4	3	92	83	0	5	1	4	5	

表7 C区包含層出土遺物数量表

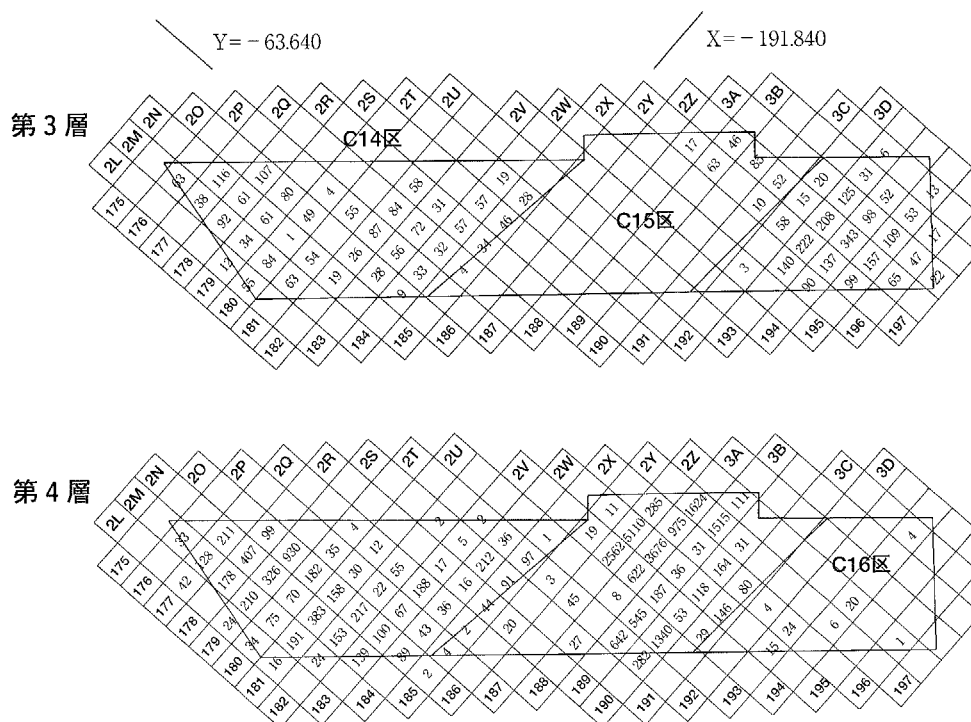
端部に限られる。第4層は弥生時代中期の遺物包含層である。第4層はC16区の東半部を除き調査区のほぼ全域で認められるがその出土量は地区により異なり、第3層とは逆にC15区の中央部からは多量に出土している。第3層及び第4層共に地区により異なるが、第55図に示すように2～3層に細分が可能である。

2. 遺構と遺物（第56～69図、P L.2・20～23・42～45）

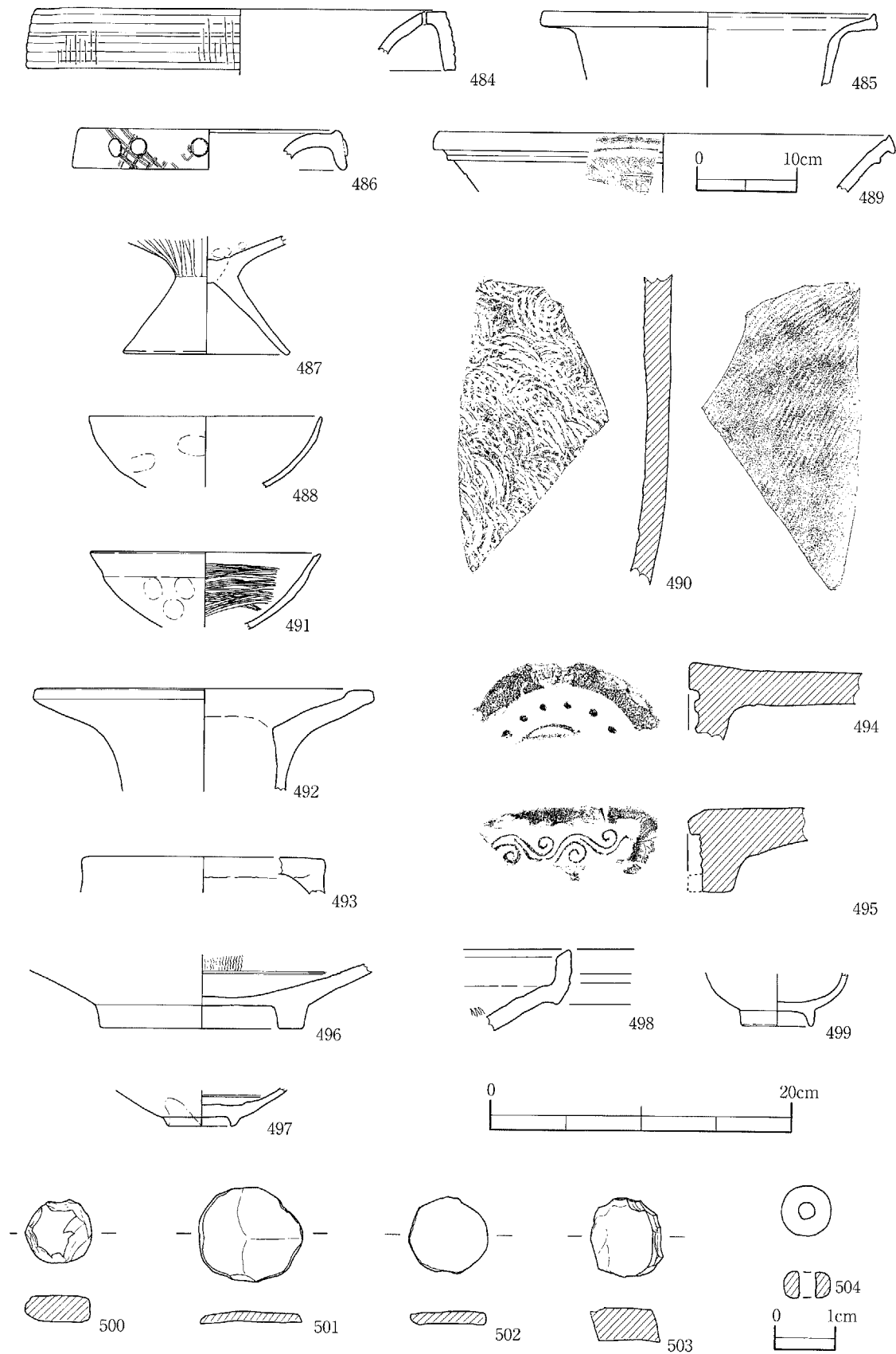
包含層出土遺物（第56～61、表7、P L.42・43）

包含層からは、表7に示すように総数26,000点以上の土器が出土している。注目すべきは弥生時代後期の遺物の出土である。この調査区の北側にあたるA区及びB区からは、A区の一部の遺構を除きこの時期の遺物は出土しておらず、C区以南にのみ出土していることであり、里道を挟んで南に位置するE区では、逆に中期の出土点数を凌駕している。点数は14点と少なく、出土範囲も限られており、また、小破片のため図化できる資料も乏しい。第3層出土遺物では、古墳時代から平安時代にかけての須恵器70点が出土している。

第4層出土遺物では、弥生中期の土器がその殆どを占める。C15区からは20,000点以上と極めて多量の土器が出土しているが、後述する落込み状或いは浅い谷状地形からその多くが出土する。遺物の種類には弥生土器の壺・甕・高杯等の他、把手付の鉢や器台、台形土器がある。台形土器には492と493の2つのタイプがある。県内での出土例は少なく、これまで、和歌山市や海南市の数遺跡で出土しているのみである。円板は弥生土器の壺や瓦器或いは瓦を素材としており、直径

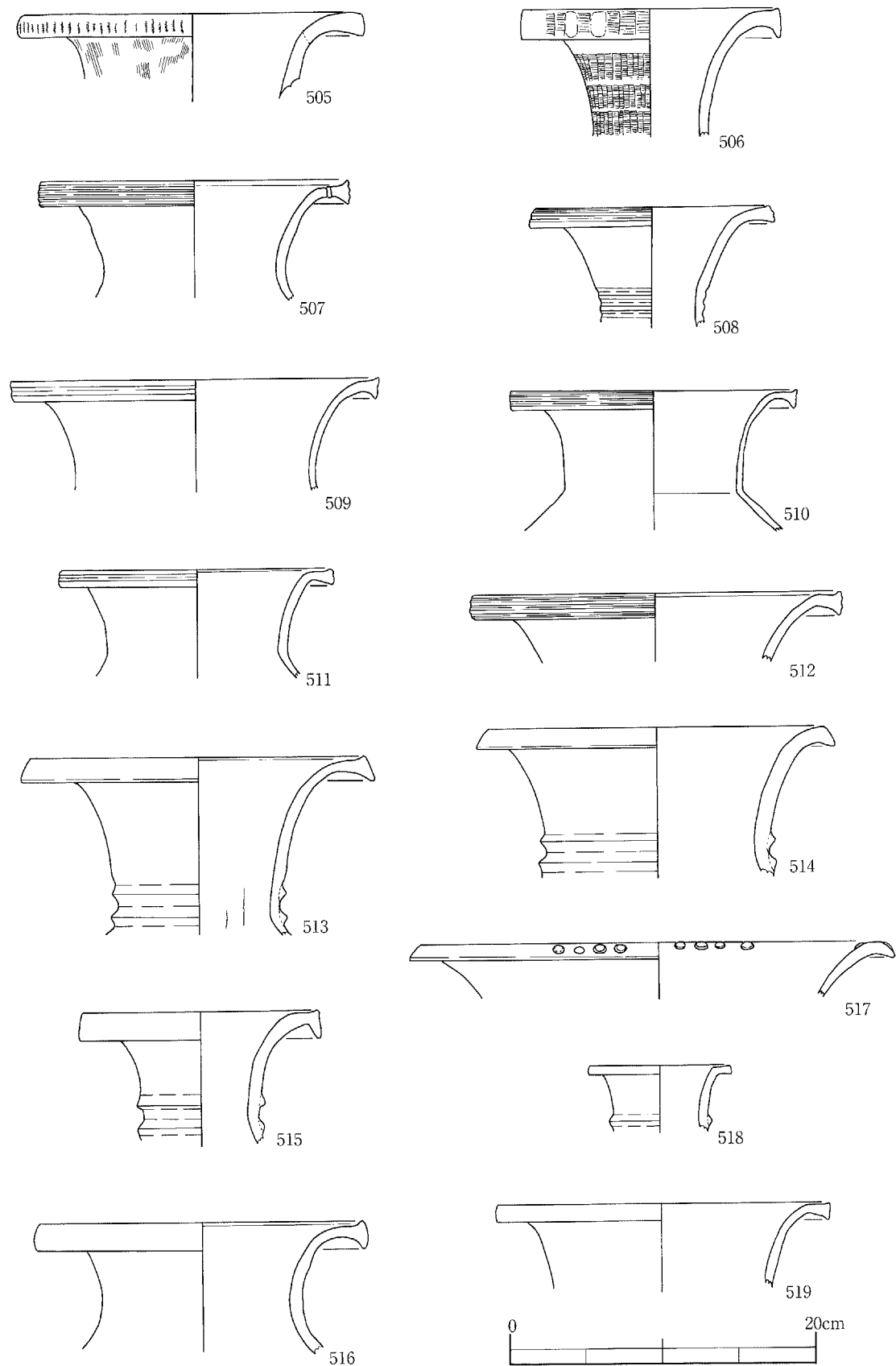


第56図 C区包含層出土遺物分布図



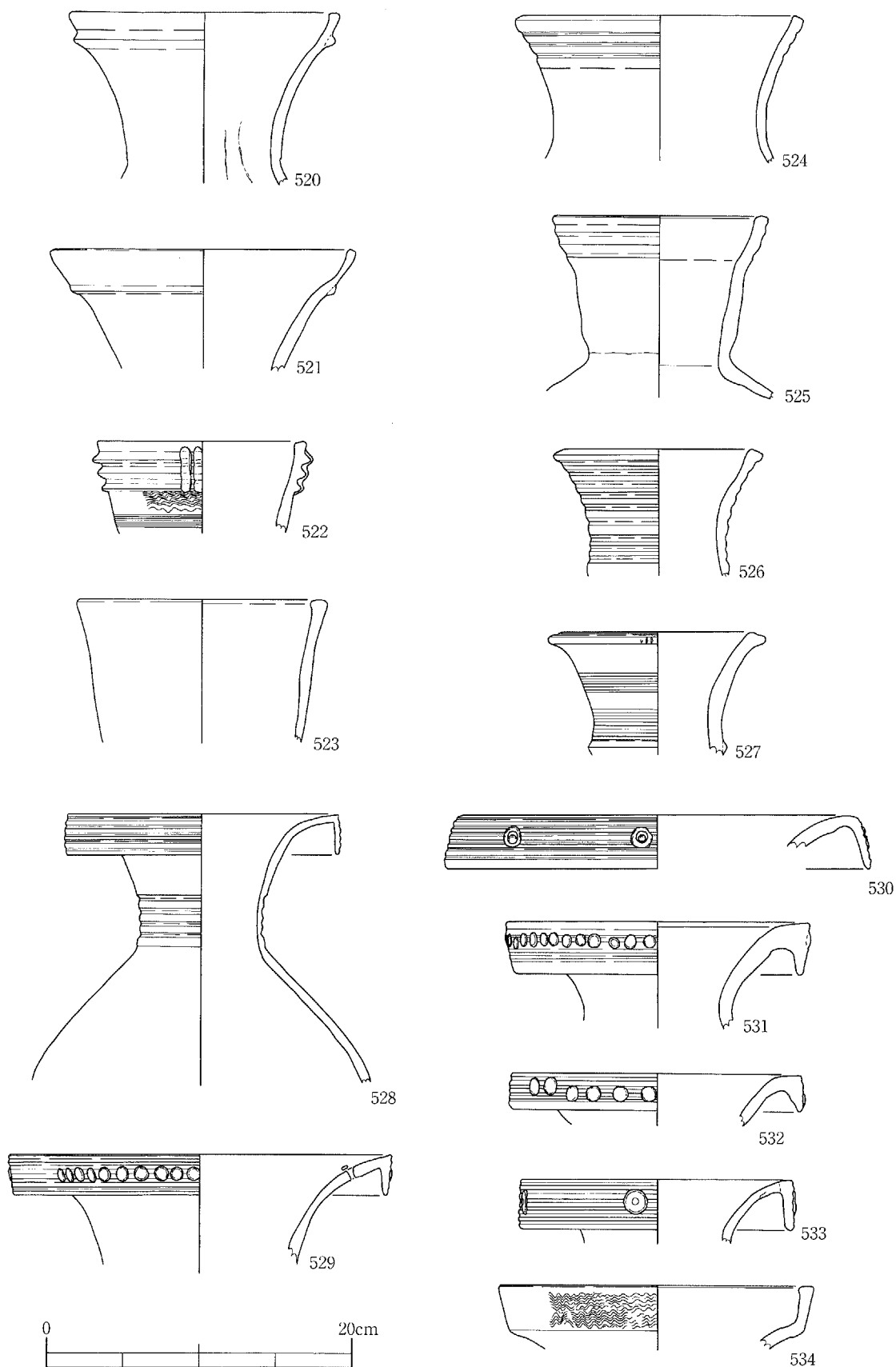
484～490・500：第3層、491～493・501・502：第4層、他は暗渠

第57図 C区包含層他出土遺物実測図



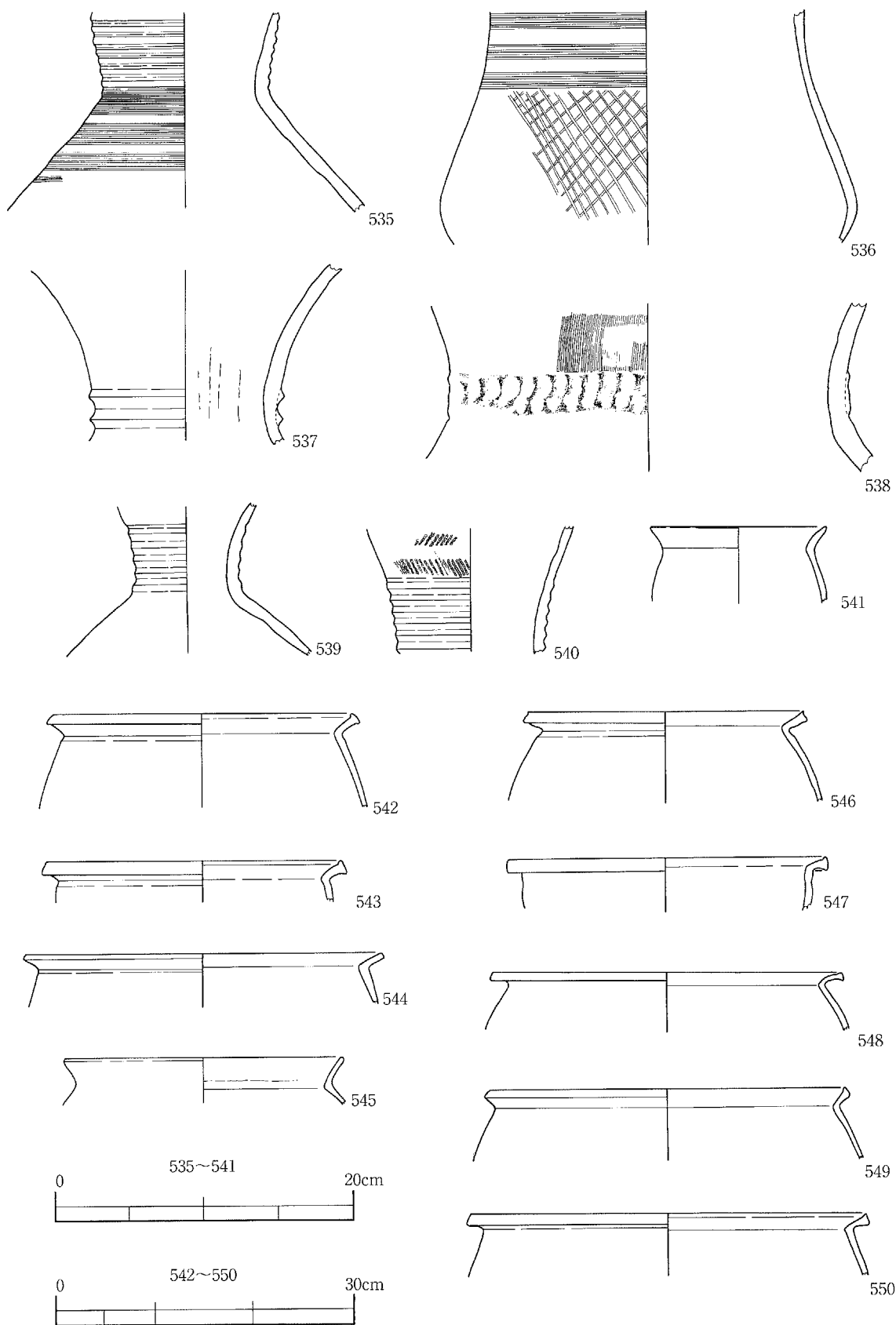
505～519：第4層

第58図 C区包含層出土遺物実測図



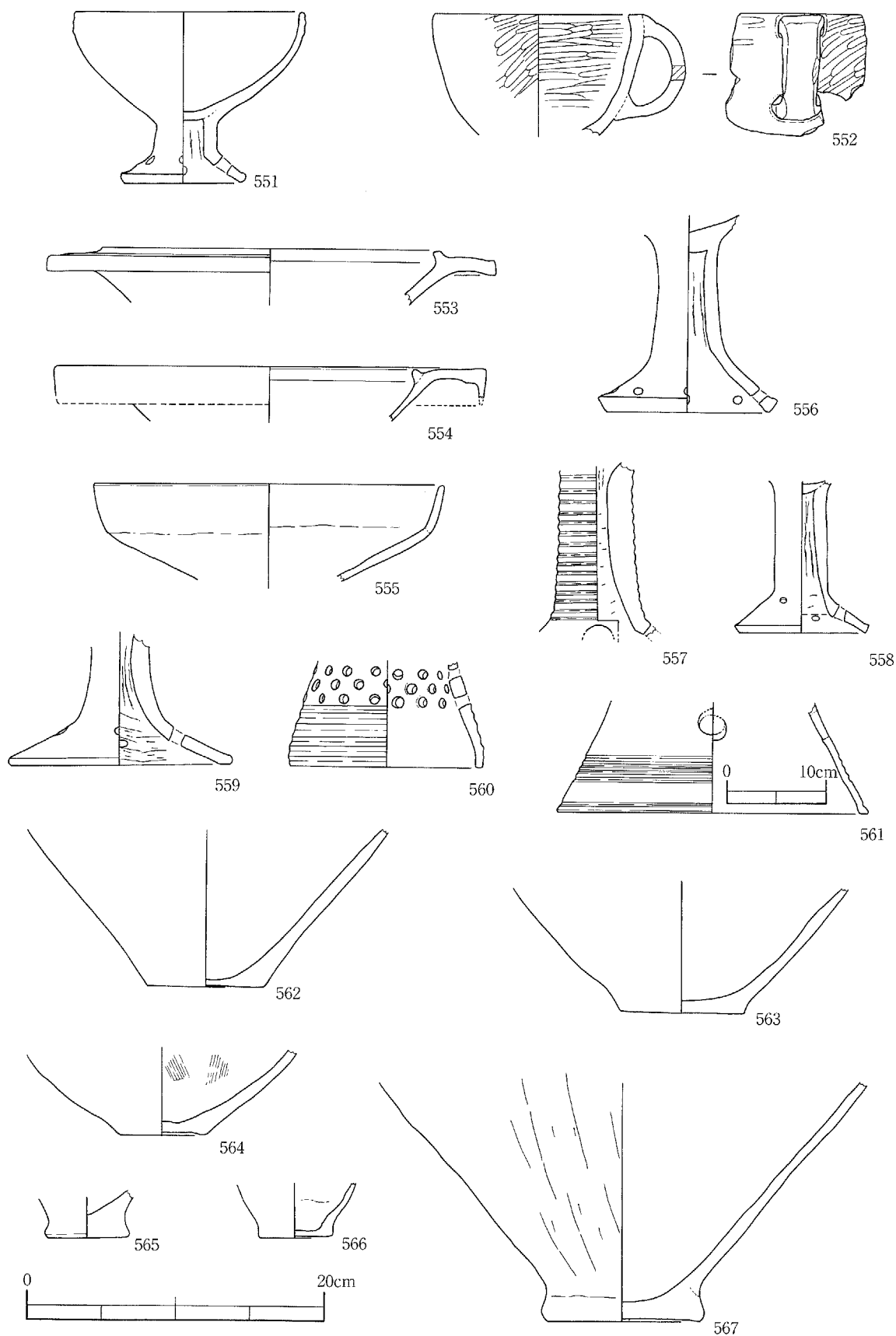
520～534：第4層

第59図 C区包含層出土遺物実測図



535~550：第4層

第60図 C区包含層出土遺物実測図



551～567：第4層

第61図 C区包含層出土遺物実測図

は4～6cm前後のことが多い。ガラス玉(504)は、側溝から出土したもので、正確な出土層位は不明である。また、石器は、第3層から12点、第4層からは19点が出土している。

C701 (第62図、P L.22)

C14区で検出した、11m×3.5m、深さ約30cmの中世の土坑である。中央やや北寄りの部分は一段低くなり、深さは50cm前後となる。埋土は、第3層に近似する褐色系の砂質土及びシルト層である。遺物は、194点が出土し、弥生中期の土器が143点、後期の土器が17点、中世の土師器23点・瓦器3点等がある。

C805 (第62・63・66図、P L.21)

C14区の西端で検出した竪穴住居である。第1次から第3次までの調査では、柱穴や土坑は検出されているが竪穴住居の検出はこれが初例である。全体の1/2弱は調査区外であるが、直径約5mの円形を呈する。壁溝(C776)は幅12～20cmで一部途切れる。柱の直径は0.4～0.5m、深さは約40cmあり、4本柱と考えられる。中央に位置する炉は南北方向にやや拡がり楕円形を呈し、規模は0.7×0.9cm、深さは約50cmである。埋土は、第4層である褐灰色系のシルト層であるが、C735から西に延びる溝状の落込みが遺構上部にあり、その埋土と近似している。そのためか遺構の遺存度は悪く約10cm前後が残るのみである。遺物は全て弥生中期の土器で、32点が出土する。

C735 (第62・63・66図、P L.21・22・44)

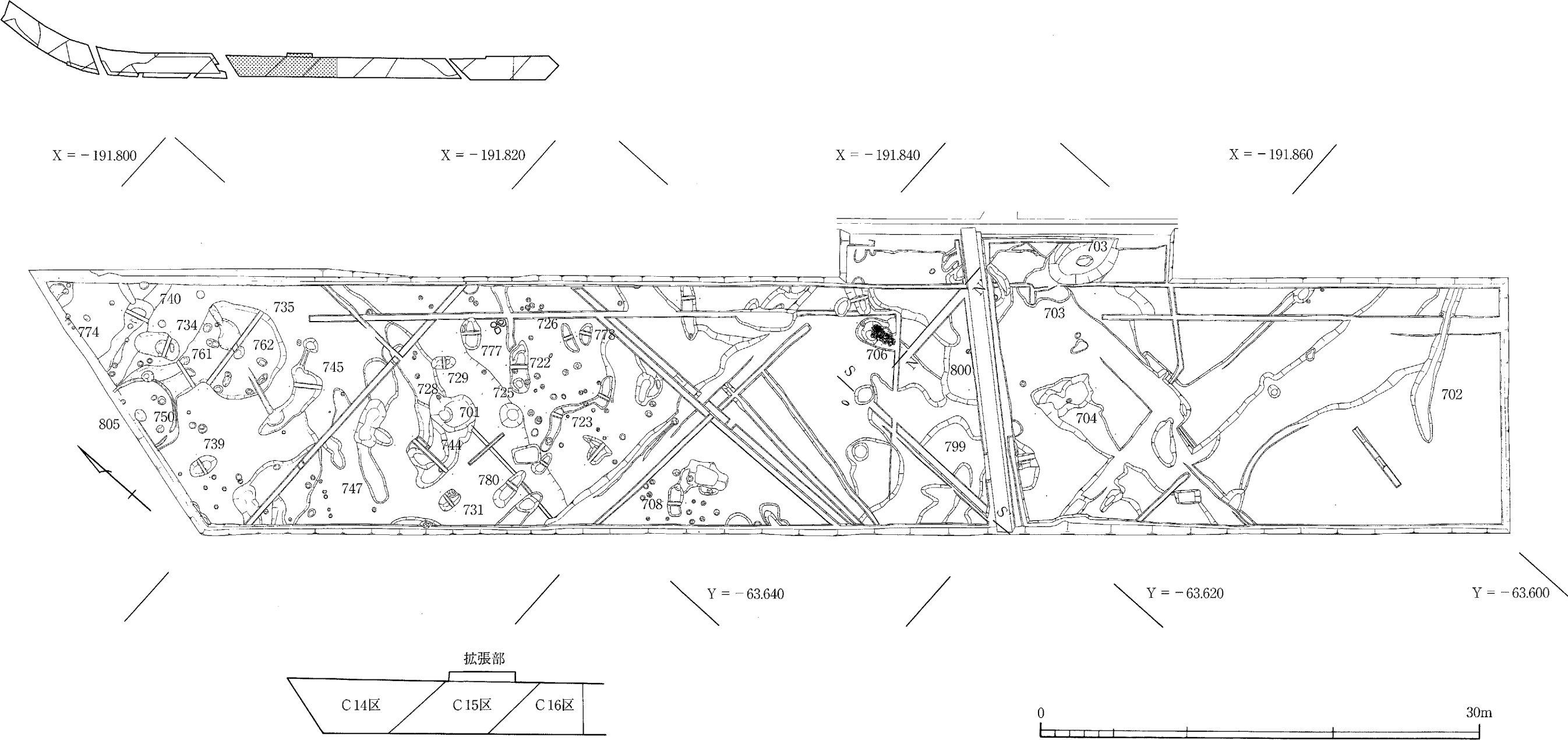
C805の東側で検出した土坑である。円形を呈するが一部は西方向－C805側－へ溝状に拡がる。竪穴住居である可能性も考えられたが、遺構肩部の立上りがなだらかであることや、中央部で検出した炉に相当する位置にある遺構の時期がC735より新しいと判断されることなどから、住居とは断定できなかった。遺物は、71点出土し、全て弥生中期のものである。また、石鏃と石錐が各1点出土している。

C725 (第62・64・67図、P L.22・44)

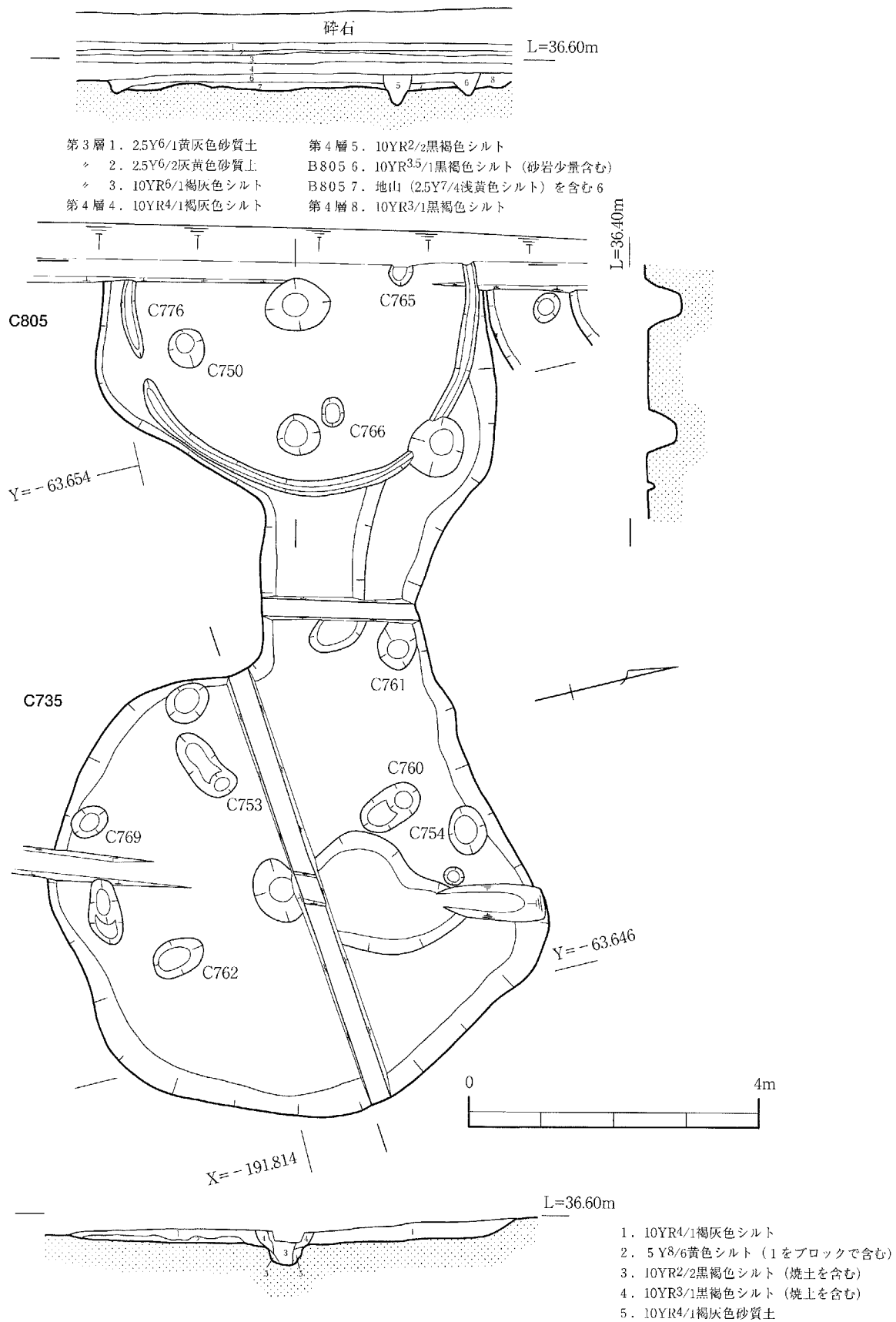
C14区中央部で検出した円形の土坑である。規模は直径が約1.5m、深さは0.7mである。遺物は主に遺構の南半部から集中して出土し、破片は比較的大きいものが多い。弥生中期の上器341点を含め全346点が出土している。

C703 (第62・64・69図、P L.21・22・45)

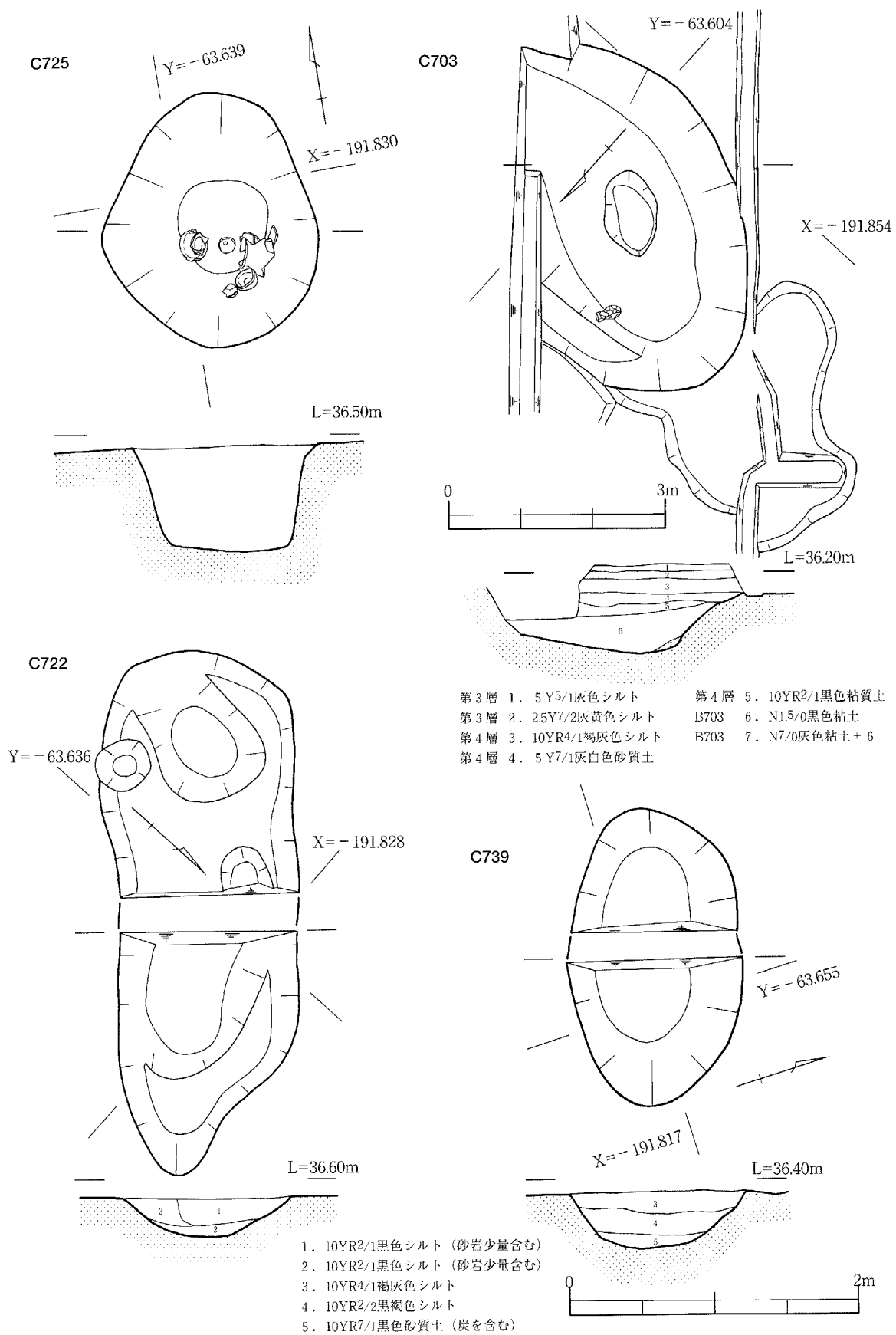
C15区とその拡張部で検出した。4×5m以上の規模の楕円形を呈する土坑で、一部は西側に拡がる。地山面からの深さは約80cmであるが、西側部分は浅く10cm前後である。埋土は、黒色及び灰色の粘土～粘質土である。遺物量は多く1,202点が出土し、その内、弥生中期の土器は1,197点である。弥生土器の内、完形の壺(596)が遺構北側の肩部から出土している。第4章において詳述されているが、壺内部及び近辺の埋土及び地山のリン・カルシウム分析を行ったところ、遺体が埋納されていた可能性があるとの結果が出ている。



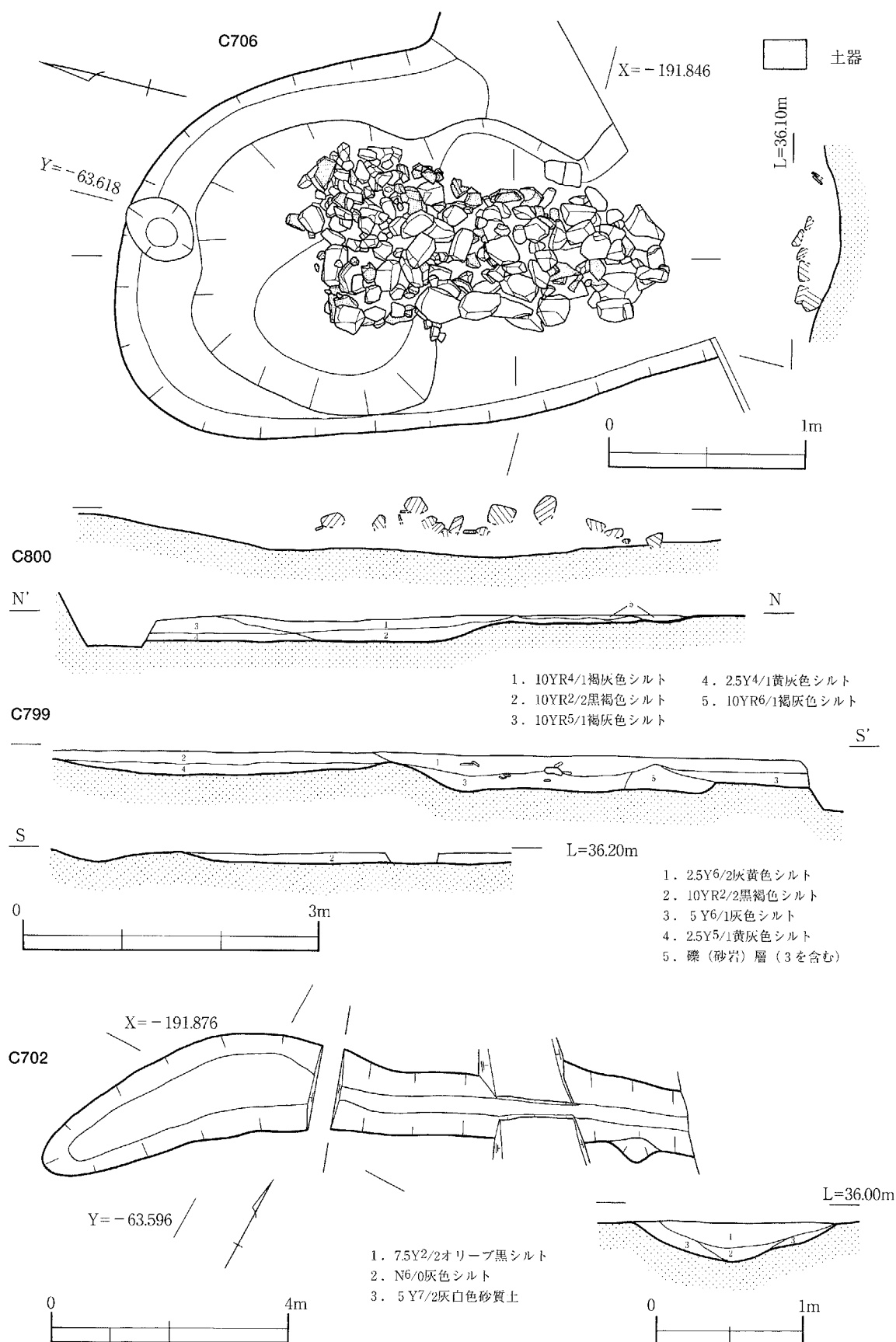
第62図 C区遺構配置図



第63図 C区遺構実測図



第64図 C区遺構実測図



第65図 C区遺構実測図

C722 (第62・64・67図)

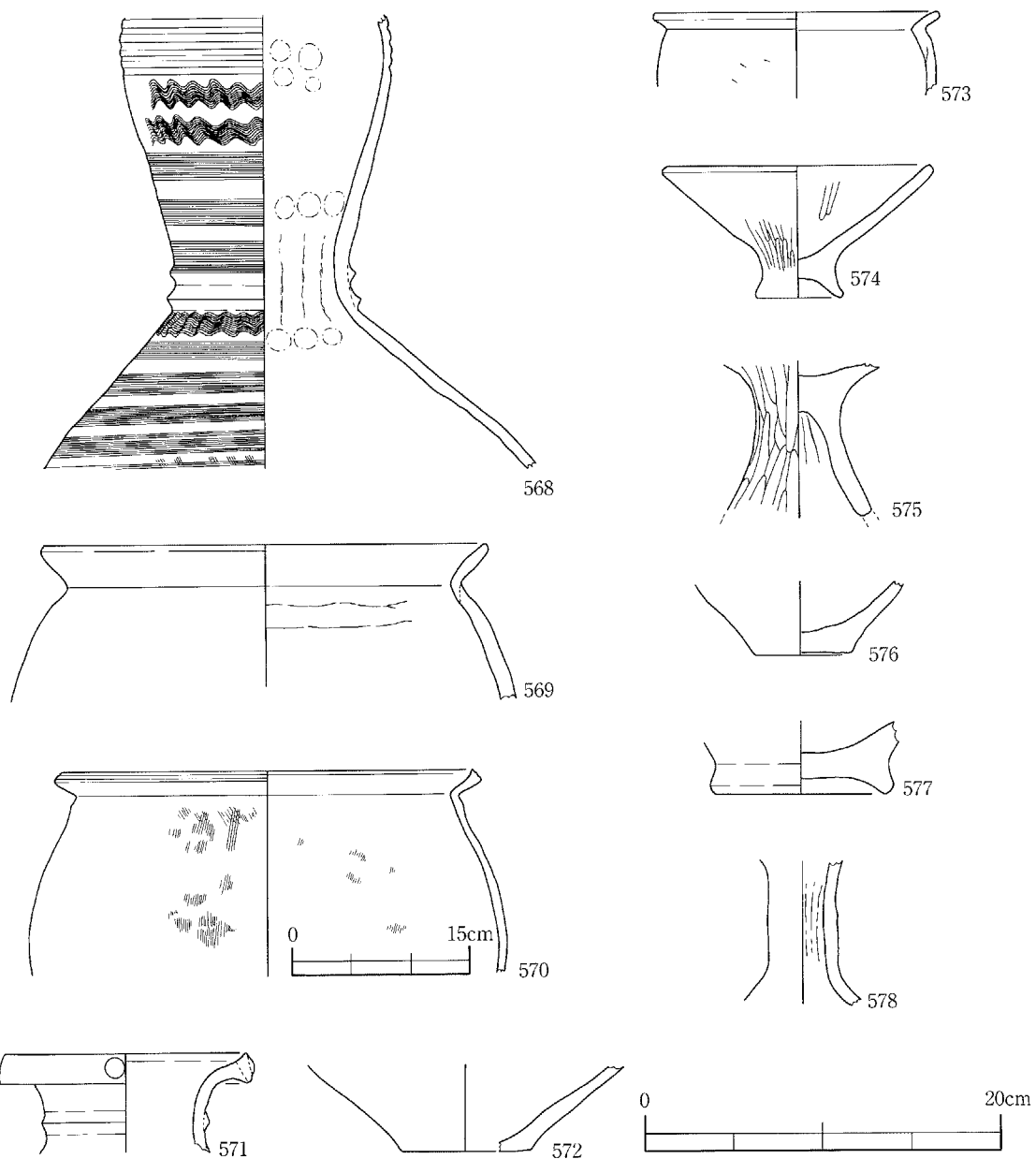
C14区内で多く検出された土坑の1つで、大きさは3.6×1.2m、深さは30cm弱である。埋土には礫(砂岩)が含まれる。25点の弥生中期の土器が出土する。

C739 (第62・64・66図)

C14区の西端部で検出した楕円形を呈する土坑である。規模は、2×1.2m・深さ約40cmである。埋土の最下層には炭が含まれていた。遺物は、図化できるものは少ないが、中期の土器224点が出土している。

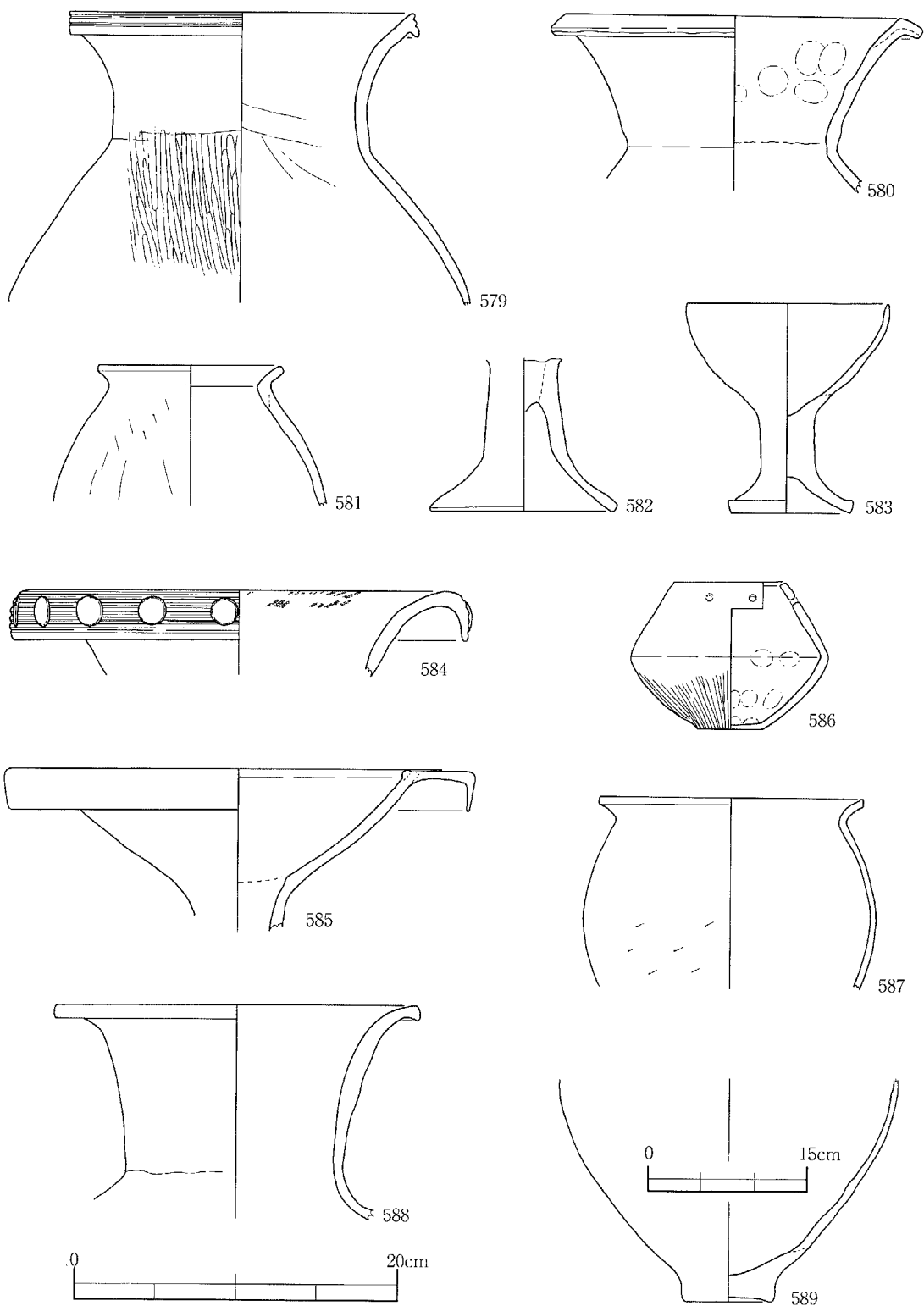
C706 (第62・65・68図、P L.23・45)

C15区で検出した集石状の遺構である。集石部の平面形は2×1mのほぼ長方形で、10~20cm



569・573~577 : C735、571・572 : C739、578 : C750、568・570 : C761

第66図 C区遺構出土遺物実測図



579～583 : C725、584～586 : C799、587 : C722、588・589 : C800

第67図 C区遺構出土遺物実測図

前後の石を多く使用する。掘形と思われる凹状の落込みは 3×2 m の大きさである。遺物は全て弥生中期のもので、1,348 点が出土している。

C704 (第62図)

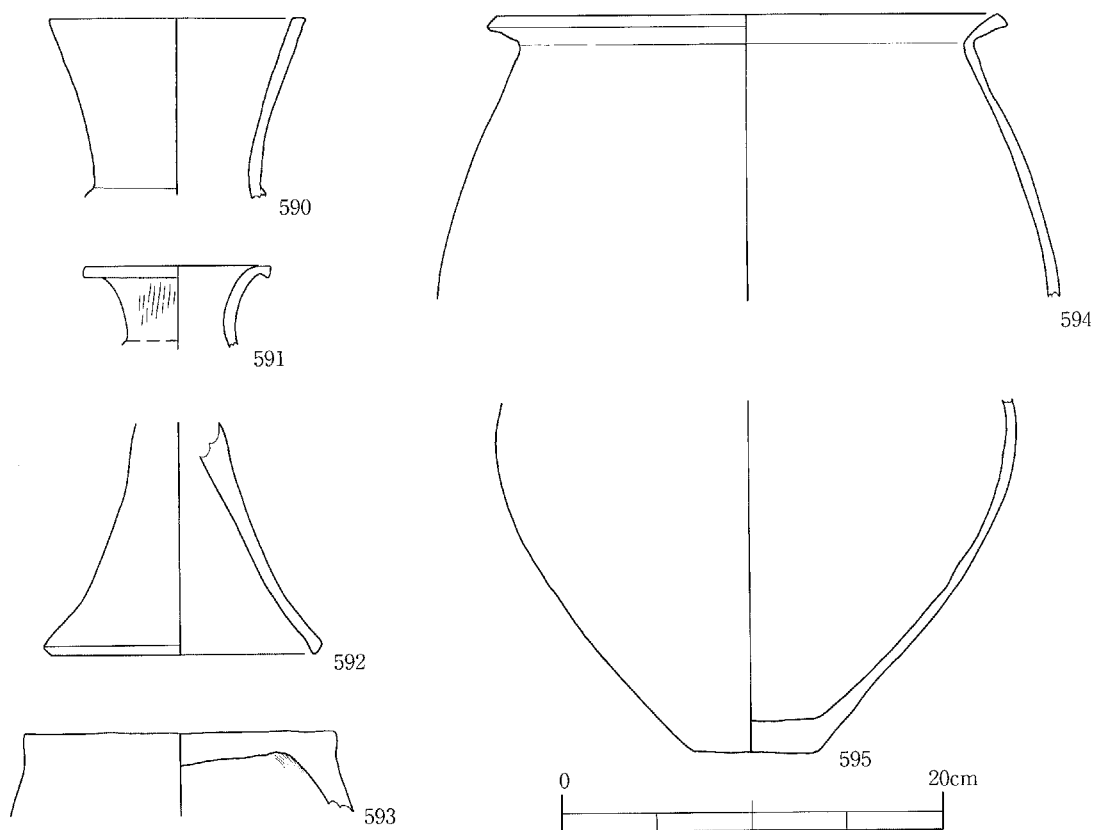
C15区の南端で検出した不整形な土坑である。埋土の上部は黒色の粘質土を主とし、下半部は灰白色～灰色のシルトである。遺物は124点が出土し、全て弥生中期の土器である。

C799・800 (第62・65・67図、P L.23・44・45)

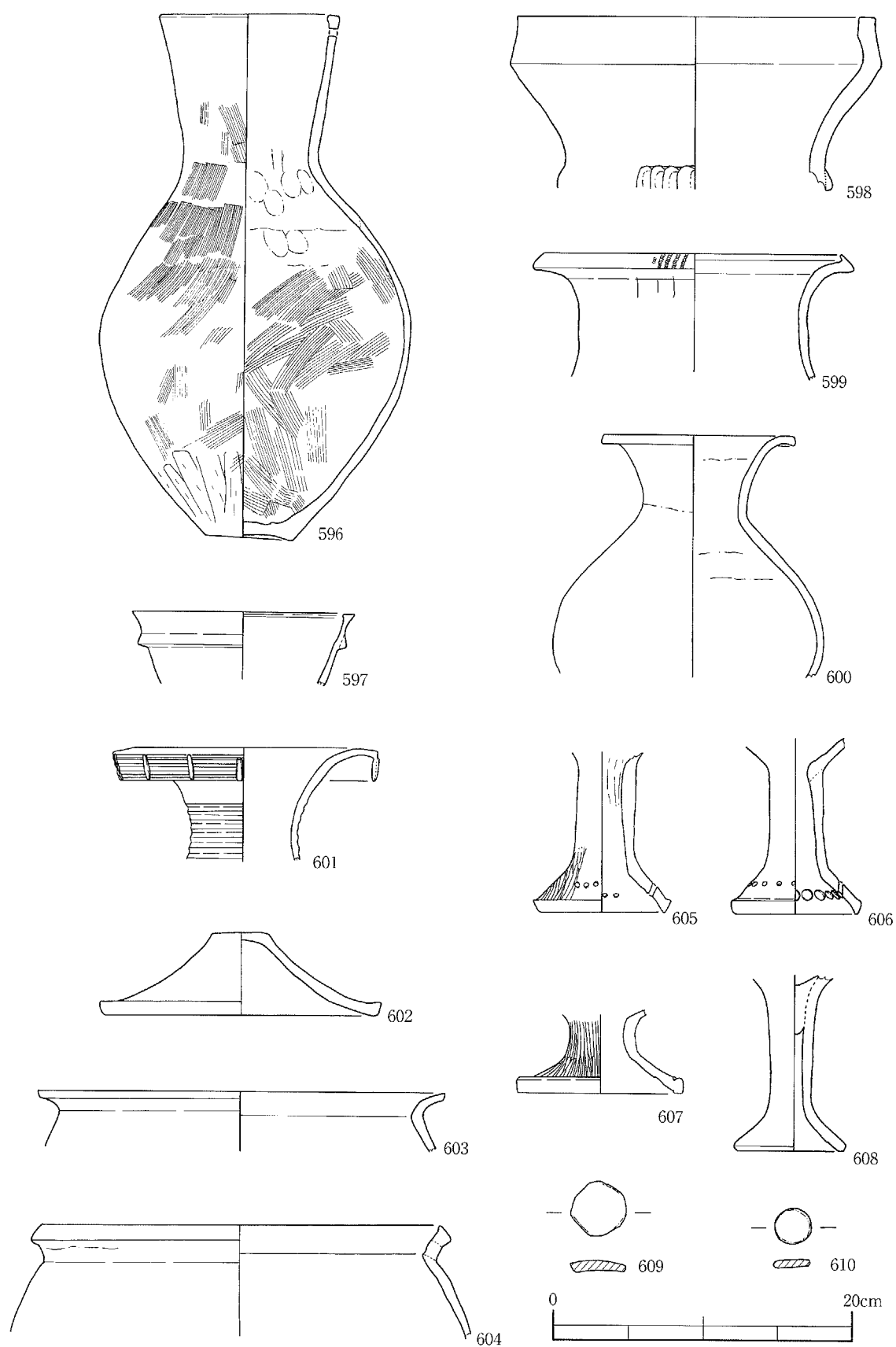
C15区の中央部 (2T～2X・188～190地区) で検出した落込み状の地形内で、遺物が集中して出土したものを、各々C799・C800として取上げを行なった。落込みの深さは最も深い部分で、地山面から約40cmである。埋土は第4層で、表7に示すC15区第4層出土遺物の大半はこの落込み状地形の範囲から出土したものである。遺物は全て弥生中期のもので、C799として156点、C800として207点を取上げている。

C702 (第62・65図)

C16区で検出した溝である。幅は、1.8～1 m、深さは30cmである。遺物が全く出土していないため、時期の特定は難しいが、埋土がC16区第4層であることから弥生時代の遺構であると考えられる。



第68図 C706出土遺物実測図

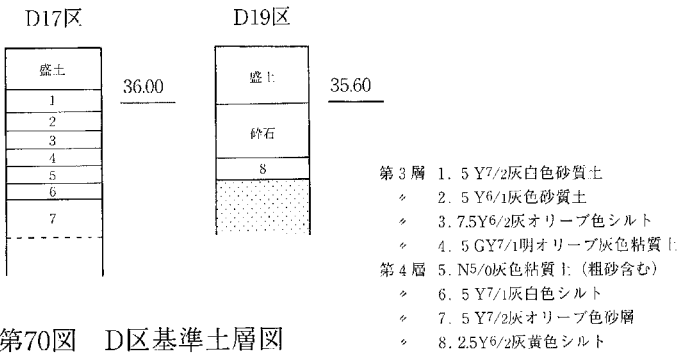


第69図 C703出土遺物実測図

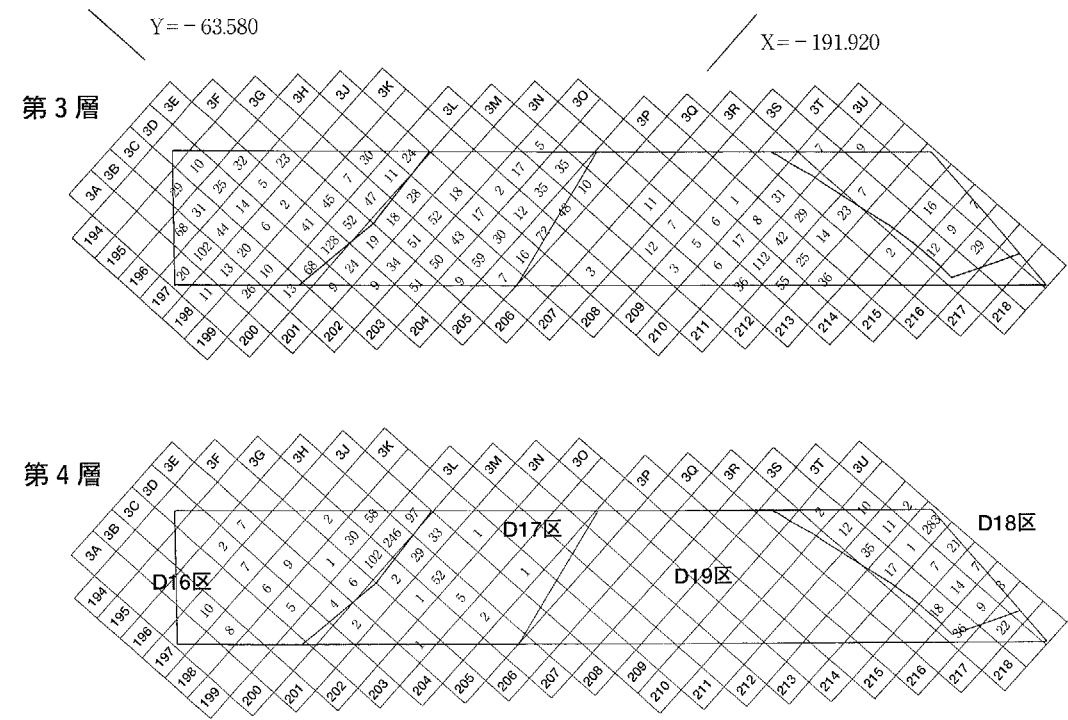
第4節 D区の調査（第74図、P L.4）

1. 概要（第74図）

面積約1,900㎡の調査区である。C区
の調査が完了しこれを埋戻した後調査
を行った。試掘調査では谷状地形若し
くは流路と思われる落ち込みが検出さ
れ、また、中世と弥生時代後期の土器
を主とする包含層が確認されている。
層序（第70・71図、表8）



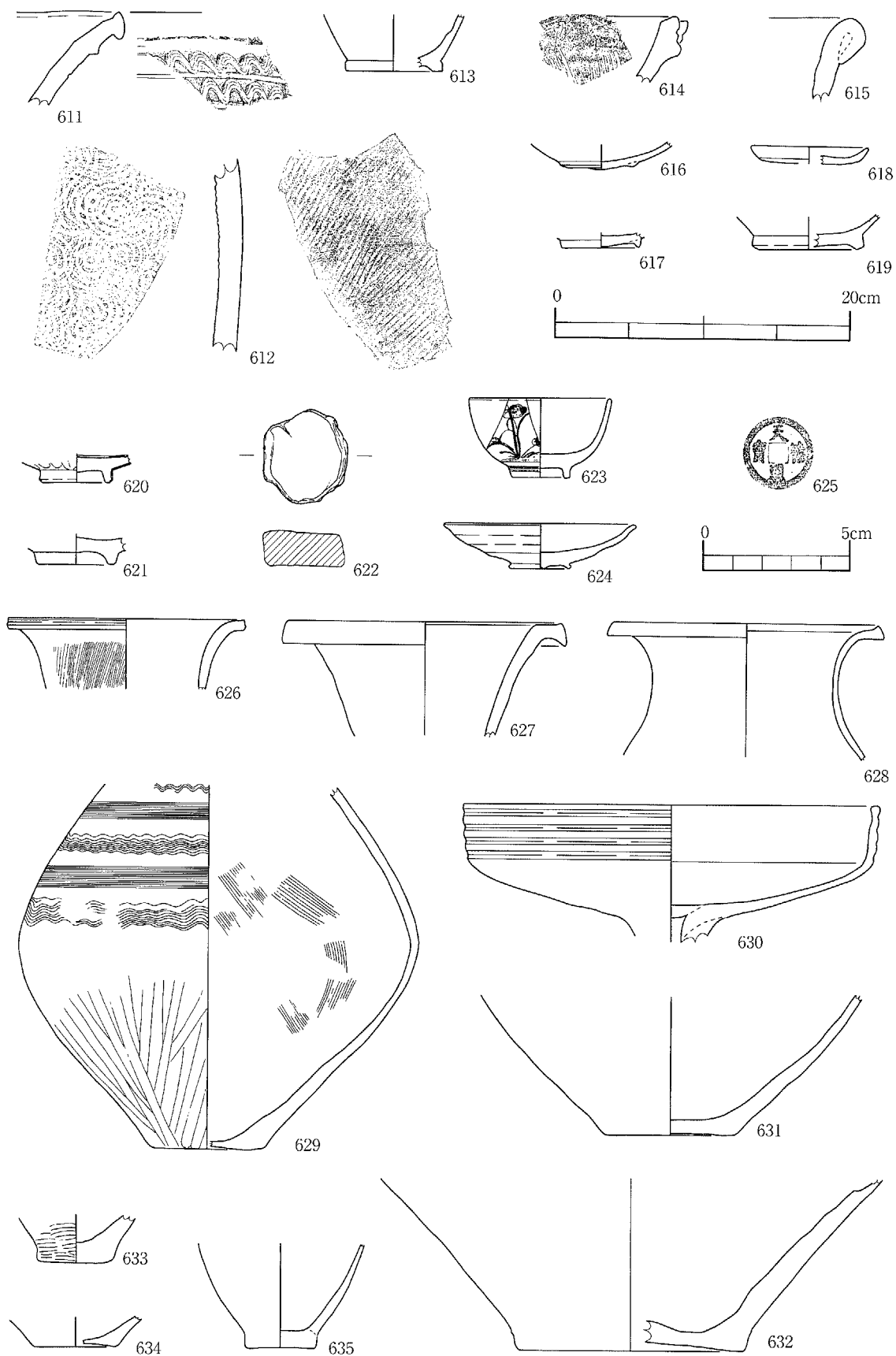
第70図 D区基準土層図



第71図 D区包含層出土遺物分布図

層	区	計	縄文	弥生		古墳～平安		鎌倉～室町					近世以降	不明・その他
				中期	後期	土師器	須恵器	土師器	瓦器	須恵器	陶磁器	瓦		
第3層	16区	957	0	94	0	0	11	491	319	14	5	2	16	5
	17区	780	0	109	0	0	11	375	211	13	6	12	38	5
	18区	96	0	56	0	0	1	18	11	2	0	0	7	1
	19区	484	0	25	0	0	17	199	218	5	4	12	4	0
	計	2,317	0	284	0	0	40	1,083	759	34	15	26	65	11
第4層	16区	580	0	539	1	0	4	17	17	0	1	0	1	0
	17区	116	0	91	0	0	0	23	2	0	0	0	0	0
	18区	510	0	478	0	0	0	18	6	2	2	0	2	2
	計	1,206	0	1,108	1	0	4	58	25	2	3	0	3	2

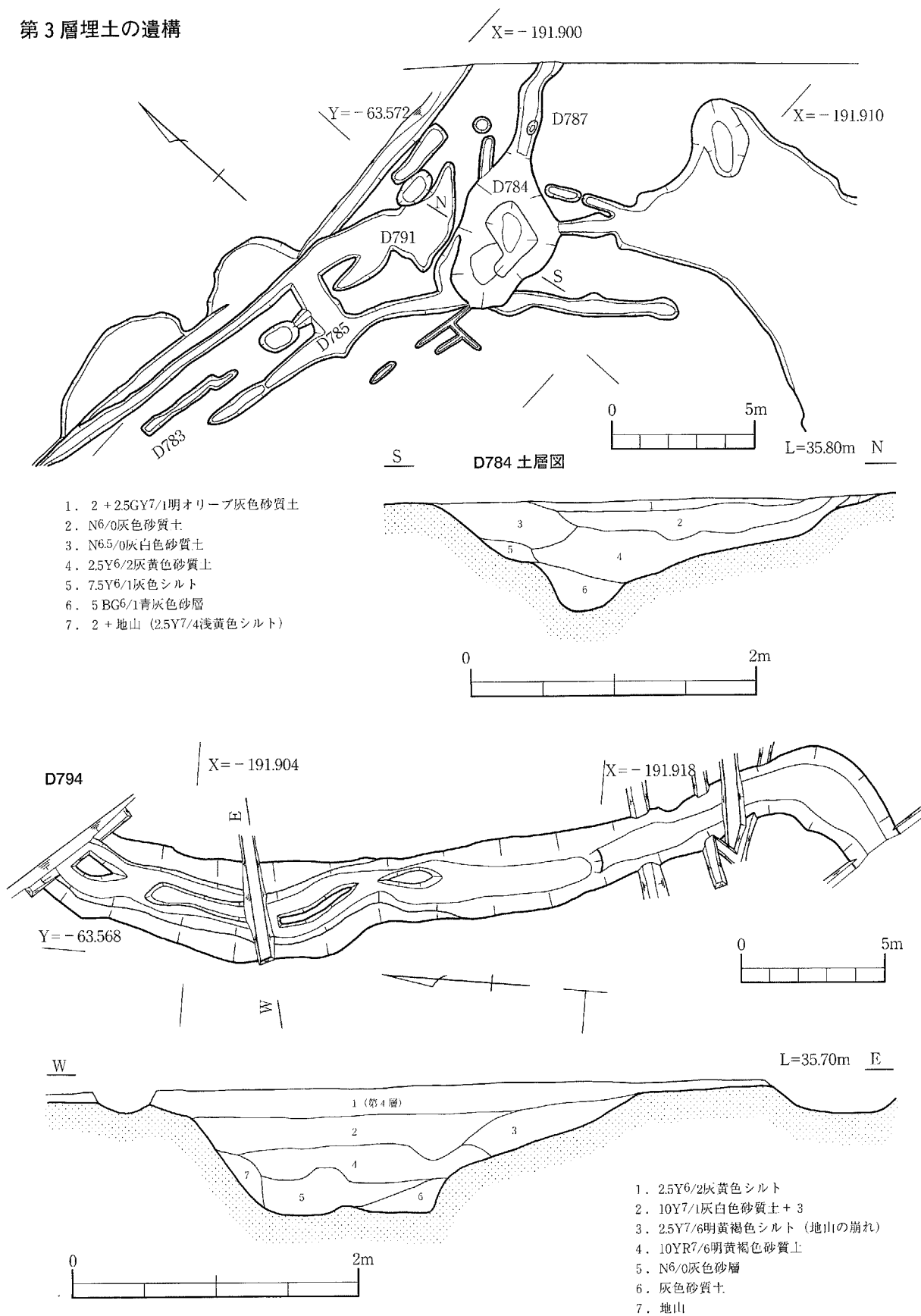
表8 D区包含層出土遺物数量表



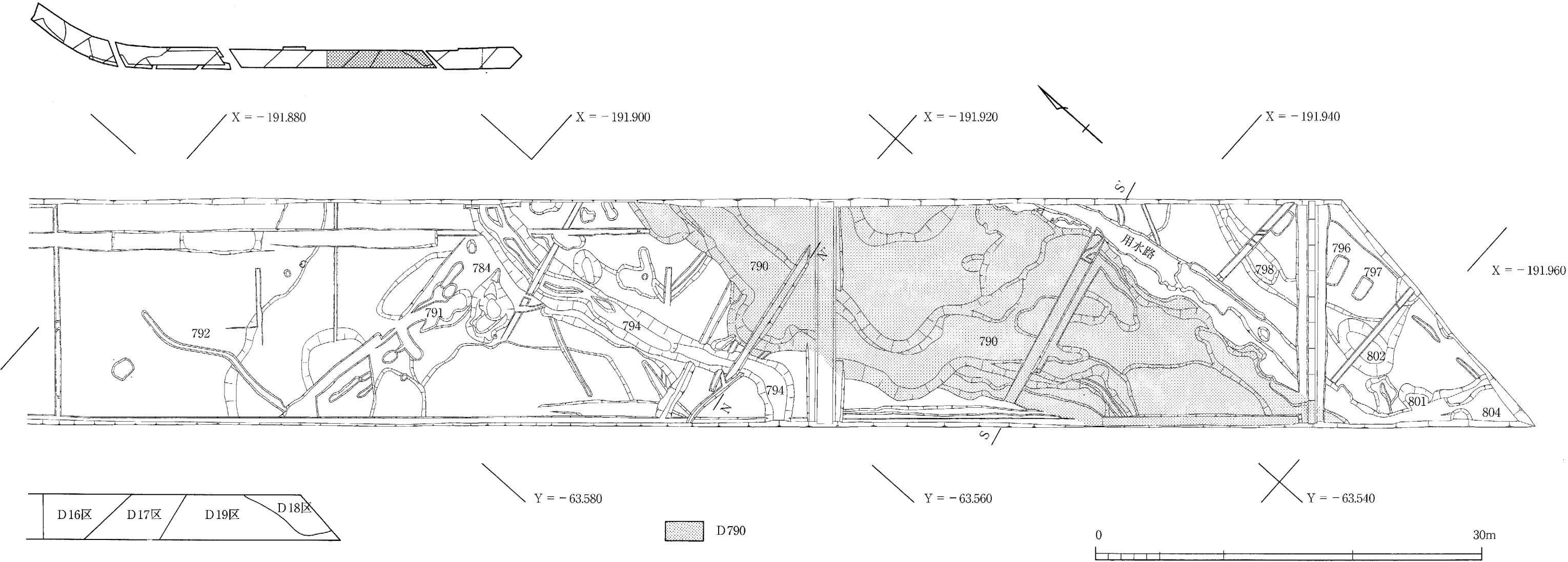
611～622・625・631：第3層、626～630・632～635：第4層、623・624：暗渠他

第72図 D区包含層出土遺物実測図

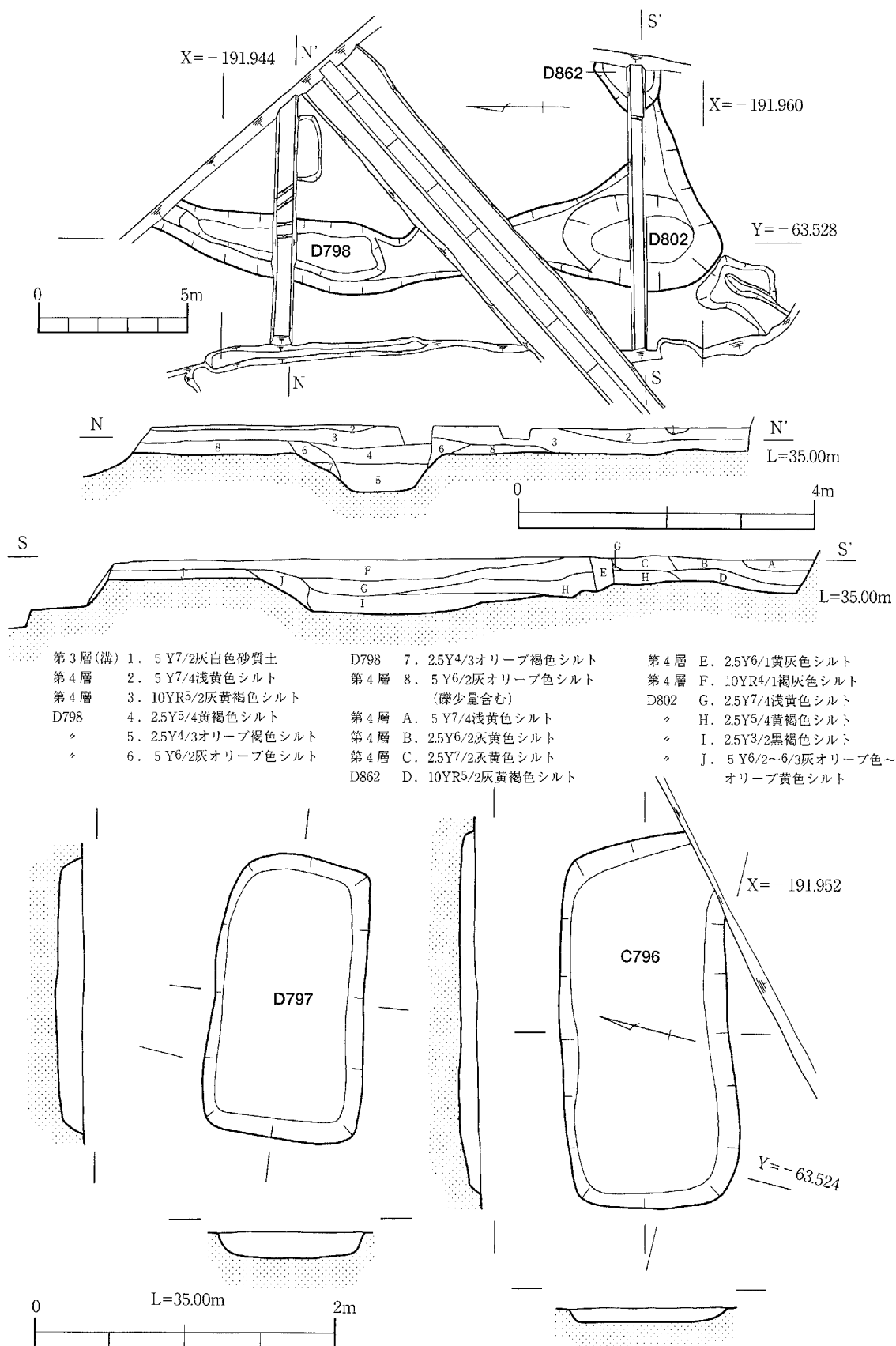
第3層埋土の遺構



第73図 D区遺構実測図



第74図 D区遺構配置図



第75図 D区遺構実測図

基本的な層序はC区と同じである。遺構は少なく、試掘調査の際に検出した流路や中世及び弥生時代の溝や土坑がある。

2. 遺構と遺物（第71～77図、P.L.5・24～27、46）

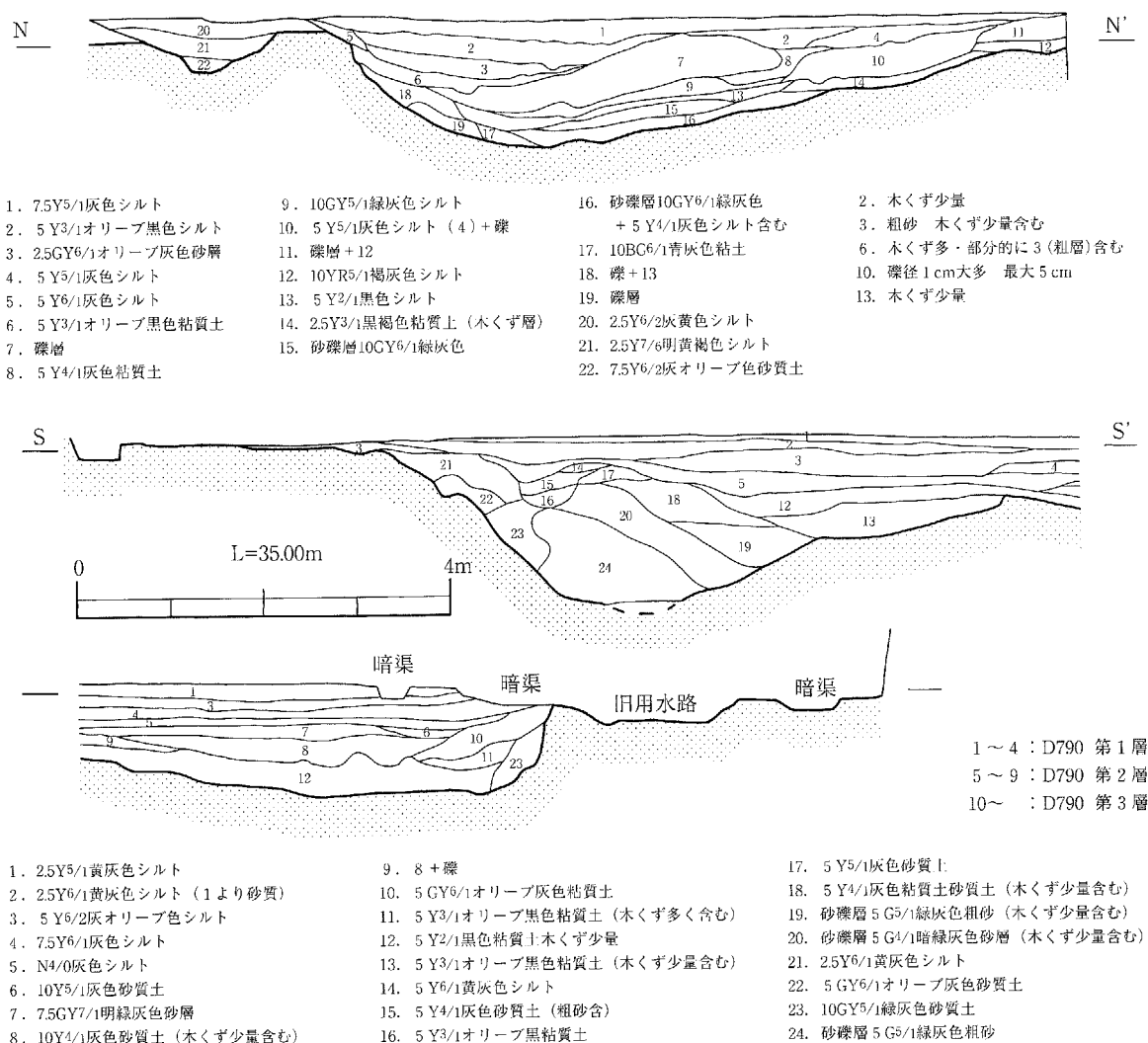
包含層出土遺物（第72図、P.L.34・46）

包含層からの出土遺物は、前述のように、その殆どは弥生時代と中世の土器類であるが、数点の古墳時代の甕（611・612）や奈良時代の壺の底部（613）と思われる須恵器の破片等が出土している。

D781

D16区で検出した幅10～15cm、深さ5～15cm前後の溝である。同様の溝は前年度に調査したE区でも多数検出されているが、今回の調査では数条検出したのみである。遺物は少なく、弥生土器4点と中世の土師器4点・瓦器3点が出土しているのみである。

D784・791他（第73・74図、P.L.25）

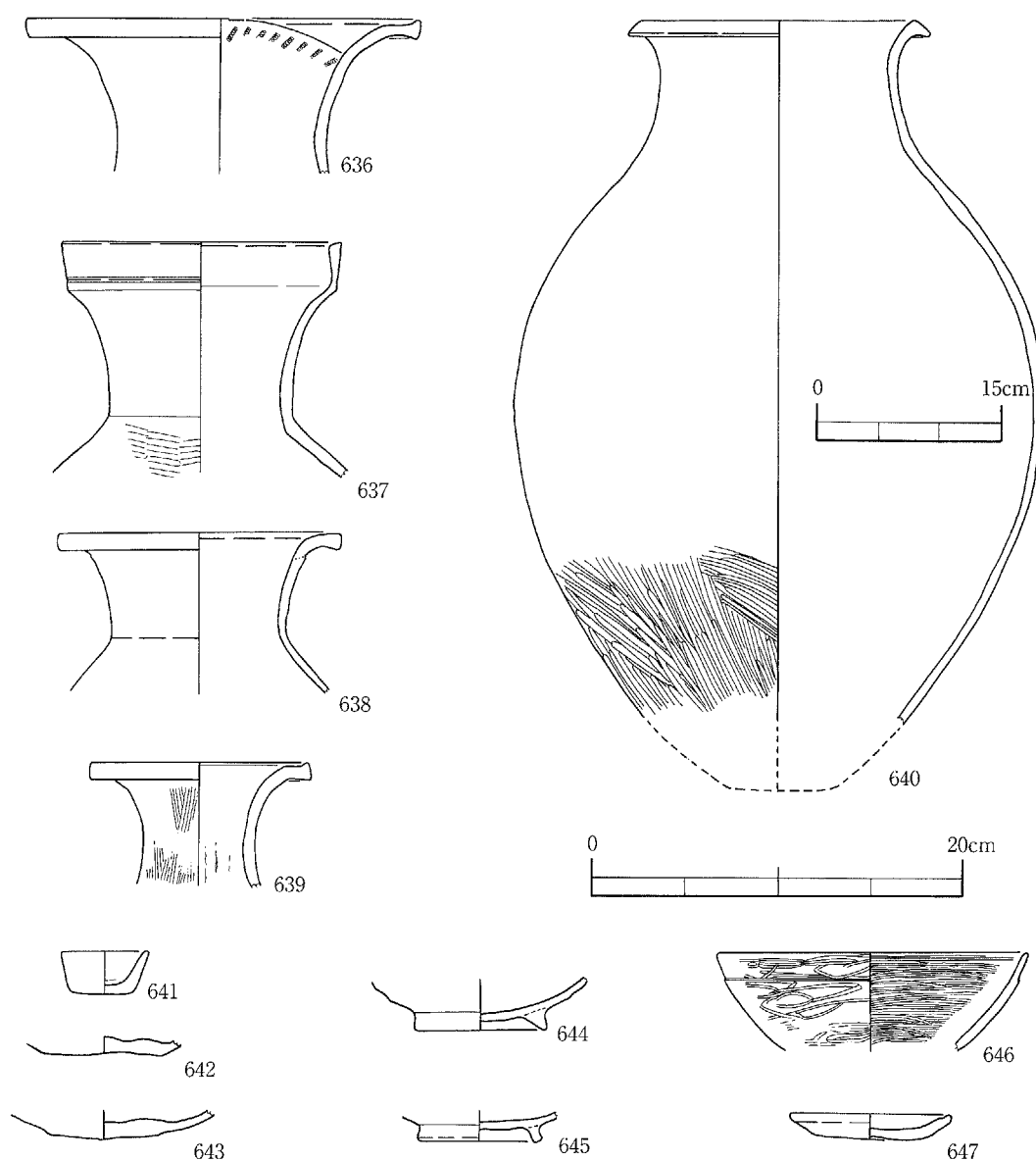


第76図 D790上層図

D16区から17区で検出した土坑及び溝状の遺構群である。D784は、6 m×3.5m・深さ最大80cmの土坑で、埋土は上半部が灰色～灰白色系の砂質土～シルト層、下半部は青灰色の砂質土である。遺物は52点出土し、弥生中期のものが34点、中世の土器が18点である。D791の埋土はD784の上半部と同様の第3層に近似した灰色～灰白色の砂質土である。遺物は僅かに土師器3点が出土するのみである。

D794（第73・74・77図、P.L.25）

D17区で検出した幅3 m・深さ0.8m前後の溝である。北から南に向かってS字状に流れる。断面の形は略逆台形であるが、東肩部はややなだらかな傾斜を示す。また、底辺の中央部がやや凸状になっている。弥生中期の土器307点が出土している。



636・638：D794、640：D798、637：D802、639：D801、641～647：790

第77図 D区遺構出土遺物実測図

D798 (第74・75・77図、P L.27)

D18区で検出した溝状の遺構で、調査区内ではL字若しくはU字状に曲がる。幅は1.5～2.5m、地山面からの深さは50cm前後である。断面の形はD794と同様に逆台形を呈する。地山面で検出を行ったが、D798の本来の検出面は第4層の内の3層に細分される最下層（土層図の8）の上面である。出土遺物の時期は全て弥生中期で181点である。

D802 (第74・75・77図、P L.27)

D802は、D798が北から東に向けて折れ曲がる地点で、一段深くなる部分があり、これを独立した遺構として遺物の取上げをおこなった。埋土の上層は第4層と同様の浅黄色シルト、下半部はD798と同じく灰オリーブ系或いは黒褐色系のシルト層である。出土遺物の内容はD798と異なりその時期にばらつきがみられる。これは、D802の東方部分に堆積する包含層の一部（土層図のA～C・F）に含まれる遺物を同時に取上げたためである。203点が出土し、内訳は、弥生中期：168点、弥生後期：30点、古墳～平安時代：1点、中世の上師器・瓦器3点等である。

D796・797 (第74・75図、P L.27)

D18区でU字状に曲がるD798・802の内側で検出した土坑である。共にやや丸みを帯びた長方形を呈する。規模は、D796が2.4×1m、D797は1.9×1m、深さは2基とも10～15cmと浅い。2基の間隔は約1.3mあり、約5m北側にあるもう1基と併せ3基は長軸がほぼ並行になるように掘削されている。遺物は弥生中期の小片が5点出土しているのみである。検出面から判断してD798・802と同時期の遺構であると考えられる。

D790 (第74・76・77図、P L.5・26・46)

D17区からD19区にかけてS字状に蛇行する自然流路で、幅は15m前後である。地山面からの深さは最大約1.6mあり、埋土は3～4層に大別が可能である。遺物は主に最も上位にある黄灰色～灰色系のシルト層からは瓦器及び土師器等中世の土器が出土し、その下にある木屑を多く含む砂質土及び粘質土からは弥生土器が出土している。出土遺物には、弥生上器21点、古墳時代の須恵器2点、中世の土器22点がある。

礫層 (写真8、P L.24)

D16区中央部を蛇行しながら溝状に伸びる幅1.5m前後の礫層は、断面での観察を行ったところ、自然流路であろうと判断されるが遺物は全く出土していない。

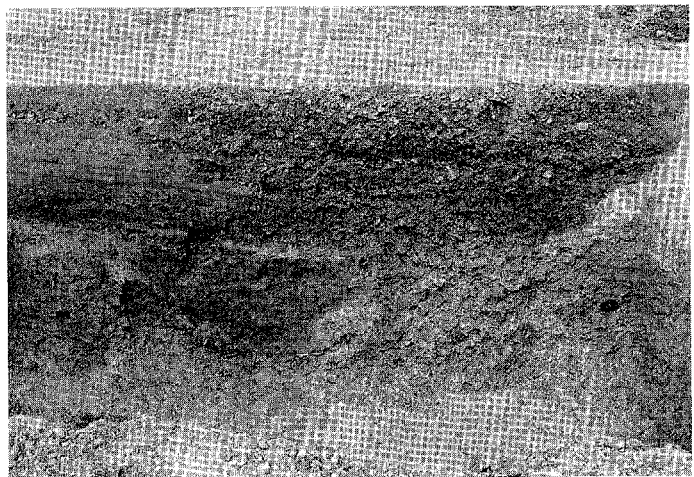


写真8 礫層の断面

第5節 E区の調査（第80図、P L.4）

1. 概要（第80図、写真9）

調査区の幅は約20m、長さ90m、調査面積は約1,800㎡である。調査次は第3次調査と第4次調査の2次に分かれるが、調査区としては一連のものである。従って、空中写真撮影等は一括して行なっている。調査地は、第3次調査で実施した試掘調査対象範囲の最も南に位置し、中世の鋤溝と思われる幅20cm前後の溝数条が検出され、中世及び弥生時代後期の包含層が確認されている地点である。

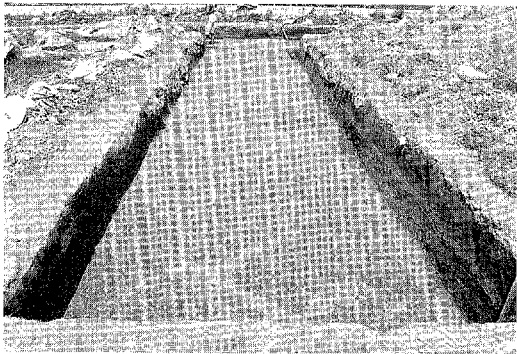
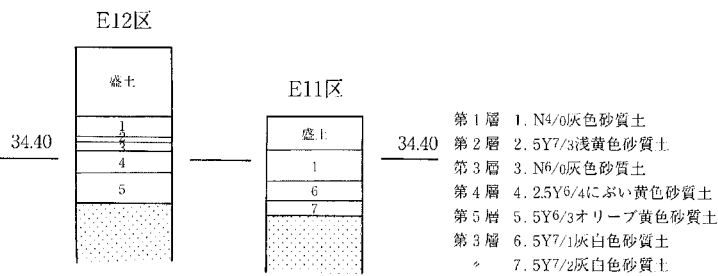


写真9 試掘調査（中世溝検出状況）

調査地周辺は、他の調査区と同様北から南に向かって下降し、畦畔をもとに設定した11区と12区、12区と13区との現地表面での比高差は各々約30cmと60cmである。

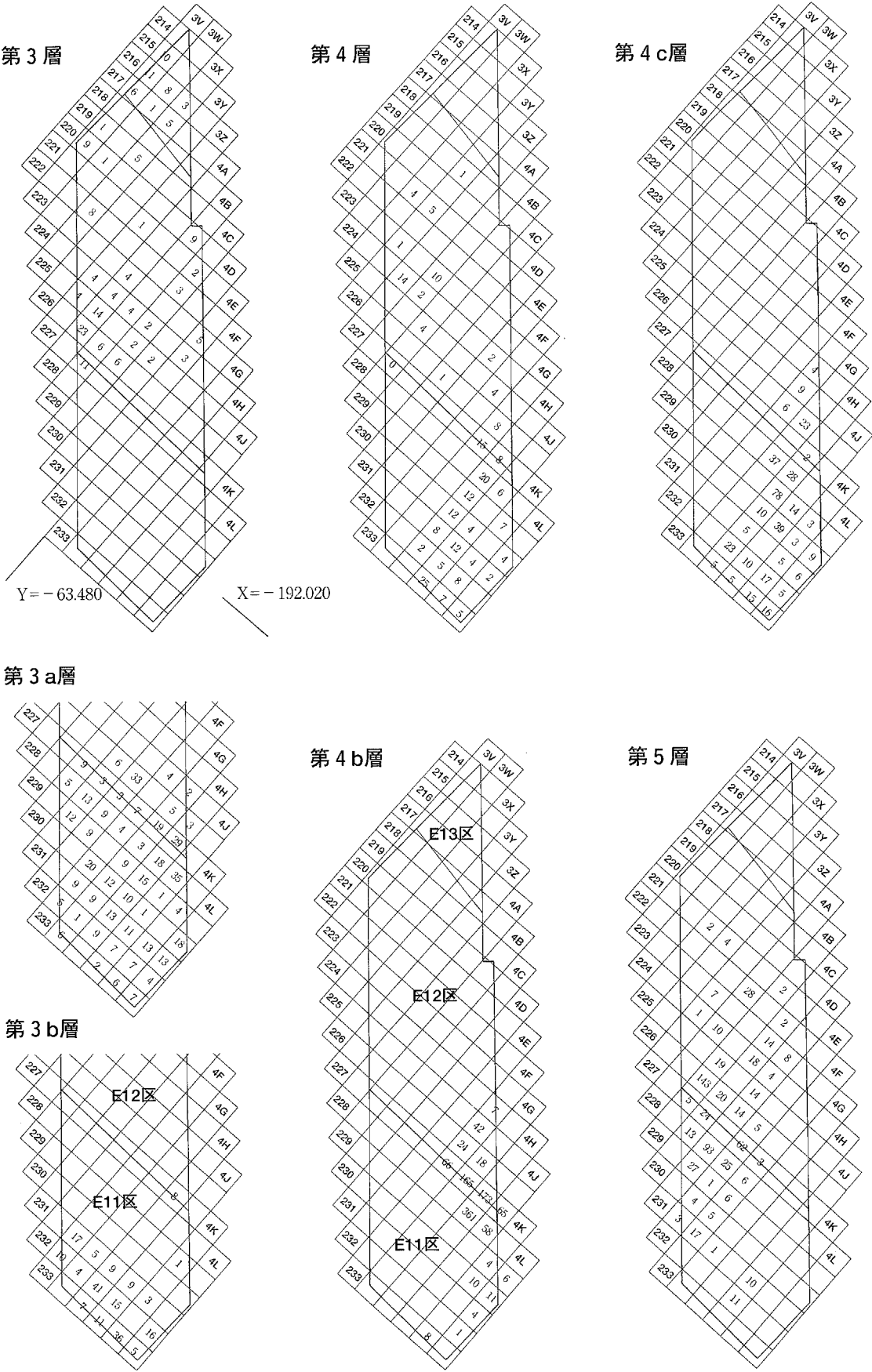


第78図 E区基準土層図

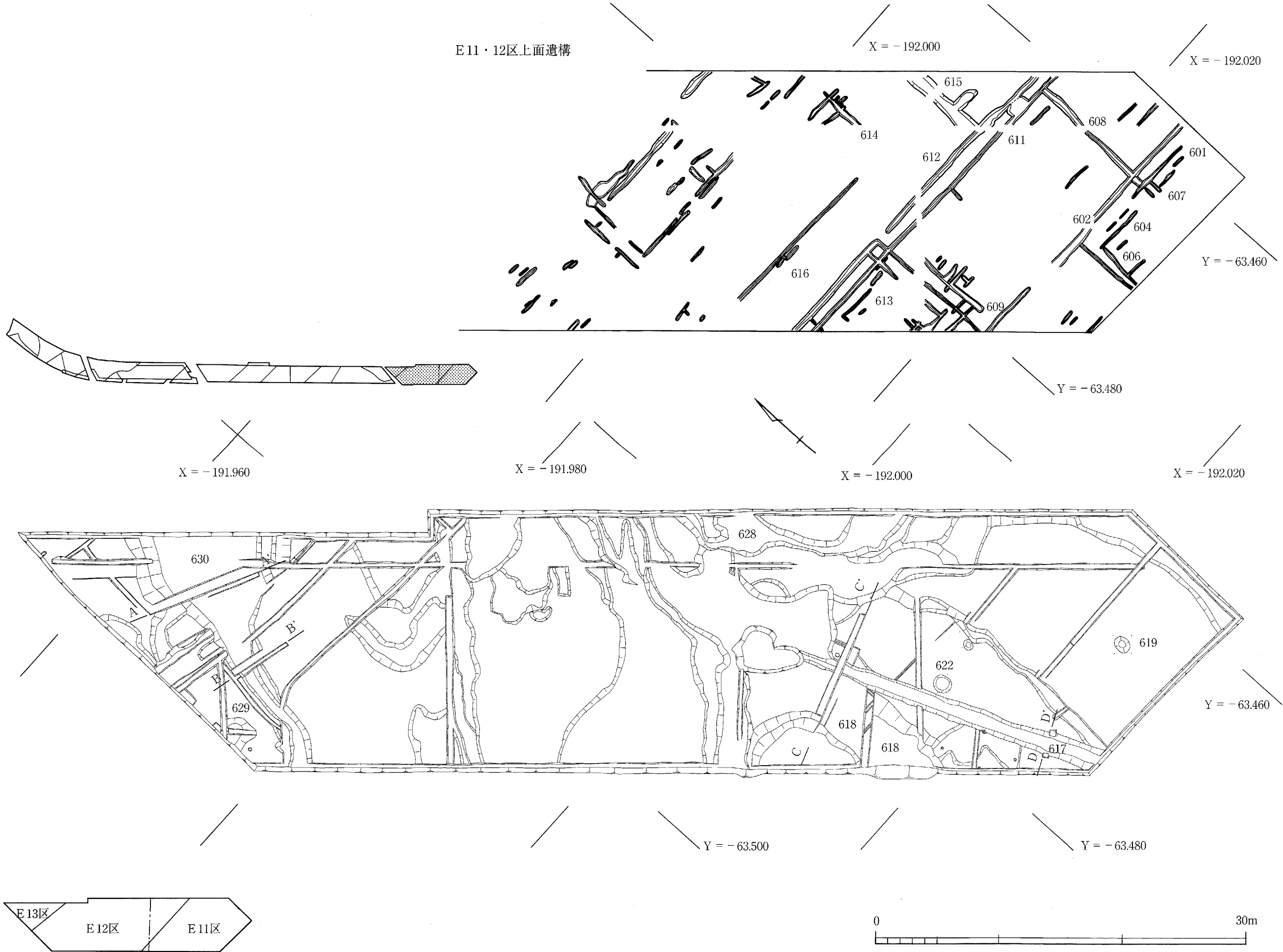
なお、本年（2001年）2月から、

層	区	計	縄紋	弥生		古墳～平安		鎌倉～室町					近世以降	不明・その他
				中期	後期	土師器	須恵器	土師器	瓦器	須恵器	陶磁器	瓦		
第3層	12区	141	0	32	4	0	5	61	27	3	0	0	9	0
	13区	44	0	12	0	0	9	14	5	0	2	0	1	1
	計	185	0	44	4	0	14	75	32	3	2	0	10	1
第3a層	11区	307	0	135	79	0	3	44	17	2	2	3	20	2
	12区	148	0	29	27	0	15	48	26	0	1	0	2	0
	計	455	0	164	106	0	18	92	43	2	3	3	22	2
第3b層	11区	199	0	71	28	0	8	29	46	7	3	0	7	0
	13区	4	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0
	計	203	0	72	28	0	8	30	46	7	4	0	8	0
第3層計		843	0	280	138	0	40	197	121	12	9	3	40	3
第4層	11区	143	0	113	27	0	0	2	0	0	0	0	0	1
	12区	89	0	61	14	0	2	12	0	0	0	0	0	0
	計	232	0	174	41	0	2	14	0	0	0	0	0	1
第4b層	11区	711	0	79	632	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12区	312	0	29	282	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	計	1,023	0	108	914	0	0	1	0	0	0	0	0	0
第4c層	11区	333	0	11	322	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12区	40	0	4	36	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	373	0	15	358	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第4層計		1,628	0	297	1,313	0	2	15	0	0	0	0	0	1
第5層	11区	305	25	6	298	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	12区	320	0	247	60	0	1	12	0	0	0	0	0	0
第5層計		625	25	253	358	0	1	13	0	0	0	0	0	0

表9 E区包含層出土遺物数量表



第79図 E区包含層出土遺物分布図



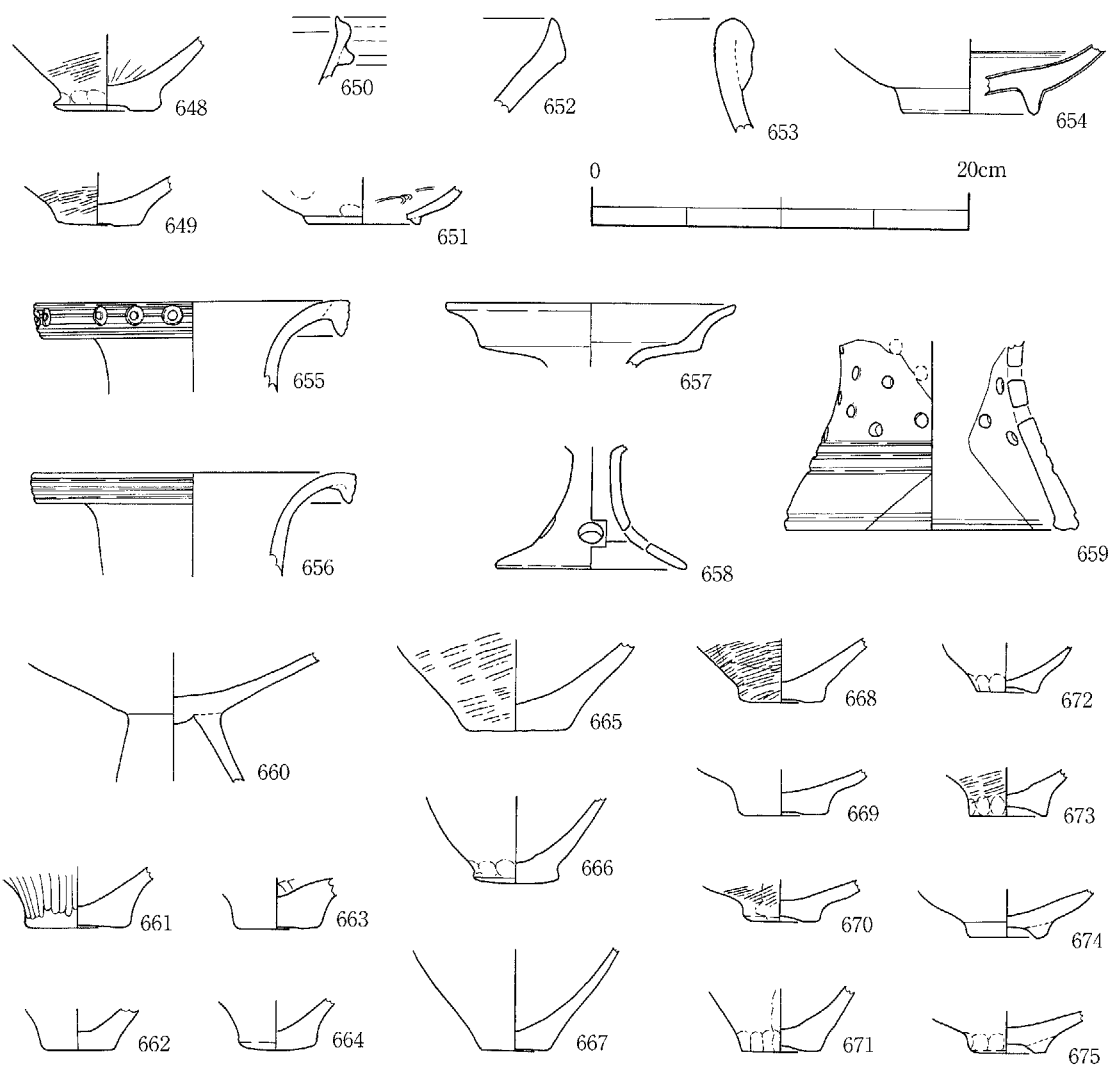
第80図 E 区遺構配置図

当地区に続く南東部分が第6次調査として実施されている。後述するE617の延長部や弥生後期の溝、また、上面遺構として第3層を埋土とする中世の溝が検出されるなど、本調査区とほぼ同じ時期の遺構と遺物が検出されているが、現在のところ、縄紋土器が出土していないなど若干の相違点もみられる。

層序（第78・79図、表9、P.L.29）

第3層は中世の遺物を含む旧耕作土である。E11区からE12区にかけては5～10cmの厚さがある。色調により第3a層及び第3b層の2層に細分が可能である。第3a層はE11区の全域とE12区の南半部に広がるが、第3b層はほぼE11区の231～233地区の範囲にのみ堆積する。第4層は浅い谷状の地形に堆積する砂質土或いはシルト質の土層で、色調及び土質により第3層同様に2層に分けられるが、遺物の出土範囲と出土量は各層によって微妙に異なる。第5層は主として第4c層の堆積する谷状地形の西側にのみ認められ、弥生土器の他、縄紋土器が出土している。

遺構は調査区全域にわたって少なく、試掘調査の際に確認している中世及び弥生時代の溝の他、



648～654：第3層、655～675：第4層

第81図 E区包含層出土遺物実測図

庄内期の土坑や縄紋時代の土坑等数基が新たに検出されている。

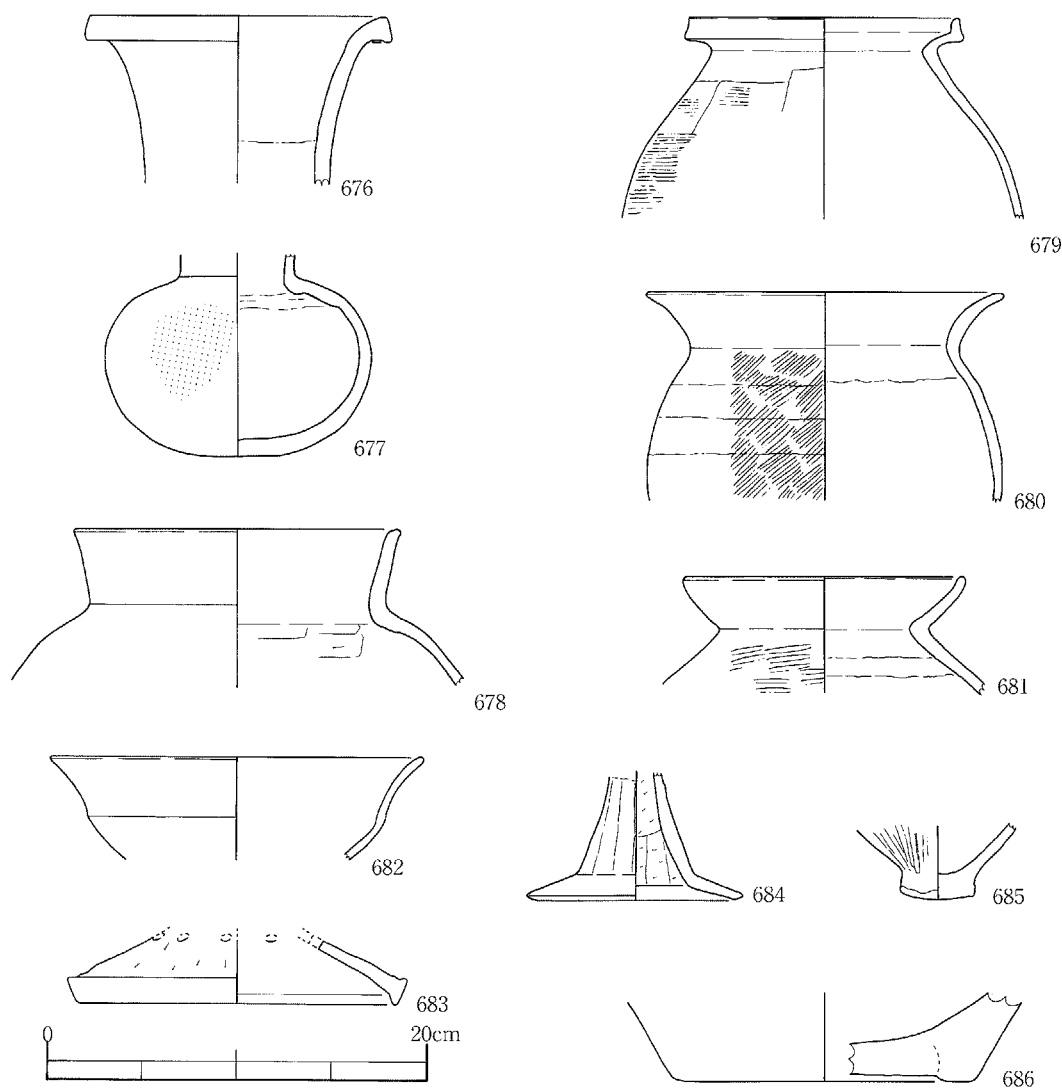
2. 遺構と遺物（第79～87図、P L.5・28～30・47～49）

包含層出土遺物（第81・82図、表9、P L.47）

包含層出土遺物の点数は表9に示したように全3,096点である。この内、縄紋土器はE11区の第5層のみから出土する。細片のため図示できるものはなく、時期についても、粗製のものが殆どであるため判然としないが、後述するE622と同様に後期に属するものと考えられる。弥生土器は2,639点が出土し、中期の土器が830点、後期の土器が1,809点である。後期の土器は、E11区とE12区とでは、E11区から出土する点数のほうが多く、遺跡全体では南へ向かうに従って多く出土する傾向が伺える。

第3層埋土の溝（第80図、P L.28）

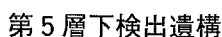
E11・12区で第3層掘削後に検出した幅10～20cm、深さ5～15cm前後の溝である。溝は東西方



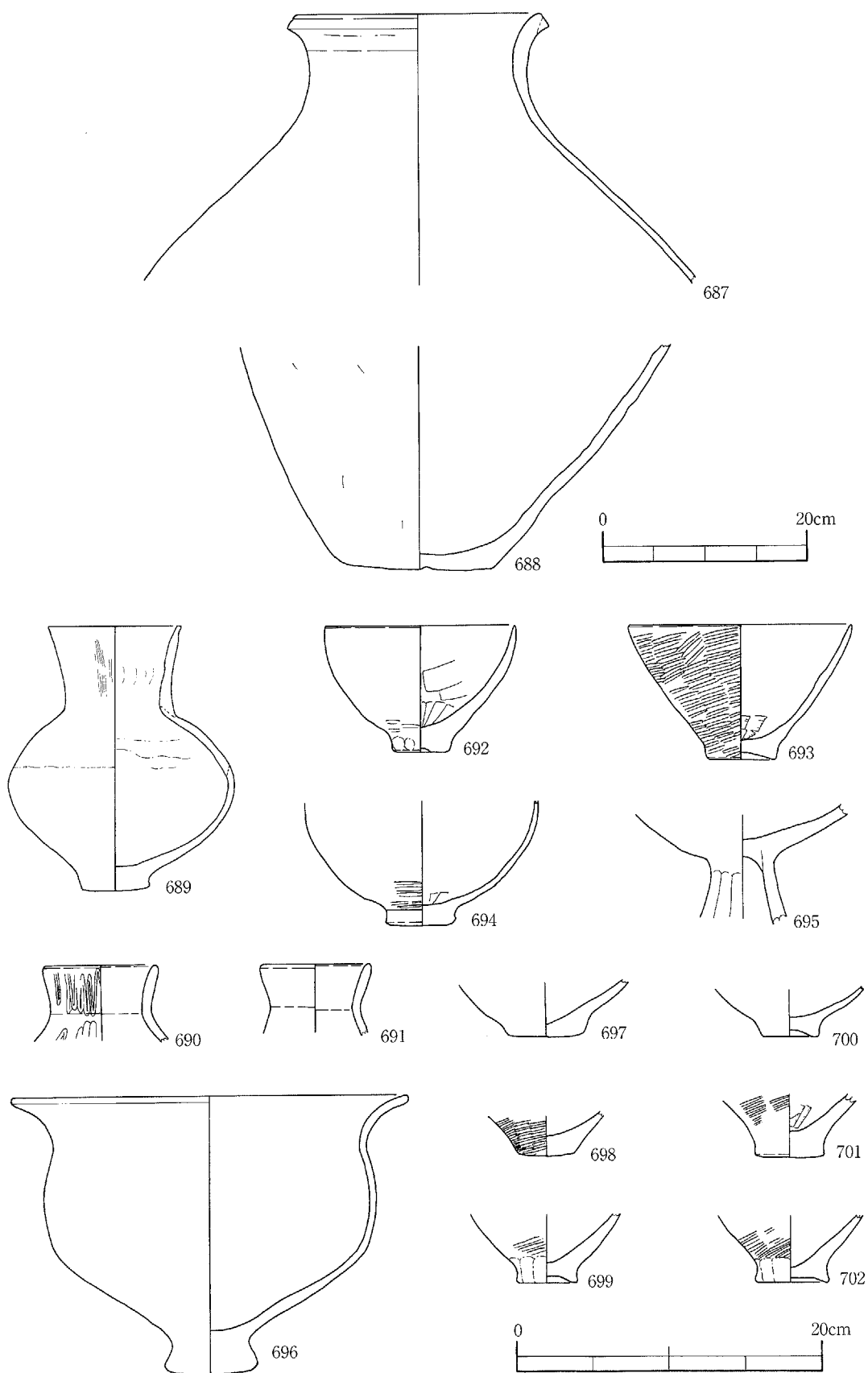
676～686：第5層

第82図 E区包含層出土遺物実測図

E 630 (第80・83・84図、P L. 5・29・47)



– 97 –



687・688：E630、689～702：E618

第84図 E区遺構出土遺物実測図

E12区からE13区にかけて検出した溝状の遺構である。幅は地山面が一段高くなるE13区では5.5mと広いが、E12区では2.5m前後となる。深さはE13区で90cm、E12区検出部分では50cmである。断面の形態は、E12区検出部分では概ね逆台形を呈する。出土遺物は、上層（土層図1～3）では一部瓦器等の中世のものも含まれるが、殆どは弥生時代後期の土器である。下層（土層図4以下）からは縄紋時代の土器が出土している。土器687・688は晩期の深鉢で、調査区の南西壁面間際から出土した。このため、土器の一部は調査区外に残されている可能性がある。口縁部に施された貼付突帯の位置や形態から晩期末と考えられる。土器は、前述の深鉢を含め、縄紋土器が49点、弥生中期の土器が92点、同後期の土器が19点出土している。

E 629（第80図）

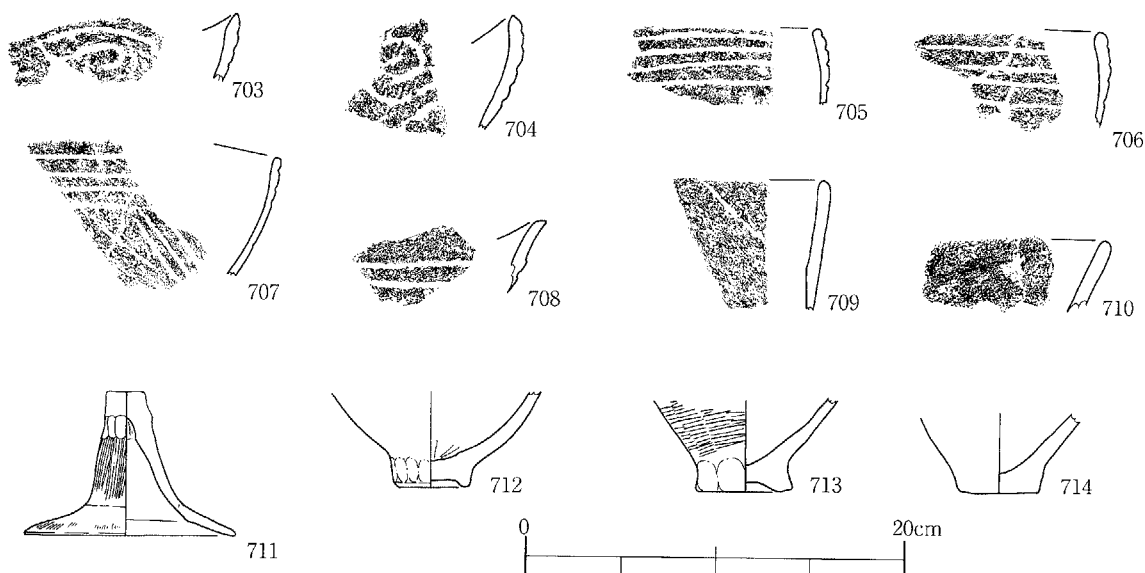
E12区の北西部で検出した土坑である。一部が暗渠で壊されているため全体の形は不明であるが、不整形ながら円形を呈すると思われる。規模は直径約2.5m、深さは50cmである。土器は弥生中期の細片が24点出土する。

E 628（第80・85図、P L.48）

E12区からE11区にかけて広がる谷状地形の北西端に相当する。やや弧状を呈する溝状の落込みである。遺物は115点が出土し、全て弥生土器である。内訳は、中期のものが70点、後期が45点である。

E 618（第80・83・84図、P L.30・47・48）

E11区の西側に広がる浅い谷状の地形もしくは凹地で、最も深い部分で検出面から約80cm下がる。堆積層の上半部（土層図のA・B）には炭が含まれている。遺物は、弥生中期の土器が14点、後期の土器46点が出土している。



703～710：E622、711～714：E628

第85図 E区遺構出土遺物実測図

E617 (第80・83図、P L.30)

E11区からE12区にかけて第3層掘削後に検出した溝で、幅1.2～1.7m、深さは50～60cmである。埋土は上部が第3層に近似する灰色或いは黒色のシルト層、下部は砂礫及び砂層である。土器は細片が殆どで図示できるものはないが、縄紋土器1点、弥生中期73点、同後期10点、奈良時代の須恵器1点など全87点が出土している。

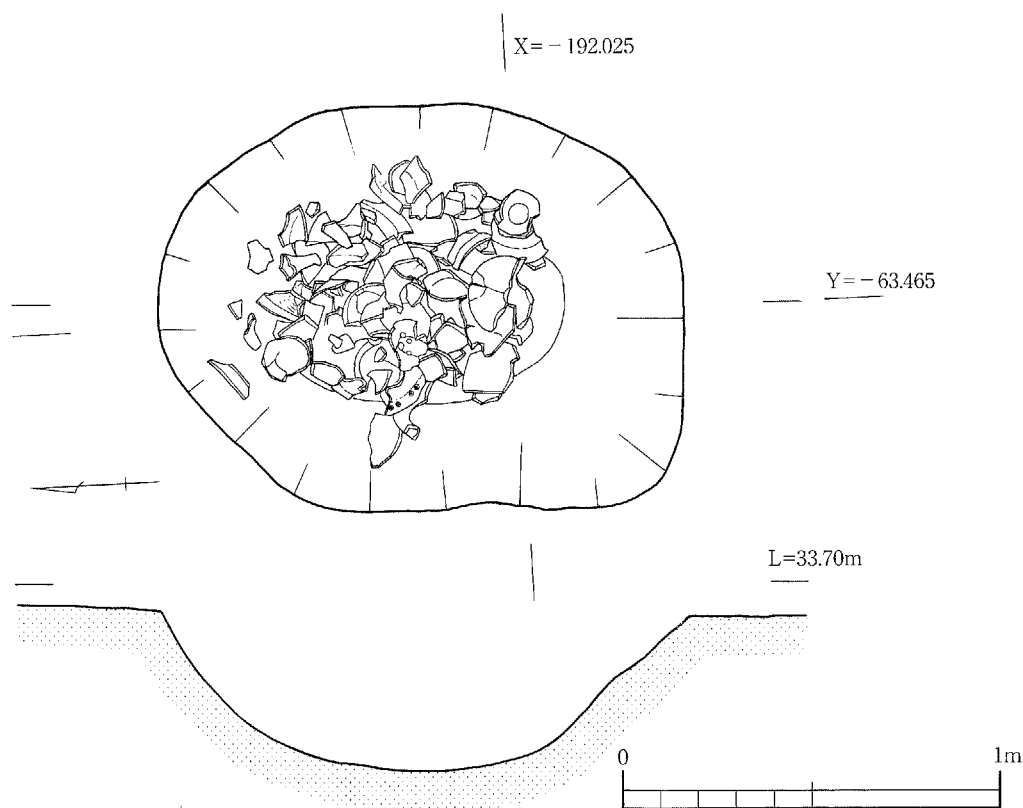
E622 (第80・83・85図、P L.30・48)

E11区で、E618と4F以東の2つの谷状地形に挟まれた範囲で、第5層掘削の後検出した円形に近い形態を呈する土坑である。直径は1.3～1.4mで、深さは20cmと浅い。遺物は縄紋時代後期の土器が269点出土している。紋様のある破片が数点あり後期前半と判断される。

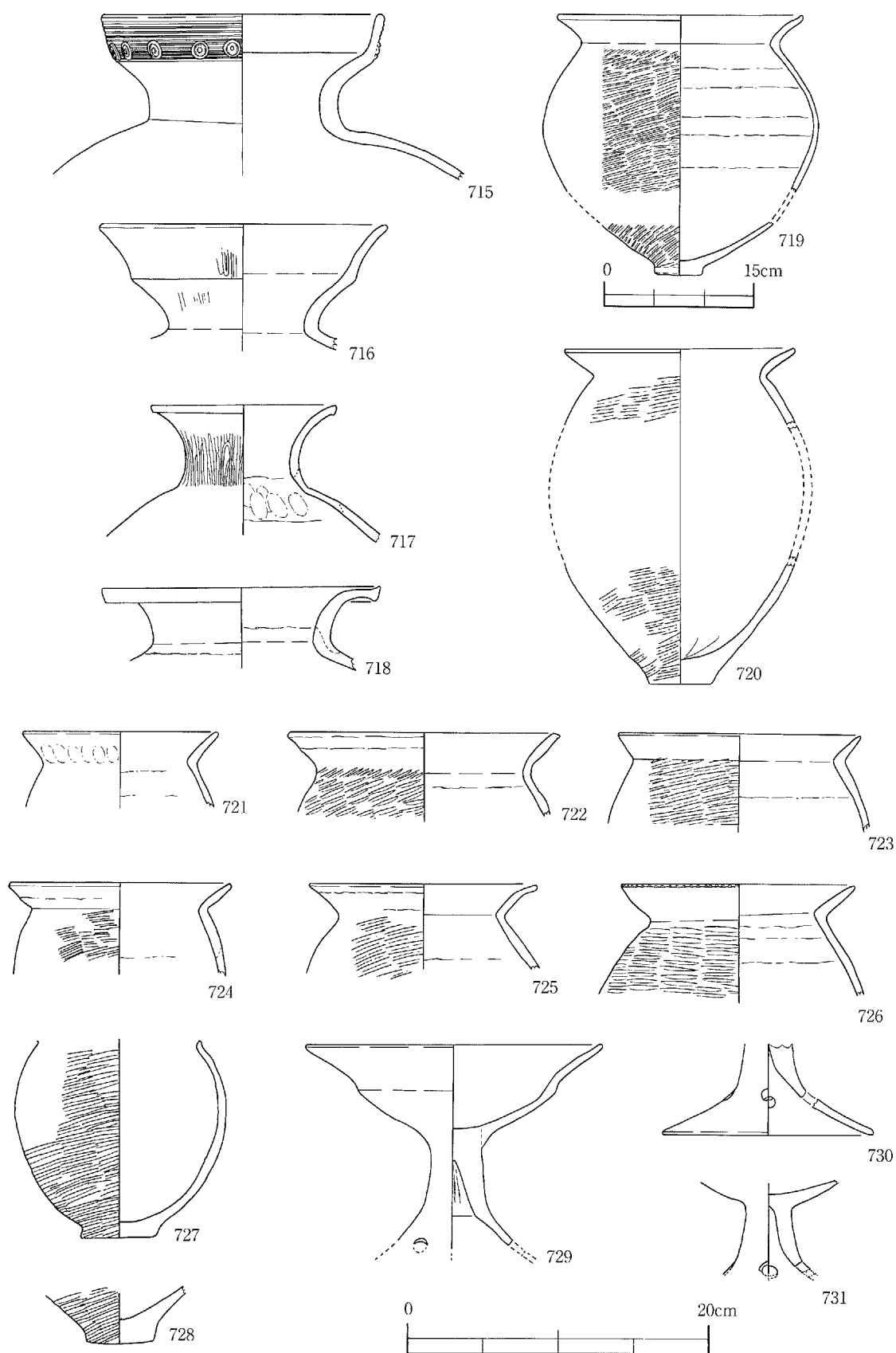
その他、E622周辺からは、土坑やピット数基が検出されている。いずれの遺構からも土器は出土していないが、検出面が同じであることや、遺構埋土が同一であることなどから、縄紋時代の遺構と考えている。

E619 (第83・87図、P L.30・48・49)

調査区の南端部で検出した土坑で、規模は1.1×1.4m、深さは50cmである。土器は685点が出土し、中期の土器21点を除けば全て弥生時代後期末（庄内期）に属するものである。



第86図 E619実測図



第87図 E619出土遺物実測図

第4章 分析調査

第1節 荒田遺跡の自然科学分析調査

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

荒田遺跡は、紀ノ川中流域に発達する段丘上に位置する弥生時代～中世を中心とした複合遺跡である。これまでの発掘調査により弥生時代中期中葉の土坑や溝、中世の自然流路などが検出されている。本遺跡ではこれまでに数回にわたって自然科学分析調査を実施し、遺跡を取り巻く古環境変遷や遺構の内容物、土器胎土の由来や焼成温度などを検討してきた。本報告は第2次出土遺物整理に伴う分析調査成果と、過去の調査成果をまとめたものである。

1. 試料

試料は、古環境変遷を目的とした遺構内の土壌（珪藻分析・花粉分析）、内容物検討などを目的とした遺構内の土壌（リン・カルシウム分析）、胎土分析用の土器（胎土薄片作製観察）に分かれる。古環境変遷を目的とした土壌分析試料の詳細は表1に示す。リン・カルシウム分析用の試料の詳細は、結果とあわせて表に示す。胎土分析用の試料は、荒田遺跡から出土した縄文土器3点、弥生中期の土器12点、弥生後期の土器3点、庄内式とされた土師器3点、須恵器3点、中世の瓦器11点および土師器2点の計37点と尼ヶ辻遺跡から出土した土師器2点と瓦器2点および須恵器1点の計5点の総計42点である。試料の詳細は表2に示す。

2. 分析方法

(1) 珪藻分析

湿重で7g前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法の順に物理・化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。

検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、メカニカルステージで任意の側線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に200個体以上同定・計数する（化石の少ない試料はこの限りではない）。種の同定は、Krammer, K. and Lange-Bertalot (1986・1988・1991a・1991b)、Krammer, K. (1992)、原口ほか (1998)などを参照する。

同定結果は、海水～汽水生種、淡水～汽水生種、淡水生種の順に並べ、その中の各種類はアルファベット順に並べた一覧表で示す。また、環境指標種についてはその内容を示す。そして、産出個体数100個体以上の試料については、産出率3.0%以上の主要な種類について、主要珪藻化石群集図を作成する。また、産出した化石が現地性か異地性かを判断する目安として完形殻の出現率を求め考察の際に考慮した。なお、淡水生種についてはさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度（pH）・流水に対する適応能についても示す。堆積環境の解析にあたって、淡水生種については安藤（1990）、陸生珪藻については伊藤・堀内（1991）、汚濁耐性については、Asai,K.&Watanabe,T.（1995）の環境指標種、生活型などについては、Vos,P.C. and H.de Wolf（1993）を参考とする。

（2）花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛：比重2.2）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス処理の順に物理・化学的処理を施し、花粉化石を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製し、光学顕微鏡下でプレパラート全面を操作し、出現する全ての種類について同定・計数する。

結果は、木本花粉は木本花粉総数、草本花粉・シダ類孢子は総花粉・孢子数から不明花粉を除いたものを基数とした百分率で出現率を算出し図示する。図表中で複数の種類をハイフンで結んだものは、種類間の区別が困難なものである。

（3）リン・カルシウム分析

リン酸は硝酸・過塩素酸分解－バナドモリブデン酸比色法、カルシウムは過塩素酸分解－原子吸光光度法でそれぞれ行った（土壌養分測定法委員会，1981）。以下に、各項目の操作工程を示す。

試料を風乾後、軽く粉砕して、2.00mmの篩を通過させる（風乾細土試料）。風乾細土試料の水分を、加熱減量法（105℃、5時間）により測定する。風乾細土試料2.00 gをケルダール分解フラスコに秤量し、はじめに硝酸約5 mlを加えて、加熱分解する。放冷後、過塩素酸約10mlを加えて、再び加熱分解を行う。分解終了後、水で100mlに定容してろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて、分光光度計によりリン酸濃度を測定する。別にろ液の一定量を試験管に採取し、干渉抑制剤を加えた後に、原子吸光光度計によりカルシウムの濃度を測定する。これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から、乾土あたりの含量を求める。

（4）胎土薄片作製観察

胎土分析には現在様々な手法が用いられているが、胎土中の鉱物や岩石を捉える方法と胎土の化学組成を捉える方法とに分けられる。前者の方法では、土器片の薄片を作製して偏光顕微鏡で観察する薄片作製観察や土器片を粉砕して重鉱物を抽出しその鉱物組成を求める重鉱物分析などがよく用いられ、後者の方法では蛍光X線分析装置による元素分析が最も広く用いられている。

表1 珪藻分析・花粉分析用試料

試料 番号	遺構等	採取地点	層 位	備 考
1	A501	北セクションベルト	土層図の6	谷地形
2	A501	北セクションベルト	土層図の7	谷地形
3	A501	北セクションベルト	土層図の11	谷地形
4	A501	南セクションベルト	土層図の6	谷地形
5	A501	南セクションベルト	土層図の7	谷地形
6	A556	セクションベルト	土層図の2	弥生 土坑
7	A556	セクションベルト	土層図の6	弥生 土坑
8	A556	セクションベルト	土層図の7	弥生 土坑
9	A区包含層	1S156	第7層	弥生
10	B27	セクションベルト		中世 土坑
11	B161	セクションベルト	土層図の1	弥生 溝
12	B161	セクションベルト	土層図の2	弥生 溝
13	B161	セクションベルト	土層図の3	弥生 溝
14	B254	セクションベルト	土層図の7	弥生 土坑
15	B254	セクションベルト	土層図の8	弥生 土坑
16	B142	セクションベルト	土層図の4	弥生 土坑
17	B142	セクションベルト	土層図の6	弥生 土坑
18	B14	セクションベルト	土層図の1	弥生 土坑
19	B14	セクションベルト	土層図の2	弥生 土坑
20	B315	セクションベルト	土層図の1	弥生 溝
21	B315	セクションベルト	土層図の2	弥生 溝
22	A区包含層	2B169	第4層	弥生<<中世
23	A区包含層	2B169	第5層	弥生<<中世
24	A区包含層	2B169	第6層	弥生
25	A区包含層	2F168	第4層	弥生<<中世
26	A区包含層	2F168	第6層	弥生
27	A173	2F168	土層図の6-2層	弥生 溝
28	C739	セクションベルト	土層図のB	弥生 土坑
29	C739	セクションベルト	土層図のC	弥生 土坑
30	C739	セクションベルト	土層図のCの下	弥生 土坑
31	C区包含層	2Y189	第4層	弥生
32	C区包含層	2Y189	第4層	弥生
33	C703	2Y189	土層図の6	弥生 土坑
34	D794	セクションベルト	土層図の1	弥生 溝
35	D794	セクションベルト	土層図の2	弥生 溝
36	D794	セクションベルト	土層図の4	弥生 溝
37	D794	202LineS.ベルト	土層図の5	弥生 溝
38	D794	202LineS.ベルト	土層図の6	弥生 溝
39	D790	北セクションベルト	土層図の6	中世 自然流路
40	D790	北セクションベルト	土層図の13	中世 自然流路
41	D790	北セクションベルト	土層図の14	中世 自然流路
42	D790	セクションベルト	土層図の1	中世 自然流路
43	D790	セクションベルト	土層図の7	中世 自然流路
44	D790	セクションベルト	土層図の8	中世 自然流路
45	D790	セクションベルト	土層図の12	中世 自然流路
46	D区包含層	212LineS.ベルト	第4層	弥生
47	D798	212LineS.ベルト	土層図の4	弥生 溝
48	D798	212LineS.ベルト	土層図の5	弥生 溝
49	D区包含層	215LineS.ベルト	第4層	弥生
50	D802	215LineS.ベルト	土層図の7	弥生 溝
51	D802	215LineS.ベルト	土層図の9	弥生 溝
52	E630	S.ベルトN	土層図の2	弥生 溝
53	E630	S.ベルトN	土層図の3	弥生 溝
54	E630	S.ベルトN	土層図の4	弥生 溝
55	E630	S.ベルトN	土層図の5	弥生 溝
56	E618	S.ベルト3	土層図のA	谷地形
57	E618	S.ベルト3	土層図のB	谷地形
58	E618	S.ベルト3	土層図のC	谷地形
59	E618	S.ベルト2	土層図のF	谷地形
60	E618	S.ベルト2	土層図のG	谷地形
61	E618	S.ベルト2	土層図のC	谷地形

本報告では上記々な方法の中で薄片作製観察を用いる。その理由として、1) 地質との関連性を考えられること、2) 試料が縄文土器から須恵器、瓦器に至る様々な質のものからなることの2点があげられる。1) については、データから直接に地質を推定することができない化学組成を求める方法を用いなかった理由でもあり、2) については、例えば、須恵器では高温焼成であることや重鉍物粒が少量しか含まれないことから、重鉍物分析には適さない場合が多く、一方、縄文土器や弥生土器では元素分析によるバラツキが非常に大きい場合がある。薄片作製観察は、これらの土器の質の違いを近い基準で比較できるほとんど唯一の方法である。以下に処理過程を述べる。

薄片は、試料の一部をダイヤモンドカッターで切断、正確に0.03mmの厚さに研磨して作製した。薄片は岩石学的手法を用いて観察し、胎土の碎屑片の種類・量比を明らかにし、鉍物の加熱変化の状態から焼成温度を推定した。

表2 胎土薄片作製観察用試料

試料番号	遺構等	採取地点	層位	備考	
81	E622	4F229・230		縄紋	深鉢
82	E622	4F229・230		縄紋	深鉢
83	E622	4F229・230		縄紋	深鉢
84	A501	1L138	第3層	弥生中期	壺
85	A501	1L138	第3層	弥生中期	甕
86	A501	1L138	第3層	弥生中期	甕
87	A区包含層	2C169	第5層	弥生中期	壺
88	A区包含層	2C169	第5層	弥生中期	壺
89	A区包含層	2C169	第5層	弥生中期	甕
90	A区包含層	2C170	第6層	弥生中期	壺
91	A区包含層	2C170	第6層	弥生中期	甕
92	A区包含層	2C170	第6層	弥生中期	甕
93	C703	2Y188		弥生中期	壺
94	C703	2Y188		弥生中期	壺
95	C703	2Y188		弥生中期	甕
96	E618	4E228		弥生後期	壺
97	E618	4D227		弥生後期	甕
98	E618	4E230		弥生後期	高杯
99	E619	4J232		庄内	壺
100	E619	4J232		庄内	甕
101	E619	4J232		庄内	甕
102	E611	4F229		須恵器	甕
103	E区包含層	4J228	第3a層	須恵器	甕
104	E区包含層	4J228	第3a層	須恵器	杯蓋
105	A501	北セクションベルト	土層図の11	瓦器	椀
106	A501	北セクションベルト	土層図の11	瓦器	椀
107	A501	北セクションベルト	土層図の11	瓦器	椀
108	B区包含層	2F170	第4層	瓦器	椀
109	B区包含層	2F170	第4層	瓦器	椀
110	B区包含層	2F170	第4層	瓦器	椀
111	D790	3P211	第1層	瓦器	椀
112	D790	3P211	第1層	瓦器	椀
113	E区包含層	4G226	第3a層	瓦器	椀
114	E区包含層	4L232	第3b層	瓦器	椀
115	E区包含層	4L232	第3b層	瓦器	椀
116	B232	2H172		土師器	皿
117	B232	2H172		土師器	釜
118	ハ31	1L49		土師器	土釜／尼ヶ辻遺跡
119	ハ31	1L49		土師器	土釜／尼ヶ辻遺跡
120	ハ31	1L49		瓦器	椀／尼ヶ辻遺跡
121	ハ31	1L49		瓦器	椀／尼ヶ辻遺跡
122	北184	1J21		須恵器	甕／尼ヶ辻遺跡

3. 結果

(1) 珪藻分析

結果を図1に示す。以下に各遺構毎に結果を示す。

・A501 北セクションベルト（試料番号1～3）

試料番号1は珪藻化石の産出数が2個体と少ない。試料番号2・3は珪藻化石が200個体以上産出し、水域に生育する水生珪藻が優占する。生態性の特徴は、貧塩不定性種（多少の塩分であれば耐えられる種）、真＋好アルカリ性種（pH7.0以上のアルカリ性水域に生育する種）、流水不定性種（流水域にも止水域にも生育する種）が優占する。中でも、流水不定性種の*Amphora affinis*、*Cymbella silesiaca*、*C. tumida*、*Gomphonema parvulum*、陸生珪藻B群（伊藤・堀内, 1991）の*Navicula confervacea*が10%前後産出する。陸生珪藻とは、多少の湿り気のある乾いた環境に生育する珪藻である。中でも、乾燥に耐性のある種をA群とし、陸生珪藻A群に随伴し、湿った環境にも水中にも生育する種がB群としている。

・A501 南セクションベルト（試料番号4・5）

珪藻化石の産出数が約20～30個体と少なく、流水不定性種の*Cymbella tumida*が10個程度産出するのみである。

・A556 セクションベルト（試料番号6～8）

珪藻化石の産出数は少なく、*Amphora montana*などの陸生珪藻A群（伊藤・堀内, 1991）が若干産出する程度である。

・A区包含層 1S156（試料番号9）

珪藻化石がほとんど産出しない。

・B27 セクションベルト（試料番号10）

全体の約75%以上を陸生珪藻が占めることが特徴である。中でも、陸生珪藻A群の*Hantzschia amphioxys*が約40%と多産する。また、好流水性種（流水域で生育する種）の*Surirella ovata* var. *pinnata*が約10%産出する。

・B161 セクションベルト（試料番号11・12・13）

試料番号11は、珪藻化石の産出数が22個体と少ない。少ないながらも、陸生珪藻A群の*Hantzschia amphioxys*が若干産出する。

試料番号12・13は陸生珪藻が約95%以上を占めることが特徴である。試料番号12は陸生珪藻A群の*Hantzschia amphioxys*が約85%、試料番号13は陸生珪藻A群の*Amphora montana*が約40%、陸生珪藻A群の*Hantzschia amphioxys*が約30%産出する。

・B254 セクションベルト（試料番号14・15）

試料番号14は陸生珪藻が約95%以上を占めることが特徴である。中でも、陸生珪藻A群の

Hantzschia amphioxys が約40%、陸生珪藻A群の*Amphora montana* が約10%、陸生珪藻A群の*Navicula mutica* が約10%産出する。

試料番号15は珪藻化石の産出数が36個体と少ない。少ないながらも、陸生珪藻A群の*Hantzschia amphioxys* が若干産出する。

・B142 セクションベルト, B14 セクションベルト, B315下層 セクションベルト, A区包含層 2B169, A区包含層 2F168, A173 2F168 (試料番号16~27)

珪藻化石はほとんど検出されず、わずかに産出する化石の保存状態は悪い。検出された種類は全て淡水生種からなる。

・C739 セクションベルト (試料番号28~30)

試料番号28では、珪藻化石の産出数が少なく、陸生珪藻A群の*Hantzschia amphioxys* が若干産出する。試料番号29・30は産出種のほとんどが陸生珪藻である。中でも、陸生珪藻A群の*Amphora montana* が約50%と多産する。その他に、陸生珪藻A群の*Hantzschia amphioxys* が20~30%産出する。

・C区包含層 2Y189 (試料番号31・32)

試料番号31は貧塩不定性種・真+好アルカリ性種が多産する。また、真+好流水性種と流水不定性種がそれぞれ全体の約40~50%を占める。中でも、真流水性種・中~下流性河川指標種(安藤, 1990)の*Meridion circulae* var. *constrictum* が約30%、流水不定性種の*Gomphonema angustatum* が約20%産出する。中~下流性河川指標種とは、主に中~下流部で生育する種とされる。

試料番号32は陸生珪藻が全体の約40%を占める。中でも、陸生珪藻B群(伊藤・堀内, 1991)・沼沢湿地付着性種(安藤, 1990)の*Eunotia praerupta* が約20%、陸生珪藻B群・沼沢湿地付着性種の*Eunotia praerupta* var. *bidens* が約10%産出する。また、好流水性種・中~下流性河川指標種の*Achnanthes lanceolata*、流水不定性種・沼沢湿地付着性種の*Eunotia pectinalis* var. *undulata* が10%前後産出する。

・C703 2Y189 (試料番号33)

試料番号33は貧塩不定性種・pH不定性種(pH7.0付近の中性水域で最もよく生育する種)・真+好流水性種が多産する。中でも、好流水性種・中~下流性河川指標種の*Achnanthes lanceolata* が約30%産出する。また、流水不定性種・沼沢湿地付着性種の*Navicula elginensis* が若干産出する。

・D区包含層 3J202, D794 セクションベルト, D794 202LineSベルト (試料番号35~38)

珪藻化石はほとんど検出されず、わずかに産出する化石の保存状態は悪い。検出された種類は全て淡水生種からなる。

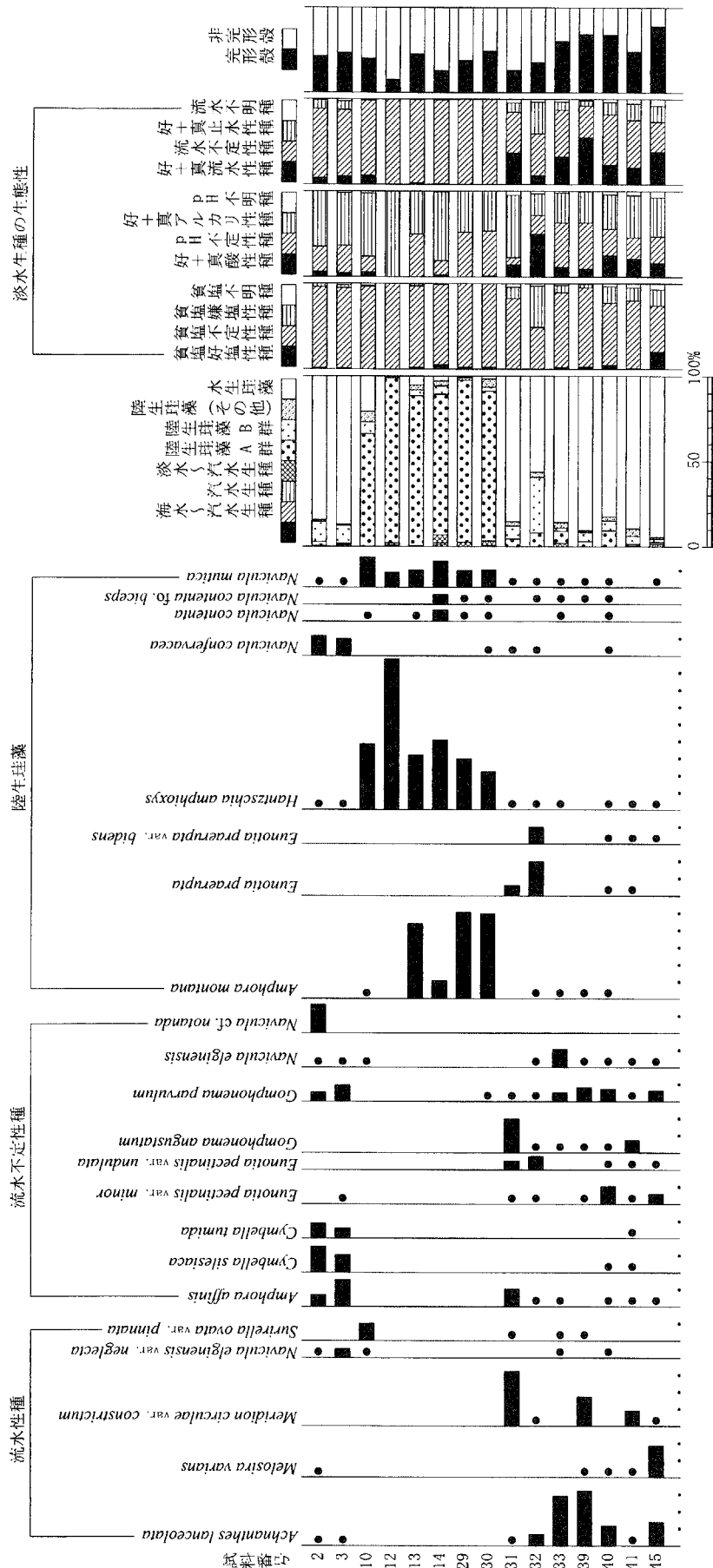


图1 主要珪藻化石群集

淡水生種産出率・各種産出率・完形殻産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として百分率で算出した。いずれも 100 個体以上検出された試料について示す。●は 5 %未満の種類を示す。

・D790 北セクションベルト（試料番号39～41）

試料番号39は貧塩不定性種、pH不定性種、真＋好流水性種が多産する。中でも、好流水性種の *Achnanthes lanceolata* が約30%産出する。その他は真流水性種・中～下流性河川指標種の *Meridion circularae* var. *constrictum* が約15%産出する。

試料番号40は貧塩不定性種、真＋好アルカリ性種、流水不定性種が多産する。大きく優占する種はないが、好流水性種の *Achnanthes lanceolata*、流水不定性種・沼沢湿地付着性種の *Eunotia pectinalis* var. *minor*、流水不定性種の *Gomphonema parvulum* が10%前後産出する。

試料番号41は貧塩不定性種、真＋好アルカリ性種、流水不定性種が多産する。大きく優占する種はないが、真流水性種・中～下流性河川指標種の *Meridion circularae* var. *constrictum*、流水不定性種の *Gomphonema angustatum* などが約10%産出する。

・D790 セクションベルト（試料番号42～45）

試料番号42・43は珪藻化石がほとんど産出しない。試料番号44は珪藻化石の産出数が少なく、流水不定性種・沼沢湿地性種の *Cymbella aspera* がやや多く産出する。試料番号45は貧塩不定性種、真＋好アルカリ性種、真＋好流水性種が多産する。中でも好流水性種の *Achnanthes lanceolata*、好流水性種の *Mclosira varians* が15～20%産出する。

・D区包含層 212LinesS.ベルト，D798 212LinesS.ベルト，D区包含層 215LinesS.ベルト，D802 215LinesS.ベルト，E630 S.ベルトN，E618 S.ベルト3，E618 S.ベルト2（試料番号46～61）

珪藻化石の産出数が非常に少なく（数個体以下）、保存状態も悪い。

（2）花粉分析

結果を図2に示す。全体的に化石の保存状態は悪く、特に土坑や溝などの遺構覆土では花粉化石がほとんどみられない。検出されるのは谷地形や自然流路などに限られている。花粉化石が比較的多産する地点はA501とD790のみである。

A501では、分析を行った5点全てにおいて花粉化石が産出する。木本花粉ではマツ属が高率で出現する。その他モミ属、ツガ属、アカガシ亜属、コナラ亜属、カキ属などがみられるが、出現率は低い。草本花粉ではイネ科の割合が高く、カヤツリグサ科、ソバ属、ヨモギ属などが低率で出現する。シダ類孢子では、アカウキクサ属やサンショウモなどの水生シダ植物が検出される。

D790では試料番号42での保存が悪いが、他では比較的多く検出される。試料番号39、40、41、45は、木本花粉ではマツ属、コナラ亜属、アカガシ亜属、ニレ属－ケヤキ属などが多産し、特に試料番号40ではイボタノキ属が多産する。草本花粉は全体的に低率であるが、試料番号39ではイネ科が多産する。木本花粉・草本花粉ともに値のばらつきが大きいのが特徴である。試料番号44ではマツ属の割合が高く、他の種類の割合が減少する。その傾向は試料番号43ではさらに顕著になる。

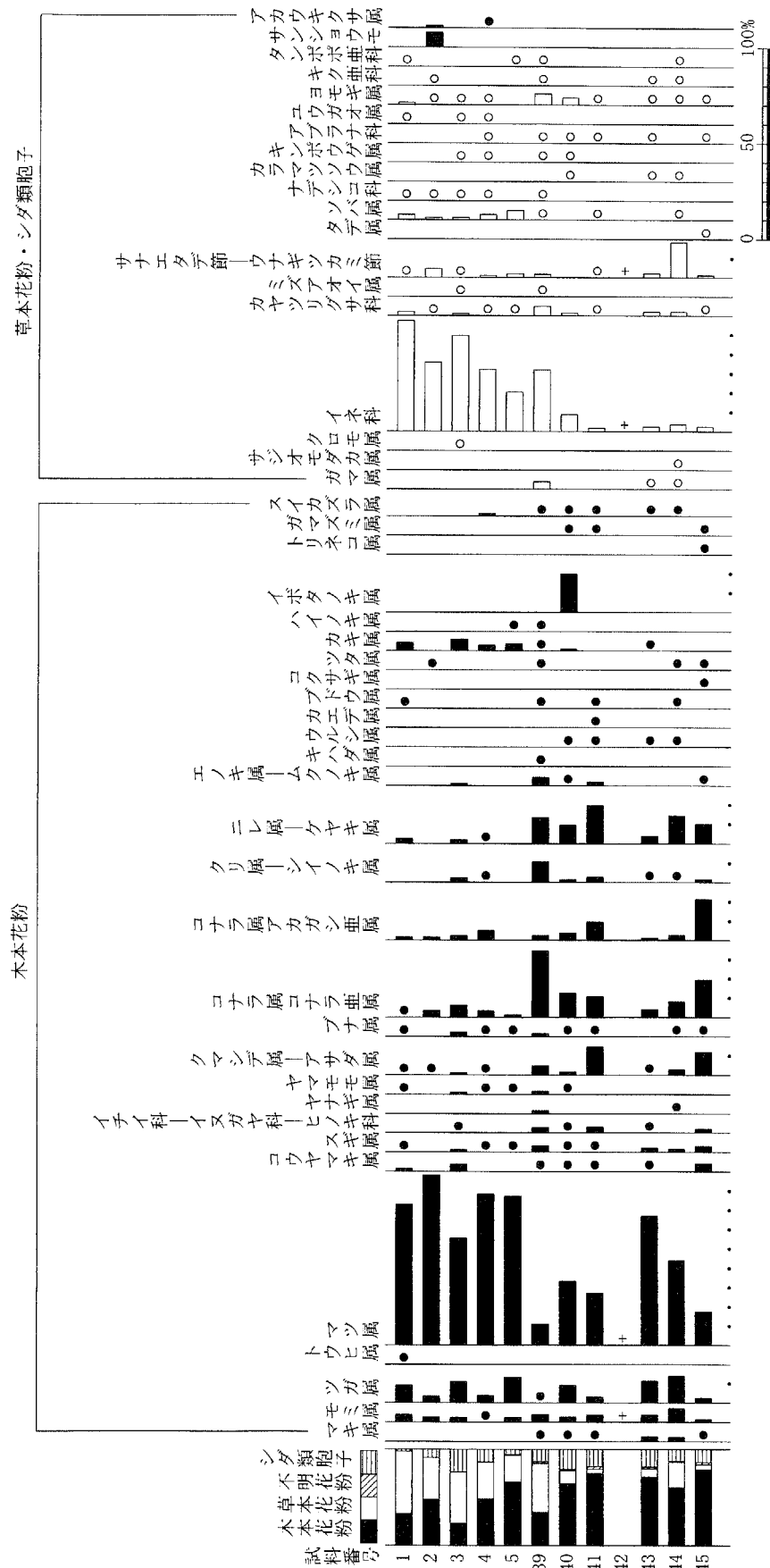


图2 花粉化石群集

出現率は、木本花粉は木本花粉化石総数、草本花粉・シダ類孢子は総数より不明花粉を除く数を基数として百分率で算出した。なお、●○は1%未満、+は木本花粉100個体未満の試料について検出した種類を示す。

(3) リン・カルシウム分析

結果を表3に示す。分析を行ったのは、B401、B13、B404、C703の4つとそれぞれの対照試料である。

「B401」関連試料（試料番号62～64）は、土器内、対照試料ともにリン酸値が1 mg/g以下と低く、ばらつきも小さい。また、土器内のカルシウム値は、約1.6mg/gと低い。

「B13」関連試料（試料番号65～68）は、土器内は2.5mg/g、対照試料は1 mg/g前後と値が異なっている。また、土器内のカルシウム値は、約2.6mg/gと低い。

「B404」関連資料（試料番号69～76）をみると、土器内試料はいずれも約1 mg/gと値のばらつきが小さいが、対照試料では土器内試料と比べて高く、値のばらつきもみられる。また、土器内のカルシウム値は、いずれも約2.0mg/gでばらつきが小さい。

「C703」関連資料（試料番号69～76）をみると、土器内試料は同一試料にも関わらず、リン酸値は約3倍の開きがある。対比試料もばらつきがあり、特に試料番号80は約5mg/gと高い値を示している。また、土器内のカルシウム値は、いずれも約3.0～4.0mg/gでややばらつきがある。

表3 リン・カルシウム分析結果

試料番号	分析結果		遺構等	採取地点	層位	備考	
	P ₂ O ₅ (mg/g)	CaO (mg/g)					
62	0.71	1.57	B401	土器内		弥生	甕
63	0.92			B401直下	地山		試料62との対比試料
64	0.90			B401周辺	地山		試料62との対比試料
65	2.49	2.62	B13	土器内		弥生	壺、溝出土
66			B13	土器内			試料65と同一（未分析）
67	1.16		B13	セクションベルト			試料65・66との対比試料
68	1.04			B13土器直下	地山		試料65・66との対比試料
69	1.10	2.12	B404	土器内（3袋）		弥生	同一試料、土器棺、棺身(甕)内
70	0.92	2.10	B404	土器内（3袋）		弥生	土器棺、棺身(甕)内
71	1.18	2.25	B404	土器内（2袋）		弥生	土器棺、棺身(甕)内
72	1.10	2.15	B404	土器内（3袋）		弥生	同一試料、土器棺、棺身(甕)内
73	1.14	2.20	B404	土器内（3袋）		弥生	土器棺、棺身(甕)内
74	1.42			B404直下	地山		試料69～73との対比試料
75	1.21		A区包含層	2F168	第4層		試料69～73との対比試料
76	1.68		A173	セクションベルト	土層図の6-2層		試料69～73との対比試料
77	1.78	3.01	C703	土器内		弥生	壺、同一試料
78	0.57	4.18	C703	土器内		弥生	壺、同一試料
79	1.16		C区包含層	2Y189	第4層		試料77～78との対比試料
80	5.03		C703	2Y189	土層図の6		試料77～78との対比試料

(4) 胎土薄片作製観察

ここでは、鉱物片、岩石片、基質鉱物、推定焼成温度という項目で試料全体の観察記載の概要を述べ、各試料の観察記載については表4に示す。

(a) 鉱物片

石英：構成物として最も普遍的に存在する鉱物で、全試料に少量～微量の範囲で含まれている。

岩片と比較するとやや細粒で、各試料に含まれる石英の最大粒径は1.80～0.16mm、平均最大粒

表4 胎土薄片観察結果

試料名		鉱物										岩石										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質										地質									
-----	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--

径は0.56mmを示す。一般に破片状～他形粒状を呈する。一部の石英は波状消光が顕著で、結晶片岩などの広域変成岩起源と考えられる。

カリ長石：カリ長石は荒田遺跡37試料中の24試料および尼ヶ辻遺跡5試料中の4試料に少量～きわめて微量の範囲で存在し、各試料に含まれるカリ長石の最大粒径は1.10～0.12mm、平均最大粒径は0.30mmを示す。カリ長石は単一の鉱物ではなく、正長石・パーサイト・マイクロクリンの形で含まれる。カリ長石は加熱温度約1,150℃以上では溶融し、溶化ガラスとなるが、観察試料中の正長石では試料番号103, 104, 120の3試料で溶化現象が認められ、試料番号113, 120の2試料ではカリ長石の周縁部が微溶化している。

斜長石：斜長石は荒田遺跡の26試料および尼ヶ辻遺跡の3試料に少量～きわめて微量の範囲で存在する。各試料に含まれる斜長石の最大粒径は0.45～0.05mm、平均最大粒径は0.20mmと細粒で、他形粒状または破片板状を呈する。いずれも集片双晶は発達するが、累帯組織はみられない。一般に、陶磁器等に含まれる曹長石は、高温焼成すると、カリ長石と同様に加熱変化を生じ、加熱変化の程度により非晶質化・ムライト化・溶融の現象がみられる。観察試料では試料番号102, 103, 122の2試料にムライト化、試料番号102では周縁部の褐色化が認められる。

白雲母：白雲母は荒田遺跡13試料および尼ヶ辻遺跡3試料中に微量～きわめて微量の範囲で存在する。各試料に含まれる白雲母の最大粒径の平均値は0.21mmで、柱状を呈するものが多く、一部は交代組織を示し、葉片状の産状を呈する。

角閃石：角閃石は荒田遺跡の21試料および尼ヶ辻遺跡5試料中の2試料に微量～きわめて微量の範囲で存在する。各試料に含まれる角閃石の最大粒径は0.40～0.04mm、平均最大粒径は0.18mmと細粒で、破片粒状を呈する。典型的には淡緑色～緑色または緑褐色の多色性を有する。焼成試料中では、しばしば鉱物片の縁辺部が褐色化し、酸化角閃石化した現象がみられることがある。酸化角閃石は普通角閃石が800℃以上に加熱された場合に变化して生成される。

緑簾石：荒田遺跡14試料に少量～きわめて微量で存在する。緑簾石は多元的な産状を有する鉱物であるが、荒田遺跡試料については試料番号99に緑色片岩の一種である緑簾石－曹長石片岩の岩片が含まれ、広域変成岩中の変成鉱物とみなされる。各試料に含まれる緑簾石の最大粒径は0.30～0.03mm、平均最大粒径は0.12mmである。

黒雲母・単斜輝石：全試料中では各1試料に微量～きわめて微量で検出される。

ジルコン：試料番号87, 110の2試料にきわめて微量存在する。ジルコンは花崗岩質岩に副成分鉱物として含まれることの多い鉱物である。

不透明鉱物：荒田遺跡12試料と尼ヶ辻遺跡8試料中に平均最大粒径0.11mmの他形粒状で微量～きわめて微量で含まれる。粒状を示すものの一部は磁鉄鉱の外形を示す。大部分は他形粒状の黒色鉄鉱物である。

(b) 岩片

荒田および尼ヶ辻遺跡出土試料には岩片が普遍的に含有されている。多く含まれる岩片はチャート(34試料)、石英片岩(25試料)、砂岩(24試料)、次いで凝灰岩(13試料)、火山ガラス(10試料)、頁岩(9試料)、泥岩(8試料)が観察される。このほか、粘板岩(5試料)、黒雲母片岩(4試料)、流紋岩(3試料)、文象岩・珪長岩・白雲母片岩・緑色片岩(各1試料)の岩片が認められた。鉱物片と比較すると岩片の粒径が大きく、石英片岩・砂岩・チャート・頁岩の岩片はしばしば2.0mmを超える。

チャート：荒田遺跡29試料および尼ヶ辻遺跡5試料に少量～きわめて微量の範囲で検出される。隠微晶質～微晶質石英で構成され、亜円礫状～角礫状を呈し、一部は再結晶質で細粒石英の集合体となっている。大部分はカルセドニー質(玉髄質)の「非変成チャート」と呼ばれる未変質岩の範疇に属し、一部に放散虫化石痕が認められる。各試料に含まれるチャートの最大粒径は3.0～0.10mmの範囲にあり、平均最大粒径は0.85mmである。

石英片岩：細晶質～中晶質石英が定向配列する変成岩の破片で、しばしば黒雲母を伴っている。荒田遺跡23試料および尼ヶ辻遺跡2試料に検出され、各試料中の石英片岩の最大粒径は2.0～0.35mm、平均最大粒径は1.02mmを示す。

頁岩：荒田遺跡9試料に少量～微量で検出される。最大粒径1.90mmの扁平状を呈し、平均最大粒径は1.35mmと粗粒である。一部はシルト質・珪質であるが、一般的な構成鉱物は石英－セリサイトを主としている。

粘板岩：荒田遺跡試料3試料と尼ヶ辻遺跡2試料に少量～微量で存在する。各試料の最大粒径は1.90～0.80mm、平均最大粒径は1.69mmで粗粒の扁平状を呈する。セリサイト－石英で構成され、スレート構造が発達している。

砂岩：荒田遺跡24試料に少量～きわめて微量の範囲で含まれる。中粒～細粒の石英粒に富む砂岩で、各試料に含まれる砂岩の最大粒径は1.70～0.20mm、平均0.88mmの亜角礫状を呈する。細粒質の一部には弱い片理構造が認められる。

泥岩：荒田遺跡7試料および尼ヶ辻遺跡1試料に微量～きわめて微量の含有量で検出される。スメクタイト質粘土または非晶質粘土を主とする新期堆積岩と推定される。

スコリア：スコリアはここでは多孔質の黒色ガラス岩を指している。荒田遺跡出土須恵器の3試料に微量で存在している。平均最大粒径0.87mmの亜円礫状を呈する。

火山ガラス：荒田遺跡試料8試料と尼ヶ辻遺跡2試料に検出される。少量～きわめて微量の範囲で検出される。長さ0.53～0.08mm、平均0.34mmの透明な骨片状ガラスまたは不定形破片じょう火山ガラスである。

凝灰岩：荒田遺跡試料12試料と尼ヶ辻遺跡1試料に少量～きわめて微量の範囲で検出される。各

試料で検出される凝灰岩の最大粒径は1.60～0.10mm、平均0.77mmで、亜円礫状～亜角礫状を呈する。大部分は非晶質物質で構成されるが、一部に少量の珪長質鉱物を生成している。

安山岩：安山岩は荒田遺跡出土縄文土器2試料にきわめて微量で存在する。最大粒径0.30mmの亜角礫状を呈する変質安山岩の岩片である。また、試料番号92には変質安山岩が認められる。ハイアロオフィティック組織（鏡下で斜長石の短冊状～針状結晶が不規則に散在し、その粒間を火山ガラスが埋めている火山岩の組織）を示すガラス質火山岩で、沸石化が著しく、一部は緑簾石化している。

黒雲母片岩：荒田遺跡の3試料に検出される。ネマトプラスティック組織を有する黒雲母と石英で構成される縞状岩の岩片で、微細な褶曲構造を示す。黒雲母は加熱変化を受けていない。

流紋岩：荒田遺跡の3試料に微量～きわめて微量検出される。球顆組織を示す火山ガラス岩の破片として検出される。

緑色片岩（緑簾石－曹長石片岩）：試料番号99に含まれ、ネマトプラスティック組織を有する曹長石質基質に緑簾石が多数包有されている。粒径最大1.20mmの扁平状を呈する。

（c）基質鉱物

セリサイト：セリサイトは鉱物学的には白雲母と同質の鉱物であるが、素地を構成する微細な鱗片状粘土鉱物に対して用いられている。セリサイトは可塑性が高く、陶磁器では素地を構成する重要な粘土鉱物の一つであるが、高温焼成で加熱変化を受け易く、溶化または非晶質化しているため、高温焼成物中ではその確認は困難な鉱物である。今回の観察試料では、多くの試料において、加熱変化を受けて一部が非晶質化してはいるが、セリサイトとしての光学性が保持されたまま残存して観察される。しかし、試料番号102, 103, 104, 120, 122の5試料では、完全に消失している。

赤鉄鉱：試料番号81, 83, 90, 94, 97, 98, 99, 100, 108, 109, 110, 112, 114, 116, 117, 119の16試料は酸化鉄に汚染されて着色している。含水酸化鉄（褐鉄鉱）は、実験的には320～350℃で脱水し、赤鉄鉱に転移するため、焼成物中では結核状および鉱染状を呈する赤鉄鉱として存在する。原料粘土としての観点から、鉄分は比較的低温で膠結物質となるため、焼成温度を低下させる効果が高い物質の一つである。試料が含鉄粘土で、原料粘土中の水酸化鉄が焼成時に酸化鉄に変化して碎屑片の粒間を埋める基質を着色または膠結している。

（d）推定焼成温度

一般に粘土を高温焼成すると、その温度条件と化学組成に対応した鉱物の晶出（代表的な鉱物はムライト）、溶融・非晶質化などの現象がみられる。観察試料では、焼成温度の推定に次の現象について検討して指針として適用した。

1) 角閃石が酸化角閃石に変化している試料は800℃以上の加熱を受けている。

- 2) 素地を構成する主要粘土鉱物のセリサイトが加熱変化を受けていない試料の焼成温度は900°C-と推定される。
- 3) セリサイトの一部は加熱変化を受けて非晶質化しているが、大部分は残留している状態を900°C±の焼成温度と推定する。
- 4) セリサイトの大部分は加熱変化を受けて非晶質化しているが、石英・長石類に加熱変化がみられない試料の焼成温度は900°C+と見積もる。
- 5) セリサイトは加熱により非晶質化しているが、石英・長石類にあまり加熱変化がみられない試料の焼成温度を1,150°C-と推定される。
- 6) 石英に高温焼成で生じたクラック（高温クラック）がみられ、カリ長石の周縁部が微溶化している状態の試料の焼成温度は1,150°C±と推定される。
- 7) 石英に高温クラック・溶融組織がみられ、カリ長石に顕著な溶融組織が認められるが、曹長石のムライト化は明瞭ではない試料の焼成温度は1,150~1,200°Cと推定される。
- 8) ムライトの生成が褐色リムまたは短針状で確認される試料の焼成温度を1,200°C±と推定する。
- 9) 針状ムライトが粗に生成している試料は1,200~1,250°Cの焼成温度と見積もられる。
- 10) 針状ムライトが密に生成する試料は1,250°C+の焼成温度と見積もられる。

観察試料での熱的な変化は8)までの範囲で、さらに高温の焼成温度に対応する現象は観察されていない。各試料の推定焼成温度は表4に示す。

(e) 土器の種類による胎土の特徴

縄文土器：鉱物片として斜長石・カリ長石に乏しい。チャート・頁岩・砂岩および石英片岩を多く含む。焼成温度はおおむね900°C以下である。

弥生中期の土器：碎屑片の組み合わせは縄文土器と類似し、チャート・頁岩・砂岩および石英片岩を多く含むが、縄文土器と比較すると鉱物片では斜長石と白雲母および角閃石がわずかながら多く含まれる傾向にあり、岩片ではチャートの含有比がやや低く、砂岩を多く含むものがある。焼成温度は900°C以下のものが大部分である。

弥生後期の土器：弥生中期の土器に比べて、長石類がやや多く、岩片では凝灰岩が検出され、石英片岩は少ない傾向がある。焼成温度は3点のうち2点が900°Cをやや超える。

庄内式土器：3試料ともに微量の砂岩を含み、チャートの岩片を欠くことは共通しているが、この他では互いに異なる性質を示している。試料番号99は鉱物片として緑簾石、岩片として緑色片岩の一種の緑簾石-曹長石片岩を特徴的に包有する。試料番号100は石英片岩を多く包有し、試料番号101は石英片岩と火山ガラスに富む性質を示す。焼成温度はおおむね900°C以下である。

須恵器：荒田遺跡出土品では、岩片としてチャートを比較的多く含むほかに微量の凝灰岩とスコリアを包有する特徴を有する。セリサイトなどの粘土鉱物の残留はなく、焼成温度は高く、お

おむね1,150～1,200℃の範囲にわたっている。尼ヶ辻遺跡出土品は1試料のみであり、カリ長石・チャート・凝灰岩に富むがスコリアは検出されない。焼成温度は1,200℃±で荒田遺跡出土品と同等である。

瓦器：荒田遺跡出土品では鉱物片として長石類（カリ長石と斜長石）と角閃石が検出され、岩片としてチャート・砂岩・凝灰岩および火山ガラスが比較的多い傾向にある。尼ヶ辻遺跡出土品は2試料であるため明瞭ではないが、砂岩と凝灰岩を除けば荒田遺跡出土品と同様な傾向を示す。焼成温度は両者ともにほぼ900℃±であるが、1,150℃±を示すものが混じている。

土師器：荒田遺跡出土品2試料は性質が異なっている。試料番号116は凝灰岩に富むのに対し、試料番号117は石英の含有量が少なく、粘板岩と石英片岩に富んでいる。この特徴は荒田遺跡出土の庄内式土器とも異なっている。尼ヶ辻遺跡出土2試料はいずれも石英に乏しく、チャート・粘板岩・石英片岩の大型岩片に富み、粘土の淘汰度は不良である。これらも上記の荒田遺跡出土の土師器2試料および庄内式土器とは異なる特徴である。

4. 考察

(1) 古環境推定

弥生時代の遺構や遺物包含層からは、花粉化石がほとんど検出されないため、当時の古植生などに関する情報はほとんど得ることができなかった。一方、珪藻化石も産出が少なく、ほとんど検出されない遺構が多い。少量みられる珪藻化石に着目すると、A556、B27、B161、B254、C739の各遺構では陸生珪藻が多産することから、乾いた状況下で埋積が進んでいたと思われる。しかし、C703（土坑）は、流水性種・流水不定性種が多産し、これらとは様相が異なる。特に好流水性種の*Achnanthes lanceolata* が約30%産出することから、土坑内は何らかの水の影響を受ける環境で埋積した可能性がある。このようにC703は他の遺構とは違った埋積過程を示しているが、これが遺構の用途と関わっているかどうかを今後検討していく必要がある。また、包含層の珪藻化石群集も遺構覆土と同様、珪藻化石の保存が悪い試料が多い。おそらく、遺構覆土と同様、乾いた環境であったと思われるが詳細は不明である。しかし、包含層2Y189は、流水性種・流水不定性種などの水生珪藻をはじめ陸生珪藻も多く検出される。このことから、堆積時には水の影響を受けていたと考えられ、他の包含層とは様相が異なるが、陸生珪藻も多いことから乾燥する部分も存在していたと考えられる。

谷地形E618とA501があるが、E618は、弥生時代の遺構と同様珪藻化石や花粉化石の保存が悪い。A501の珪藻化石群集をみると、流水不定性種が多産し、若干の陸生珪藻が産出する。流水不定性種は流水域にも止水域にも生育する種であり、陸生珪藻は乾いた環境に生育する種である。よって谷内は、基本的には湿潤であるが、場所によっては表面が乾燥している湿地のような環境であ

ったと思われる。一方、花粉化石はマツ属とイネ科が多産する組成がみられるが、これは前報で示した根来寺坊院跡の堀の組成と近似する。このことから、谷地形の埋積時期は戦国時代以降に相当すると考えられ、根来寺周辺を含む広い範囲にわたって、マツ属の二次林もしくは植林が存在したことが推定される。また、イネ科の多産は、遺跡周辺にはイネ科を中心とする草地が存在していたためと考えられる。また、カキ属（カキ）やソバ属（ソバ）、ユウガオ属（ヒョウタンなど）などの栽培種の花粉化石が検出されることから、周辺での栽培が示唆されるが、これらは根来寺の花粉分析でも検出されている。

自然流路（D790）の珪藻化石群集をみると、北セクションベルトでは、下部では流水不定性種が多産するが、上部では好流水性種の *Achnanthes lanceolata* など流水性種が多産する。このことから、下部では流れの影響がない水深が浅くて淀んだ水域であったとみられるが、上部では流れの影響を強く受ける状態へと変化したことが考えられる。一方、セクションベルトは、流路の下部では流水性種が多産するため、流れの影響があったものと思われる。中部では化石の産出数が少ないが、流水不定性種・沼沢湿地性種の *Cymbella aspera* が若干産出することから、湿地のような環境であった可能性がある。上部は珪藻化石がほとんど産出しないため、堆積環境の詳細は不明である。このように場所や層位によって堆積環境が異なることから、流水と滞水を繰り返しながら埋積が進行していったことが窺われる。一方、花粉化石をみるとA501（谷地形）とマツ属が多産する点で類似する。クマシデ属－アサダ属、アカガシ亜属、ニレ属－ケヤキ属、イボタノキ属が多くみられる試料もあるが、ばらつきが大きい。また、セクションベルトではマツ属の割合が上位ほど高くなる傾向にある。マツ属が多いのは後背山地にマツ属の二次林もしくは植林が存在したためと考えられる。近畿地方では約1500年前以降にこの傾向がみられる（前田，1984など）。また、根来寺坊院跡の成果にみられるように、戦国時代以降に急増することから、試料番号43は、中世末期の堆積物であるとみられる。それ以外の樹木（クマシデ属－アサダ属、アカガシ亜属、ニレ属－ケヤキ属、イボタノキ属）は、後背山地や河畔などに生育していたとみられる。なお、A501の結果と比較すると、自然流路では草本花粉の割合が少ない。おそらく、堆積環境の違いなどにより、花粉化石の由来が異なっていることが推定される。自然流路の方は、流れがあることなどから、河畔や後背山地など広範囲の植生に由来するため、木本主体の組成になったことが考えられる。一方A501の方は流れが無かったため局地的な組成を反映し、草本類や栽培植物など遺跡内やその周辺の植生を反映しているものとみられる。

（2）土器の内容物検討

土壤中に自然に存在するリン酸含量すなわち天然賦存量は、Bowen（1983）、Bolt and Bruggenwert（1980）、川崎ほか（1991）、天野ほか（1991）などを参考にすると3.0mg/gで、最大でも5.0mg/gと推定される。このことから、リン酸に関して言えば、5.0mg/gを越えればリン酸

の富化が指摘される。一方、自然状態における土壌中のある範囲内（単層中など）では、土壌理化学的特性は均質になる。これは、自然条件の中では均質の方が物理・化学的に安定だからである。ところが、人為的な遺体埋納などによって、この状態がくずれると局所的な濃集が起り、土壌中の元素含量にばらつきが生じると考えられる。今回対象としている河川堆積物などは、リン酸を保持しにくい土壌であるため富化が明瞭でない場合が多い。そこで、値のばらつきに関しても考慮して解析を行う。

今回の分析成果をみると、リン酸の値が低い試料は、土器試料、対照試料に関わらず1 mg/g前後で収束し、値のばらつきが小さい。これは、土壌中に自然に存在するリン酸量を示していると考えられる。したがって、「B401」と「B404」に関してはいずれも値が1 mg/g程度であることから、今回の結果から内容物に関する検討を行うことは難しい。一方、土坑B13とC703に関してはこれらの値よりやや高く、C703に関しては土器内試料で値にばらつきがみられる。このことから、遺体などの埋納が示唆される。特にC703は土器が埋められていた遺構内の試料でリン酸の値が高いことから、土器外にも遺体などが埋納されていた可能性がある。なお、「B404」の対象試料は、土器内よりも値が高く、またリン酸の値もばらついている。リン酸は人間活動によって蓄積されるので生活面では高くなることが多いと考えられていることから（バーンズほか、1984）、当時の生業によって蓄積された可能性がある。

なお、土壌中のカルシウム含量は分布幅が広く、普通1～50mg/gとされている（藤貫、1979）。今回の結果をみても、上記の値を大きく越える試料や、値のばらつきが大きい試料が見あたらないことから、カルシウムの値からのみでは内容物の推定を行うことは難しい。

（3）土器胎土の特徴と由来

前述のように今回の分析では、各種類の土器の胎土の特徴を比較的明瞭に把握することができた。これは特に岩片組成の違いによるところが大きい。特徴となる岩片は、チャート、砂岩、凝灰岩、スコリア、火山ガラス、石英片岩の6種類をあげることができる。これらのうち、チャートと砂岩はともに堆積岩であり、日本では古生代末から中生代にかけて形成されたいわゆる古生層や古期岩類などと呼ばれる地質に由来する岩石である。凝灰岩は、火山噴出物が海底などに堆積して固結したものであり、新第三紀に堆積した、いわゆるグリーンタフに代表される。スコリアや火山ガラスは、地表表層に堆積する未固結の第四紀火山噴出物に由来することが多い。石英片岩は、広域変成岩である結晶片岩の一種である。今回の分析結果を概観してみると、いずれの試料も、上記にあげた岩片のうちの必ず2種類以上を含んでいることが分かる。また、全ての試料にかならず含まれている岩片というものもない。このような状況から、どの試料の胎土も共通した地質学的背景を有する地域内に由来する可能性がある。そして胎土の岩片組成の違いは、その地域内での地質の分布が比較的限定的なために、胎土のもとである粘土や砂の採取地の違いが

現れている可能性がある。

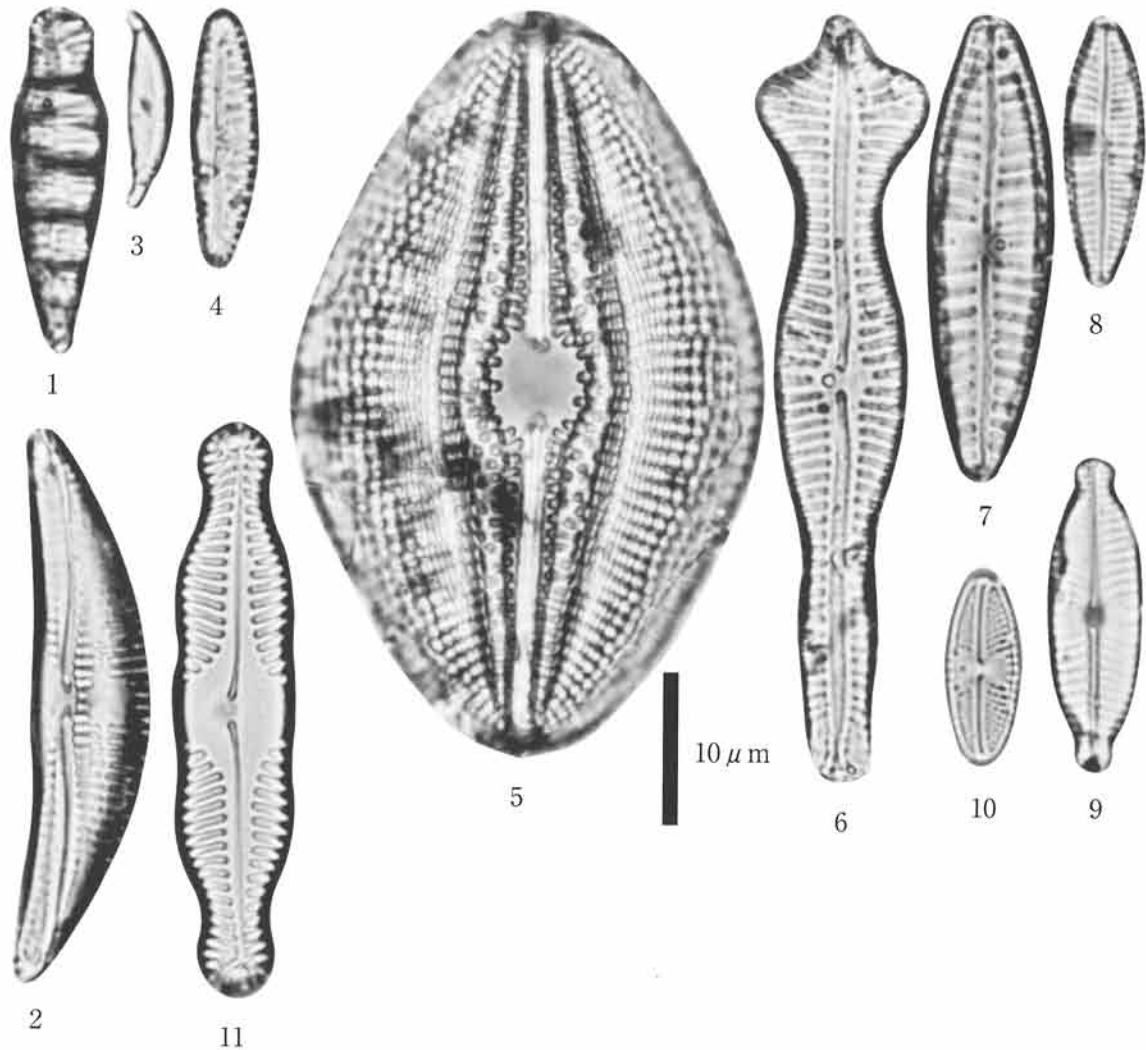
ここで、荒田遺跡や尼ヶ辻遺跡の位置する紀ノ川中流～下流域の地質をみると右岸側に和泉山脈南半部を構成する和泉層群と呼ばれる砂岩・泥岩・礫岩からなる堆積岩の地質が分布し、左岸側には結晶片岩を主体とする三波川帯と呼ばれる変成岩帯が広く分布する。したがって、概括的には、紀ノ川流域の堆積物中には砂岩や泥岩などと結晶片岩が混在するような岩片組成が想定される。また、凝灰岩が広く分布するような地質は、例えば地質調査所（1982）のような100万分の1スケールの地質図では、和歌山県内では認められない。しかし、より詳細な地質記載では、和泉層群には凝灰岩層が複数挟まれており、さらに和泉層群の礫岩層中にはチャートの礫も含まれている（近畿西部MTLグループ，1981）。したがって、上述した岩片は全て、紀ノ川中～下流域という地域内に由来を求めることができる。すなわち、今回の試料は、紀ノ川中～下流域という範囲を設定するならば、全てその範囲内で原材料が採取され、製作された土器である可能性が高い。

上述のように今回の各種類の土器胎土の違いは、この地域内での原材料の採取地の違いによるものであると考えられ、紀ノ川流域以外の地域から搬入された土器が混在する可能性は低い。今後、より詳細に胎土の由来する地域（原材料の採取地や製作地）を特定するためには、紀ノ川流域各地での土器の分析例および自然堆積物の岩片組成を蓄積していく必要がある。

引用文献

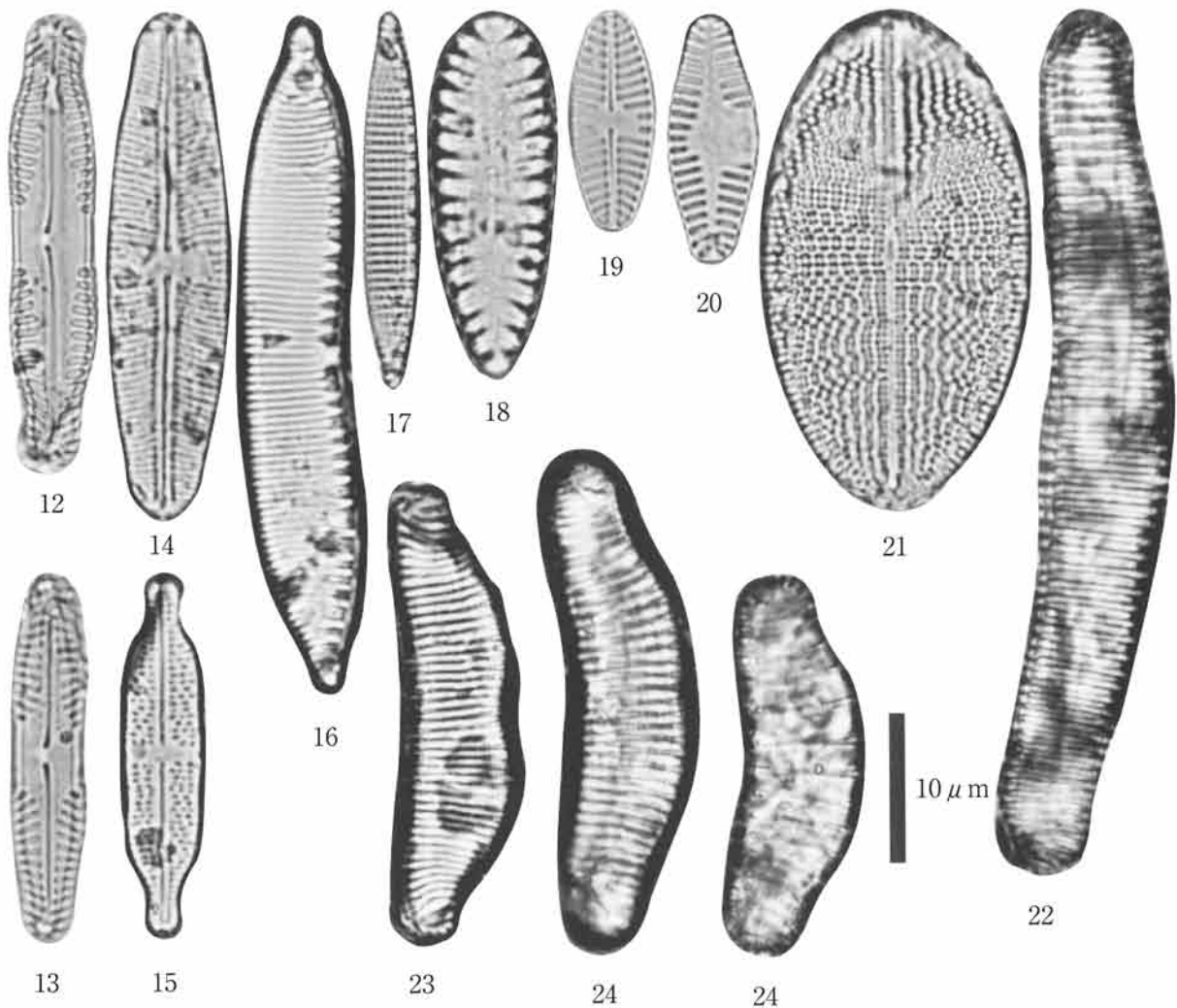
- 安藤一男 (1990) 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 東北地理, 42, p.73-88.
- Asai,K. and Watanabe,T. (1995) Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophilous and saproxenous taxa. Diatom, 10, p.35-47.
- 天野洋司・太田 健・草場 敬・中井 信 (1991) 中部日本以北の土壌型別蓄積リンの形態別計量. 農林水産省農林水産技術会議事務局編「土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発」, p.28-36.
- ジナ・バーンズ, ルール・ブランツ, サイモン・ケーナ, デイビット・ロリガー, 西田史朗 (1986) 日本の土壌中での隣酸塩の挙動. 考古学と自然科学, 19, p.57-68.
- Bowen,H.J.M. (1983) 環境無機化学 - 元素の循環と生化学 -. 浅見輝男・茅野充男訳, 297p., 博友社 [Bowen,H.J.M. (1979) Environmental Chemistry of Elements].
- Bolt,G.H.・Bruggenwert,M.G.M. (1980) 土壌の化学. 岩田進午・三輪容太郎・井上隆弘・陽 捷行訳,309p.,学会出版センター [Bolt,G.H. and Bruggenwert,M.G.M. (1976) SOIL CHEMISTRY], p.235-236.
- 地質調査所 (1982) 日本地質アトラス. 119p.
- 土壌標準分析・測定法委員会編 (1986) 土壌標準分析・測定法. 354p., 博友社.
- 藤貫 正 (1979) カルシウム. 地質調査所化学分析法, 52, p.57-61, 地質調査所.
- 伊藤良永・堀内誠示 (1991) 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用. 珪藻学会誌, 6, p.23-45.
- 川崎 弘・吉田 滂・井上恒久 (1991) 九州地域の土壌型別蓄積リンの形態別計量. 農林水産省農林水産技術会議事務局編「土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発」, p.23-27.
- 近畿西部MTL研究グループ (1981) 和泉山脈東部の和泉層群の層序と構造. 地球科学, 35, p.312-320.
- Krammer,K. and Lange-Bertalot,H. (1986) Bacillariophyceae,Teil 1,Naviculaceae. Band 2/1 von:Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 876p., Gustav Fischer Verlag.
- Krammer,K. and Lange-Bertalot,H. (1988) Bacillariophyceae,Teil 2,Epithemiaceae, Bacillariaceae,Surirellaceae. Band 2/2 von:Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 536p., Gustav Fischer Verlag.
- Krammer,K. and Lange-Bertalot,H. (1991a) Bacillariophyceae,Teil 3,Centrales, Fragilariaceae,Eunotiaceae. Band 2/3 von:Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 230p., Gustav Fischer Verlag.
- Krammer,K. and Lange-Bertalot,H. (1991b) Bacillariophyceae,Teil 4,Achnanthaceae, Kritische Ergaenzungen zu Navicula(Lineolatae)und Gomphonema. Band 2/4 von:Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 248p., Gustav Fischer Verlag.
- Krammer,K. (1992) PINNULARIA, eine Monographie der europäischen Taxa. BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA BAND 26, p.1-353., BERLIN-STUTTGART.
- 前田保男 (1984) 花粉分析学的研究よりみた近畿地方の洪積 (更新) 世後期以降の植生変遷. 「日本植生誌 近畿」, 宮脇昭編著, p.87-100, 至文堂.
- Vos,P.C. and H.de Wolf (1993) Reconstruction of sedimentary environments in Holocene coastal deposits of the southwest Netherlands: the Poortvliet boring, a case study of palaeoenvironmental diatom research. Twelfth International Diatom Symposium, p.297-296.

図版1 珪藻化石(1)



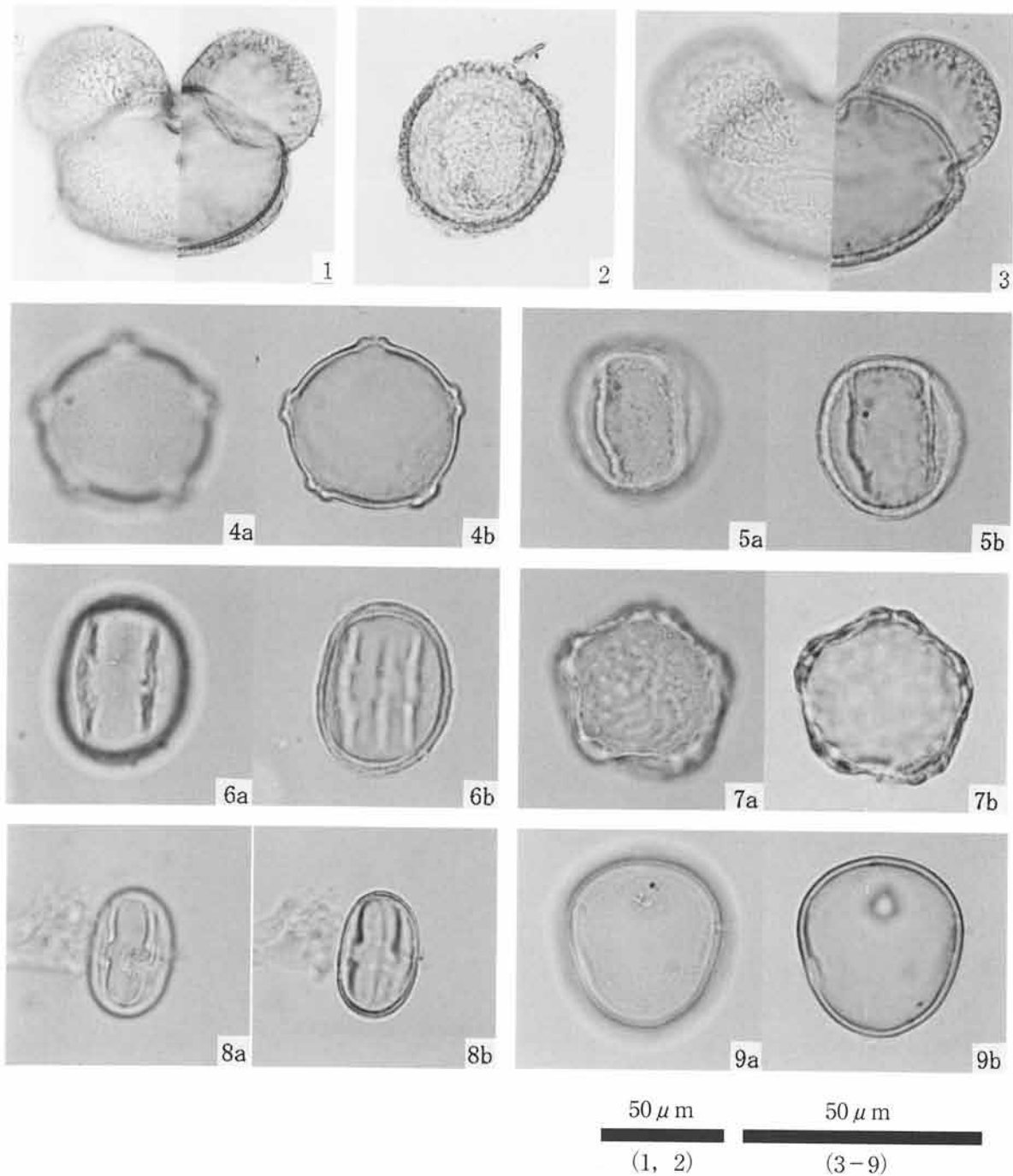
1. *Meridion circularae* var. *constrictum* (Ralfs) V.Heurck (試料番号31)
2. *Amphora affinis* Kuetzing (試料番号41)
3. *Amphora montana* Krasske (試料番号29)
4. *Cymbella sinuata* Gregory (試料番号41)
5. *Diploneis yatukaensis* Horikawa et Okuno (試料番号41)
6. *Gomphonema acuminatum* Ehrenberg (試料番号41)
7. *Gomphonema angustatum* (Kuetz.) Rabenhorst (試料番号31)
8. *Gomphonema parvulum* Kuetzing (試料番号33)
9. *Navicula elginensis* (Greg.) Ralfs (試料番号33)
10. *Navicula mutica* Kuetzing (試料番号29)
11. *Pinnularia mesolepta* (Ehr.) W.Smith (試料番号33)

図版2 珪藻化石(2)



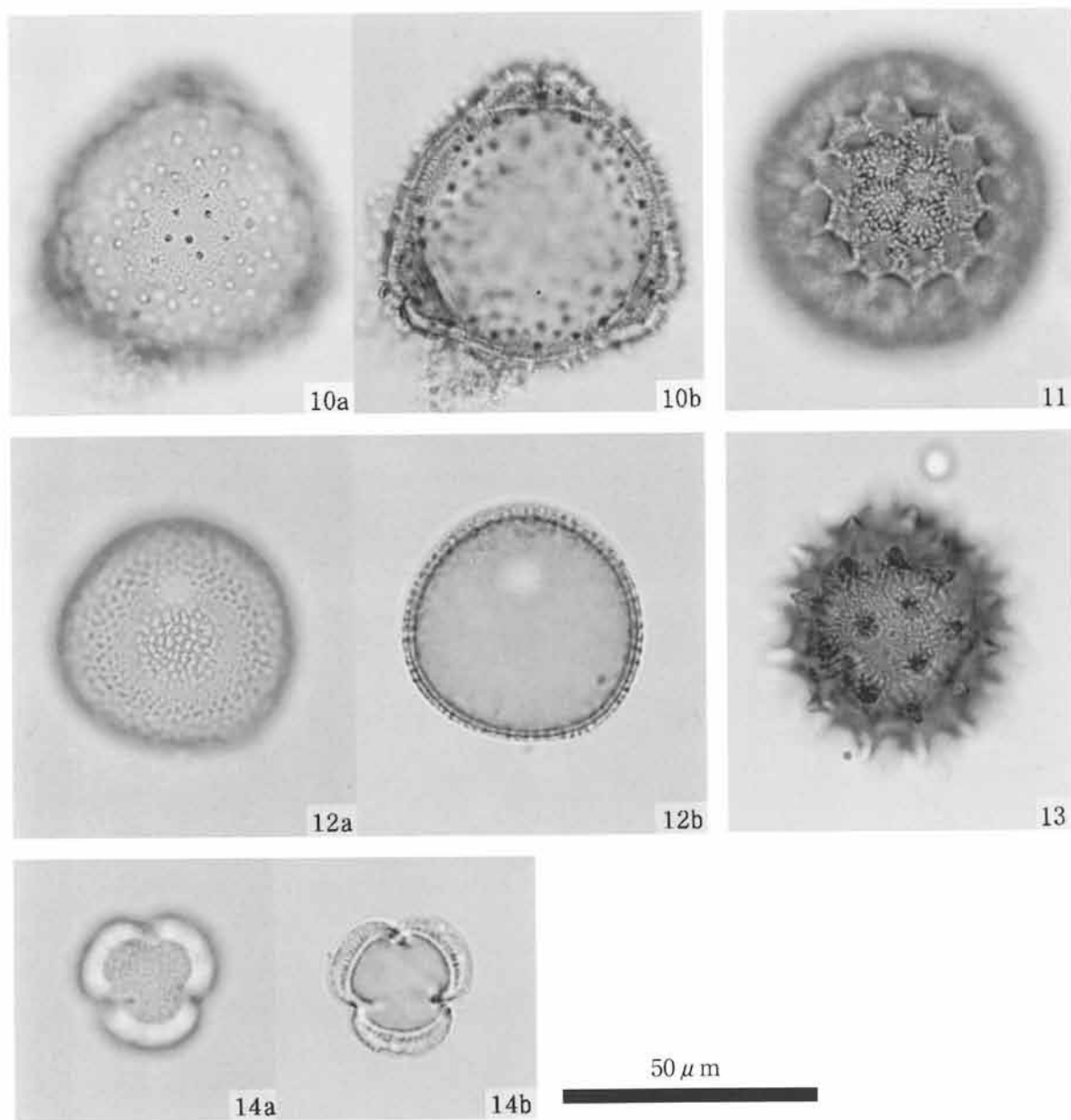
12. *Pinnularia nodosa* Ehrenberg (試料番号33)
13. *Pinnularia subcapitata* Gregory (試料番号40)
14. *Sellaphora pupula* (Kuetz.) Mereschowsky (試料番号33)
15. *Stauroneis lauenburgiana* fo. *angulata* Hustedt (試料番号33)
16. *Hantzschia amphioxys* (Ehr.) Grunow (試料番号33)
17. *Nitzschia amphibia* Grunow (試料番号33)
18. *Surirella ovata* var. *pinnata* (W.Smith) Hustedt (試料番号33)
19. *Achnanthes lanceolata* (Breb.) Grunow (試料番号33)
20. *Achnanthes lanceolata* (Breb.) Grunow (試料番号33)
21. *Cocconeis placentula* var. *lineata* (Ehr.) Cleve (試料番号41)
22. *Eunotia pectinalis* var. *undulata* (Ralfs) Rabenhorst (試料番号31)
23. *Eunotia praerupta* var. *bidens* Grunow (試料番号32)
24. *Eunotia praerupta* Ehrenberg (試料番号32)
25. *Eunotia praerupta* Ehrenberg (試料番号31)

図版3 花粉化石(1)



- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1. モミ属 (試料番号41) | 2. ツガ属 (試料番号41) |
| 3. マツ属 (試料番号41) | 4. クマシデ属-アサダ属 (試料番号41) |
| 5. コナラ属コナラ亜属 (試料番号39) | 6. コナラ属アカガシ亜属 (試料番号41) |
| 7. ニレ属-ケヤキ属 (試料番号41) | 8. クリ属-シイノキ属 (試料番号39) |
| 9. イネ科 (試料番号41) | |

図版4 花粉化石(2)



10. スイカズラ属 (試料番号41)

12. ガマ属 (試料番号39)

14. ヨモギ属 (試料番号39)

11. サナエタデ節-ウナギツカミ節 (試料番号39)

13. キク亜科 (試料番号39)

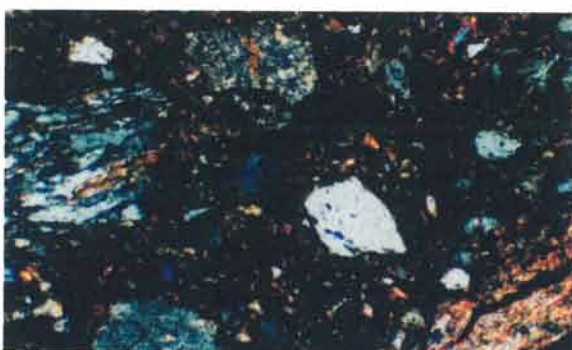
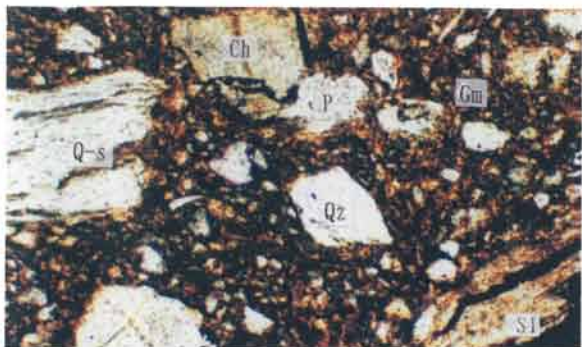
図版5 胎土薄片（1）



1. 試料番号81

No. 622 4F229・230

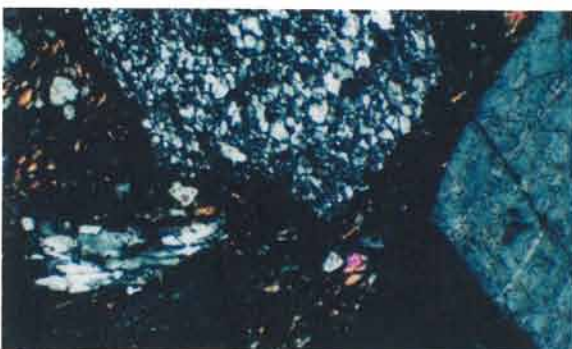
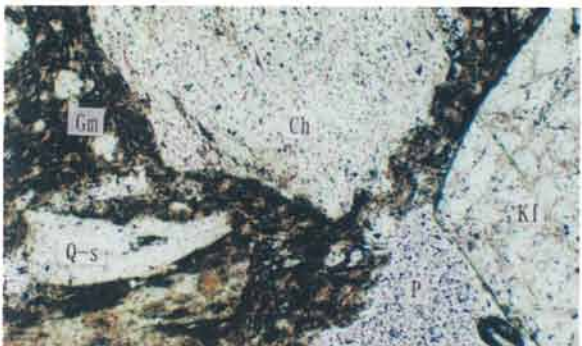
縄文 深鉢 3-1048



2. 試料番号82

No. 622 4F229・230

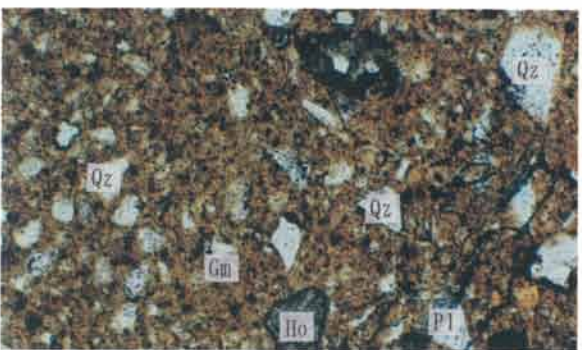
縄文 深鉢 3-1048



3. 試料番号83

No. 622 4F229・230

縄文 深鉢 3-1048



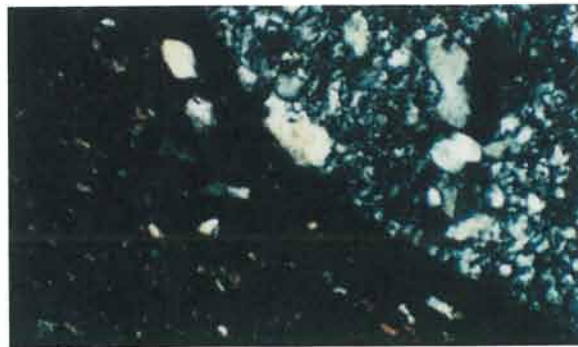
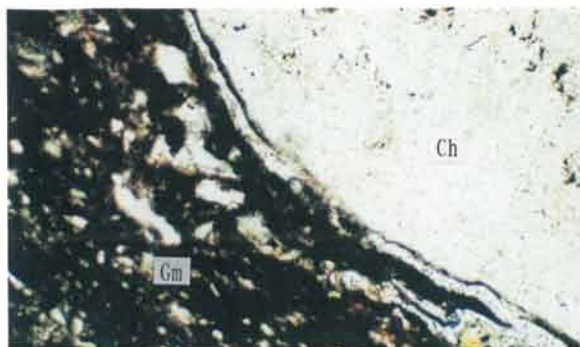
4. 試料番号96

No. 618 4E228 弥生後期 壺 3-1062

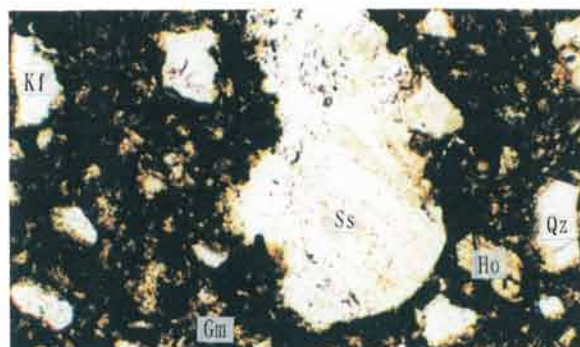
0.1mm

Qz：石英，Kf：カリ長石，Pl：斜長石，Ho：角閃石，Ch：チャート，Sl：粘板岩，Ss：砂岩
Q-s：石英片岩・石英千枚岩，Gm：基質，P：孔隙
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

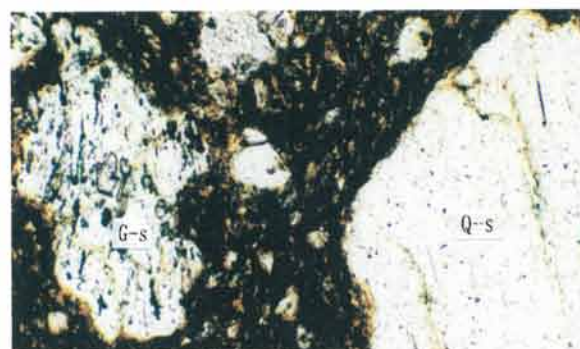
図版6 胎土薄片(2)



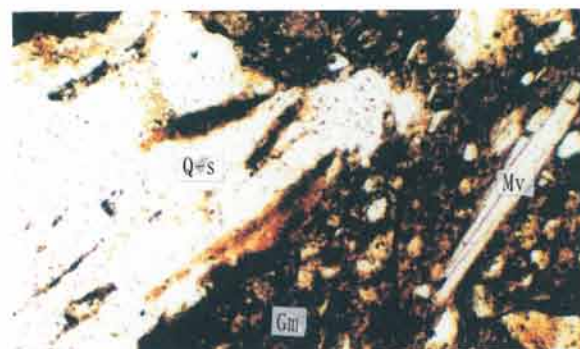
5. 資料番号97 No.618 4D227 弥生後期 甕 3-1075



6. 資料番号98 No.618 4E230 弥生後期 高杯 3-1332



7. 資料番号99 No.619 4J232 庄内 壺 3-1185

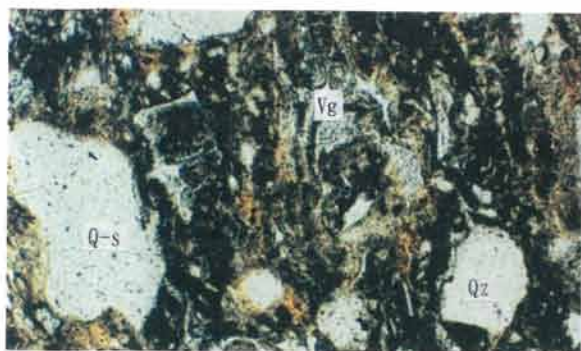


8. 資料番号100 No.619 4J232 庄内 壺 3-1188

0.1mm

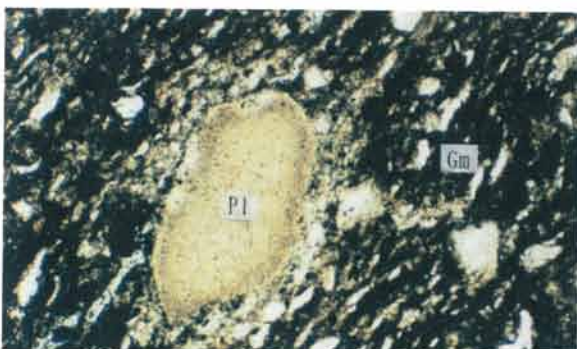
Qz: 石英, Kf: カリ長石, Mv: 白雲母, Ho: 角閃石, Ch: チャート, Ss: 砂岩
Q-s: 石英片岩・石英千枚岩, G-s: 緑色片岩, Gm: 基質。
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

図版7 胎土薄片(3)



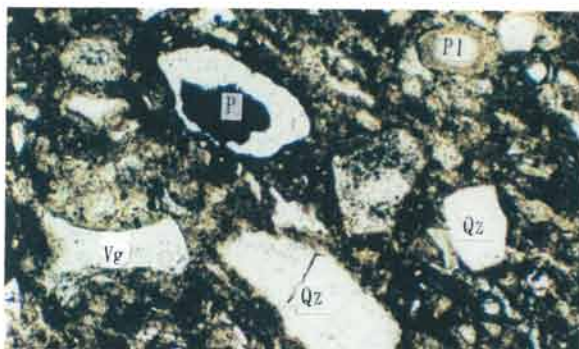
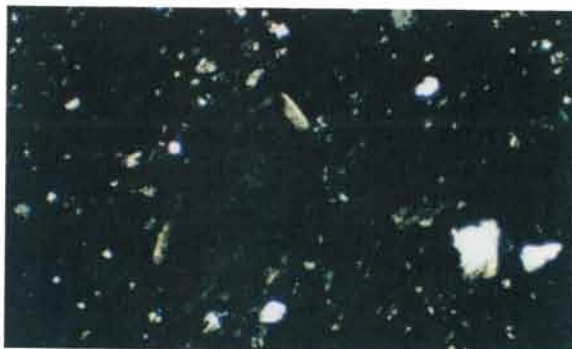
9. 試料番号101

No. 619 4J232 庄内 甕 3-1188



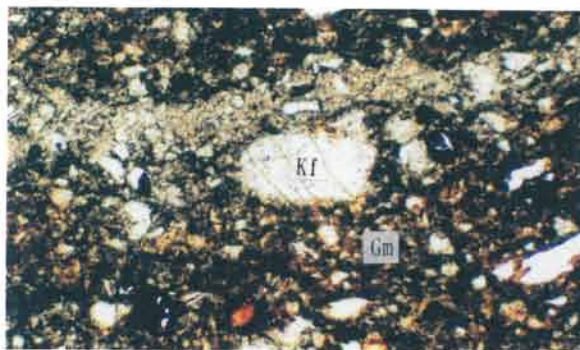
10. 試料番号102

No. 611 4F229 須恵器 甕 3-1016



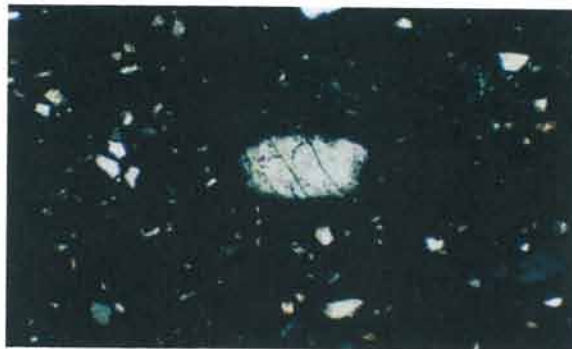
11. 試料番号103

包含層 4J228 第3a層 須恵器 甕 3-1368



12. 試料番号104

包含層 4J228 第3a層 須恵器 杯蓋 3-1368



0.1mm

Qz: 石英, Kf: カリ長石, Pl: 斜長石, Q-s: 石英片岩・石英千枚岩, Gm: 基質
P: 孔隙, Vg: 火山ガラス

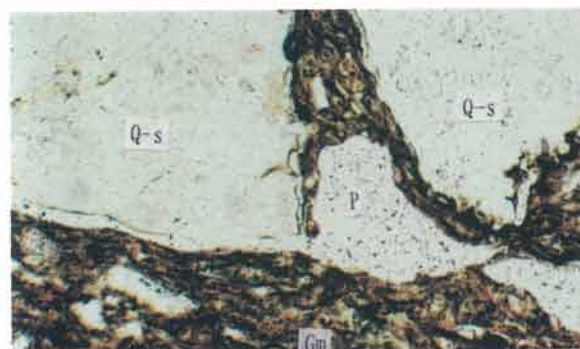
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

図版8 胎土薄片(4)



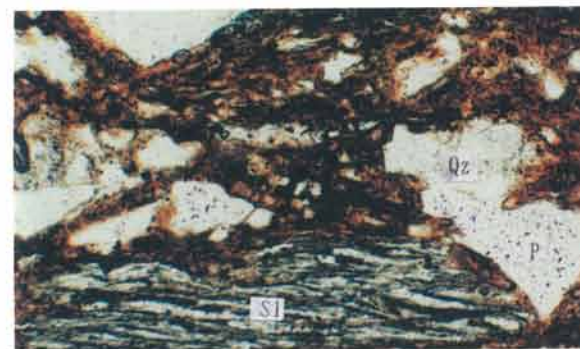
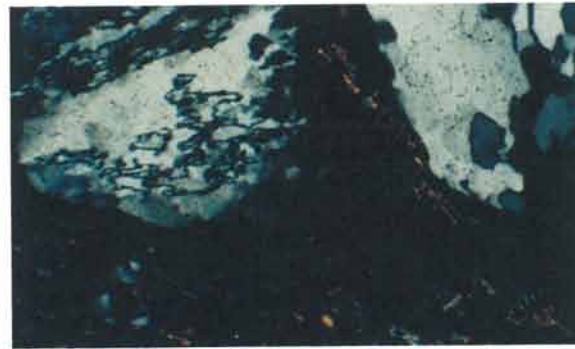
13. 試料番号113

包含層 4G226 第3a層 瓦器 碗 3-1366



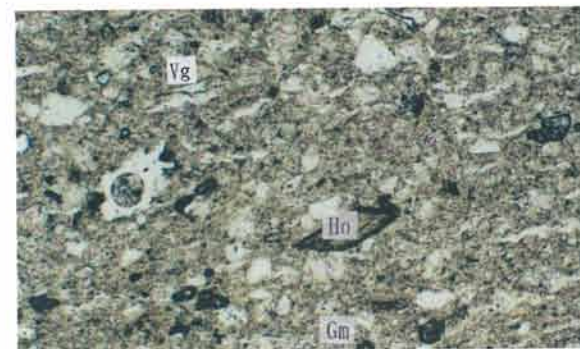
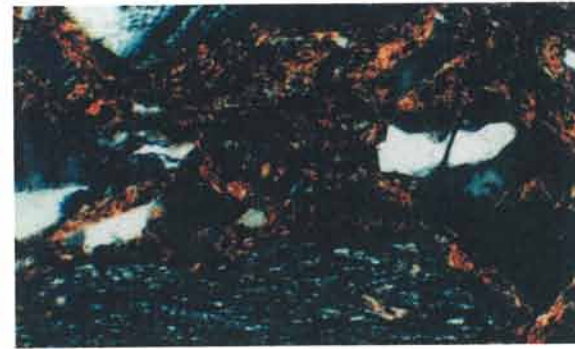
14. 試料番号118

No. 31 1L49 土師器 土釜/尼ヶ辻遺跡 尼-415



15. 試料番号119

No. 31 1L49 土師器 土釜/尼ヶ辻遺跡 尼-415



16. 試料番号120

No. 31 1L49 瓦器 碗/尼ヶ辻遺跡 尼-415

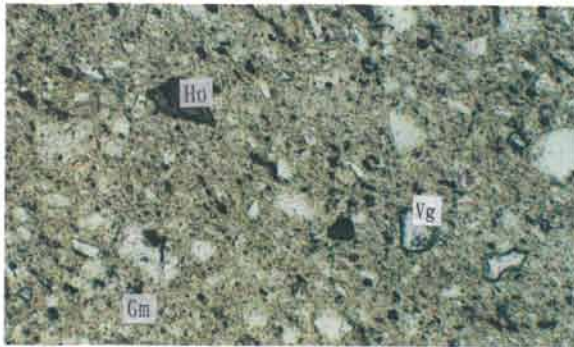


0.1mm

Qz: 石英. Ho: 角閃石. Sl: 粘板岩. Q-s: 石英片岩・石英千枚岩. Gm: 基質. P: 孔隙.
Vg: 火山ガラス

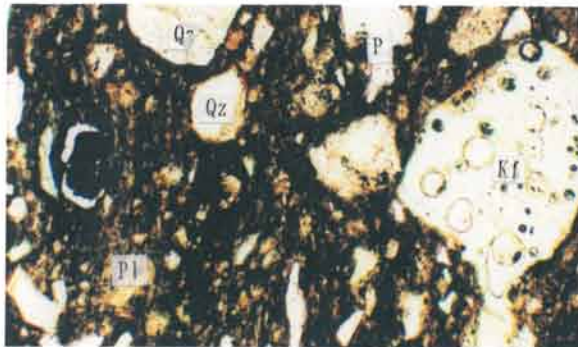
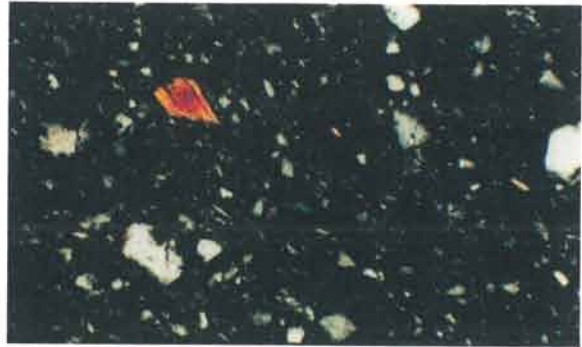
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

図版9 胎土薄片(5)



17. 試料番号121

No. 31 1L49 瓦器 椀／尼ヶ辻遺跡 尼-415



18. 試料番号122

No. 184 1J21 須恵器 甕／尼ヶ辻遺跡 尼-447



0.1mm

Qz：石英. Kf：カリ長石. Pl：斜長石. Ho：角閃石. Gm：基質. P：孔隙. Vg：火山ガラス
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

第2節 荒田遺跡の剥片石器群

1. 整理に当たって

1) はじめに

荒田遺跡は弥生時代中期の遺跡として、非常に多くの剥片石器類が出土した。その数量は剥片・碎片類を含めて約3000点余にのぼる。石器の整理にあたって、二次加工のある石器・石核・剥片類を第一次選択資料として410点選択し、属性表を作成した。さらに、そこから図にするべき剥片石器を資料を125点選択し図化資料とした。

石器の種類は石鏃が最も多く、その他に石錐・尖頭器・石筥様石器・石匙・削器・使用痕剥片・両極石器・両極剥片・石核がある。これらの技術的説明、数量については属性表に記述した。さらに本稿は荒田遺跡の石器群の様相を明らかにするために、石器群の分析を行った。

2) 分析の順序

石器群を分析するには、分析する石器の選択や分析の順序が大切になる。効果的な順序は、最初に二次加工のある石器類をすべて抽出することである。次にその中から明らかに形態的な安定性をもつ示準石器を抽出して、示準石器の加工の技術を明らかにし、素材の技術を明らかにする（属性表を作成する）。次に示準石器以外の石器について、示準石器の加工を基準にしながに残りの石器について属性表を作成する。こうした分析によって、荒田遺跡の石器の加工の様相が明瞭に把握される。

誤解の多くは、人工剥離の種類の理解以前に、石核や剥片から石器を把握しようと試みられるところにある。遺跡のなかで用いられている加工の様相を把握しないで、いきなり出土遺物を観察しても、判断基準がそこにないので、恣意的な分類・その場の印象の分類に終始するだけである。

遺跡は地域と時期が限定されている資料（遺物）が集積している。つまり遺跡は歴史の一部であり、遺物は歴史情報そのものである。ゆえに、具体的な遺物から剥離面の判断基準を求め、その後に蓄積された研究と一般論を羅針盤とし、遺跡や遺物の様相をつかむことが大事な方法である。

3) 剥離技術の属性の吟味

剥離技術の属性で最も重要な属性は工具属性である。工具属性は打点とその付近に顕著に示される。今回の分析では、主に工具とその用い方に重点をおき、示準石器25点について、加工の剥離面について詳細に分析した。その分析は剥離面の顕微鏡写真（低倍率）を観察しながら、剥離の発生要因を力学的に理解し、考古学的に解釈した（CD-ROMに所収）。また、それを基準に410点の一次選択資料を検討し、剥離技術の特定を行い、属性表に記入した。

工具属性の次に重要なのは石材特性である。同じ工具でも石材が違うと、異なる剥離面様相になる。荒田遺跡の場合では、1点の珪岩製石鏃を除き、残りがサヌカイトであったため、石材特性の吟味は捨象した。

2. 加工の種類と法量

荒田遺跡の剥片石器の素材から、その剥片剥離技術を観察すると、直接打撃、間接打撃、押圧剥離の3種類がある。

それぞれの剥離技術はさらに細分される。

1) 直接打撃

荒田遺跡の直接打撃は、通常のハードハンマーの直接打撃(HD)、通常のソフトハンマーの直接打撃、クサビ型の剥離発生部をもつハードハンマーの垂直剥離(H v D)、ハードハンマーの両極剥離の4種類がある。

以上のうち、HDは特に小形の石鏃の素材をつくる直接打撃は両極剥離の技術であるようだ。小形の石鏃には素材面を残すものが少ないので。両極剥片が石鏃の素材となる良好な資料例は発見出来なかった。

2) 間接打撃

間接打撃はソフトハンマーとハードハンマーの2種類がある。ソフトハンマーの間接打撃(SI)は横形石匙の摘みに見られる。ハードハンマーの間接打撃(HI)は石錐の成形加工・刃部加工に主としてみられる。

3) 押圧剥離

押圧剥離は、荒田遺跡の剥片石器の主要な加工である。ソフトハンマーとハードハンマーの2種類に大きくわかれるが、ハンマーの径や素材への当て方によって数種類の押圧剥離の剥離面様相が観察できた。押圧剥離の剥離面様相を把握することが荒田遺跡の剥片石器を理解するうえで最も大切なことである。

4) ハードハンマーによる押圧剥離：

打点付近にコーンが発生する押圧剥離。この遺跡の場合、ハードハンマーでもバルブの発達はほとんどなく、剥離の伸びもよいため、一見するとソフトハンマーの押圧剥離と誤認する可能性がある。しかし、打点付近をよく観察すると、コーンが発生し、短い剥離の場合には末端が階段状に抜けていることがわかった。急角度剥離の場合には、コーンの発達とともにバルブの発達と打点の砕けが生ずる。

5) ソフトハンマーによる押圧剥離：

平らな押圧剥離では打点付近にコーンが発生せず、ほとんどが曲げの剥離となる。バルブは確

認できずに、剥離の末端は厚みをもたずにそのままフェザーエッジとなる。荒田遺跡の場合、径が3・程度のソフトハンマーの打点径が多い。しかし、径が1・未満の細いソフトハンマーの押圧剥離や急角度の押圧剥離ではハードハンマーの押圧剥離と同じ程度のコーンの発達が見られる。

以上を基本として、荒田遺跡には以下のような押圧剥離の種類がみられた。

	剥離の開始部	バルブ様相	末端	稜線	剥離の長さ	側面
HP/平坦・通常	コーンタイプ	やや発達	階段・フェザー	剥離の末端まで立つ場合が多い	器体中央部まで	波打つ
HP/急角度	コーンタイプ	発達	階段・フェザー	剥離の末端まで切り立つ	器体縁まで	大きく波打つ
SP/平坦・通常	曲げのタイプ	なし	フェザー	剥離の末端では消えるような状態	器体中央部をこえる	平ら
SP/急角度	コーンタイプ	やや発達	階段	フェザー	器体縁まで	やや波打つ
N S P	コーンタイプ	やや発達	階段	剥離の末端までやや立つ	器体縁まで	やや波打つ
NSP/急角度	コーンタイプ	やや発達	階段	剥離の末端までやや立つ	器体縁まで	鋸歯状
C P	曲げのタイプ	なし	フェザー	フェザー	器体縁まで	平ら

注意：鋭い縁辺の縁付近にハンマーをあてた場合は、必ずハードハンマーの様相か、不規則な折れ面になる。剥離面の観察は、生きている剥離面を石器の縁辺全体からみつけて判断するべきである。

6) 石器の長さ・幅・厚さ

石器の計測値はミリメートル単位で行った。図のあるものは図面から、図の無いものは手で計測を行った。手計測では1ミリ以内の計測値は捨象し四捨五入した。

石器の「長さ」とは石器の軸の長さのことである。「幅」は長さに直交する石器の線分の最大値である。厚みは側面の最大値である。

石器の軸は石器の図面に準拠している。加工のある石器は「対称軸」を基準とし、剥片は「剥離軸」を基準とした。石核は打面を上置き作業面の水平にしたとき位置を基準とした。

これらの基準は「石器研究法」(竹岡俊樹著 1988 言叢社 東京)に準拠している。

3. 石器の分類と石器群の構造

1) 資料体の分類と石器製作構造表

最初を選択した410点の資料は属性を記述した後に以下のように分類された。

- A：押圧剥離の加工のあるもの：297点
- B：間接打撃及び直接打撃の加工のあるもの：45点
- C：両極打撃のもの：15点
- D：使用痕や不規則剥離のあるもの：10点
- E：剥片：18点
- F：磨製剥片：1点
- G：裂片：18点
- H：石核：6点

以上の分類を石器製作工程と技術の対応関係に割り振った表が石器製作構造表である。この表は荒田遺跡の石器製作の構造を示しているので、表を読むことで遺跡内の石器製作構造がわかる。

石器製作構造表は、石核の構造表と石器（剥片石器）の構造表を分けてつくった。石核は6点の抽出であったので、統計的には参考にしかならないからである。以下にふたつの石器製作構造表を示す。

石核の構造表

	HD	HvD	折取り	III	不明	計
石核成形	4	1	1	0	0	6
剥片剥離	1	0	0	2	3	6

剥片石器の構造表

	HD	HvD	HI	SD	SI	ハンマー・不明間接	不明	HP	SP	CP	折取り	研磨・SP	研磨	なし	計
素材剥離技術	56	52	8	17	1	2	264	0	0	0	0	0	0	0	404
成形加工	26	7	42	6	8	1	0	0	1	0	3	0	0	310	404
整形加工	9	0	12	1	1	0	0	163	131	1	1	1	1	83	404

以上の表からいくつかのことが理解できる。まず石核の成形はかならず行われている。これは実際の遺物を観察するとわかるが、おおむね打面を形成するか、もしくは作業面を限定するための成形加工である。加工の技術はHDが主体である。

また剥片剥離の技術はHDもしくはHIである。

一方、剥片石器の構造表をみると、素材の剥片剥離技術で最も多いのはHDで、次にHvDである。次にSD、HIと続く。石核の構造表と比較するとHDが一致し、その他のものは不一致である。原因は石核の数量に問題があるのであろう。しかし、HDが素材の一般的な剥離技術であることは、ここから理解できる。

またHvD も量的にはHD と同じ程度であるので、主な剥離技術としてカウントしてよいと思われる。

剥片石器の加工工程では、成形加工のないものが310点となり、ほとんどが縁辺だけの整形加工の石器ということがわかる。また整形加工のなかで押圧剥離の加工が295点もあり、荒田遺跡の石器の主な加工は押圧剥離だということが理解できる。その押圧剥離はHPとSPの2種類が同じ程度にある。

以上のことより、荒田遺跡の剥片石器製作構造は、素材剥片の製作技術のHDとHvDの2種類、加工技術にHPとSPの2種類で石器製作の技術が成り立っていることがわかる。次には器種と加工がどのように結びついているのかを分析してみよう。

2) 石器の製作技法（器種と加工の結びつき）

荒田遺跡の剥片石器は、石鏃、石錐、尖頭器、石筥様石器、石匙、削器、使用痕剥片からなる。

石鏃の製作技法

石鏃と整形加工の対応関係を分析するために、「石鏃と整形加工の構造表1」を作成した。

石鏃と整形加工の構造表1：石鏃総点数212点

データの個数:整形加工		石鏃総数:212点													
	鏃	HI/急角度	HP	HP/急角度	HP/鋸歯	NSP	NSP/急角度	SP	SP/急角度	SP/鋸歯	SP・NHP/鋸歯	なし	研磨・SP	不規則NSP	総数
凹	基 鏃		20		5	5		7						1	38
凹	基 鏃 末 製 品				1										1
形 態 不 明	石 鏃		4	1		2		9							16
石 鏃 末 製 品			11	1				4	2			2			20
凸	基 鏃							2							2
部 分 磨 製	石 鏃												1		1
平	基 鏃		3					1							4
平	基 鏃 ?							1							1
有 基 石 鏃		2	37	6	2	2	2	69	3	3	1				127
有 基 石 鏃 末 製 品			1						1						2
総 計		2	76	8	8	9	2	93	6	3	1	2	1	1	212

石鏃と整形加工の構造表2：石鏃総点数125点

	HP	SP	研磨・SP	計
凹 基 鏃	25	13		38
凸 基 鏃		2		2
部 分 磨 製			1	1
平 基 鏃	3	1		4
有 茎 石 鏃	45	80		125
計	73	96	1	170

上記表をみると石鏃の形態と剥離技術に有る程度関係があることがわかる。そこで石鏃について形態の明瞭なものだけを対象にし、剥離技術もHPとSPに単純化した構造表2を作成した。

構造表2にカイ二乗検定を行うと、この表の自由度は8、危険率5%の値は15.49である。そして検定値は183.79となったので、この表は明らかに有意な相関の結果である。

表では有茎石鏃にSPが偏り、凹基鏃はHPとSPの両方で行われていることがわかる。

3) 石錐の製作技法

同じように石錐についても「石錐と整形加工の構造表1」を作成した。それを観察すると、石錐で整形加工がHPのものは61点中44点である。石錐の整形加工は明らかにHPに偏っている。またSPのものは石針と呼称される極細の石錐に限定されていることがわかる。

石錐と整形加工の構造表1：石錐総点数61点

データの個数:整形加工	整形加工											
石 錐	HI	HP	HP/急角度	HP・反方向の剥離	NSP	NSP/急角度	SP/急角度	なし	折取り	折取り・HP	総計	
石 針					1	1	1				3	
石 錐	5	16	24	1	1		4	1	1	2	55	
石錐?			3								3	
総 計	5	16	27	1	2	1	5	1	1	2	61	

3. その他の剥片石器の種類とその製作技法

尖頭器

尖頭器は大形尖頭器と小形尖頭器がある。大形尖頭器は素材剥片をソフトハンマーの直接打撃

(SD)で成形し、縁辺部の厚みをハードハンマーの直接打撃(HD)で除去する整形加工を行っている。中形の尖頭器は素材にじかにハードハンマーの直接打撃で成形・整形加工を行って仕上げている。

石筥様石器

石筥様石器は、東北地方の縄文前期から晩期にかけて出土する石筥に非常に近似する石器である。東北地方の石筥は、硬質頁岩を素材にして両面加工・片面加工など多様な面的加工をもつ一群の石器を総称している。したがって、東日本の「石筥」という石器は、石器の剥離技術から分類された内容ではないので、荒田遺跡の石器と直接比較検討することはできない。しかし経験的にいうならば、荒田遺跡の石筥様石器は、関東でいう加曽利B式以降の石器群に特徴的にともなう「石筥」に近似している石器である。

荒田遺跡の石筥は、棒状の素材をソフトハンマーの直接打撃で成形する石器である。両面加工で素材面をほとんど残さないで、その素材形態と剥離技術は不明である。

横形石匙

横形石匙が3点出土している。挟りをソフトハンマーの間接打撃で形成し、刃部もソフトハンマーの押圧剥離でつくっている。

縦形石匙

その形態は摘みの部分がわずかに残る石器で、摘みのあることに気づかなければ「削器」として分類できる石器である。また縦形石匙に限って「ミニチュア石匙」が出土している。

大形の縦形石匙が1点出土している。ハードハンマーの押圧剥離で側辺の剥離面の縁を整形しているだけの加工である。

使用痕剥片

貝殻状の大形剥片や、折れた剥片の鋭い縁辺を利用して削器のように用いた使用痕剥片がめだつ。3点図化した。使用痕については主にカッティングのとときにつくマイクロフレイク[※](刃こぼれ)が顕著にみられる。

4. 若干の考察

石器組成・構造から見た荒田遺跡(図1, 2)

荒田遺跡では、石鏃の量が多く、また石錐や石筥様石器や石匙、尖頭器などが出土した。これらの石器のうち有茎石鏃は主にソフトハンマーで製作され、凹基鏃はハードハンマーで製作されている。その関係はカイ二乗検定で有意とでた。

そこでハンマーの種類を基準にした石器組成を図にした(図1)。この図1からは、ソフトハンマーでつくられた石器が、関東甲信の縄文時代後期後葉の石器組成、北東北では縄文時代中期後葉

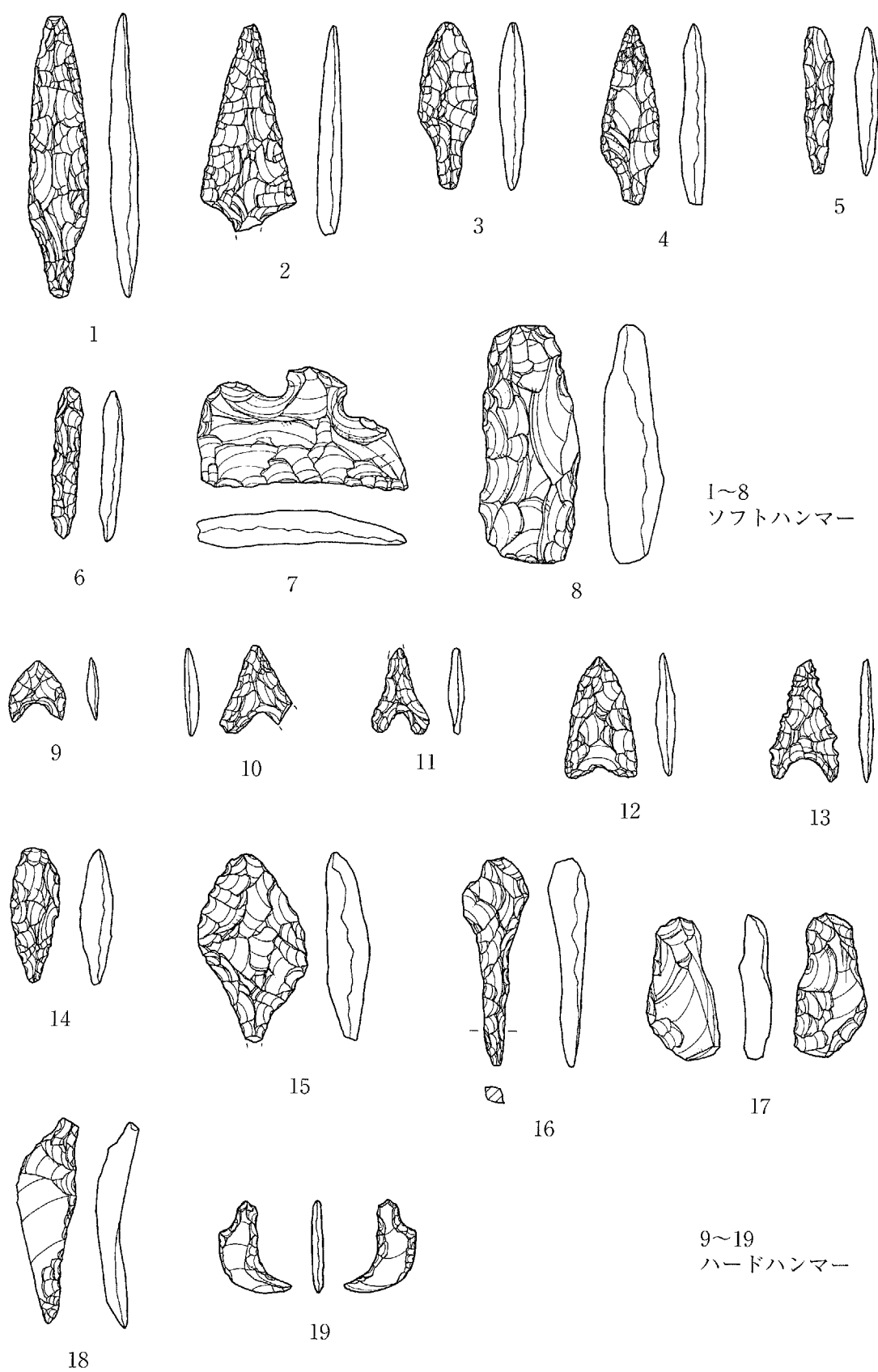


図1 荒田遺跡の石器組成 (1)

からの一般的な石器組成と見間違ふほどである。

さらにハードハンマーの石器組成は関東甲信では縄文時代中期の石器組成に相通じている。

実際にこのような石器組成・石器製作構造をもつ遺跡は、関東甲信の縄文時代後期後葉に多い。具体的には、栃木県宇都宮市の「八剣遺跡」（栃木県埋蔵文化財センター 2001）の石器群と比較するならば、図1の石器組成は八剣遺跡の縄文後期後葉、つまり在地の系統をひく土器に加曾利B式土器が加わった時期の石器組成に見目で酷似しているばかりでなく石器製作構造がほとんど同じである。荒田遺跡の場合は北関東とは石材が違うし、おそらくハンマーの種類も異なるだろうが、石器組成・製作構造の相同性は、それらの違いをこえていると、判断できる。

そして、こうした縄文的な剥片石器の内容に、東日本の縄文時代にみられない大形の貝殻状剥片の刃器（図2や、石匙を模したような刃器石包丁や柱状片刃石斧などの縄文文化にはない磨製石器がともなっている。この種の石器を出土する遺跡は東海の弥生時代中期の山間部にごくまれにもある（「川原遺跡」愛知県埋蔵文化財センター 2001.）

以上が荒田遺跡の石器文化なのである。時代を縄文時代と弥生時代というように土器で区分する方法とは異なるものが、石器でみえてくるのではなからうか。

今後の資料の蓄積がまたれる。

（株式会社アルカ：角張 淳一）

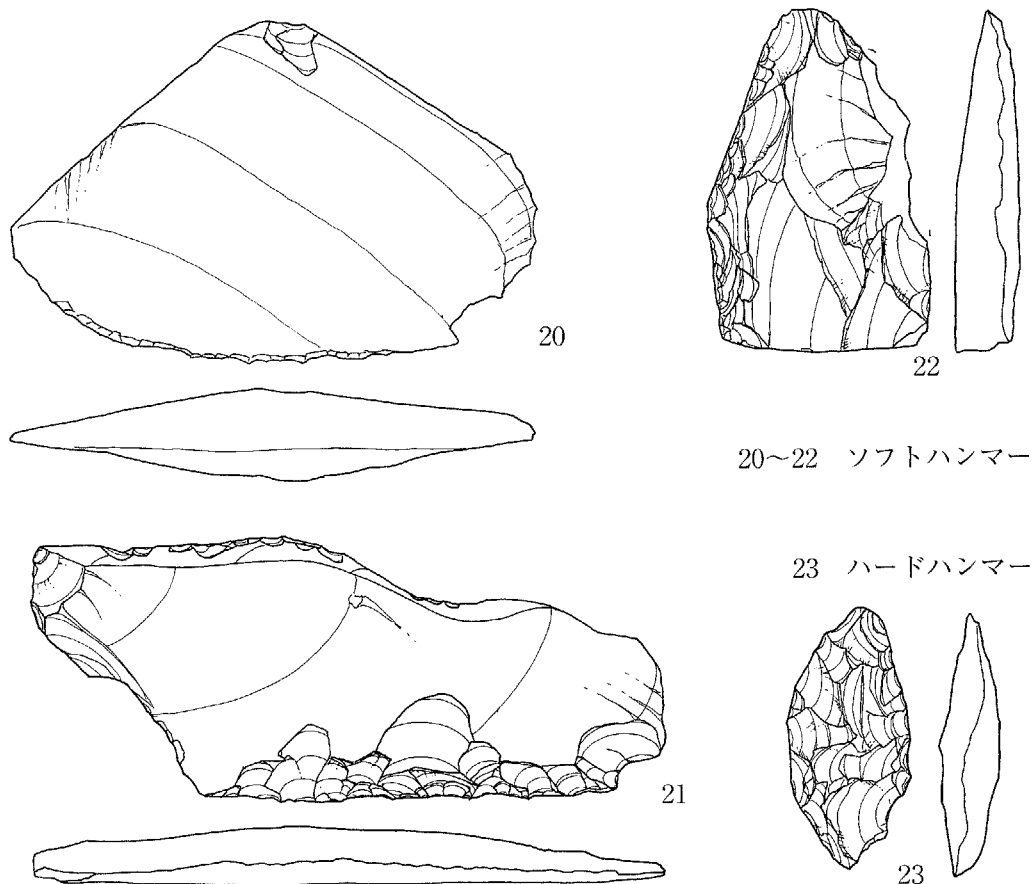


図2 荒田遺跡の石器組成 (2)

S	区	地区	遺構等	石材	器種	整形加工	成形加工	素材技術	素材形態	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	所 見
1	B		排土中	サスカイ	有茎石鏃	SP	なし	不明	不明	47.9	13.9	8.2	真中の稜がやや磨耗
2	B3	1Z167	3層	サスカイ	有茎石鏃	SP	なし	不明	不明	41.8	14.1	7.7	
3	B3	2C167	5層	サスカイ	有茎石鏃	SP/鋸歯	SP	不明	不明	31.5	12.5	6.4	n HPで縁辺を鋸歯状に加工
4	B		排土中	サスカイ	有茎石鏃	SP	なし	不明	不明	35.8	12.6	5.0	
5	B3	2A166	4層	サスカイ	有茎石鏃	HP	なし	不明	不明	29.0	12.0	7.9	
6	B3	2C171	4層	サスカイ	有茎石鏃	SP	なし	不明	横長剥片	34.4	11.2	4.9	
7	B1	2A162	5層	サスカイ	有茎石鏃	HP	なし	不明	不明	41.6	13.8	5.0	
8	B3	2D170	6層	サスカイ	有茎石鏃	HP/鋸歯	なし	不明	不明	34.6	11.8	6.3	
9	B1	1V159	B142	サスカイ	有茎石鏃	SP	なし	不明	不明	49.5	16.7	6.7	
10	B1	1U159	B161	サスカイ	有茎石鏃	SP	なし	不明	不明	36.8	15.6	6.5	右側縁の縁辺は潰れている
11	B3	1X165	B234	サスカイ	有茎石鏃	HP	なし	不明	不明	30.9	15.1	4.3	素材はHB
12	B3	2C170	6層	サスカイ	有茎石鏃	HP	なし	HD	横長剥片	31.7	16.5	5.8	
13	B3	2F169	6層	サスカイ	有茎石鏃	SP	なし	不明	不明	29.3	17.9	5.0	
14	B3	2D169	6層	サスカイ	有茎石鏃	SP	なし	不明	不明	27.7	15.5	4.8	
15	B1	1V159	B142	サスカイ	有茎石鏃	SP	なし	不明	不明	32.8	15.6	5.3	
16	B3	2E168	6層	サスカイ	有茎石鏃	SP	なし	不明	不明	38.1	18.2	5.9	
17	B3	2C167	5層	サスカイ	有茎石鏃	SP	なし	不明	不明	29.8	24.4	5.4	
18	B3	2A167	3層	サスカイ	有茎石鏃	HP/急角度	なし	不明	横長剥片	36.6	15.7	7.1	未製品
19	B1	1W159	137	サスカイ	有茎石鏃	SP	なし	不明	不明	26.2	15.0	5.8	茎部の縁辺に磨耗
20	B3	2B168	6層	サスカイ	有茎石鏃	SP	なし	不明	不明	32.8	16.4	4.7	
21	B3	2C168	6-2層	サスカイ	形態不明石鏃	SP	なし	不明	不明	31.0	20.6	6.5	
22	B		攪乱	珪岩	有茎石鏃	SP	なし	不明	不明	44.7	14.6	6.8	細いソフトハンマー。先端付近に磨耗
23	B3-E		3層	サスカイ	形態不明石鏃	SP	なし	不明	不明	35.5	11.1	7.3	
24	B3-E			サスカイ	有茎石鏃	SP	なし	不明	不明	41.2	15.2	5.7	
25	B3-E		5層	サスカイ	有茎石鏃	HP	なし	不明	不明	45.2	13.2	7.4	
26	A8	A501 3層		サスカイ	部分磨製石鏃	研磨・SP	なし	不明	不明	39.6	14.4	5.8	先端の両側面に研磨痕
27	A	機械掘削		サスカイ	有茎石鏃	HP	なし	不明	不明	31.3	10.5	6.0	
28	B3-E	4層		サスカイ	有茎石鏃	SP	なし	不明	不明	52.0	24.1	6.2	細いソフトハンマー。
29	A5	A559	4層	サスカイ	有茎石鏃	HP	なし	不明	不明	41.4	15.1	6.1	
30	A5		4層	サスカイ	有茎石鏃	SP/鋸歯	なし	不明	不明	44.1	20.1	6.0	n SPで縁辺を鋸歯状に加工
31	B1-N		4層	サスカイ	有茎石鏃	HP/鋸歯	なし	不明	不明	26.3	20.4	7.5	n HPで縁辺を鋸歯状に加工
32	試掘	10Tr.		サスカイ	有茎石鏃	SP	なし	不明	不明	40.0	18.1	7.5	
33	D18	D802		サスカイ	有茎石鏃	SP	なし	不明	不明	49.4	19.4	6.3	細いソフトハンマー。
34	C15	4層		サスカイ	有茎石鏃	HP	なし	不明	不明	45.8	22.9	6.4	
35	C14	側溝		サスカイ	有茎石鏃	SP	なし	不明	不明	38.8	19.9	6.8	
36	C15	4層		サスカイ	有茎石鏃	SP/鋸歯	なし	不明	不明	34.4	19.1	6.3	n SPで縁辺を鋸歯状に加工
37	C15	4層		サスカイ	有茎石鏃	HP	なし	不明	不明	39.4	16.4	5.2	
38	C14	4層		サスカイ	有茎石鏃	SP	なし	不明	不明	38.8	20.4	7.6	先端に磨耗
39	C15	4層		サスカイ	有茎石鏃	SP	なし	不明	不明	41.6	14.9	6.9	
40	C14	3層		サスカイ	有茎石鏃	SP	なし	不明	不明	40.1	14.8	7.5	
41	C14	C735		サスカイ	有茎石鏃	SP	なし	不明	不明	70.4	15.1	7.5	細いソフトハンマー。
42	C16	3層		サスカイ	有茎石鏃	SP/急角度	なし	不明	不明	30.8	15.8	6.6	素材は両極剥片剥片か
43	C14	3層		サスカイ	有茎石鏃	SP	なし	不明	不明	32.6	12.7	4.5	
44	C15	3層		サスカイ	有茎石鏃	SP/急角度	なし	不明	不明	30.5	11.5	4.7	細いソフトハンマー。
45	C14	3層		サスカイ	有茎石鏃	HP	なし	不明	不明	36.6	13.5	5.5	
46	C14	3層		サスカイ	有茎石鏃	SP	なし	不明	不明	44.0	12.9	7.1	n SPで縁辺を鋸歯状に加工
47	C14	3層		サスカイ	有茎石鏃	SP	なし	不明	不明	41.8	12.7	7.6	細いソフトハンマー。
48	C15	4層		サスカイ	有茎石鏃	HP	なし	不明	不明	45.7	15.0	10.5	未製品
49	C15	4層		サスカイ	有茎石鏃	HP	なし	不明	縦長剥片	45.3	22.9	10.0	
50	C14	4層		サスカイ	凸基鏃	SP	なし	不明	不明	28.9	20.4	4.6	不規則な加工。CPの可能性もあり。

S	区	地区	遺構等	石材	器種	整形加工	成形加工	素材技術	素材形態	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	所見
51	B2	1T161	3層	サヌカ石	凹基鉢	SP	なし	不明	不明	14.9	14.2	3.6	
52	B3	2A167	B25	サヌカ石	凹基鉢	HP/鋸歯	なし	不明	不明	23.6	14.7	3.9	n HPで縁辺を鋸歯状に加工
53	B3	2B166		サヌカ石	凹基鉢	HP	なし	不明	不明	18.4	12.5	3.9	
54	B3	2D170	6層	サヌカ石	凹基鉢	SP	なし	不明	不明	21.4	14.3	4.2	
55	B3-M		4層	サヌカ石	凹基鉢	HP/鋸歯	なし	不明	不明	15.9	16.4	3.8	n HPで縁辺を鋸歯状に加工
56	B1	1V158	B131	サヌカ石	凹基鉢	HP	なし	不明	不明	30.0	18.1	5.3	
57	B1	1U159	4層	サヌカ石	凹基鉢	HP	なし	不明	不明	27.3	17.5	5.2	
58	B3	2B167	6層	サヌカ石	凹基鉢	SP	なし	不明	不明	31.1	22.4	4.2	
59	B3	2C166	6層	サヌカ石	凹基鉢	HP/鋸歯	なし	不明	縦長剥片	29.8	17.1	3.8	n HPで縁辺を鋸歯状に加工
60	B3	2C168	6層	サヌカ石	凹基鉢	HP	なし	不明	不明	31.4	18.7	4.8	
61	B3-M		6層	サヌカ石	凹基鉢	HP/鋸歯	なし	不明	不明	28.2	17.6	3.9	n HPで縁辺を鋸歯状に加工
62	B3-M		4層	サヌカ石	凹基鉢	HP/鋸歯	なし	不明	不明	27.0	16.7	3.9	n HPで縁辺を鋸歯状に加工
63	B2-N		B315	サヌカ石	凹基鉢	HP	なし	不明	不明	32.6	27.3	8.2	未製品か
64	A6		A513	サヌカ石	凹基鉢	HP	なし	不明	不明	26.1	14.7	4.0	
65	C16		3層	下呂石	凹基鉢	SP	なし	不明	不明	21.9	18.6	4.5	
66	A6		3層	サヌカ石	凹基鉢	HP	なし	不明	不明	30.0	15.5	5.5	
67	C15		3層	サヌカ石	凹基鉢	HP	なし	不明	不明	21.6	18.3	3.8	
68	C15		3層	サヌカ石	凹基鉢	HP/鋸歯	なし	不明	不明	21.5	19.1	3.9	
69	C14		3層	サヌカ石	凹基鉢	HP	なし	不明	不明	33.6	19.5	4.2	
70	C14		3層	縹吹岩	凹基鉢	HP	なし	不明	不明	17.4	13.2	3.6	
71	C15		1層	サヌカ石	凹基鉢	HP	なし	不明	不明	23.4	14.9	4.0	
72	C15		1層	サヌカ石	凹基鉢	HP	なし	不明	不明	29.6	15.8	5.7	
73	C14		3層	サヌカ石	凹基鉢?	SP	なし	不明	不明	25.7	16.3	3.7	
74	C16		3層	サヌカ石	平基鉢	HP	なし	不明	不明	26.7	18.4	4.2	素材は両極剥片
75	B1	1Z163	3層	サヌカ石	縦形石匙	SP	なし	不明	縦長剥片	50.9	14.9	9.7	模造品
76	B3	2C172	4層	サヌカ石	石鉢	HP	HI	不明	不明	49.6	19.3	13.5	錐部に磨耗
77	B3	2B166	5層	サヌカ石	有蓋石鉢未製品	HP	HI	HD	縦長剥片	53.6	15.2	10.3	未製品
78	B3	2A168	5層	サヌカ石	石鉢	HP/急	HI	不明	不明	35.8	16.1	11.4	細いソフトハンマー。
79	B		機械掘削	サヌカ石	有蓋石鉢未製品	SP/急角度	なし	不明	縦長剥片	42.4	10.5	7.6	
80	B3	2B168	5層	サヌカ石	石鉢	HP/急	HI	不明	不明	50.2	10.8	9.2	
81	B1	1U156	7層	サヌカ石	石鉢	HP/急	なし	不明	不明	40.9	18.6	9.5	錐部に磨耗
82	B3	2B168	B24	サヌカ石	石鉢	HP/急	なし	不明	不明	26.4	13.3	7.6	錐部と上部に磨耗
83	B3	2A166	5層	サヌカ石	石鉢	HP	なし	不明	不明	33.2	12.3	8.3	
84	B3	2B165	6-2層	サヌカ石	石鉢	HI	なし	HvD	両極石器	42.3	15.0	11.5	上部と下部に磨耗
85	B1	1U158	B64	サヌカ石	石鉢	HP/急角度	なし	HI	縦長剥片	25.5	11.4	4.5	素材は両極剥片
86	B3	2C168	5層	サヌカ石	石鉢	HP/急角度	なし	不明	不明	34.1	9.1	7.9	
87	B3	2C169	6層	サヌカ石	横形石匙	SP	SD	不明	不明	31.5	26.5	7.4	摘みを加工。半面加工。
88	B3-M		5層	サヌカ石	有蓋石鉢	HI/急角度	なし	不明	不明	71.9	13.1	11.6	未製品か
89	B1-N		4層	サヌカ石	尖頭器	HP/急角度	なし	HvD	縦長剥片	49.6	16.5	7.6	
90	B3-E		3層	サヌカ石	石鉢	HP/急	なし	不明	不明	34.4	16.1	8.0	細いハードハンマー。
91	B3-E		4層	サヌカ石	石鉢	HP/急	HI	HD	横長剥片	46.4	26.7	10.7	
92	B5	IN153	攪乱	サヌカ石	形態不明石鉢	HP/急	HI	不明	不明	42.9	20.3	8.3	
93	C15		4層	サヌカ石	石鉢	HP/急	なし	不明	不明	50.0	10.8	6.8	
94	C15		4層	サヌカ石	石鉢	HP/急	HI	不明	不明	51.3	16.2	10.2	摘みの成形加工はHI
95	C14		C740	サヌカ石	石針	SP/急	なし	不明	不明	37.2	6.8	5.8	
96	C14		4層	サヌカ石	石針	SP/急	なし	不明	不明	36.8	8.1	6.5	
97	C14		4層	サヌカ石	石鉢	HP/急	HI	不明	不明	44.2	12.8	9.2	
98	C14		C774	サヌカ石	石鉢?	HP/急	HI	HD	横長剥片	35.7	21.2	8.7	錐部に磨耗
99	C14		C735	サヌカ石	石鉢	HP/急角度	HI	HD	横長剥片	47.2	19.7	10.9	
100	C14		4層	サヌカ石	有蓋石鉢	HP/急	HI	不明	不明	43.9	14.7	10.3	未製品

S	区	地区	遺構等	石材	器種	整形加工	成形加工	素材技術	素材形態	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	所見
101	C16		3層	サスカ石	石錐	HP/急	HI	不明	不明	37.1	15.1	9.0	錐部に磨耗
102	C14		4層	サスカ石	石錐	HP/急	HI	HD	横長剥片	33.1	21.3	7.6	
103	B3	2D170	5層	サスカ石	縦形石匙	HP	なし	不明	裂片	20.0	9.3	2.6	縦形石匙の模造品
104	C14	2N179	4層	サスカ石	横形石匙	SP	SI	SD	横長剥片	36.4	31.8	6.8	
105	C	機械掘削		サスカ石	横形石匙	SP	SI	SD	横長剥片	30.1	52.2	9.7	
106	B3	2B166	5層	サスカ石	縦形石匙	HP	HI	HD	縦長剥片	35.7	18.5	8.0	
107	B1	1U158	B118	サスカ石	横形石匙	HP/急角度	なし	不明	裂片	31.8	46.2	7.5	摘みだけをつけている模造品
108	C14		4層	サスカ石	縦形石匙	HP	なし	不明	剥片	22.9	17.9	3.2	縦形石匙の模造品
109	B3	2D170	5層?	サスカ石	尖頭器	HP/急角度	なし	不明	縦長剥片	27.2	11.9	4.4	尖頭器模造品
110	B3	1Z167	6層	サスカ石	石錐	HP/急角度	なし	不明	縦長剥片	31.4	14.1	4.7	石錐模造品
111	E11		3a層	サスカ石	石錐	HP/急角度	なし	不明	縦長剥片	26.1	17.8	6.7	
112	C15		4層	サスカ石	横形石匙	HP	HI	HD	横長剥片	37.0	29.6	11.0	
113	B3-M		S、ベルト	サスカ石	縦形石匙	HP	HD	不明	横長剥片	52.8	24.1	11.1	
114	B3	2C166	6層	サスカ石	石筥様石器	なし	SD	不明	不明	49.2	21.6	8.7	
115	B1	1T158	3層	サスカ石	石筥様石器	なし	SD	不明	不明	59.5	25.7	15.1	
116	C15		4層	サスカ石	小形尖頭器	なし	HD	不明	不明	64.6	34.9	14.3	
117	C14		3層	サスカ石	小形尖頭器	なし	HD	HD	横長剥片	64.2	27.7	12.5	
118	B3	2C166	6層	サスカ石	小形尖頭器	なし	HD	HD	横長剥片				
119	B3	2A168	6層	サスカ石	小形尖頭器	なし	SD	HD	横長剥片	58.2	32.2	10.2	
120	B3	2C170	5層	サスカ石	大形尖頭器	SD	HD	不明	横長剥片	68.5	45.2	13.3	
121	B3	2B168	6層	サスカ石	使用痕剥片	なし	なし	HD	剥片	40.5	50.1	10.7	
122	B3	2D170	4層	サスカ石	使用痕剥片	なし	なし	HD	剥片	45.4	56.6	13.3	
123	C14		4層	サスカ石	使用痕剥片	なし	なし	HD	剥片	48.2	65.3	12.7	
124	A6		4層	サスカ石	横形石匙	SP	なし	SD	剥片	126.9	53.5	11.5	細いソフトハンマー
125	A8		撿乱	サスカ石	使用痕剥片	なし	なし	HD	剥片	68.1	105.9	18.3	
126	B3	2A167	6層	緑色片岩	石包丁(未成品)			不明	不明	141.6	72.1	24.5	周縁をHDで調整
127	B3	2A167	6層	緑色片岩	石包丁(未成品)			不明	不明	156.8	74.4	12.2	周縁をHDで調整
128	A5		A559	緑色片岩	石包丁	研磨		不明	不明	50.5	89.2	8.2	1/2欠損、画面から穿孔
129	A5		A559	緑色片岩	石包丁	研磨		不明	不明	42.1	94.9	7.5	1/3欠損、画面から穿孔、穿孔部に紐ズレ痕
130	B3	2B168	6層	緑色片岩	石包丁	研磨		不明	不明	42.7	83.5	8.9	1/2欠損、画面から穿孔
131	B3	2C169	5層	緑色片岩	石包丁	研磨		不明	不明	44.4	95.4	8.7	左側わずかに欠損、画面から穿孔、穿孔部に紐ズレ痕
132	B3	2C168	5層	緑色片岩	石包丁	研磨		不明	不明	38.4	104.7	10.5	左側わずかに欠損、画面から穿孔、穿孔部に紐ズレ痕
133	B3	2C170	6層	緑色片岩	石包丁	研磨		不明	不明	116.3	41.3	8.4	画面から穿孔、穿孔部に紐ズレ痕
134	B3	2A168	6層	緑色片岩	大形石包丁	研磨		不明	不明	71.8	100.6	9.5	破損激しい、画面から穿孔
135	A6		2層	緑色片岩	柱状片刃石斧	研磨		不明	不明	54.6	14.6	10.1	小形
136	B1	1T158	3層	緑色片岩	抉入柱状片刃石斧	研磨		不明	不明	79.8	30.5	29.9	挟り部は浅い
137	B1	1Y162	1層	緑色片岩	柱状片刃石斧	研磨		不明	不明	75.0	23.0	15.4	刃部わずかに欠損
138	A5		側溝	緑色片岩	柱状片刃石斧	研磨		不明	不明	91.2	21.8	46.4	基部欠損
139	E11		4c層	頁岩	切目石錐	擦切り		不明	不明	59.0	23.5	13.5	長楕円礫を素材に両端部に研磨により切目を入れる
140	B1	1S159	4層	頁岩	打欠石錐	HD		不明	不明	93.6	32.7	15.2	長楕円礫を素材に両端部にHDで挟り部を作出
141	B3-E	2G169	4層	砂岩	打欠石錐	HD		不明	不明	103.0	64.0	25.2	長楕円礫を素材に両端部にHDで挟り部を作出
142	B3	2E169	5層	砂岩	石錐			不明	不明	138.4	102.7	21.0	扁平礫を直接使用、屈曲部にわずかに磨耗
143	B1	1U161	B141	緑色片岩	石棒?			不明	不明	94.0	32.9	15.8	磨耗顕著、素材は棒状礫
144	B		側溝	緑色片岩	石棒?			不明	不明	201.2	39.5	23.9	磨耗顕著、素材は棒状礫
145	B3-M		6層	緑色片岩	石棒			不明	不明	178.1	78.0	52.4	表面に敲打によりくぼみ
146	B1	1U156	3層	凝灰岩	敲石			不明	不明	123.0	53.9	43.8	長楕円礫を素材に上下表裏側面に敲打痕
147	B1	1U159	B161	珪岩	敲石			不明	不明	58.8	59.3	24.8	扁平礫を素材に端部に敲打痕
148	C14	2O179	C762	砂岩	砥石			不明	不明	141.9	155.8	24.9	表裏に砥面、表面に溝状の砥面

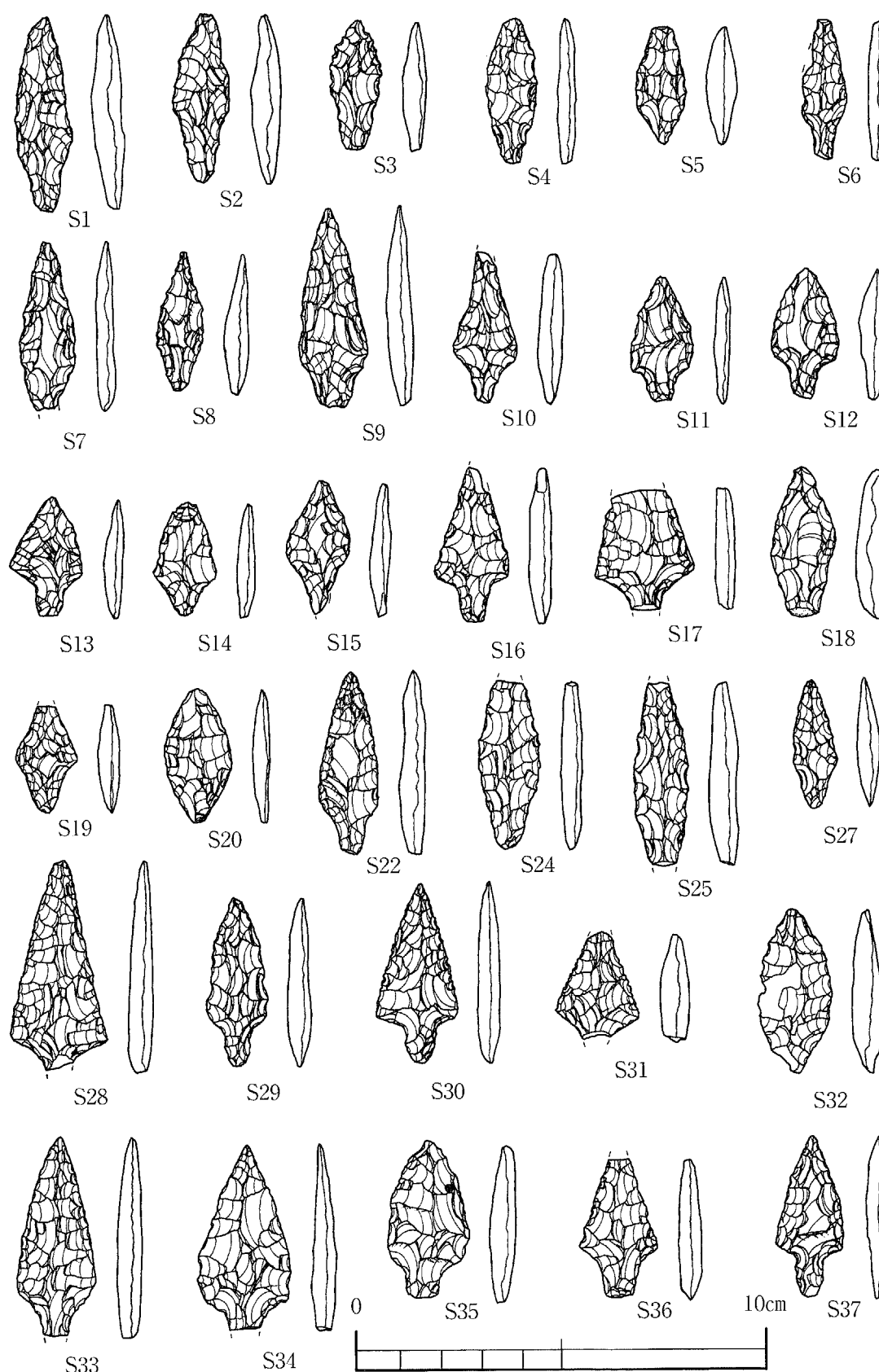


図3 石器実測図

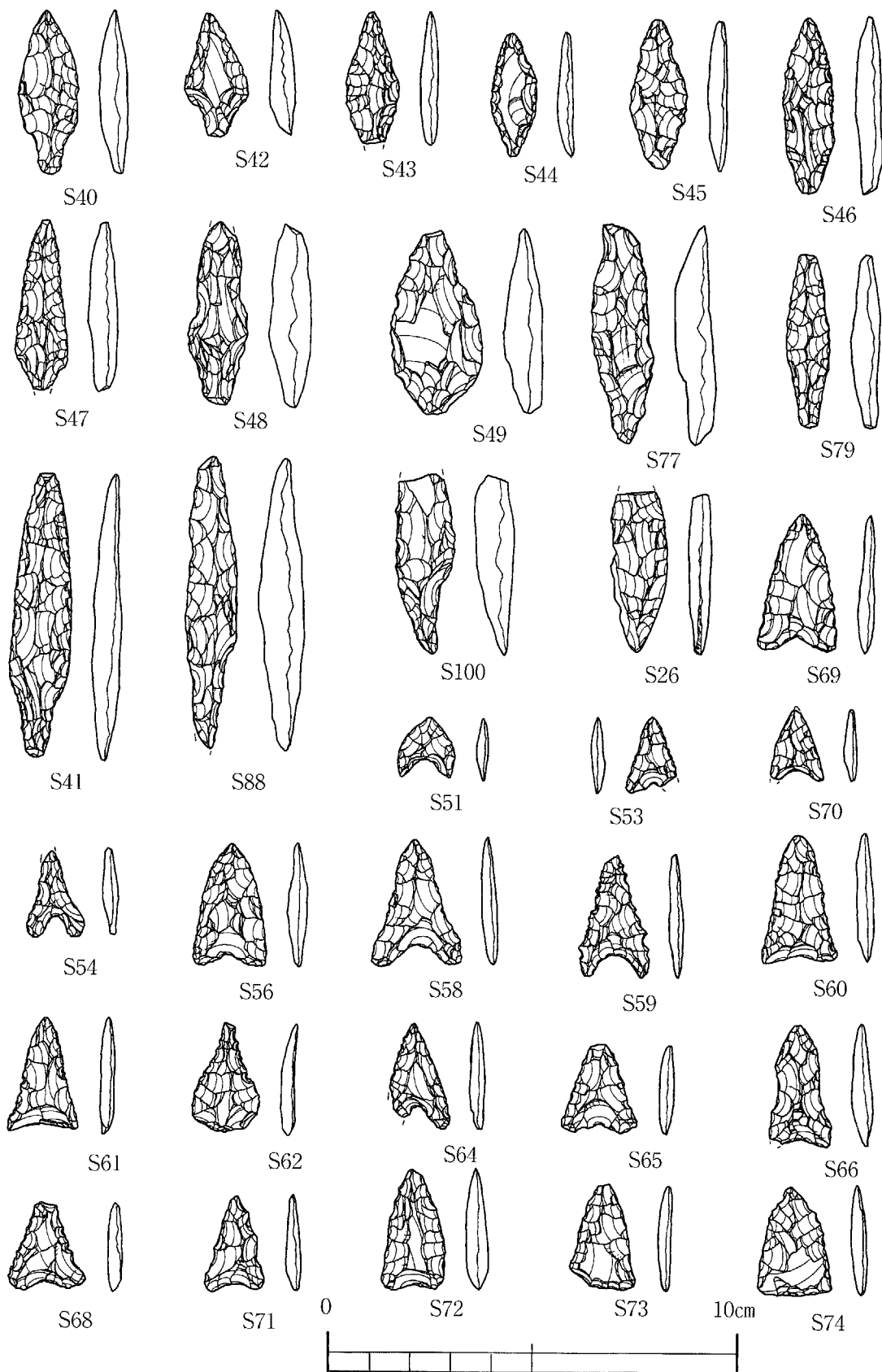


図4 石器実測図

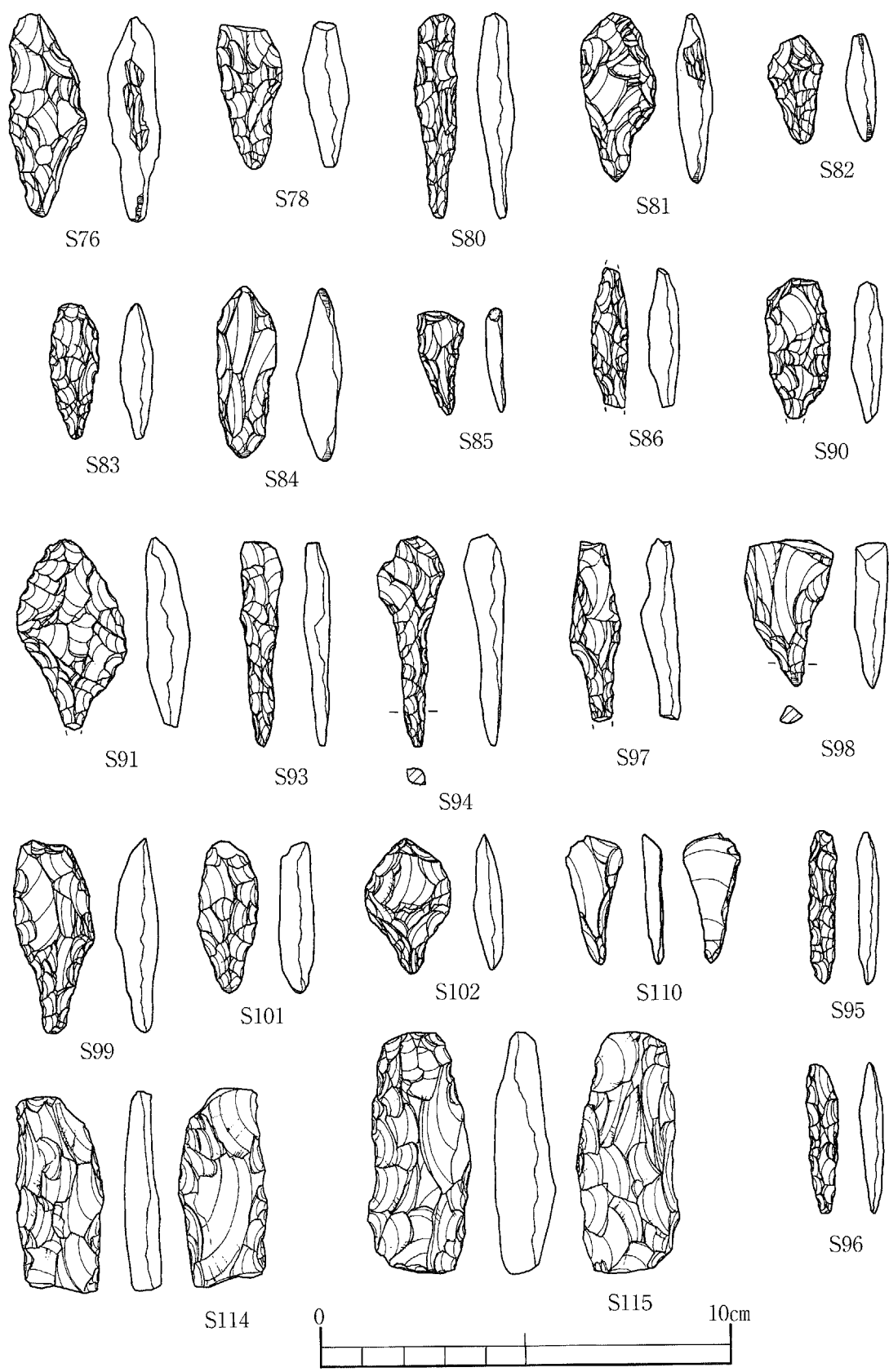


図 5 石器実測図

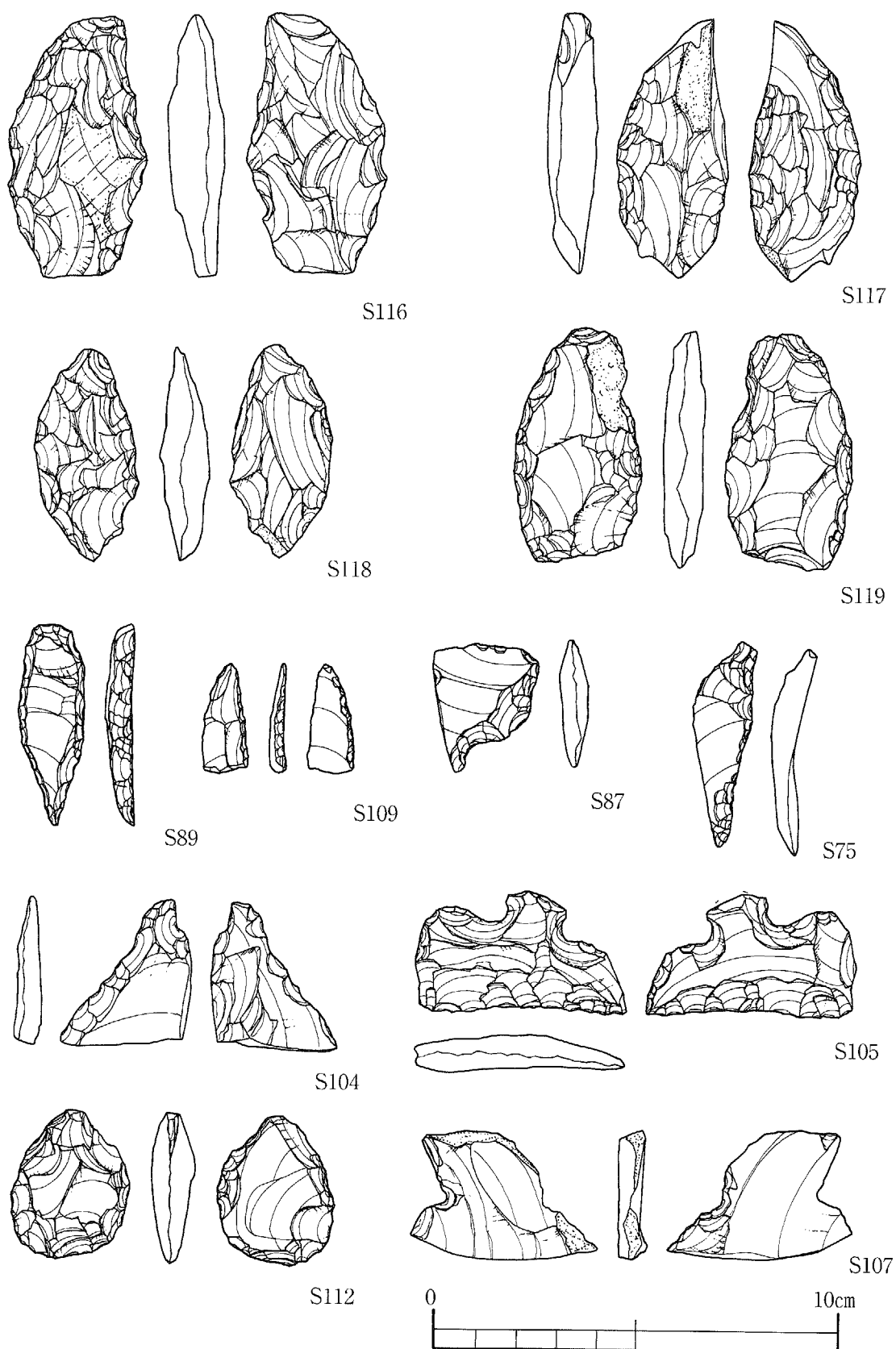


図6 石器実測図

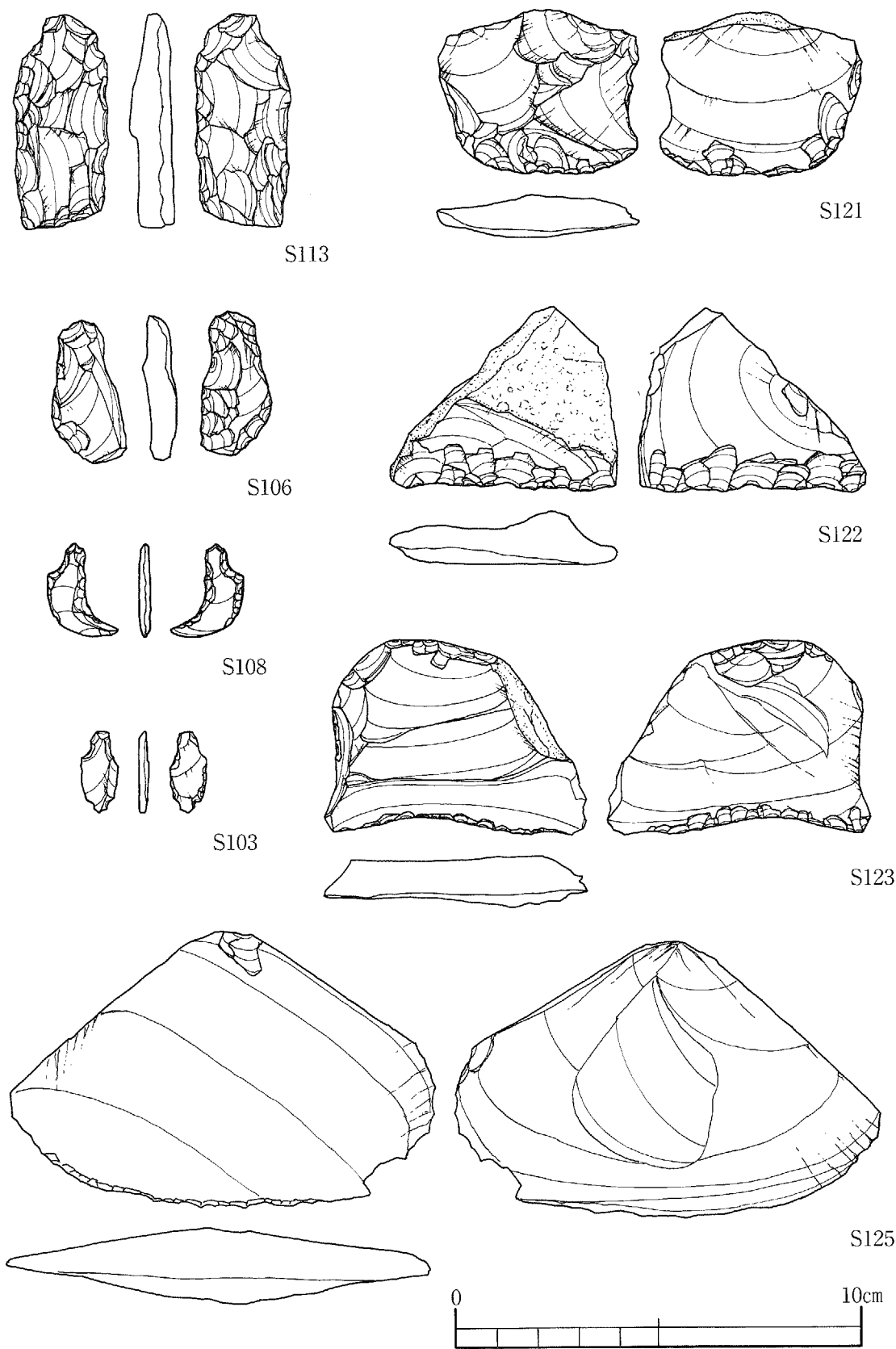
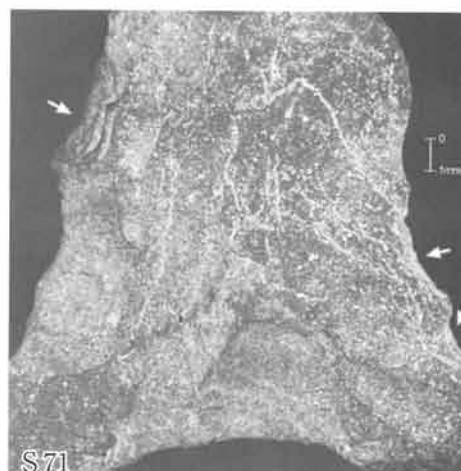
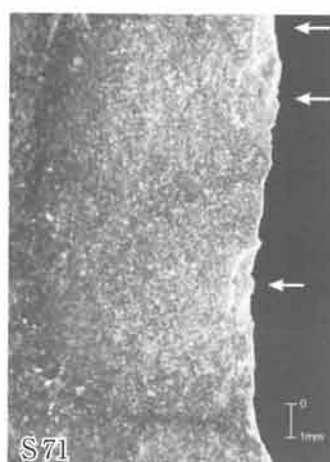
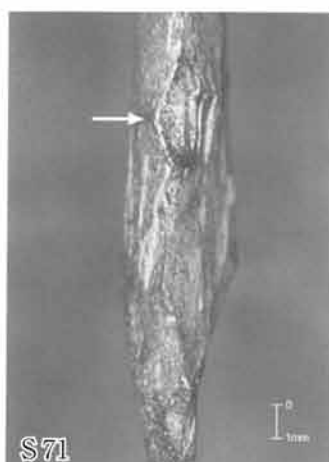
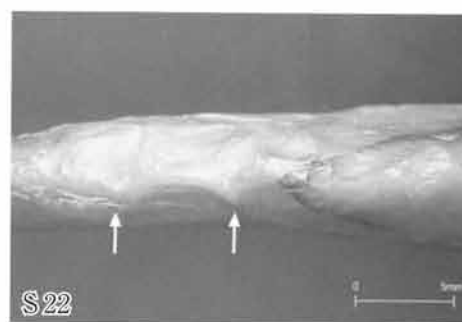
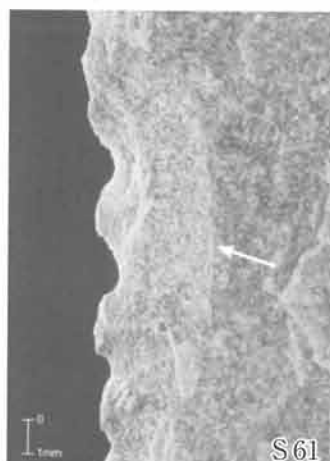
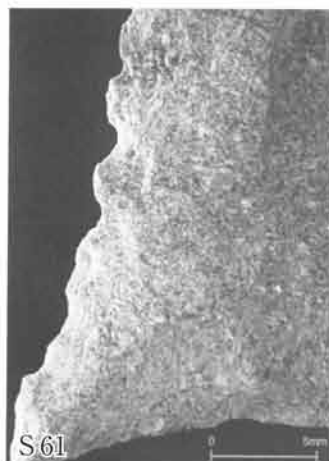
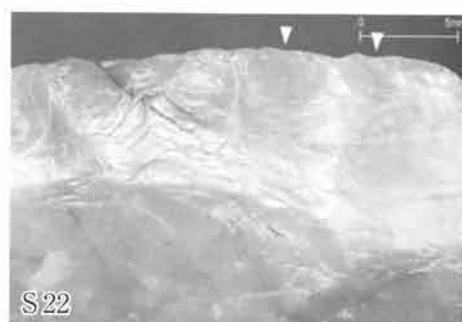
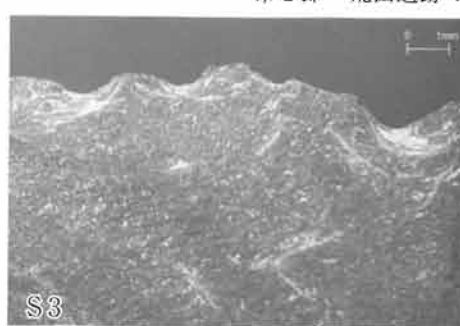
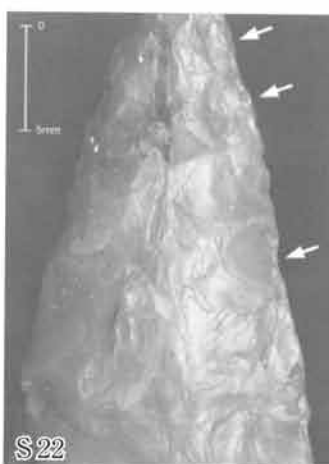
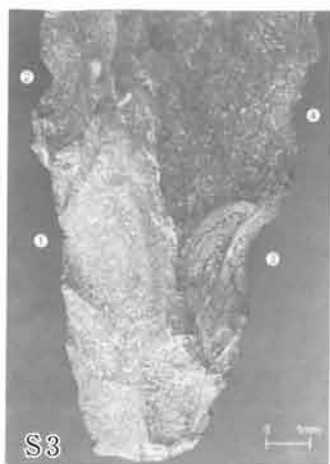
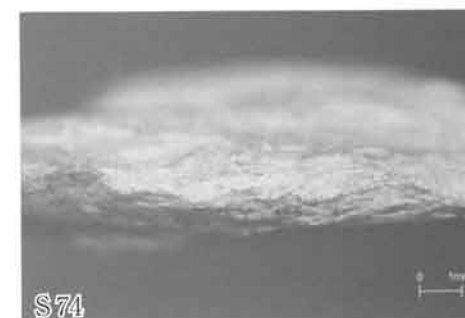
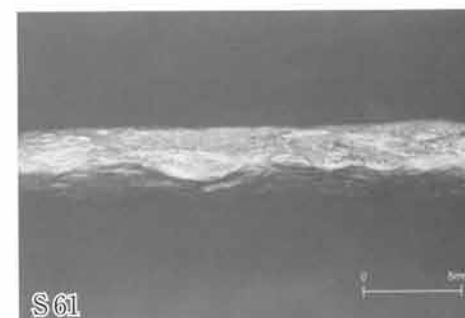
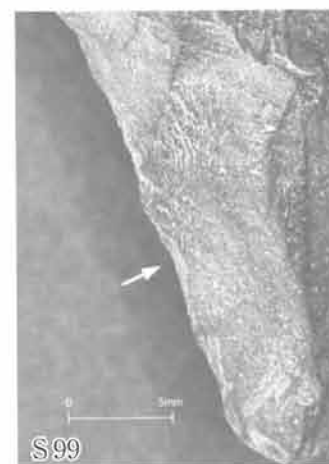
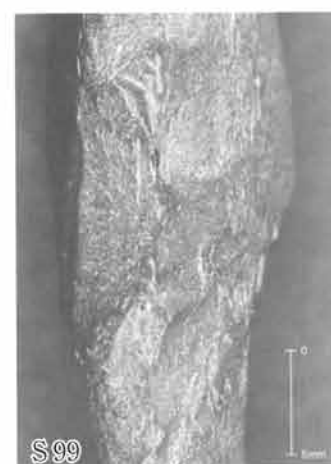
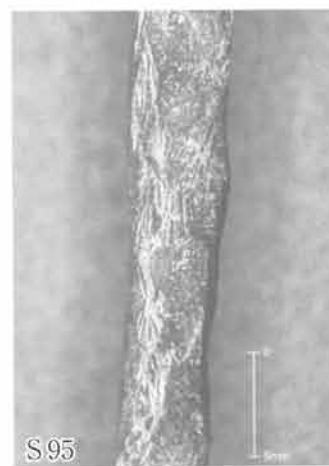
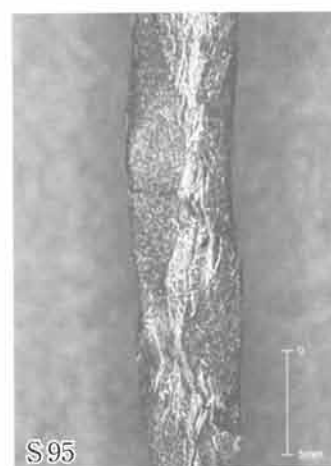
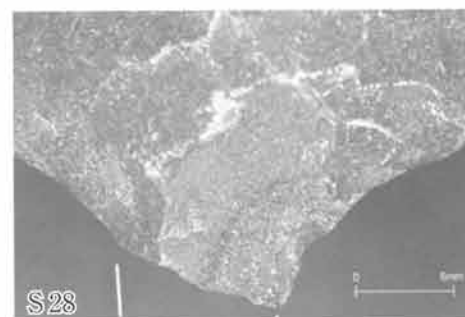
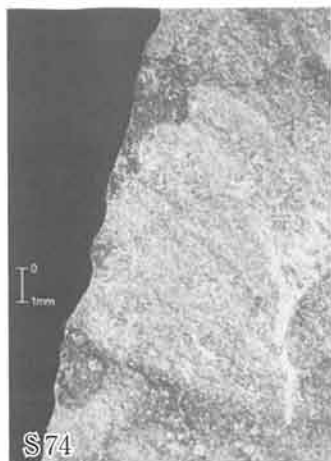
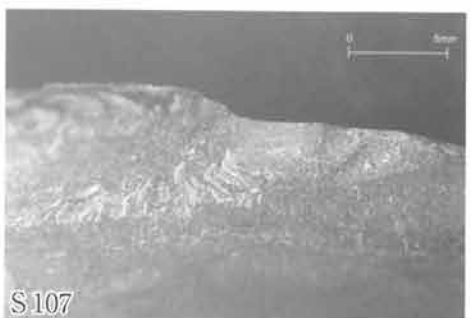
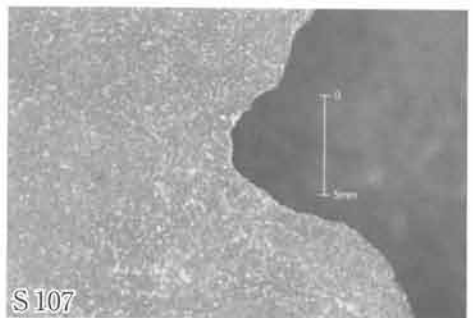
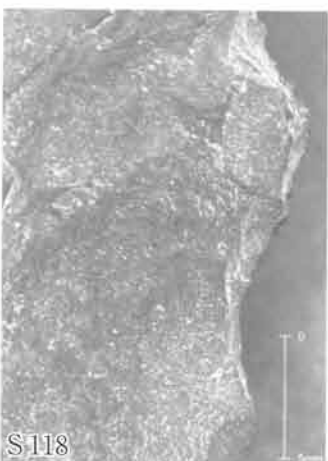
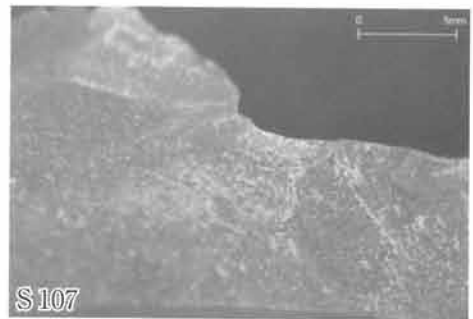
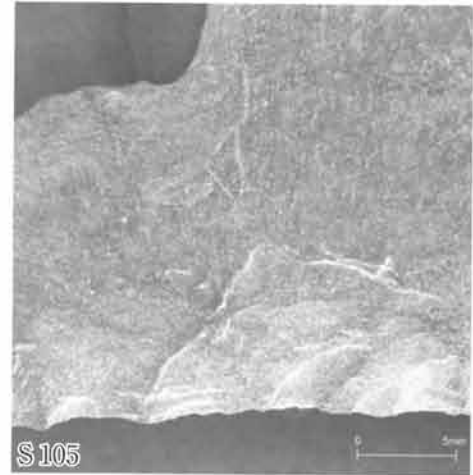
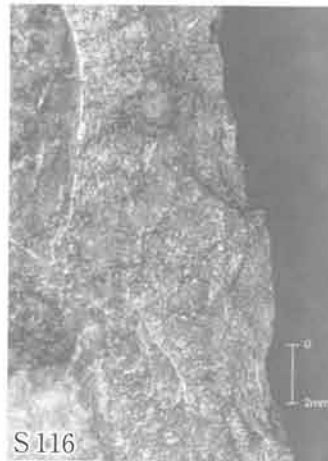
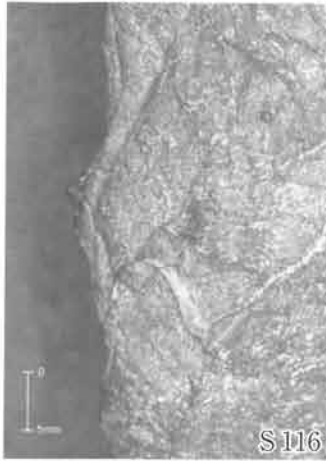
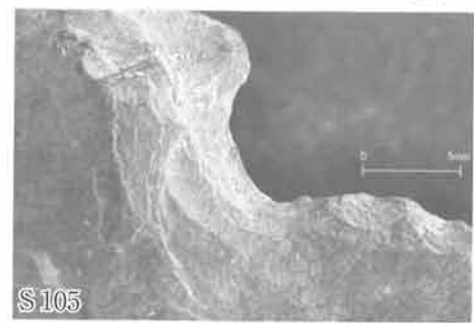
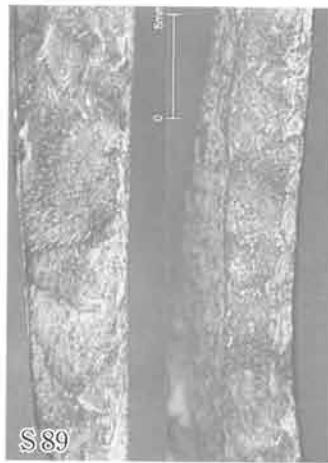
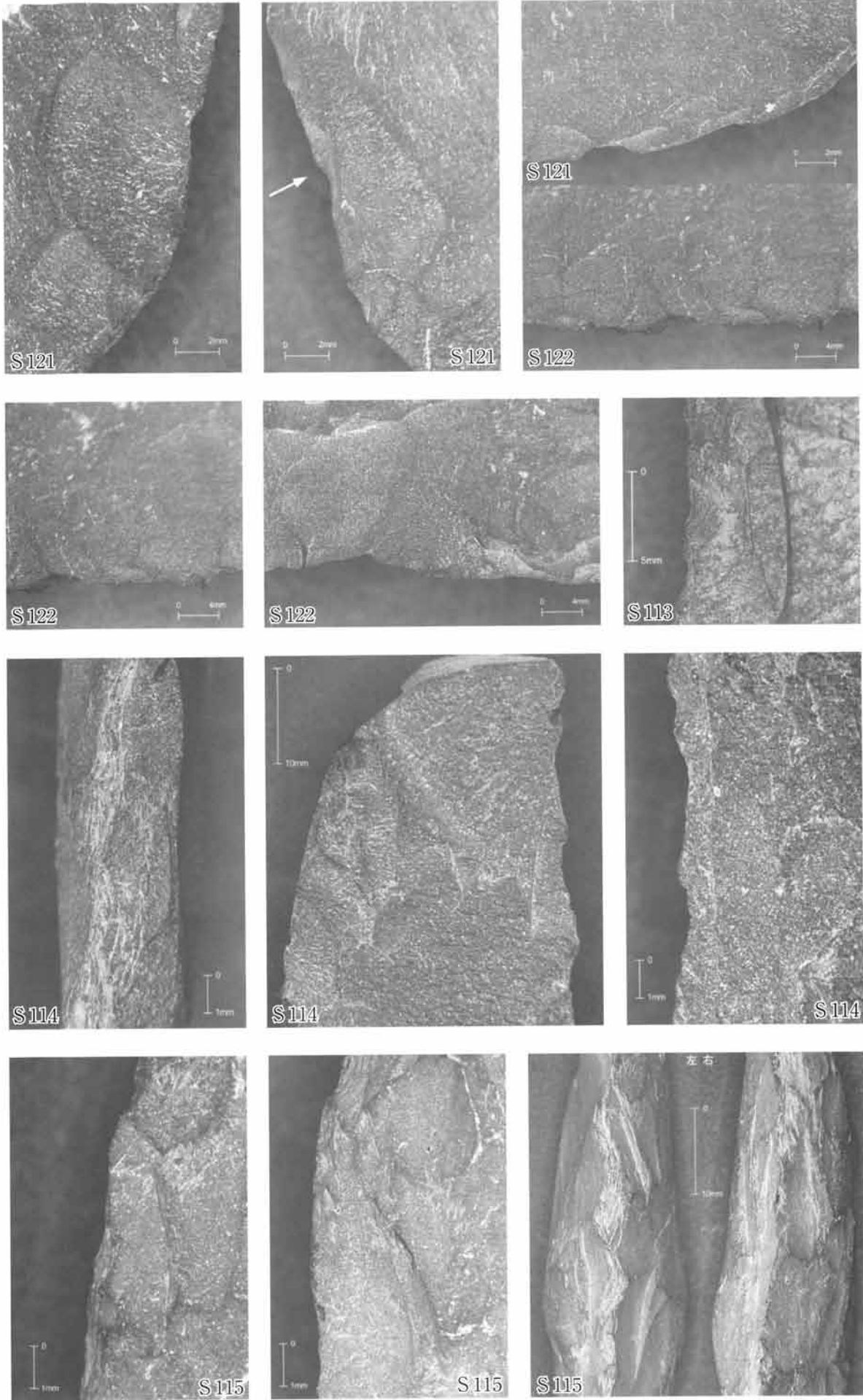


図 7 石器実測図









第3節 荒田遺跡における磨製石器類と礫石器

1. 磨製石器について

出土総数は、47点である。そのうち13点を図化し、属性表を作成した。図化の基準は、各器種ごとにその器種を代表するものについて図化をおこなった。以下、器種ごとに図化したものについて説明をおこなう。

石包丁

出土総数は、37点である。このうち8点を図化した。調査次ごとの内訳は、1次調査・17点（半成品6点含む）、2次調査・3点、3次調査・2点、5次・15点（半成品1点含む）である。

本遺跡の石包丁は、直刃、外湾刃、内湾刃と刃部形態が多様である。所属時期については、弥生中期から後期のものと考えられる。

本遺跡では、半成品から完成品までの各製作行程ごとの資料が出土しており、遺跡内で石包丁が製作されていたことがうかがえる。半製品は、S126・127のように完形品のものよりも一まわりぐらい大きいサイズでHDでおおよそ石包丁の形に成形されている。原石、素材そのものは、遺跡内に持ち込まれていないようである。

製作工程については、まずS126・127のような半成品を研磨整形し、次に紐孔をドリルで両面から穿孔するという行程が復元できる。この行程のなかには、穿孔前の敲打成形はほとんどおこなわれないようである。

石材は、緑色片岩に限られるのが特徴である。

石包丁については、S128・131・133の3点について高倍率の使用痕観察をおこなった。石包丁の詳細については、使用痕分析のところでさらに詳細に述べる。

大型石包丁

出土総数は、1点である。S134は、激しく破損しているがかなり大きな石包丁であったと推測される。研磨痕は明瞭に残っている。石材は、緑色片岩である。

片刃石斧類

出土総数は、9点である。このうち4点を図化した。調査次ごとの内訳は、1次調査・4点、3次調査・2点、5次調査・3点（断片1点含む）である。

柱状片刃石斧S135・136・137は、研磨により角柱状に整形されている。刃部の摩耗がはげしく相当に使用されていたことがうかがえる。S138は、挟入柱状片刃石斧である。この石器は、裏面に挟り部を作出し、装着しやすいように工夫されている。また、刃幅が狭いのも特徴である。

石材は、緻密な緑色片岩を選択している。石包丁とは違った石質の緑色片岩である。

小結

磨製石器のなかでは、石包丁が石器組成の主体をしめている。次いで、柱状片刃石斧である。石器組成のなかでは、太型蛤刃石斧、扁平片刃石斧などが欠落しているのが特徴的である。

2. 礫石器について

礫石器とは、礫を素材とし、刃部をもたない石器として定義する。本遺跡では、敲石、砥石、石棒、石錘、軽石製品が含まれる。出土総数は、21点である。このうち10点を図化し、属性表を作成した。図化の基準は、各器種ごとにその器種を代表するものについて図化をおこなった。以下、器種ごとに図化したものについて説明をおこなう。

敲石

出土総数は、2点である。S146は、長楕円礫を素材として正面、裏面、側面、端部に敲打痕が観察される。S147は、扁平な円礫を素材としてその側辺部に敲打痕が観察される。

石錘

出土総数は、4点である。調査次ごとの内訳は、1次調査・3点、2次調査・1点、3次調査・1点である。このうち4点を図化した。

本遺跡出土の石錘には、3種類あるようである。まず、石錘の紐をかける袂りの部分を擦り切り研磨で作出するもの（S139）、ハードハンマーによる打撃で作出するもの（S140・141）、とくに加工をほどこさいもの（S142）がある。S142は、石器上部のくびれ部の縁辺が摩耗しており、その部分に紐がかけられていたと考えられる。

砥石

出土総数は、11点である。調査次ごとの内訳は、1次調査・5点、2次調査・2点、3次調査・2点、5次調査・2点である。このうち1点を図化した。S148は、砂岩の扁平礫を素材として正面と裏面に砥面が観察される。正面には、断面V字状の溝状砥面があり、金属器を研いだような砥面である。

石棒

出土総数は、4点である。調査次ごとの内訳は、1次調査・2点、2次調査・2点である。このうち3点を図化した。石材は、すべて結晶片岩である。S145は、円柱状に整形された典型的な石棒である正面に敲打による窪みが一對観察される。その他のS143・144については、棒状礫をそのまま用いているようである。石棒の一種と考えられる。

3. 小結

本遺跡における礫石器の組成については、質的にも量的にも非常に貧弱である。縄文時代に普遍的にみられる磨石、石皿類がまったく見られない点の特徴的である。

(株式会社アルカ：池谷 勝典)

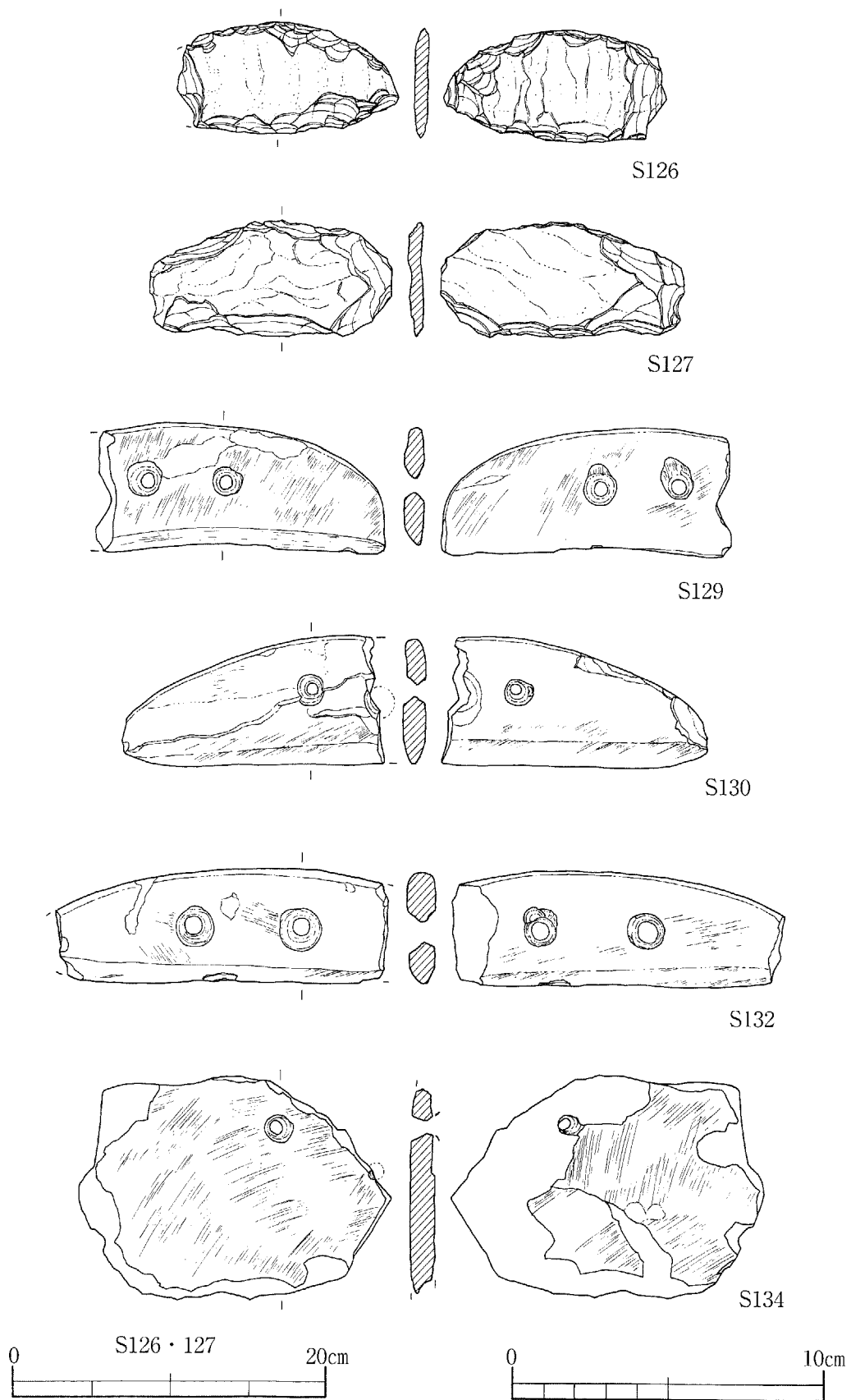


図1 石器実測図

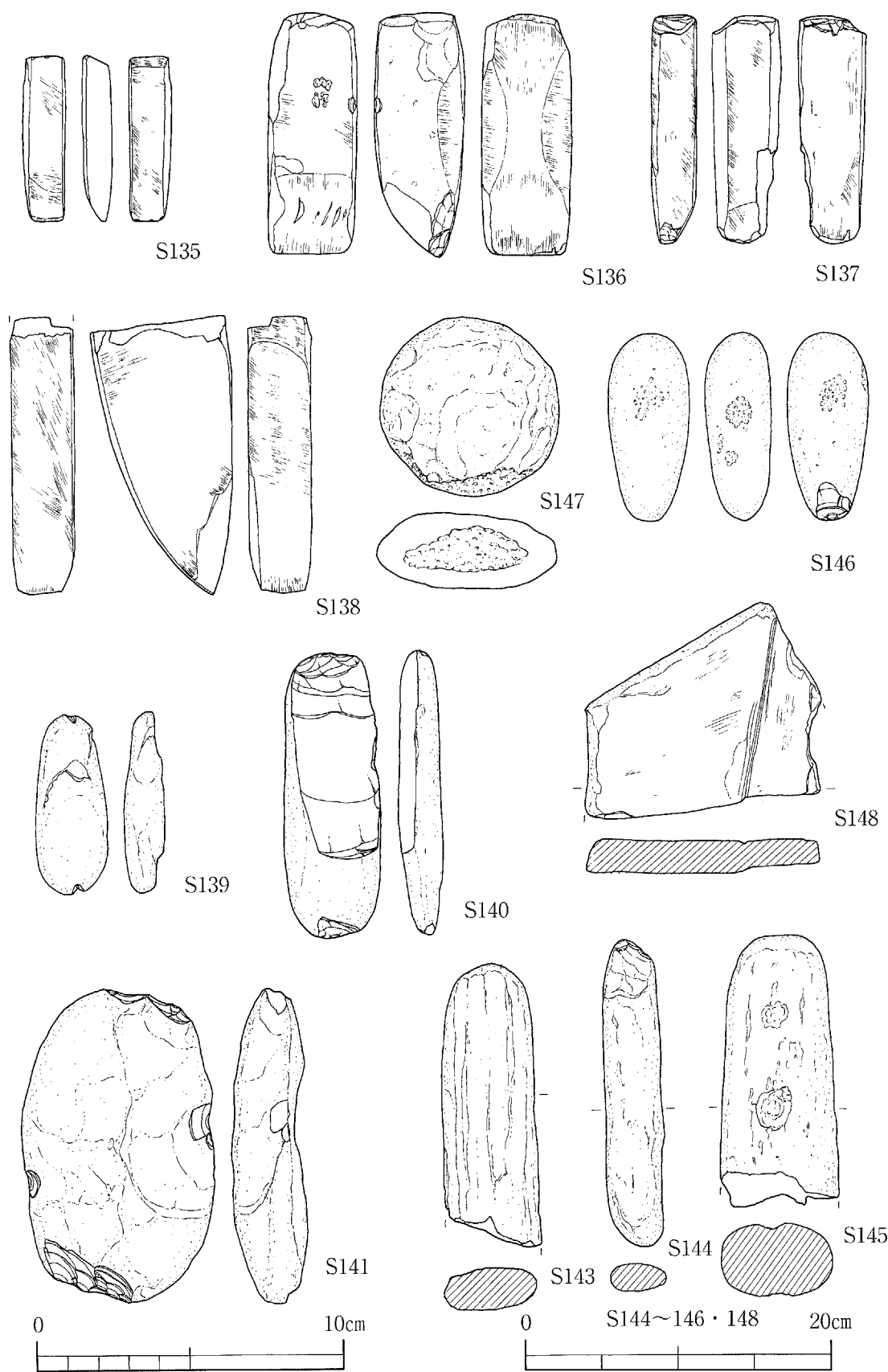


図 2 石器実測図

第4節 荒田遺跡における石包丁の使用痕分析

1. はじめに

荒田遺跡は、おもに弥生時代中期から後期にかけての遺跡である。本遺跡からは、合計37点の石包丁が出土している。今回使用痕分析にもちいた資料は、37点のうち3点で破損割合が低く、風化の度合いが低いものを分析資料として選択した。

以下、形態的特徴および使用痕についての観察所見を述べ、この石器の使用方法について考察してみたい。

2. 観察資料について

資料1（図版1）

左側がわずかに欠損しているが、ほぼ完形の石包丁である。石器は全面研磨されているが、線状痕は不明瞭である。表面は、よく摩耗しており一部に光沢が散見される。刃部は直刃で、表面側の刃部がよく研磨され、刃部断面形は片刃状になる。紐孔は二つ穴で石器中央部の上端部に両面から穿孔される。穿孔前の敲打痕はみられない。表裏面側の紐孔の縁に紐づれ痕が見られる。

以下に、この石器の基本的属性を記述する。

最大長：44.4mm、最大幅：95.4mm、最大厚：8.7mm

石 材：緑色片岩

資料2（図版2）

石器は、1/3ほど欠損しているが表面状態は比較的良好である。この石包丁は刃部がわずかに外湾し、表面側がよく研磨され、刃部断面形は片刃状になる。紐孔は二つ穴で石器中央部のやや上側に両面から穿孔される。穿孔前の敲打痕はみられない。紐づれ痕は、裏面側が明瞭である。

石器は全面研磨されており、表面側の刃部の研磨痕が明瞭であることから刃部の研ぎ直しが行われていたようである。

以下に、この石器の基本的属性を記述する。

最大長：50.5 mm、最大幅：89.2 mm、最大厚：8.2 mm

石 材：緑色片岩

資料3（図版3）

石器は、完形であるが、表面は風化の影響をうけているようである。この石包丁は、上記の資料とはちがい形態が特徴的ある。刃部がやや外湾し、表面側がよく研磨され、刃部断面形は片刃状になる。刃部の研磨痕が明瞭であることから刃部の研ぎ直しが行われていたようである。紐孔は、二つ穴で石器中央部よりも上側に両面から穿孔される。この二対の紐穴は刃部に対してやや

右斜め下方向に傾斜してあけられているのが特徴的である。さらに、紐穴には紐づれ痕が明瞭に残っており、紐のかけ方がよくわかる資料である。

最大長：41.3mm、最大幅：116.3mm、最大厚：8.4mm

石 材：緑色片岩

3. 高倍率使用痕観察

観察方法

オリンパス社の金属顕微鏡（BX30M-BD）とキーエンス社のマイクロスコープを用いて、100倍～450倍の倍率で観察をおこなった。観察面は、中性洗剤で洗浄をおこない、適宜アルコールを浸した脱脂綿で軽く拭き取り、脂分などを取り除いた。観察範囲は、石器表面全体で使用痕光沢の分布を詳細に観察し、分布密度の差を強・弱の2種類のスクリーントーンであらわした。使用痕光沢分類は東北大学の分類基準によっている（梶原・阿子島1981⁽¹⁾、阿子島1989⁽²⁾）。

資料1（図版1・1～4）

使用痕光沢は、紐孔から下半部全体に観察された。使用痕光沢の分布密度は弱く、Bタイプのパッチ状の光沢が主体である。パッチが連結して面的に広がるAタイプは観察できない。使用痕光沢は、裏面側の刃部よりに分布密度の高い部分が観察された。使用痕分布図には表示できなかったが、上面端部にもわずかにBタイプの小パッチが観察された。

資料2（図版2・1～4）

使用痕光沢は、Bタイプのパッチ状の光沢が主体であり、表裏のほぼ全面に観察されたが、表面側の刃部にはほとんど観察されなかった。その原因は、刃部の研ぎ直しによる影響と考えられる。また、表裏の紐孔周辺部と裏面側の刃部には光沢分布密度の高い部分が観察された。

資料3（図版3・1～4）

完形品で形態が特徴的であることから使用痕分析を試みたが、表面の風化の度合いが強く、使用痕光沢の残存状態が良好ではない。よって、使用痕光沢分布図の作成は断念した。

使用痕光沢の分布は散漫で、観察された光沢はBタイプの小さなパッチ状の光沢と写真2、3、4は光沢面が非常にあれた状況であり、風化による影響と考えられる。

4. 総合所見

今回観察した石包丁の使用痕光沢は、Bタイプであり対象物はイネ科植物が推定できる。従来からいわれているように、この石器はイネ科植物の穂積具であるという推定を迫認したかたちとなった。

さらに、紐づれ痕の観察から石包丁の保持と紐かけの作法が明確になった。

以下、その特徴について挙げてみたい。

- * 紐孔にみられる紐ズレ痕の方向に一定性があり、裏面側の紐ズレ痕が左斜め上方向によく摩耗している。とくに資料3の紐ズレ痕は典型的である。
- * 紐ズレ痕が左斜め上方向に摩耗する面は、刃部がよく研磨されて鑄が作られる面とは逆である。

以上の特徴から、石器の保持は裏面側を保持者と向かい合うように右手で持ち、おそらく右手中指を紐に通すように保持されていたと推測される。紐のかけ方は、裏面側に指が通せる程度のワッカができるようなかけ方であったと考えられる。

このように石器の保持の仕方が明らかになると、表面側の刃部の鑄の意味がよく理解できる。つまり、稲の細い穂をつみ取る際には穂の部分で親指で石器の間に挟みながら手首を保持者側にかえし、穂を折り取るような動作になると予想される。その際、石器表面側に鑄をつくって片刃状の刃部にしておかないとうまく穂をつみとれないのではないかと考えられる。

石包丁にとって鑄の作出は、機能を発揮するために必要なもので片刃状になるという製作の仕様があると考えられる。

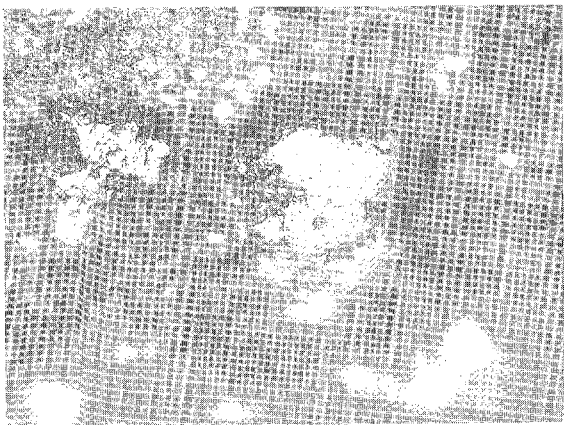
上記のように使用の痕跡を詳細に分析することで、石器の製作仕様や使用法について復元することができ、石器から有益な情報を引き出すことが可能である。

今回のような分析を荒田遺跡のみならず、周辺の遺跡でもおこなうことによってその地域の石器文化がより明確になるとと思われる。

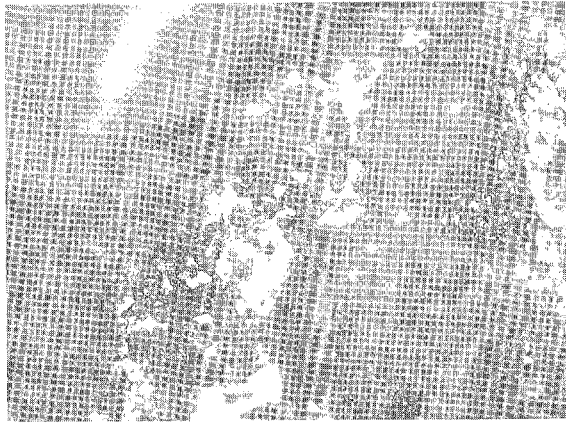
(株式会社アルカ：池谷 勝典)

参考文献

- 阿子島香 1989『石器の使用痕』考古学ライブラリー56 ニューサイエンス社
- 梶原洋・阿子島香 1981「貞岩製石器の実験使用痕研究－ポリッシュを中心とした機能推定の試み－」『考古学雑誌』67-1
- 角張淳一 2000 「続・石器研究についての感想」『東京考古』18 東京考古談話会

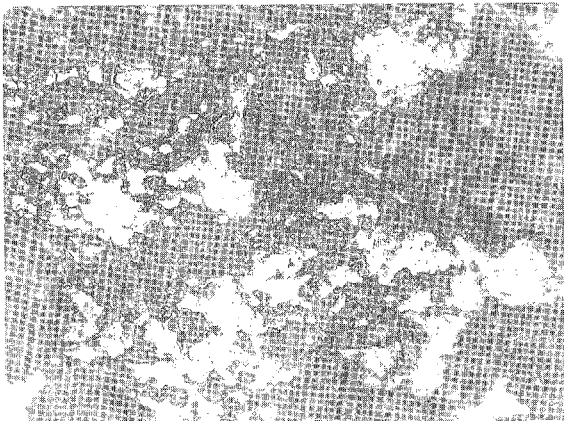
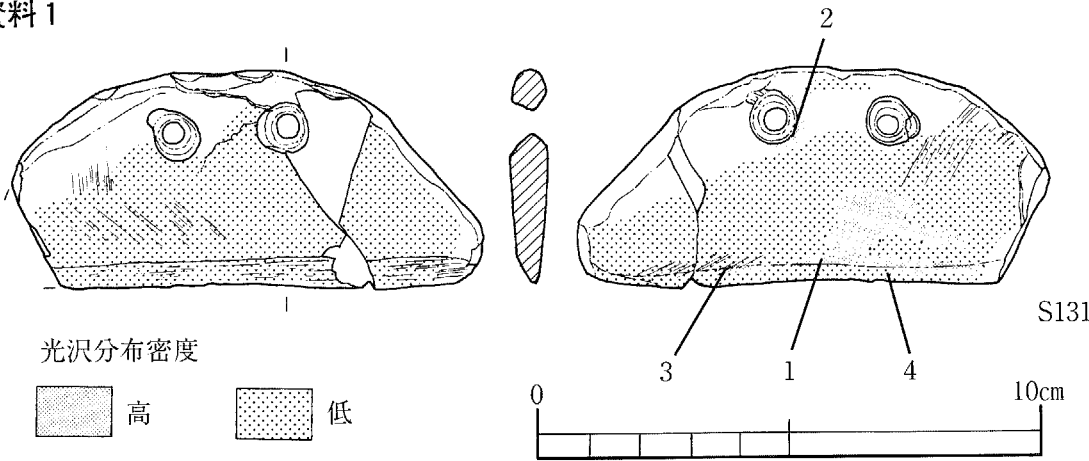


1 Bタイプ



2 Bタイプ

資料 1



3 Bタイプ



4 Bタイプ

100mq
(使用痕写真スケール)

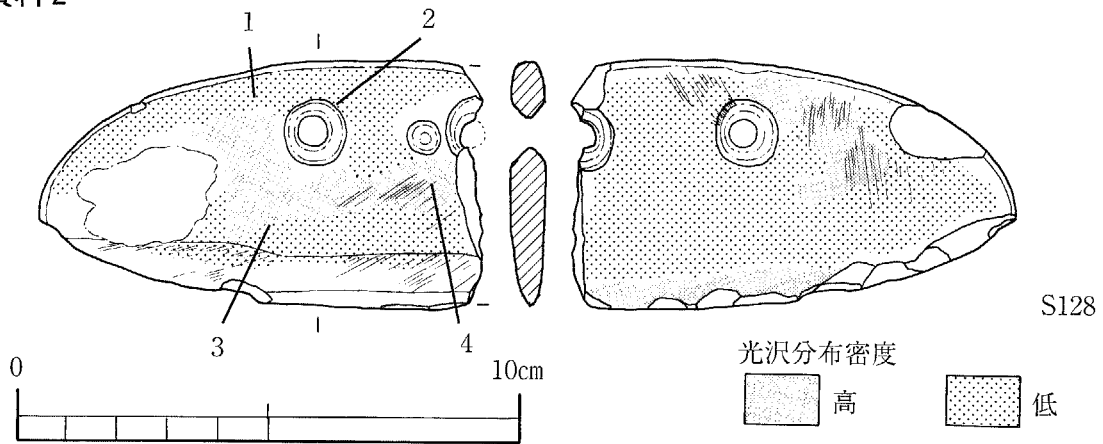


1 Bタイプ

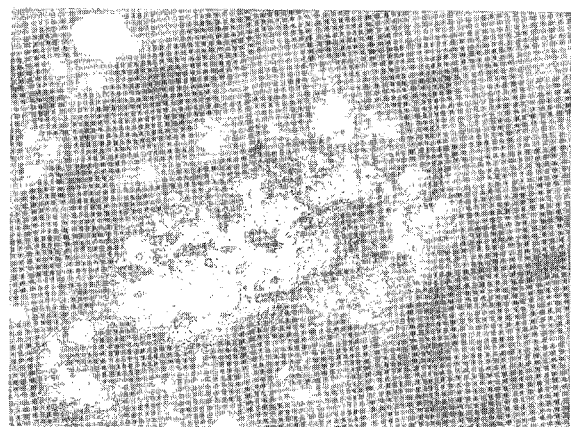


2 不明光沢 線状痕明瞭

資料2



3 Bタイプ



4 Bタイプ

100mq
(使用痕写真スケール)

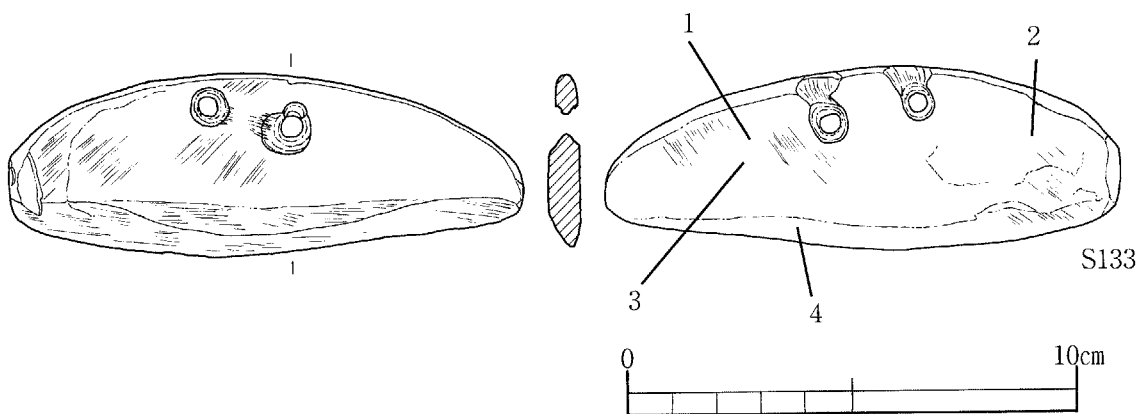


1 Bタイプ



2 Bタイプ（風化による荒れ）

資料3



3 Bタイプ（風化による荒れ）



4 不明光沢

100mq
(使用痕写真スケール)

第5章 まとめ

これまで、第2章で尼ヶ辻遺跡の、第3章では荒田遺跡の各発掘調査で検出された遺構及び遺物について、主に調査区毎に記述を行ない、また、第4章では、主として荒田遺跡の自然環境や土器の胎土分析等の自然科学分析と、多量に出土した石器類の剥離技術や使用痕についての分析を行ってきた。

この内、尼ヶ辻遺跡については、第2章の章末において既に簡潔にまとめられている。この章では、荒田遺跡の調査で検出した遺構と遺物について、先ず調査区毎の遺物の出土内容をあらためて簡単に集約し、次いで、遺構と遺物を時期毎に整理し荒田遺跡のまとめとしたい。

表10は、各調査区毎の出土遺物数量の総数を示したものである。これには、遺構及び包含層とそれ以外から出土した、全ての石器等を除く土器類の点数を集計している。なお、数量は接合前の点数である。

荒田遺跡の今回の調査では、総数13万点以上の土器類が出土し、B区からはその半数以上を占める土器が出土している。次いで、遺物量の多い順に記すとC区→A区→D区→E区となる。これは、荒田遺跡の主要な出土遺物である弥生中期の土器の出土傾向とも合致している。遺構の検出状況やこの土器類の出土分布からも、遺跡の中心部がB区及びC区周辺或いはその一帯であることは間違いないところであろう。また、後述するように、遺跡の本来の中心部分は今回の調査地点－B区及びC区－の北側の地域であろうと考えている。

第3章でも一部触れたが、弥生後期の土器の出土点数は、遺跡の縁辺部－A区及びE区からその多くが出土している。特にE区においては、中期の土器の2倍以上の量が出土している。これら2時期の弥生土器の出土傾向は、表11の調査区別に集計した石器類の出土状況とも呼応し、B区及びC区からその多くが出土しているのに対し、後期の土器が多く出土している縁辺部からは僅かな量の石器類が出土するに留まっている。なお、表11は石器類のみの出土点数であるが、こ

区	計	縄紋	弥生		古墳～平安		鎌倉～室町					近世以降	不明・その他
			中期	後期	土師器	須恵器	土師器	瓦器	須恵器	陶磁器	瓦		
A	11,592	0	7,718	277	2	56	1,227	1,646	38	82	118	410	18
B	66,363	159	49,017	0	26	155	6,459	9,417	139	292	72	574	53
C	39,907	0	35,731	32	14	90	1,922	1,040	60	91	375	524	28
D	6,698	0	2,763	32	0	78	1,700	1,437	72	64	106	408	38
E	5,889	349	1,605	3,321	0	53	288	145	15	16	33	58	6
計	130,449	508	96,834	3,662	42	432	11,596	13,685	324	545	704	1,974	143

表10 荒田遺跡土器等数量一覧表

れにサヌカイトの剥片・碎片等の点数を全て加えると、A区：182点、B区：2,963点、C区：530点、D区：79点、E区：106点である。第3章第2節でも記述したが、B1区検出のB142周辺からは1,400点前後の剥片・碎片が出土している。これらは、B3区から石包丁の未製品が数点検出されていることなどと併せて、B区周辺において石器が製作されていたことを窺わせるにたる資料である。表12は特に石器類が多く出土したB区における層別の出土点数を示したものである。第3層及び第4層の弥生土器と中世の土器類との出上比はB区の記述の中で既に述べたためここでは触れないが、弥生土器よりも中世の遺物を多く含む包含層ではあるが、これらの層からも多くの石器類が出土している。これは、両層がいわゆる2次堆積層であり、恐らくは中世以降に水田化されるに際して運び込まれたものである可能性が大きいものと考えられる。

では、次に、時期別に遺構と遺物を簡単に整理してみる。

今回の調査で最も時代の古いものは、縄紋時代に属するものである。遺構及び包含層はE区でのみ検出されている。包含層が遺存している範囲は僅かであり、遺構も土坑及びピットが数基検出されているのみである。土器は、B区で約160点、E区で350点弱が出土しており、時期は、後期（北白川上層式）と晩期（船橋式－長原式？）の2時期がある。

弥生時代の遺構と遺物は調査範囲の全域で検出されている。遺物の出土状況については前述のとおりである。遺構の密度には濃淡があり、遺物同様B区及びC区とその周辺からの検出が多い。中期の遺構には、竪穴住居、上坑、溝、ピットなどがある。確実に竪穴住居と断定できるのはC805のみである。土坑の内C725は井戸の可能性が考えられ、また、このC区の西半部からは、遺構としての性格は不明であるが数多くの上坑が検出されている。このC区西半部—C805からC

区	石鏃	石錐	尖頭器	石筥様 石器	横型 石匙	縦型 石匙	UF	器種 不明	剥片	裂片	小計	石包丁	石斧	石棒	敲石	石錘	砥石	小計	計
A	13	1	0	0	1	0	1	0	0	1	17	2	2	0	0	0	0	4	21
B	118	41	14	14	6	5	8	33	18	17	274	7	2	3	2	2	0	16	290
C	70	16	3	0	3	1	1	1	3	1	99	0	0	0	0	0	1	1	100
D	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	4
E	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	1	0	1	9
その他	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3
合計	212	62	17	14	10	6	10	34	21	19	405	9	4	3	2	3	1	22	427

表11 区別石器数量表

A区	石鏃	石錐	尖頭器	石筥様 石器	横型 石匙	縦型 石匙	UF	器種 不明	剥片	裂片	小計	石包丁	石斧	石棒	敲石	石錘	砥石	小計	計
第3層	26	8	1	3	1	1	1	6	4	5	56	0	1	0	1	0	0	2	58
第4層	23	7	1	2	1	0	1	6	2	2	45	0	0	0	0	2	0	2	47
第5層	18	13	4	2	0	2	1	9	7	1	57	2	0	0	0	0	0	2	59
第6層	25	8	7	4	1	0	3	11	2	7	68	5	0	1	0	0	0	6	74
第7層	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3
その他	24	4	1	3	3	2	2	1	3	2	45	0	0	2	1	0	0	3	48
計	118	41	14	14	6	5	8	33	18	17	274	7	2	3	2	2	0	16	290

表12 B区層別石器数量表

700・800にかけての範囲と、その西側にあるB区検出の谷状地形を挟んだB1・2区及びA6区にかけてが弥生時代中期の集落の一部であろう。繰り返しになるが、本来の集落の中心部は、周辺の地形や、今回検出した遺構及び遺物の出土状況等から判断して、調査地点－主にB区及びC区－の北側から北東部にかけて広がっているものと考えるのが妥当であろう。中期の時期は、一部第Ⅱ様式と考えられる土器も数点含まれるが、概ね第Ⅲ様式の新段階から第Ⅳ様式（古段階？）の範疇に収まる土器群である。一方、後期の遺構と土器類は第Ⅴ様式から庄内式にかけてのものであるが、遺構は少なく、E区から土坑やピット及び溝が検出されているのみである。

古墳時代から奈良時代にかけては、主に須恵器等の遺物が出土しているが遺構は確認できなかった。

中世－平安時代後半以降－の遺構と遺物は、弥生中期のそれと同じくほぼ調査区の全域から検出されている。遺構の種類には、掘立柱建物、井戸、土坑、溝の他、本来は遺構とは言いがたいが自然流路や落込み状の地形などがある。掘立柱建物はB区からのみ検出されているが、A6区からも井戸や柱穴が比較的多く検出されている。以上のことから、中世集落の一部はこのA区東半部からB区にかけての範囲であろう。また、E区上面遺構とした幅10～20cm前後の溝は、尼ヶ辻遺跡同様に水田耕作に伴う鋤溝と考えられる。その他、中世及び近世以降の土坑がいくつか検出されているが、埋土の多くは耕作土である灰色系の砂質土或いはシルト層に地山である黄色～黄褐色系の砂質土を主としたものである。これらの遺構も水田耕作等に伴うものと考えられるが、平面形も様々であり、出土遺物も少なくその詳細については不明である。

近世以降の遺構には、前述の鋤溝の一部や土坑の他、暗渠排水溝がある。遺物は、陶磁器や瓦などがある。この内で遺物の一部を転用？した円板が数点出土しており、尼ヶ辻遺跡においても10点以上が出土している。1993年から1995年にかけての根来寺坊院跡や根来遺跡の調査でも多数出土しており、円盤状土製品として記されている遺物である。今回、円板としたものの中には、弥生土器の壺等を打ち欠き研磨したものも数点あり、これらは上記の瓦等を使用したものとはその目的や製作の時期は別のものであらうと思われるが、今回は一括して円板と呼称している。

以上、今回の荒田遺跡の調査で検出した遺構及び遺物について、簡単に振り返ってみた。本来であれば、弥生土器－中でも中期の土器や、数多く出土した中世の瓦器等についてより詳細な検討を加え、県下特に紀北地域における位置付け等について分析と考察を行なうべきところであるが、整理期間や紙幅の都合から今回は割愛せざるをえなかった。

今回の調査は、道路工事に伴うものであるため、2つの遺跡の中に大規模な試掘溝（トレンチ）を入れた形となり、いわば、線的な調査を行なったものと言える。第1章で既に述べたように、この道路建設の目的の1つとして地域の活性化が挙げられている。現在、調査地の周辺は水田及

び畑地と一部は宅地となっているが、今後当道路の開通により、周辺の開発が進むものと予想される。一時期ほどの急激な変化－宅地化や商業地化－は無いにしても、遺跡内において少なからず開発が進むことは明らかであろう。

遺跡の保存や保護の観点からは少なからぬ問題もあるが、これらの開発に関連して綿密な調査がなされれば、線としての調査に数多くの点としての調査成果を加えることにより、遺跡の全体像を面として把握できるようになることが期待出来る。

注釈及び参考文献

- * 第1図は岩出町発行（1999年2月修正）の1／2,500の図に加筆
- * 『根来寺坊院跡』－広域営農団地農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－
1994.3 和歌山県教育委員会 財団法人 和歌山県文化財センター
- * 『根来寺坊院跡』－県道泉佐野岩出線道路改良工事に伴う根来工区発掘調査報告書－
1997.3 財団法人 和歌山県文化財センター
- * 『史跡 紀伊国分寺跡保存整備事業報告書』1992.3 打田町
- * 『西国分Ⅱ遺跡発掘調査概報』1990.11 財団法人 和歌山県文化財センター
- * 『和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図』1996.3 和歌山県教育委員会

出土遺物一覧表

尼ヶ辻遺跡

単位：cm、（）内は残存値

遺物番号	挿図番号 図版番号	遺構等	地区	段	種類	器種	口径 底径	器高	技法等の特徴
1	第13図 PL.31	第2'層	1J28	イ	須恵器	蓋	鈕径 2.2	(1.7)	不明
2	第13図 PL.31	第3層	1J29	イ	須恵器	蓋	鈕径 1.4		内外：回転ナデ
3	第13図 PL.	第3層	1L47	ハ	土師器	皿	8.0	1.3	ナデ、ヨコナデ
4	第13図 PL.	第3層	1L49	ハ	土師器	皿	10.8	(2.2)	ナデ、ヨコナデ
5	第13図 PL.31	第3層	1H26	イ	陶磁器	すり鉢			外：ケズリ ナデ ヨコナデ 内：すり目 (6本/cm)
6	第13図 PL.31	第3層	1K32	イ	須恵器	こね鉢			内外：ナデ、ヨコナデ
7	第13図 PL.	第3層	1L49	ハ	土師器	土釜	26.0	(6.7)	ナデ、ヨコナデ
8	第13図 PL.	第3層	1L47	ハ	土師器	土釜	28.4	(7.6)	外：ヨコナデ、ナデ 内：ナデ、板ナデ
9	第13図 PL.	第3層	1L47	ハ	土師器	土釜	29.8	(6.8)	外：ナデ、凸帯 内：ナデ
10	第13図 PL.	第3層	1G33	イ	瓦器	土釜	23.0	(5.0)	外：ケズリ、口縁部凹線
11	第13図 PL.	第3層	1J23	北拡	土師器	土釜	24.0	(6.0)	ナデ、ヨコナデ、スス付着
12	第13図 PL.	第3層	1K31	イ	陶磁器	青磁 碗	18.0	(4.8)	
13	第13図 PL.	第3層	1H55	南拡	陶磁器	染付 皿	13.8 8.4	3.3	
14	第13図 PL.	第3層	1M46	ハ	須恵器	甕			外：タタキ 内：ハケ後ナデ
15	第13図 PL.31	第4層	1K27	イ	須恵器	杯身	10.8	(1.4)	内：回転ナデ
16	第13図 PL.31	第4・5層	1K40	口	須恵器	こね鉢	23.1	(2.6)	内外：回転ナデ
17	第13図 PL.	第4層	1G37	口	土師器	土鍋	22.3	(6.0)	外：タタキ 内：ナデ、ヨコナデ
18	第13図 PL.	第5層	1J19	北拡	須恵器	甕?			内外：回転ナデ 外：波状紋
19	第13図 PL.32	第2'層	1G27	イ	円板		4.3	厚 1.6	37.40g 瓦
20	第13図 PL.32	第2'層	1H27	イ	円板		5.2	厚 2.0	56.67g 瓦
21	第13図 PL.32	第3層	1G27	イ	円板		6.2	厚 2.2	88.13g 瓦
22	第13図 PL.32	第3層	1J19	北拡	円板		5.9	厚 1.9	85.36g 瓦
23	第13図 PL.32	第3層	1K29	イ	円板		5.5	厚 2.2	80.71g 瓦
24	第13図 PL.32	第3層	1K28	イ	円板		4.6	厚 1.8	40.41g 瓦
25	第13図 PL.32	第3層	1H29	イ	円板		4.4	厚 2.0	43.88g 瓦

出土遺物一覧表

遺物 番号	挿図番号 図版番号	遺構等	地 区	段	種 類	器 種	口 径 底 径	器 高	技法等の特徴
26	第13図 PL.32	第5層	1K39	口	円板		3.7	厚 1.6	23.66g 瓦
27	第14図 PL.31	ハ31	1L49	ハ	瓦器	椀	15.0	5.2	外：指押え、ヨコナデ、ミガキ 内：ミガキ、暗紋ジグザグ
28	第14図 PL.31	ハ31	1L49・50	ハ	瓦器	椀	15.6	4.8	外：指押え、ヨコナデ、ミガキ 内：ミガキ、暗紋連結輪状
29	第14図 PL.31	ハ31	1L49・50	ハ	瓦器	椀	14.0	5.4	外：指押え、ヨコナデ、ミガキ 内：ミガキ、暗紋連結輪状
30	第14図 PL.31	ハ31	1L49・50	ハ	瓦器	椀	14.3	6.1	外：指押え、ヨコナデ、ミガキ 内：ミガキ、暗紋連結輪状
31	第14図 PL.31	ハ31	1L49・50	ハ	瓦器	椀	14.4	5.2	外：指押え、ヨコナデ 内：ミガキ
32	第14図 PL.31	ハ31	1L49・50	ハ	瓦器	椀	14.4	5.6	外：指押え、ヨコナデ 内：ミガキ
33	第14図 PL.31	ハ31	1L49	ハ	瓦器	皿	9.3 7.9	1.7	外：指押え、ヨコナデ 内：ミガキ、暗紋十字
34	第14図 PL.31	ハ31	1L49・50	ハ	瓦器	皿	8.9	2.1	外：指押え、ヨコナデ 内：ミガキ、暗紋連結輪状
35	第14図 PL.31	ハ31	1L49	ハ	瓦器	鉢	20.2	8.0	指押え、ヨコナデ
36	第14図 PL.	ハ31	1L49	ハ	土師器	皿	8.5 6.5	1.8	ナデ、ヨコナデ 底部：回転糸切り
37	第14図 PL.	ハ31	1L49・50	ハ	土師器	土釜	33.6	(15.3)	ナデ、ヨコナデ 外：スス付着
38	第14図 PL.32	ハ31	1L49	ハ	土師器	土釜	29.0	(20.0)	外：指押え、ヨコナデ、板ナデ 内：指押え、ナデ
39	第14図 PL.	ハ31	1L49・50	ハ	土師器	土釜	28.2	(15.8)	外：ヨコナデ、ハケナデ 内：ナデ、ヨコナデ
40	第14図 PL.32	ハ31	1L49・50	ハ	土師器	土釜	28.8	(15.0)	内外：ナデ、ヨコナデ 外：スス付着
41	第15図 PL.	ハ97	1L51	ハ	土師器	皿	11.2	(3.3)	内外：ナデ、ヨコナデ
42	第15図 PL.	ハ5	1L45	ハ	土師器	皿	10.6	1.4	内外：ナデ、ヨコナデ
43	第15図 PL.32	ハ2	1K50	ハ	陶磁器	染付 碗	4.2	(3.6)	一条圈線、二条圈線
44	第15図 PL.	ハ174	1J52	ハ	陶磁器	染付 碗	9.8 4.8	5.0	草花紋
45	第15図 PL.32	ハ2	1K50	ハ	陶磁器	染付 碗	8.0 3.2	4.2	一条圈線
46	第15図 PL.32	ハ1	1K52	ハ	陶磁器	染付 蓋	9.6 鈕径 4.2	3.0	一条圈線、二条圈線 四方櫛紋
47	第15図 PL.32	イ135	1J28	イ	円板		4.5	厚 0.8	32.27g 陶磁器（青磁）
48	第15図 PL.32	イ137	1K31	イ	円板		4.4	厚 0.6	19.10g 陶磁器（染付）
49	第15図 PL.32	南203	1H54	南堀	円板		2.8	厚 0.4	6.12g 陶磁器（染付）
50	第15図 PL.32	イ144	1J31	イ	瓦	軒丸瓦	瓦当 径 8.2		三巴紋
51	第15図 PL.32	イ138	1J30	イ	瓦	軒丸瓦	瓦当 径 8.4		三巴紋

出土遺物一覧表

荒田遺跡

単位：cm、（）内は残存値

遺物 番号	挿図番号 図版番号	遺構等	地 区	区	種 類	器 種	口 径 底 径	器 高	技法等の特徴
1	第19図 PL.	第1層	1O147	7	弥生土器	脚部	4.6	(4.7)	不明
2	第19図 PL.	第1層	1M138	9	土師器	皿	7.7	1.6	ナデ、ヨコナデ
3	第19図 PL.	第2層	1P146	8	瓦器	碗	14.0 4.0	3.6	ミガキ、ナデ、ヨコナデ
4	第19図 PL.	第2層	1Q150	6	瓦器	碗	4.4	(2.5)	ナデ、ヨコナデ
5	第19図 PL.	第3層	1O152	6	瓦器	碗	13.8 4.0	4.1	不明
6	第19図 PL.	第3層	1P150	6	瓦器	碗	16.0	(4.6)	ミガキ
7	第19図 PL.	第3層	1O153	6	弥生土器	高杯	9.6	(11.7)	脚柱部内面シボリ目
8	第19図 PL.	第3層	1P153	6	弥生土器	甕	30.0	(5.6)	ヨコナデ
9	第19図 PL.	第3層	1N150	6	弥生土器	底部	6.0	(2.1)	不明
10	第19図 PL.	第3層	1N152	6	弥生土器	底部	9.0	(2.8)	不明
11	第19図 PL.	第4層	1D153	6	弥生土器	壺	5.0	(13.5)	外：下半部ヘラケズリ 内：板状工具によるナデ
12	第19図 PL.	第4層	1O153	6	弥生土器	甕	28.7	(8.7)	不明
13	第19図 PL.	第4層	1P155	5	弥生土器	高杯	11.0	(3.4)	裾部端面に凹線紋
14	第19図 PL.	第4層	1O153	6	弥生土器	高杯	14.0	(4.8)	不明
15	第19図 PL.	第4層	1O153	6	弥生土器	底部	5.7	(3.0)	不明
16	第19図 PL.	第4層	1P155	5	弥生土器	底部	6.4	(4.3)	不明
17	第19図 PL.	第4層	1P155	5	瓦器	碗	13.2	(3.8)	外：ヨコナデ、指押え、ナデ 内：ミガキ
18	第21図 PL.	A501 1層	1L142	8	土師器	皿	8.2	(2.0)	外：ヨコナデ、指押え、ナデ 内：ナデ
19	第21図 PL.	A501 1層	1M137	9	陶磁器	青磁 碗	6.4	0.9	
20	第21図 PL.	A501 2層	1L138	9	弥生土器	壺			外：凹線紋、籐状紋、綾杉紋
21	第21図 PL.	A501 2層	1L138	9	弥生土器	甕	30.6	(12.8)	不明
22	第21図 PL.	A501 4層	1K138	10	瓦器	碗	5.2	(0.7)	内：ミガキ、暗紋ジグザグ
23	第21図 PL.	A501 4層	1K139	10	瓦器	皿	9.0	1.8	外：ヨコナデ、指押え 内：ミガキ
24	第21図 PL.	A501 4層	1N132	9	瓦器	擂鉢			外：ヨコナデ、ケズリ 内：すり目 9本/cm
25	第21図 PL.	A501 4層	1L133	9	瓦器	擂鉢			外：ヨコナデ、ケズリ 内：すり目

出土遺物一覧表

遺物 番号	挿図番号 図版番号	遺構等	地 区	区	種 類	器 種	口 径 底 径	器 高	技法等の特徴
26	第21図 PL.	A501 4層	1M133	9	須恵器	捏鉢			外：ヨコナデ、ナデ 内：ナデ
27	第21図 PL.	A501 4層	1K139	10	土師器	皿	8.0	(1.9)	外：ヨコナデ、指押え、ナデ 内：ナデ、すす付着
28	第21図 PL.	A501 4層	1L134	9	土師器	皿	7.2	(1.3)	外：ヨコナデ、指押え、ナデ 内：ナデ
29	第21図 PL.	A501 4層	1K137	10	土師器	皿	8.0	(1.2)	外：ヨコナデ、ナデ 内：ナデ
30	第21図 PL.	A501 4層	1N133	9	陶磁器	青磁 碗	6.2	(1.7)	高台部露胎
31	第21図 PL.	A501 4層	1K138	10	瓦	平瓦		厚2.1	凹面：布目 凸面：縄目
32	第21図 PL.	A501 5層	1K132	9・10	瓦	丸瓦 (?)		厚2.7	凹面：布目
33	第21図 PL.	A501 5層	1K139	9・10	瓦器	碗	14.0	(5.2)	外：ヨコナデ、ミガキ 内：ミガキ
34	第21図 PL.	A501 5層	1K133	9・10	瓦器	碗	14.2	(5.2)	外：ヨコナデ、指押え、ナデ 内：ミガキ
35	第21図 PL.	A501 5層	1K133	9・10	瓦器	碗	5.8	(3.6)	外：ヨコナデ、指押え 内：ミガキ、暗紋連結輪状
36	第21図 PL.	A501 5層	1K133	9・10	瓦器	碗	5.1	(3.2)	外：指押えナデ 内：ハケ後ミガキ、暗紋連結輪状
37	第21図 PL.	A501 5層	1K133	9・10	土師器	皿	10.8	(2.1)	外：ヨコナデ、指押え、ナデ 内：ナデ
38	第21図 PL.	A501 5層	1K139	9・10	土師器	皿	7.2 5.9	(1.4)	外：ヨコナデ、ナデ 内：ナデ、すす付着
39	第21図 PL.	A501 5層	1K133	9・10	瓦器	碗	5.8	(0.8)	外：ナデ 内：ミガキ、暗紋格子状
40	第21図 PL.	A501 5層	1K132	9・10	瓦器	碗	5.8	(1.1)	外：ヨコナデ、ナデ 内：ミガキ、暗紋ジグザグ
41	第21図 PL.	A501 5層	1M132	9・10	瓦器	碗	5.5	(0.9)	外：ナデ 内：ミガキ、暗紋ジグザグ
42	第21図 PL.	A501 5層	1N133	9・10	須恵器	こね鉢			外：ヨコナデ、ナデ 内：ナデ
43	第21図 PL.	A501 5層	1L132	9・10	土師器	土釜	27.2	(4.2)	外：ヨコナデ、ナデ 内：ナデ
44	第21図 PL.	A501 6層	1L139	9	弥生土器	底部	7.7	(5.5)	不明
45	第21図 PL.	A501 6層	1K141	9	弥生土器	高杯		(8.8)	不明
46	第22図 PL.33	A501 3層	1L138	9	弥生土器	壺	15.0	(11.0)	口縁部2穴 頸部外面：凹線紋
47	第22図 PL.	A501 3層	1L138	9	弥生土器	壺	17.2	(6.0)	口縁部2穴
48	第22図 PL.	A501 3層	1L139	9	弥生土器	壺	17.0	(4.6)	外：ヨコナデ、ハケ 端面：凹線 紋 内：ナデ、口縁部2穴
49	第22図 PL.33	A501 3層	1L138	9	弥生土器	壺	16.0	(4.0)	口縁部端面：凹線紋、円形浮紋
50	第22図 PL.33	A501 3層	1L138	9	弥生土器	壺	18.8	(6.4)	口縁部端面：凹線紋、円形浮紋
51	第22図 PL.33	A501 3層	1L138	9	弥生土器	壺	14.8	(12.1)	貼付突帯

出土遺物一覧表

遺物 番号	挿図番号 図版番号	遺構等	地 区	区	種 類	器 種	口径 底 径	器 高	技法等の特徴
52	第22図 PL.33	A501 3層	1L139	9	弥生土器	壺	16.8	(10.3)	貼付突帯
53	第22図 PL.33	A501 3層	1L138	9	弥生土器	壺	16.2	(9.5)	貼付突帯
54	第22図 PL.	A501 3層	1K140	9	弥生土器	壺		(6.9)	頸部外面に凹線紋
55	第22図 PL.	A501 3層	1L138	9	弥生土器	鉢?	12.0	(7.2)	凹線紋、波状紋、直線紋 2穴1組の円孔
56	第22図 PL.33	A501 3層	1L138	9	弥生土器	壺			横位の把手
57	第22図 PL.	A501 3層	1L139	9	弥生土器	甕	29.4	(5.0)	不明
58	第22図 PL.	A501 3層	1L138	9	弥生土器	甕	30.6	(4.7)	不明
59	第22図 PL.	A501 3層	1L139	9	弥生土器	甕	31.4	(7.7)	外：ハケ 内：不明
60	第22図 PL.	A501 3層	1K140	9	弥生土器	甕	21.0	(5.4)	外：ハケ 内：不明
61	第22図 PL.	A501 3層	1L138 1K140	9	弥生土器	甕	16.6	(5.5)	不明
62	第22図 PL.	A501 3層	1K139 1L139	9	弥生土器	甕	15.0	(7.4)	不明
63	第22図 PL.	A501 3層	1L139	9	弥生土器	底部	8.0	(6.4)	不明
64	第22図 PL.	A501 3層	1L141	9	弥生土器	底部	8.4	(5.5)	外：ナデ 内：ナデ
65	第22図 PL.33	A501 3層	1L138	9	弥生土器	底部	8.0	(5.4)	外：ミガキ 内：不明
66	第22図 PL.	A501 3層	1L138	9	弥生土器	底部	7.2	(4.1)	外：ナデ 内：ナデ、板状工具によるナデ
67	第23図 PL.	A501 3層	1K140	9	弥生土器	高杯	25.9	(6.4)	外：凹線紋、ヨコナデ、上半横方向 のミガキ、下半縦方向のミガキ
68	第23図 PL.	A501 3層	1L139	9	弥生土器	壺	27.0	(4.2)	外：ヨコナデ 内：不明
69	第23図 PL.33	A501 3層	1L138	9	弥生土器	高杯	14.8	(16.0)	外：不明 内：シボリ目、ナデ
70	第23図 PL.	A501 3層	1L138	9	弥生土器	高杯	13.6	(5.7)	外：ヨコナデ 内：ヘラケズリ 裾部に透穴8ヶ所
71	第23図 PL.	A501 3層	1K140	9	弥生土器	高杯	13.8	(4.7)	外：ヨコナデ 裾部に透穴8ヶ所
72	第23図 PL.	A501 3層	1K140	9	弥生土器	底部	10.6	(8.5)	不明
73	第23図 PL.	A501 3層	1L138	9	弥生土器	底部	7.5	(4.7)	不明
74	第23図 PL.	A501 3層	1L138	9	弥生土器	底部	5.4	(5.4)	外：ヘラミガキ 内：不明
75	第23図 PL.33	A501 3層	1L138 1L139	9	弥生土器	底部	6.6	(6.6)	不明
76	第23図 PL.	A501 3層	1K140	9	弥生土器	底部	6.0	(4.4)	不明
77	第23図 PL.	A501 3層	1L139	9	弥生土器	底部	6.7	(4.1)	外：ナデ 内：ナデ

出土遺物一覧表

遺物 番号	挿図番号 図版番号	遺構等	地 区	区	種 類	器 種	口径 底 径	器 高	技法等の特徴
78	第23図 PL.	A538	1N150	6	瓦器	碗	14.6	(5.1)	外：ヨコナデ、指押え、ナデ 内：ミガキ
79	第23図 PL.	A506	1Q150	6	土師器	皿	11.3	2.6	外：ヨコナデ、指押え、ナデ 内：ナデ 口縁部スス付着
80	第23図 PL.	A506	1Q150	6	土師器	皿	12.0	2.9	外：ヨコナデ、指押え、ナデ 内：ナデ
81	第23図 PL.	A506	1Q150	6	瓦	丸瓦		厚2.5	不明
82	第23図 PL.	A518	1Q151	6	弥生土器	甕	27.5	(5.0)	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、板状工具によるナデ
83	第23図 PL.34	A504	1P143	8	銭貨	北宋銭	2.40	2.40g	熙寧元寶（真書・初鑄1068）
84	第23図 PL.34	A504	1P143	8	銭貨	北宋銭	2.45	3.01g	政和通寶（篆書・初鑄1111）
85	第23図 PL.	A547	1P151	6	弥生土器	甕	7.4	(9.0)	不明
86	第23図 PL.	A512	1O152	6	弥生土器	甕	11.0	(5.4)	不明
87	第23図 PL.	A559	1P155	5	弥生土器	甕	9.6	(4.1)	外：ヨコナデ、指押え、ナデ 内：ナデ、ヨコナデ
88	第23図 PL.	A559	1O155	5	弥生土器	底部	6.5	(3.4)	不明
89	第24図 PL.	A513	1P153	6	弥生土器	壺	18.2	(4.4)	外：口縁部端面波状紋、ヨコナ デ、ナデ 内：ヨコナデ
90	第24図 PL.	A513	1P153	6	弥生土器	壺	11.9	(6.3)	外：ヨコナデ、ナデ、簾状紋 内：不明
91	第24図 PL.33	A513	1P153	5・6	弥生土器	壺	18.2	(5.3)	外：口縁部端面円形浮紋、ヨコナ デ、ミガキ 内：ヨコナデ、ナデ
92	第24図 PL.	A513	1N153	5	弥生土器	壺		(5.5)	外：波状紋、貼付突帯 内：ナデ
93	第24図 PL.	A513	1P153	5・6	弥生土器	ミニチュア 壺	4.0	6.2	外：ナデ、体部下半指頭痕 内：ナデ
94	第24図 PL.	A513	1P153	5・6	弥生土器	甕	16.4	(3.8)	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ナデ
95	第24図 PL.	A513	1P153	6	弥生土器	甕	32.0	(8.6)	外：ヨコナデ、ハケ 内：不明
96	第24図 PL.	A513	1P153	5・6	弥生土器	甕	25.0	(11.4)	外：ヨコナデ、ケズリ（右下→左 上） 内：不明
97	第24図 PL.	A513	1P153	5・6	弥生土器	甕	23.4	(11.3)	外：ヨコナデ、不明 内：ナデ
98	第24図 PL.33	A513	1P153	5・6	弥生土器	台付鉢	26.6	(7.5)	外：波状紋 内：不明
99	第24図 PL.	A513	1P153	5・6	弥生土器	高杯 脚部	8.8	(7.7)	不明
100	第24図 PL.34	A513	1P153	5・6	弥生土器	高杯	9.7	(10.1)	不明
101	第24図 PL.	A513	1Q153	6	弥生土器	底部	6.4	(3.0)	不明
102	第24図 PL.	A513	1Q153	6	弥生土器	底部	4.4	(2.2)	外：ミガキ、ナデ 内：不明
103	第24図 PL.	A513	1O153	6	弥生土器	底部	7.4	(4.2)	不明

出土遺物一覧表

遺物 番号	挿図番号 図版番号	遺構等	地 区	区	種 類	器 種	口 径 底 径	器 高	技法等の特徴
104	第24図 PL.34	A513	1P153	5・6	弥生土器	壺	7.4	(3.8)	外：ミガキ、ナデ 内：指押え
105	第24図 PL.	A513	1P153	5・6	弥生土器	底部	7.3	(4.0)	不明
106	第24図 PL.	A513	1P153	5・6	弥生土器	底部	7.8	(6.5)	外：指押え、ナデ
107	第24図 PL.	A513	1P153	5・6	弥生土器	底部	7.5	(7.1)	不明
108	第24図 PL.	A513	1Q153	6	弥生土器	底部	7.2	(8.2)	不明
109	第24図 PL.	A513	1O153	6	弥生土器	底部	9.6	(7.5)	不明
110	第25図 PL.34	A558	1N153 1O153	5	弥生土器	壺	14.5	(9.6)	外：ヨコナデ、ナデ、ミガキ
111	第25図 PL.34	A558	1N153	5	弥生土器	壺	19.6	(9.6)	外：頸部に直線紋
112	第25図 PL.	A558	1N153 1O153	5	弥生土器	壺	31.0	(10.3)	外：直線紋（11本） 内：口縁部に扇形紋
113	第25図 PL.	A558	1N153	5	弥生土器	壺		(10.0)	外：直線紋、波状紋、ハケ 内：指押え
114	第25図 PL.34	A558	1O153	5	弥生土器	壺	14.1	(13.6)	外：刻み目、凹線紋、波状紋、 貼付突帯（3条以上）
115	第25図 PL.	A558	1N153	5	弥生土器	壺		(6.5)	外：波状紋、貼付突帯（2条） 内：ナデ
116	第25図 PL.	A558	1O153 1P153	5	弥生土器	壺	17.2	(3.6)	外：円形浮紋
117	第25図 PL.	A558	1N153	5	弥生土器	甕	30.8	(9.1)	外：ヨコナデ 内：ハケ、ヨコナデ
118	第25図 PL.	A558	1O153	5	弥生土器	甕	16.6	(7.3)	外：ハケ 2次焼成
119	第25図 PL.34	A558	1N153	5	弥生土器	高杯	16.0	(14.6)	外：ミガキ、ヨコナデ 内：絞り目、ナデ
120	第25図 PL.	A558	1N153	5	弥生土器	甕	7.6	(4.8)	内：ハケ
121	第25図 PL.	A558	1N153	5	弥生土器	底部	4.0	(3.8)	外：指押え、ナデ
122	第25図 PL.	A558	1O153	5	弥生土器	壺			外：波状紋、直線紋 内：ナデ
123	第25図 PL.	A556	1N152	6	弥生土器	壺			外：波状紋、直線紋（共に13本）
124	第25図 PL.34	A556	1N152	6	弥生土器	壺			外：波状紋（13本）、直線紋、 格子紋（3本1組）
125	第25図 PL.50	A556	1N152	6	弥生土器	壺		(9.7)	外：波状紋（13本）、格子紋（3 本1組）、直線紋 内：ハケ
126	第25図 PL.34	A556	1N152	6	弥生土器	壺		(7.4)	外：直線紋、波状紋（13本）、格子紋 （3本1組）、簾状紋 内：ナデ
127	第25図 PL.	A556	1N152	6	弥生土器	底部	5.4	(3.6)	内：板状工具によるナデ
128	第25図 PL.	A556	1N152	6	弥生土器	甕	7.0	(2.1)	外：ミガキ、ナデ 内：板状工具によるナデ
129	第25図 PL.	A556	1N152	6	弥生土器	底部	5.9	(3.2)	外：ミガキ、ナデ

出土遺物一覧表

遺物 番号	挿図番号 図版番号	遺構等	地 区	区	種 類	器 種	口 径 底 径	器 高	技法等の特徴
130	第31図 PL.	第1層		4	陶磁器	唐津 碗	4.4	(2.1)	
131	第31図 PL.	第1層		4	陶磁器	唐津 皿	5.2	(2.8)	刷毛目唐津
132	第31図 PL.35	機械掘削			陶磁器	染付 碗	4.8	(3.2)	内：重ね焼痕 5ヶ所
133	第31図 PL.35	第1層			陶磁器	染付 碗	4.9	(3.0)	広東碗
134	第31図 PL.35	暗渠	1U157・ 158		陶磁器	信楽？ 播鉢	30.2 14.0	11.3	外：回転ナデ 内：スリ目（単位7本）
135	第31図 PL.34	第3層	2G169	3-E	銭貨	北宋銭	2.40	2.09g	太平通寶（初鑄976）
136	第31図 PL.	第3層	2A163	1	須恵器	甌		(2.5)	外：回転ナデ、沈線、波状紋 内：回転ナデ
137	第31図 PL.	第3層	1U156	1	須恵器	杯蓋	15.2	(1.2)	外：回転ナデ 内：回転ナデ
138	第31図 PL.	第3層	1Z162	1	弥生土器	壺		(7.4)	外：直線紋、波状文、貼付突帯 内：ナデ、シボリ目
139	第31図 PL.	第3層	1S158	1	弥生土器	底部	8.4	(3.7)	外：指押え後ナデ？ 底部ヘラ状工具痕
140	第31図 PL.	第3層	1W160	1	弥生土器	甕	24.8	(8.4)	不明
141	第31図 PL.50	第3層	1Y162	1	弥生土器	底部	10.0	(6.5)	外：指押さえ後ナデ、黒斑 底部穿孔
142	第31図 PL.	第3層	1S153	1	瓦器	鉢	23.2	(6.9)	外：ヨコナデ、指押え後ナデ 内：ミガキ
143	第31図 PL.	第3層	1U162	2	瓦器	鉢	10.2	(7.5)	外：ヨコナデ、指押え、ナデ 内：ナデ
144	第31図 PL.	第3層	1U160	1	瓦器	碗	16.8	4.8	外：ヨコナデ、指押え、ナデ 内：ヨコナデ、暗紋ジグザグ
145	第31図 PL.35	第3層	1V160 1U160	1	瓦器	碗	16.0	4.8	外：ヨコナデ、指押え後ナデ 内：暗紋ジグザグ
146	第31図 PL.	第3層	1U160	1	瓦器	碗	16.2	5.2	外：ヨコナデ、指押え、ミガキ 内：暗紋ジグザグ
147	第31図 PL.	第3層	1U160	1	瓦器	碗	15.8	(3.9)	外：ヨコナデ、指押え後ナデ 内：ミガキ
148	第31図 PL.	第3層	1S158	1	瓦器	碗	14.8	(4.0)	外：ヨコナデ、指押え後ナデ 内：ナデ
149	第31図 PL.	第3層	1U162	2	瓦器	碗	12.2 5.2	4.0	外：ヨコナデ、指押え後ナデ 内：ミガキ
150	第31図 PL.35	第3層	1R156	1	瓦器	皿	9.0	1.7	外：ヨコナデ、指押え後ナデ 内：ヨコナデ
151	第31図 PL.35	第3層	1T159	1	瓦器	皿	8.4	1.5	外：ヨコナデ、指押え、ナデ
152	第31図 PL.	第3層	1T159	1	瓦器	皿	7.0	1.3	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ
153	第31図 PL.35	第3層	1U160	1	土師器	皿	14.4	3.8	回転ナデ、底部回転糸切り痕
154	第31図 PL.35	第3層	1V160	1	土師器	皿	8.4	2.0	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ
155	第31図 PL.35	第3層	1T160	1	土師器	皿	8.5	1.3	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ

出土遺物一覧表

遺物 番号	挿図番号 図版番号	遺構等	地 区	区	種 類	器 種	口 径 底 径	器 高	技法等の特徴
156	第31図 PL.	第3層	1T160	1	土師器	皿	8.4	1.6	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、指押え後ナデ
157	第31図 PL.	第3層	1T159	1	土師器	皿	8.7 7.5	1.5	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、指押え、ナデ
158	第31図 PL.	第3・4層	1R155・ 156	1-N	土師器	土釜	29.0	(13.1)	外：貼付罽、ヨコナデ、ナデ、ケ ズリ 内：ケズリ
159	第32図 PL.	第4層	1U159	1	弥生土器	壺	18.0	(5.8)	貼付突帯（1条）
160	第32図 PL.	第4層	1V160	1	弥生土器	台付鉢	17.0	(5.7)	外：指押え、凹線紋（2本）、円 孔 内：ヨコナデ
161	第32図 PL.	第4層	1S159	1	弥生土器	高杯	9.2	(10.7)	不明
162	第32図 PL.35	第4層	1T159	1	瓦器	椀	15.8 5.4	5.8	外：指押え、ナデ 内：不明
163	第32図 PL.	第4層	1T159	1	瓦器	椀	15.2 5.2	4.7	外：ヨコナデ、指押え後ナデ
164	第32図 PL.35	第4層	1T154	1	瓦器	椀	15.2	5.0	不明
165	第32図 PL.	第4層	1R158	1	瓦器	皿	10.0	1.3	外：ヨコナデ、ナデ 内：暗紋ジグザグ
166	第32図 PL.	第4層	1T160	1	瓦器	皿	10.2	1.9	外：ヨコナデ、ナデ 内：ミガキ
167	第32図 PL.	第4層	1T160	1	土師器	皿	8.4	1.5	底部回転糸切り痕
168	第32図 PL.	第4層	1S158	1	土師器	皿	8.8 5.2	1.4	内外：回転ナデ 底部回転糸切り痕
169	第32図 PL.	第4層	1R159	1-N	土師器	土釜	27.0	(8.0)	外：貼付罽、ヨコナデ、ナデ 内：ナデ
170	第32図 PL.	第5層	2A162	1	弥生土器	壺	32.0	(2.8)	口縁部：棒状浮紋、内面端部扇形 紋、凹線紋、波状紋、棒状貼付浮紋
171	第32図 PL.	第5層	2A162	1	弥生土器	壺	20.0	2.4	外：ヨコナデ、ナデ、口縁端部キ ザミ目
172	第32図 PL.	第5層	2A162	1	弥生土器	壺	25.0	(2.0)	外：波状紋、ナデ 内：口縁端部列点紋、ナデ
173	第32図 PL.35	第5層	2A162	1	弥生土器	壺		(9.0)	外：貼付突帯（3条）、ヨコナデ
174	第32図 PL.	第7層	1S155	1	弥生土器	壺	14.4	(11.5)	不明
175	第32図 PL.51	第7層	1S159	1	弥生土器	壺	7.0	(7.8)	外：凹線紋（12本） 内：ナデ
176	第32図 PL.	第7層	1S156	1	弥生土器	壺	17.2	(6.8)	外：貼付突帯（1条）
177	第32図 PL.	第7層	1S160	1	弥生土器	壺	16.6	(13.8)	外：ヨコナデ、ナデ、横位の把手
178	第32図 PL.	第7層	1S156	1	弥生土器	高杯	30.0	(6.3)	外：ヨコナデ、ミガキ 凹線紋（3本）
179	第32図 PL.	第7層	1R159	1	弥生土器	甕	26.0	(3.8)	不明
180	第32図 PL.	第7層	1R158	1	円板		6.4	厚1.0	47.32 g 弥生（壺）
181	第33図 PL.	第3層	2B165	3	弥生土器	壺	29.4	(3.0)	外：口縁端部凹線紋5本、 ヨコナデ

出土遺物一覧表

遺物 番号	挿図番号 図版番号	遺構等	地 区	区	種 類	器 種	口 径 底 径	器 高	技法等の特徴
182	第33図 PL.	第3層	1S154	3	弥生土器	壺	10.8	(3.5)	不明
183	第33図 PL.	第3層	1W159・ 160	1	弥生土器	底部	4.0	(5.7)	
184	第33図 PL.	第3層	1Z166	3	製塩土器		5.6	(2.3)	脚台式、ナデ
185	第33図 PL.35	第3層	2D166	3-E	瓦器	椀	15.0 5.0	5.4	外：ヨコナデ、指押え後ミガキ、ナデ 内：ヨコナデ、暗紋ジグザグ
186	第33図 PL.35	第3層	2H173	3	瓦器	椀	13.2	3.5	外：ヨコナデ、指押え、ナデ 内：ミガキ
187	第33図 PL.	第3層	2B165	3	弥生土器	底部	6.6	(3.8)	外：ナデ、ミガキ
188	第33図 PL.	第3層	2G173	3	陶磁器	青磁 碗	5.8	(1.6)	高台内露胎
189	第33図 PL.	第3層	2F173	3	陶磁器	青磁 皿	5.0	(1.1)	
190	第33図 PL.	第3層	2D168	3	陶磁器	唐津 碗	4.6	(1.9)	
191	第33図 PL.	第3層	2D168	3	須恵器	捏鉢		(4.3)	外：回転ナデ
192	第33図 PL.	第3層	2H172	3	陶磁器	常滑 甕			外：タタキ 内：自然袖
193	第33図 PL.	第3層	1Y167	3-M	円板		4.1	厚0.9	16.41g 瓦
194	第33図 PL.	第3層	2D172	3	円板		5.0	厚2.7	48.01 g
195	第33図 PL.	第4層	1Z167	3	縄紋土器	深鉢			貼付突帯（1条）、キザミ目
196	第33図 PL.	第4層	2D168	3	弥生土器	台形 上器	3.0	(3.2)	内外：ナデ
197	第33図 PL.	第4層	2C170	3	弥生土器	底部	7.8	(6.0)	不明
198	第33図 PL.	第4層	1Z167	3	弥生土器	底部	7.8	(2.4)	不明
199	第33図 PL.	第4層	2A166	3	弥生土器	底部	4.2	(2.4)	不明
200	第33図 PL.	第4層	1Z167	3	製塩土器		4.2	(2.8)	脚台式
201	第33図 PL.	第4層	2C170	3	瓦器	椀	15.2 5.8	5.2	外：ヨコナデ、指押え、ナデ 内：ナデ
202	第33図 PL.	第4層	2D167	3	瓦器	椀	14.0 4.8	4.9	外：ミガキ 内：ミガキ
203	第33図 PL.	第4層	1Y166	3	土師器	皿	16.2 8.8	2.9	外：ヨコナデ、ナデ、底部回転糸 切り痕 内：ヨコナデ、ナデ
204	第33図 PL.	第5層	2D172	3	瓦器	椀	16.4 5.6	4.6	外：ヨコナデ、指押え、ナデ 内：ミガキ
205	第33図 PL.	第5層	2E166	3-E	瓦器	椀	15.4 4.8	4.7	外：ヨコナデ、指押え後ナデ 内：ミガキ
206	第33図 PL.	第5層？	2D167	3	瓦器	椀	14.2 5.4	4.4	外：ヨコナデ、指押え、ナデ 内：ミガキ
207	第33図 PL.	第5層	2D167 2E166	3-E	瓦器	椀	15.0 5.8	5.4	外：ヨコナデ、指押え、ミガキ、 ナデ 内：ミガキ、暗紋連結輪状

出土遺物一覧表

遺物 番号	挿図番号 図版番号	遺構等	地 区	区	種 類	器 種	口 径 底 径	器 高	技 法 等 の 特 徴
208	第33図 PL.	第4層	2F170	3	瓦器	皿	9.0	1.6	ヨコナデ、ナデ
209	第33図 PL.	第4層	2C170	3	土師器	皿	9.6	1.5	ヨコナデ、ナデ
210	第33図 PL.	第4層	2F169	3	土師器	皿	8.0	1.3	ヨコナデ、ナデ
211	第33図 PL.	第5層	2D166	3	瓦器	皿	10.0	(2.2)	外：ヨコナデ、指押え、ナデ 内：ヨコナデ、ミガキ
212	第33図 PL.	第5層	2E166 2D167	3-E	土師器	皿	8.5	(1.7)	外：ヨコナデ、指押え、ナデ 内：ヨコナデ
213	第33図 PL.	第5層	2D167	3-E	土師器	皿	8.8	1.8	外：ヨコナデ、指押え後ナデ 内：ヨコナデ、ナデ、タール状の煤付着
214	第33図 PL.	第4層	2B172	3-M	陶磁器	青磁 皿	5.0	(1.0)	劃花文、同安窯系
215	第33図 PL.	第4層	2D169	3	陶磁器	青磁 碗	6.6	(1.9)	内：沈線、高台内露胎
216	第34図 PL.	第5層	2D169	3	弥生土器	壺	22.0	(6.7)	外：口縁端部に凹線紋（3本）、 2穴1組の円孔
217	第34図 PL.	第5層	2C169	3	弥生土器	壺	22.2	(5.9)	外：口縁端部に波状紋？、ヨコナ デ、ナデ 内：扇形紋
218	第34図 PL.	第5層	2C169	3	弥生土器	甕	19.6	(3.6)	不明
219	第34図 PL.	第5層	2D169	3	弥生土器	壺	15.2	(3.2)	外：口縁端部に凹線紋、円形浮紋 内：ナデ
220	第34図 PL.50	第5層	2B169	3	弥生土器	壺	29.4	(6.8)	外：ヨコナデ、斜格紋、ハケ 内：ナデ、指押えナデ
221	第34図 PL.	第5層	2B166	3	弥生土器	壺	17.0	(9.7)	外：不明 内：板状工具によるナデ
222	第34図 PL.	第5層	2C168	3	弥生土器	壺	29.8	(3.6)	外：口縁端部に凹線紋
223	第34図 PL.	第5層	2A167	3	弥生土器	壺		(8.5)	外：波状紋+棒状貼付浮紋、波状 紋、直線紋、波状紋
224	第34図 PL.	第5層	2C169	3	弥生土器	甕	35.2	(5.0)	不明
225	第34図 PL.	第5層	2A167	3	弥生土器	甕	14.2	(2.2)	外：ヨコナデ
226	第34図 PL.	第5層	2B166	3	弥生土器	甕	14.8	(4.4)	不明
227	第34図 PL.36	第5層	2E168	3	弥生土器	鉢	32.4	(6.0)	外：廉状紋
228	第34図 PL.	第5層	2F169	3	弥生土器	壺	15.7	(4.7)	外：ヨコナデ、凹線紋、廉状紋
229	第34図 PL.	第5層	2D168	3	弥生土器	高杯	29.0	(4.8)	外：凹線紋（1条）、ミガキ
230	第34図 PL.	第5層	2C169	3	弥生土器	高杯	30.0	(3.5)	外：不明 内：ナデ、ミガキ
231	第34図 PL.36	第5層	2C168	3	弥生土器	複合 土器	垂下部径 17.0	(3.3)	外：凹線紋（5条）、円形浮紋に 竹管状工具で刺突
232	第34図 PL.	第5層	2C168	3	弥生土器	ミニチュア 土器	2.8 3.2	3.4	外：ナデ、指押え 内：ナデ
233	第34図 PL.	第5層	2A167	3	弥生土器	高杯	7.0	(10.4)	杯部内面：板状工具によるナデ

出土遺物一覧表

遺物番号	挿図番号 図版番号	遺構等	地区	区	種類	器種	口径 底径	器高	技法等の特徴
234	第34図 PL.	第5層	2C168	3	弥生土器	脚部	10.6	(3.2)	ナデ、上下2段に円孔、上段は貫通せず
235	第34図 PL.36	第5層	2E168	3	弥生土器	高杯	15.5	(6.3)	3穴1組の円孔5ヶ所
236	第34図 PL.	第5層	2B170	3	弥生土器	底部	8.0	(3.1)	不明
237	第34図 PL.	第5層	2C170	3	弥生土器	底部	7.5	(4.0)	不明
238	第34図 PL.	第5層	2C169	3	弥生土器	底部	10.0	(6.0)	不明
239	第34図 PL.	第5層	2D167	3	弥生土器	底部	7.8	(2.9)	外：ナデ、指押え 内：ナデ
240	第34図 PL.	第5層 (側溝)	2F169	3	弥生土器	底部	5.8	(1.7)	内：ナデ
241	第34図 PL.	第5・6層		3-M	弥生土器	底部	6.0	(1.5)	外：ヨコナデ、穿孔外→内（焼成前） 内：ナデ
242	第34図 PL.	第5層	2B169	3	弥生土器	底部	7.0	(3.5)	外：指押え、穿孔（焼成後） 内：ナデ
243	第35図 PL.	第6層	2D168	3	弥生土器	壺	21.5	(5.2)	外：波状紋、直線紋 内：列点紋
244	第35図 PL.	第6層	2C170	3	弥生土器	甕	24.0	(6.0)	外：ヨコナデ
245	第35図 PL.	第6層	2B166	3	弥生土器	壺	14.8	(9.2)	外：凹線紋（2条）、ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、指押え、ナデ
246	第35図 PL.	第6層	2C169	3	弥生土器	壺	13.6	(6.7)	外：ヨコナデ、ナデ、ハケ、タタキ
247	第35図 PL.	第6層	2C170	3	弥生土器	壺	18.6	7.5	不明
248	第35図 PL.	第6層	2C167	3	弥生土器	壺	17.4	(5.9)	不明
249	第35図 PL.	第6層	2C169	3	弥生土器	壺	15.0	(5.9)	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ
250	第35図 PL.	第6層		3	弥生土器	壺	13.8	(4.7)	不明
251	第35図 PL.	第6層	2B168	3	弥生土器	壺	13.9	(4.1)	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ
252	第35図 PL.	第6層	2E167	3-E	弥生土器	壺	17.8	(7.5)	外：凹線紋（4条）、ヨコナデ
253	第35図 PL.	第6層	1Z168	3-M	弥生土器	壺	15.2	(6.3)	外：ヨコナデ、キザミ目貼付突帯2条
254	第35図 PL.	第6層	2A169	3	弥生土器	壺	8.6	(11.0)	外：波状紋、直線紋
255	第35図 PL.36	第6層	2B・ 2C168	3	弥生土器	壺	15.6	(7.0)	外：凹線紋（2条） 内：列点紋、ナデ
256	第35図 PL.	第6層	2D168	3	弥生土器	壺	20.0	(3.6)	外：凹線紋（2条）、ナデ 内：列点紋、ナデ
257	第35図 PL.	第6層	2C169	3	弥生土器	壺	19.8	(3.3)	外：凹線紋（5条）+棒状浮紋、ヨコナデ
258	第35図 PL. 51	第6層	2B170	3	弥生土器	壺	22.8	(4.0)	外：凹線紋（2条）、凹線紋の間と上下にキザミ目、ナデ 内：ナデ
259	第35図 PL.	第6層	2E168	3-E	弥生土器	壺	7.4	(8.2)	外：ヨコナデ、ナデ、2穴1組の円孔 内：ナデ

出土遺物一覧表

遺物 番号	挿図番号 図版番号	遺構等	地 区	区	種 類	器 種	口 径 底 径	器 高	技法等の特徴
260	第35図 PL.	第6層	2A170	3-M	弥生土器	壺		(5.5)	外：廉状紋 内：ナデ
261	第35図 PL.36	第6層	2A167	3	弥生土器	壺		(4.8)	外：貼付突帯、棒状貼付浮紋、突 帯間に波状紋
262	第35図 PL.	第6層	2E169	3	弥生土器	無頸壺	16.0	(3.5)	外：ヨコナデ、凹線紋 内：ヨコナデ、ナデ、円孔
263	第35図 PL.	第6層	2B170	3	弥生土器	台形 土器	17.0	(2.8)	ナデ
264	第35図 PL.	第6層	2B166	3	弥生土器	台形 土器	22.0	(5.8)	外：ナデ 内：ナデ、ヨコナデ
265	第35図 PL.50	第6層	2C169	3	弥生土器	壺		(10.3)	外：凹線紋、廉状紋 内：ナデ、指押え
266	第35図 PL.	第6層	1Z167	3	弥生土器	蓋？	12.0	5.7	不明
267	第36図 PL.	第6層	2B168	3	弥生土器	甕	25.6	(11.6)	不明
268	第36図 PL.	第6層	2A168	3	弥生土器	甕	27.8	(10.2)	口縁部ヨコナデ
269	第36図 PL.	第6層	2B169	3	弥生土器	甕	29.8	(5.3)	外：ヨコナデ、ヘラケズリ（右→ 左） 内：板状工具によるナデ
270	第36図 PL.	第6層	2C168	3	弥生土器	甕	22.8	(4.4)	不明
271	第36図 PL.	第6層	2A168	3	弥生土器	甕	19.5	(5.8)	外：ヨコナデ、ヘラケズリ（右下→ 左上） 内：板状工具によるナデ
272	第36図 PL.	第6層	2A168	3	弥生土器	甕	16.8	(5.8)	外：ヨコナデ、ヘラケズリ（右下→ 左上） 内：板状工具によるナデ
273	第36図 PL.	第6層	2D170	3	弥生土器	甕	11.4	(8.5)	外：ナデ、ヘラケズリ（右下→左上） 内：ナデ、板状工具によるナデ
274	第36図 PL.	第6層	2B169	3	弥生土器	高杯	28.0	(7.2)	外：ヨコナデ、ヘラミガキ
275	第36図 PL.	第6層	2B168	3	弥生土器	高杯	14.0	(8.3)	不明
276	第36図 PL.	第6層	2A169 2B169	3	弥生土器	高杯	22.0	(6.5)	外：不明 内：ヨコナデ、ミガキ
277	第36図 PL.	第6層	2A168	3	弥生土器	高杯	30.0	(6.5)	外：凹線紋（1条）
278	第36図 PL.36	第6層	2B168 2B167	3	弥生土器	高杯	16.2	(13.9)	外：ヨコナデ 内：シボリ目
279	第36図 PL.36	第6層	2B168	3	弥生土器	高杯	16.8	(13.0)	内：シボリ目
280	第36図 PL.	第6層	2F168	3-E	弥生土器	高杯	17.0	(3.9)	外：ヨコナデ、凹線紋 内：ナデ、2穴1組の円孔5ヶ所
281	第36図 PL.	第6層	2C169	3	弥生土器	高杯	12.4	(5.0)	外：ミガキ、ヨコナデ 内：ナデ
282	第36図 PL.	第6層	2C169	3	製塩土器		6.2	(7.3)	脚台式
283	第36図 PL.51	第6層	2C169	3	弥生土器	高杯		(11.8)	外：直線紋（3帯以上）、ナデ 内：ヘラケズリ、シボリ目
284	第36図 PL.	第6層	2A170	3-M	弥生土器		6.1	(4.8)	内：ナデ
285	第36図 PL.	第6層	2E169	3	弥生土器		9.3	(5.0)	不明

出土遺物一覧表

遺物 番号	挿図番号 図版番号	遺構等	地 区	区	種 類	器 種	口径 底 径	器 高	技法等の特徴
286	第36図 PL.	第6層	2C169	3	弥生土器	高杯	8.8	(6.4)	不明
287	第36図 PL.	第6層	2B168	3	弥生土器	不明	8.0	(2.6)	外：凹線紋、ナデ
288	第37図 PL.36	第6層	2A169	3	弥生土器	底部	8.4	(9.6)	外：ヘラケズリ、指押え 内：ナデ
289	第37図 PL.	第6層	2D168	3	弥生土器	底部	13.0	(8.3)	外：ヘラケズリ 内：板状工具によるナデ
290	第37図 PL.36	第6層	2B168	3	弥生土器	底部	10.0	(7.8)	外：ヘラミガキ、指押え 内：板状工具によるナデ
291	第37図 PL.	第6層	1Z168	3	弥生土器	底部	9.2	(6.8)	外：ヘラケズリ、指押え、ナデ 内：指押え、ナデ
292	第37図 PL.	第6層	2A169	3	弥生土器	底部	10.0	(4.5)	外：指押え、ナデ 内：指押え
293	第37図 PL.36	第6層	2C170	3	弥生土器	底部	9.0	(5.1)	不明
294	第37図 PL.	第6層	2D167	3	弥生土器	底部	9.0	(4.4)	不明
295	第37図 PL.	第6層	2C167	3	弥生土器	底部	5.8	(2.1)	外：ケズリ、ナデ
296	第37図 PL.	第6層	2C167	3	弥生土器	底部	6.3	(3.0)	内：ナデ
297	第37図 PL.	第6層	2E169	3	弥生土器	底部	6.4	(2.0)	外：指押え、穿孔（焼成前） 内：板状工具によるナデ
298	第37図 PL.	第6層	2C169	3	弥生土器	底部	7.0	(4.0)	不明
299	第37図 PL.	第6層	2B169	3	弥生土器	底部	10.0	(3.4)	外：指押え、ケズリ 内：指押え、ナデ
300	第37図 PL.	第6層		3	弥生土器	底部	9.1	(3.2)	外：指押え、ナデ 内：指押え
301	第37図 PL.	第6層	1Z167	3	弥生土器	壺	6.2	(2.8)	外：ナデ
302	第37図 PL.36	第6層	2D170	3	弥生土器	底部	5.4	(3.3)	外：ナデ
303	第43図 PL.37	B1	1W158	1	瓦器	碗	14.9 6.1	5.3	外：ヨコナデ、指押え、ナデ 内：ミガキ、暗紋ジグザグ
304	第43図 PL.37	B1	1W158	1	瓦器	碗	15.0 5.7	4.9	外：ヨコナデ、指押え後ナデ 内：ミガキ、暗紋格子状
305	第43図 PL.37	B1	1W158	1	瓦器	碗	15.0 5.4	6.1	外：沈線、ナデ、指押え 内：ミガキ、暗紋連結輪状
306	第43図 PL.37	B1	1W158	1	瓦器	碗	15.6 6.8	5.0	外：ヨコナデ、指押え、ナデ 内：ミガキ
307	第43図 PL.	B1	1W158	1	土師器	皿	15.3 8.5	3.3	回転ナデ 底部回転糸切り痕
308	第43図 PL.37	B1	1W158	1	土師器	皿	15.0 8.6	3.6	回転ナデ 底部回転糸切り痕
309	第43図 PL.	B1	1W158	1	土師器	皿	14.9 9.3	3.75	回転ナデ 板目圧痕
310	第43図 PL.	B1	1W158	1	土師器	皿	15.2	3.2	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、指押え、ナデ
311	第43図 PL.	B1	1W158	1	土師器	皿	10.0	1.8	ヨコナデ、ナデ

出土遺物一覧表

遺物番号	挿図番号 図版番号	遺構等	地区	区	種類	器種	口径 底径	器高	技法等の特徴
312	第43図 PL.37	B1	1W158	1	土師器	皿	8.7 6.5	1.8	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ、底部回転糸切り痕
313	第43図 PL.	B1	1W158	1	土師器	皿	9.1 8.0	1.8	ヨコナデ、ナデ
314	第43図 PL.	B1	1W158	1	土師器	皿	9.0 6.4	1.3	ヨコナデ、ナデ 底部回転糸切り痕
315	第43図 PL.	B1	1W158	1	土師器	皿	8.7 6.6	1.4	ヨコナデ、ナデ 底部回転糸切り痕
316	第43図 PL.	B1	1W158	1	土師器	皿	8.9 6.9	1.6	ヨコナデ、ナデ
317	第43図 PL.	B1	1W158	1	土師器	土釜	24.0	(10.7)	外：貼付鐙
318	第43図 PL.	B37	1R158	1	瓦器	碗	15.0	(4.4)	外：ヨコナデ、指押え後ナデ 内：ミガキ
319	第43図 PL.	B37	1R158	1	土師器	皿	15.4 8.6	3.3	ヨコナデ、ナデ、底部回転糸切り 痕後板状工具によるナデ？
320	第43図 PL.	B38	1R157	1	土師器	皿	9.2 5.0	1.4	ヨコナデ、ナデ
321	第43図 PL.	B26	1R157	1	瓦器	皿	9.8	1.4	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ミガキ
322	第43図 PL.	B141	1T161	2	瓦器	碗	13.6 5.5	4.0	外：ヨコナデ、指押え後ナデ、ナ デ 内：ミガキ
323	第43図 PL.	B141	1U161	2	瓦器	碗	13.6 4.0	4.0	外：ヨコナデ、指押え、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ、暗紋連結輪状
324	第43図 PL.	B141	1T162	2-N	瓦器	碗	13.7	(3.4)	外：ヨコナデ、指押え、ナデ 内：ヨコナデ、ミガキ
325	第43図 PL.	B141	1T161	2	瓦器	皿	9.2	1.6	ヨコナデ、ナデ
326	第43図 PL.	B141	1T161	2-N	瓦器	皿	8.9 5.5	1.5	ヨコナデ、ナデ
327	第43図 PL.	B141	1T161	2	土師器	碗	9.0	(2.2)	内外：ナデ
328	第43図 PL.	B141	1T161	2	土師器	碗	6.4	(2.1)	不明
329	第43図 PL.	B141	1T161	2	土師器	皿	8.6	1.6	ヨコナデ、ナデ
330	第43図 PL.	B141	1T161	2-N	土師器	皿	8.3 7.0	(1.4)	ヨコナデ、ナデ
331	第43図 PL.	B141	1U161	2	土師器	皿	8.6	1.5	ヨコナデ、ナデ
332	第43図 PL.	B141	1U161	2	陶磁器	青磁碗	14.3	(3.7)	外：沈線、蓮弁紋
333	第43図 PL.	B141	1T161	2	陶磁器	青磁碗	6.3	(2.0)	高台内露胎
334	第43図 PL.	B141	1T161	2	陶磁器	青磁碗	6.2	(2.0)	高台内露胎
335	第44図 PL.	B141	1T161	2-N	陶磁器	白磁皿	10.5	(2.3)	
336	第44図 PL.	B161	1U159	1	弥生土器	壺	27.8	(2.8)	外：波状紋、ヨコナデ、ナデ 内：扇形紋
337	第44図 PL.50	B161	1U159	1	弥生土器	壺	33.4	(3.7)	外：波状紋、ヨコナデ、ナデ 内：扇形紋、板状工具によるナデ

出土遺物一覧表

遺物 番号	挿図番号 図版番号	遺構等	地 区	区	種 類	器 種	口 径 底 径	器 高	技 法 等 の 特 徴
338	第44図 PL.	B189	1V160	1	弥生土器	壺	20.0	(1.8)	ヨコナデ、2穴1組の円孔
339	第44図 PL.	B119	1W159	1	弥生土器	壺	16.0	(4.6)	不明
340	第44図 PL.	B142	1U159	1	弥生土器	壺	13.5	(6.8)	貼付突帯
341	第44図 PL.	B161	1U159	1	弥生土器	甕	27.5	(6.7)	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ
342	第44図 PL.	B161	1U159	1	弥生土器	甕	28.0	(4.7)	外：ヨコナデ
343	第44図 PL.	B161	1U159	1	弥生土器	甕	24.4	(5.8)	不明
344	第44図 PL.	B161	1U160	1	弥生土器	甕	36.6	(8.5)	外：ヨコナデ、ヘラケズリ 内：ヨコナデ、ナデ
345	第44図 PL.	B161	1U159	1	弥生土器	甕	35.0	(10.4)	不明
346	第44図 PL.	B161	1U159	1	弥生土器	甕	13.0	(6.5)	不明
347	第44図 PL.	B161	1U159	1	弥生土器	甕	16.8	(4.1)	外：ヨコナデ
348	第44図 PL.	B161	1U159	1	弥生土器	甕	31.0	(13.0)	口縁部ヨコナデ
349	第44図 PL.	B161	1U159	1	弥生土器	鉢	23.8	(8.2)	凹線紋（3条）
350	第44図 PL.37	B161	1U159	1	弥生土器	高杯		(12.2)	内：シボリ目
351	第44図 PL.37	B142	1V159	1	弥生土器	底部	7.0	(5.8)	外：ケズリ、指押え
352	第44図 PL.	B161	1U159	1	弥生土器	底部	5.6	(3.9)	外：指押え 内：ナデ
353	第44図 PL.37	B161	1U159	1	弥生土器	底部	9.8	(6.2)	外：ケズリ
354	第45図 PL.37	B161	1U159 160	1	弥生土器	壺	6.9	(21.3)	外：櫛溝紋、ミガキ 内：ナデ、指押え
355	第45図 PL.38	B13	2A162	1	弥生土器	壺	11.8 5.0	27.2	外：ヘラケズリ 体部穿孔
356	第45図 PL.	B13	2A162	1	弥生土器	壺	28.0	(3.0)	外：波状紋、ナデ 内：列点紋、ナデ
357	第45図 PL.	B13	2A162	1	弥生土器	壺	25.0	(2.1)	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ
358	第45図 PL.	B13	2A162	1	弥生土器	壺	17.8	(9.2)	外：貼付突帯
359	第45図 PL.	B13	2A162	1	弥生土器	底部	5.6	(4.3)	不明
360	第45図 PL.	B13	2A162	1	弥生土器	壺		(13.9)	外：直線紋（2帯以上）+波状紋（ 1帯）+直線紋（1帯）
361	第45図 PL.	B13	2A162	1	弥生土器	高杯	22.9	(7.6)	外：ヨコナデ、凹線紋（2条）、 ミガキ 内：ヨコナデ、ナデ
362	第45図 PL.	B14	1Y162	1	弥生土器	壺	14.0	(8.2)	外：ヨコナデ、ハケ
363	第45図 PL.39	B14	1Y162	1	弥生土器	底部	8.5	(8.0)	不明

出土遺物一覧表

遺物 番号	挿図番号 図版番号	遺 構 等	地 区	区	種 類	器 種	口 径 底 径	器 高	技 法 等 の 特 徴
364	第45図 PL.	B35	1U158	1	弥生土器	甕	22.0	(5.5)	不明
365	第45図 PL.	B35	1V156	1	弥生土器	甕	23.8	(4.9)	不明
366	第45図 PL.38	B401	1W157	1	弥生土器	甕	8.3	(29.0)	外：ヘラケズリ、ナデ 内：ナデ
367	第45図 PL.38	B401	1W157	1	弥生土器	底部	6.9	(10.7)	内：ナデ
368	第46図 PL.38	B403	1U157	1	弥生土器	台付鉢	25.3	(18.3)	外：ナデ、ヨコナデ、円孔4ヶ所
369	第46図 PL.	B315	1S161	2-N	弥生土器	壺	27.0	(14.8)	外：貼付突帯、棒状貼付浮紋 2次焼成
370	第46図 PL.	B315	1S161	2-N	弥生土器	壺	23.8	(10.0)	不明
371	第46図 PL.38	B315	1S・ 1T161	2-N	弥生土器	壺	19.6	(11.4)	外：貼付突帯（3条）
372	第46図 PL.	B315	1S161	2-N	弥生土器	壺	13.4	(10.5)	外：貼付突帯（2条）
373	第46図 PL.	B315	1S161	2-N	弥生土器	壺	13.4	(5.2)	不明
374	第46図 PL.	B315	1S161	2-N	弥生土器	壺	16.0	(10.2)	外：貼付突帯
375	第46図 PL.	B315	1S161	2-N	弥生土器	壺	21.4	(11.1)	外：波状紋、ハケ、貼付突帯
376	第46図 PL.	B315	1S161	2-N	弥生土器	壺	20.6	(8.3)	内：列点紋
377	第46図 PL.	B315	1S161	2-N	弥生土器	壺	22.0	(7.0)	2穴1組の円孔
378	第46図 PL.	B315	1S161	2-N	弥生土器	壺	28.8	(6.1)	不明
379	第46図 PL.	B315	1S161	2-N	弥生土器	壺	26.2	(8.0)	不明
380	第46図 PL.38	B315	1S161	2-N	弥生土器	壺	19.6	(12.6)	外：貼付突帯（2条）
381	第43図 PL.	B141	1S161	2-N	弥生土器	壺	19.8	(6.5)	不明
382	第46図 PL.	B315	1S161	2-N	弥生土器	壺	19.8	(8.5)	外：波状紋、貼付突帯
383	第47図 PL.	B315	1S161	2-N	弥生土器	壺	10.8	(17.0)	外：凹線紋（4本）、貼付突帯（2条）
384	第47図 PL.38	B315	1T161	2-N	弥生土器	壺	13.0	(13.3)	外：凹線紋（2本）、貼付突帯（2条）
385	第47図 PL.	B315	1S・ 1T160	2-N	弥生土器	壺	16.0	(7.8)	外：凹線紋（1本）
386	第47図 PL.	B315	1S161	2-N	弥生土器	壺	14.8	(7.0)	外：凹線紋（4本）
387	第47図 PL.	B315	1S・ 1T161	2-N	弥生土器	壺	14.6	(12.9)	外：ヨコナデ、凹線紋（1本）、 波状紋、直線紋
388	第47図 PL.	B315	1S161	2-N	弥生土器	壺	10.8	(10.3)	外：凹線紋（3本）
389	第47図 PL.	B315	1S161	2-N	弥生土器	壺	11.0	(4.6)	外：凹線紋（3本）、波状紋

出土遺物一覧表

遺物番号	挿図番号 図版番号	遺構等	地 区	区	種 類	器 種	口 径 底 径	器 高	技法等の特徴
390	第47図 PL.	B 315	1S161	2-N	弥生土器	壺	15.0	(6.6)	外：貼付突帯（4条以上）
391	第47図 PL.	B 315	1T161	2-N	弥生土器	壺	9.2	(16.6)	外：貼付突帯（1条）
392	第47図 PL.	B 315	1S・ 1T160	2-N	弥生土器	壺	23.0	(8.5)	外：凹線紋（3本）、ヨコナデ、 ナデ、貼付突帯（2条以上）
393	第47図 PL.	B 315	1S161	2-N	弥生土器	壺	36.6	(17.7)	外：指頭圧痕紋突帯
394	第47図 PL.39	B 315	1S161	2-N	弥生土器	壺	30.0	(12.8)	外：指頭圧痕紋突帯
395	第47図 PL.39	B 315	1S161	2-N	弥生土器	壺		(14.7)	外：ハケ、直線紋 貼付突帯（4条以上）
396	第47図 PL.39	B 315	1S161	2-N	弥生土器	壺		(19.4)	外：指頭圧痕紋突帯、ミガキ 内：ハケ後ナデ
397	第48図 PL.	B 315	1S161	2-N	弥生土器	甕	24.0	(8.8)	外：ヨコナデ
398	第48図 PL.	B 315	1S161	2-N	弥生土器	甕	26.0	(9.8)	外：ヨコナデ、ハケ？
399	第48図 PL.	B 315	1S161	2-N	弥生土器	甕	27.6	(4.5)	不明
400	第48図 PL.	B 315	1S161	2-N	弥生土器	甕	19.0	(3.1)	外：ヨコナデ、ケズリ 内：ヨコナデ、ケズリ
401	第48図 PL.	B 315	1S161	2-N	弥生土器	甕	26.0	(4.2)	外：ヨコナデ、ケズリ 内：ヨコナデ、ケズリ
402	第48図 PL.	B 315	1S161	2-N	弥生土器	鉢	27.8	(5.7)	外：波状紋、直線紋
403	第48図 PL.39	B 315	1S161	2-N	弥生土器	高杯	12.6	(13.2)	内：シボリ目
404	第48図 PL.	B 315	1S161	2-N	弥生土器	高杯	13.2	(10.4)	内：シボリ目
405	第48図 PL.	B 315	1S161	2-N	弥生土器	底部	6.8	(3.3)	外：ヘラミガキ
406	第48図 PL.	B 315	1S161	2-N	弥生土器	底部	7.5	(4.5)	底部：ナデ
407	第48図 PL.	B 315	1S161	2-N	弥生土器	底部	6.8	(4.0)	不明
408	第48図 PL.39	B 315	1S161	2-N	弥生土器	底部	6.2	(5.7)	外：指押え、ナデ 内：指頭痕
409	第48図 PL.39	B 315	1S161	2-N	弥生土器	底部	6.8	(9.4)	内：ナデ
410	第48図 PL.	B 315	1S・ 1T160	2-N	弥生土器	底部	7.0	(7.3)	不明
411	第48図 PL.39	B 315	1S161	2-N	弥生土器	底部	5.2	(6.8)	不明
412	第48図 PL.	B 315	1S161	2-N	弥生土器	底部	12.6	(14.6)	不明
413	第48図 PL.39	B 315	1S161	2-N	弥生土器	底部	13.9	(10.0)	外：ミガキ、ナデ 内：ナデ、指頭痕
414	第48図 PL.	B 315	1S・ 1T161	2-N	弥生土器	底部	13.8	(20.4)	不明
415	第48図 PL.40	B 315	1T・ 1S161	2-N	弥生土器	底部	6.4	(10.0)	外：ヘラケズリの後ナデ、指押え

出土遺物一覧表

遺物 番号	挿図番号 図版番号	遺構等	地 区	区	種 類	器 種	口 径 底 径	器 高	技法等の特徴
416	第49図 PL.40	B 323	1T162	2-N	弥生土器	壺	15.6	(10.0)	外：ヨコナデ、タタキ、黒斑 内：ヨコナデ、ナデ
417	第49図 PL.	B 323	1T162	2-N	弥生土器	壺	17.0	(7.5)	外：ヨコナデ、ナデ、タタキ 内：ヨコナデ、ナデ
418	第49図 PL.	B 30	1S158	1	弥生土器	底部	13.8	(2.4)	内：指押え
419	第49図 PL.	B 34	1U156	1	弥生土器	底部	7.0	(3.7)	2次焼成
420	第49図 PL.	B 381	1R158	1-N	弥生土器	壺	13.5	(4.8)	不明
421	第49図 PL.	B 98	1T159	1	弥生土器	甕	31.4	(6.1)	不明
422	第49図 PL.	B 30	1S158	1	弥生土器				不明
423	第49図 PL.40	B 87	1T160	1	瓦器	椀	14.9 5.4	4.9	外：ヨコナデ、指押え、ナデ 内：ヨコナデ、暗紋連結輪状
424	第49図 PL.	B 82	1U159	1	瓦器	椀	16.4	(4.4)	外：ヨコナデ、指押え後ナデ 内：ヨコナデ、ミガキ
425	第49図 PL.	B 30	1T158	1	瓦器	椀	16.2 5.2	5.45	外：ヨコナデ、指押えナデ 内：ヨコナデ、暗紋ジグザグ
426	第49図 PL.	B 30	1T158	1	瓦器	椀	10.4	(3.2)	外：ヨコナデ、指押え、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ
427	第49図 PL.40	B 90	1T159 1T160	1	瓦器	椀	15.1 5.0	5.1	外：ヨコナデ、指押えナデミガキ、片 口 内：ヨコナデ、ミガキ、連結輪状
428	第49図 PL.	B 90	1T159	1	瓦器	椀	14.7 3.4	5.2	外：ヨコナデ、ミガキ 内：ヨコナデ、ミガキ
429	第49図 PL.	B 54	1S159	1	瓦器	椀	13.8	(4.4)	外：ヨコナデ、指押えナデ 内：ヨコナデ、ミガキ
430	第49図 PL.40	B 59	1S159	1	瓦器	皿	8.2	1.55	ヨコナデ、ナデ
431	第49図 PL.	B 73	1T160	1	瓦器	皿	10.2 5.0	1.7	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ後ミガキ
432	第49図 PL.	B 91	1T160	1	土師器	皿？	7.7	(1.0)	回転ナデ 座部回転系切り痕
433	第49図 PL.	B 399	1S160	2-N	土師器	皿	8.0	1.6	内外：ヨコナデ、ナデ
434	第49図 PL.40	B 399	1S160	2-N	土師器	皿	8.2	1.3	内外：ヨコナデ、ナデ
435	第49図 PL.	B 243	1X158	1	土師器	皿	9.3	1.6	内外：ヨコナデ、ナデ
436	第49図 PL.	B 69	1U159	1	土師器	皿	8.4	1.3	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ、指押え
437	第49図 PL.	B 89	1T159	1	土師器	皿	8.2	1.4	内外：ヨコナデ、ナデ
438	第49図 PL.	B 144	1T160	2	土師器	皿	9.0	1.7	内外：ヨコナデ、ナデ
439	第49図 PL.	B 87	1T160	1	土師器	皿	8.6	1.4	内外：ヨコナデ、ナデ
440	第49図 PL.	B 74	1T160 1U160	1	土師器	甕	23.4	(6.5)	外：ヨコナデ、ナデ、貼付突帯（ 1条） 内：ヨコナデ、ナデ
441	第50図 PL.	B 315	1S161	2-N	弥生土器	壺	16.2	(5.5)	外：列点紋、簾状紋 内：ヨコナデ、ナデ

出土遺物一覧表

遺物 番号	挿図番号 図版番号	遺構等	地 区	区	種 類	器 種	口 径 底 径	器 高	技法等の特徴
442	第50図 PL.	B 315	1S161	2-N	弥生土器	壺			貼付突帯+棒状貼付浮紋
443	第50図 PL.	B 126	1U159 1U158	1	土師器	皿	10.2	(2.0)	内外：ヨコナデ、ナデ
444	第50図 PL.	B 78	1U157	1	瓦器	椀	4.6	(1.3)	暗紋連結輪状
445	第50図 PL.	B 393	1R158	1-N	瓦器	椀	12.9	(5.3)	外：ヨコナデ、指押えナデ 内：ミガキ
446	第50図 PL.	B 153	1V161	2	瓦器	椀	15.1 6.0	5.3	外：ヨコナデ、指押えナデ 内：ミガキ
447	第50図 PL.	B 334	1R159	2-N	瓦器	椀	16.8	(5.0)	外：ヨコナデ、ミガキ 内：ミガキ
448	第50図 PL.	B 49	1R159 1S159	1	瓦器	椀	14.2	(5.1)	外：ヨコナデ、指押え後ミガキ 内：ミガキ、暗紋ジグザグ
449	第50図 PL.40	B 334	1R159	2-N	瓦器	椀	14.8 4.7	4.9	外：ヨコナデ、指押え、ナデ、ミガキ 内：ヨコナデ、ミガキ、暗紋ジグザグ
450	第50図 PL.	B 49	1R159 1S159	1	土師器	皿	10.0 7.8	1.6	外：ヨコナデ 底部回転糸切り痕
451	第50図 PL.	B 49	1R159 1S159	1	土師器	皿	8.8 4.8	1.85	外：ヨコナデ、回転糸切り痕 内：ヨコナデ、ナデ
452	第50図 PL.	B 342	1R157	1-N	瓦器	皿	8.0	1.5	内外：ヨコナデ、ナデ
453	第50図 PL.	B 334	1R159	2-N	瓦器	椀	5.0	(1.0)	外：ナデ 内：ミガキ、暗紋ジグザグ
454	第50図 PL.	B 378	1R159	1-N	瓦器	椀	5.6	(0.7)	内外：ナデ
455	第50図 PL.	B 347	1R157	1-N	瓦器	椀	5.8	(1.2)	内外：ナデ
456	第54図 PL.	B 8	2D170	3	瓦器	椀	15.9 5.1	4.6	外：ヨコナデ、指押え、ナデ 内：ヨコナデ、沈線
457	第54図 PL.	B 8	2G170	3	瓦器	椀	15.1 4.6	4.4	外：ヨコナデ、指押え、ナデ
458	第54図 PL.	B 8	2D170	3	瓦器	椀	14.4 5.8	4.6	外：ヨコナデ、指押え、ナデ 内：ヨコナデ、ミガキ
459	第54図 PL.	B 8	2F170	3	瓦器	椀	8.4 4.8	3.0	外：ヨコナデ、ナデ 内：ミガキ
460	第54図 PL.	B 8	2E170	3	瓦器	椀	8.2 4.4	2.2	内外：ヨコナデ、ナデ
461	第54図 PL.	B 8	2F170	3	土師器	皿	12.0 5.6	2.9	外：ヨコナデ、ナデ、指押え 内：ヨコナデ、ナデ
462	第54図 PL.	B 8	2F170	3	瓦器	椀	5.3	(1.3)	外：ナデ、貼付高台 内：ミガキ
463	第54図 PL.	B 5	2D166	3	瓦器	椀	5.0	(1.4)	内外：ナデ
464	第54図 PL.	B 10	2E168	3	弥生土器	底部	7.3	(1.4)	内外：ナデ
465	第54図 PL.	B 10	2E168	3	弥生土器	壺	11.8	(7.8)	外：凹線紋（4本）、ナデ 内：ナデ
466	第54図 PL.	B 10	2E168	3	弥生土器	壺	27.8	(4.0)	不明
467	第54図 PL.	B 6	2B168	3	弥生土器	甕	21.9	(3.4)	不明

出土遺物一覧表

遺物番号	挿図番号 図版番号	遺構等	地区	区	種類	器種	口径 底径	器高	技法等の特徴
468	第54図 PL.	B 10	2E168	3	弥生土器	甕	16.2	(7.5)	不明
469	第54図 PL.	B 376	2F168	3-E	弥生土器	高杯	24.4	(5.8)	不明
470	第54図 PL.	B 25	2B167	3	弥生土器	甕	12.7	(5.4)	不明
471	第54図 PL.	B 376	2F168	3-E	弥生土器	壺	17	(6.2)	外：凹線紋（2本）
472	第54図 PL.	B 369	2J172	3-E	弥生土器	壺	12.6	(13.4)	外：貼付突帯（2条）
473	第54図 PL.	B 302	2E166	3-E	瓦器	椀	15.4 5.0	4.7	外：ヨコナデ、指押え後ナデ 内：ヨコナデ、ミガキ、ナデ
474	第54図 PL.	B 302	2E166・ 167	3-E	瓦器	椀	15.0	(4.4)	外：ヨコナデ、指押え後ナデ 内：ヨコナデ、ミガキ
475	第54図 PL.	B 302	2E167	3-E	瓦器	椀	15.0	(4.1)	外：ヨコナデ、指押え後ナデ 内：ミガキ
476	第54図 PL.	B 302	2E166	3-E	瓦器	椀	14.0 3.7	4.9	外：ヨコナデ、指押え後ナデ 内：ヨコナデ、ミガキ
477	第54図 PL.40	B 186	2E168	3	瓦器	皿	8.5 7.3	2.0	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ミガキ、暗紋ジグザグ
478	第54図 PL.	B 302	2E162	3-E	瓦器	皿	9.0 7.4	1.0	外：ヨコナデ、指押え後ナデ 内：ミガキ、暗紋ジグザグ
479	第54図 PL.	B 232	2H172	3	瓦器	皿	8.2	(1.4)	外：ヨコナデ、指押え、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ
480	第54図 PL.	B 232	2H172	3	土師器	椀	7.2	(1.0)	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ
481	第54図 PL.	B 193	2H172	3	瓦器	椀	14.2 6	4.5	外：指押え
482	第54図 PL.41	B 404	2F170	3	弥生土器	台付鉢	37.0 18.8	25.6	杯部：凹線紋（4本）、透し穴4ヶ所 脚台部：凹線紋（3本+1本）、黒斑あり
483	第54図 PL.41	B 404	2F170	3	弥生土器	甕	26.5 8.4	37.8	外：ヨコナデ、ヘラケズリ 内：ナデ
484	第57図 PL.	第3・4層	2M117	14	弥生土器	壺	27.0	(4.0)	外：凹線紋沈線紋、ヨコナデ、ナデ 内：列点紋、3穴1組の円孔
485	第57図 PL.	第3・4層	2L180	14	弥生土器	甕	22.0	(4.6)	不明
486	第57図 PL.	第3・4層	2M179	14	弥生土器	壺	17.0	(2.6)	外：斜格紋、円形浮紋、ヨコナデ 内：扇形紋
487	第57図 PL.42	第3・4層	2O178 2N178	14	弥生土器	台付鉢	11.0	(7.3)	外：ヘラミガキ 内：指押え、ナデ
488	第57図 PL.	第3層	2Z194	16	瓦器	椀	15.2	(4.6)	外：指押え
489	第57図 PL.	第3層	3B195	16	須恵器	甕	45	(5.8)	外：回転ナデ、波状紋（2帯） 凹線紋（1本）
490	第57図 PL.	第3層	2Y194	16	須恵器	甕			外：タタキ
491	第57図 PL.	第4層	2W190	15	瓦器	椀	15.0	(5.0)	外：ヨコナデ、指押え 内：ミガキ
492	第57図 PL.	第4層	2U189	15	弥生土器	台形土器	21.6	(6.8)	外：ヨコナデ 内：ナデ
493	第57図 PL.	第4層	2V187	15	弥生土器	台形土器	16.0	(2.3)	内：ナデ

出土遺物一覧表

遺物 番号	挿図番号 図版番号	遺構等	地 区	区	種 類	器 種	口 径 底 径	器 高	技 法 等 の 特 徴
494	第57図 PL.42	暗渠	2N180	14	瓦	軒丸瓦	13.6	(11.5)	巴紋 凸面：板状工具によるケズリ
495	第57図 PL.42	暗渠	2P180	14	瓦	軒平瓦			唐草紋 凸面：ナデ 凹面：布目
496	第57図 PL.	暗渠	2P180	14	陶磁器	唐津	13.0	(4.9)	内：刷毛目
497	第57図 PL.	暗渠	2O178	14	陶磁器	唐津 碗	4.6	(2.4)	
498	第57図 PL.	暗渠	2W192	16	陶磁器	備前 播鉢		(5.3)	外：口縁部自然袖
499	第57図 PL.	暗渠	2N179 2O179	14	陶磁器	京焼風 碗	4.5	(3.5)	
500	第57図 PL.42	第3・4層	2R182	14	円板		4.2	厚1.8	34.42g 瓦器
501	第57図 PL.42	第4層	2W187	15	円板		6.7	厚0.7	29.55g
502	第57図 PL.42	第4層	2O183	14	円板		4.9 5.1	厚0.8	24.49g 弥生？
503	第57図 PL.42	暗渠	2N179 2O179	14	円板		5.2	厚2.1	58.28g 瓦
504	第57図 PL.	側溝		15	玉 (ガラス製)		0.8	0.5	重量0.36g 孔径0.25cm
505	第58図 PL.	第4層	2U189	15	弥生土器	壺	22.2	(4.3)	内：列点紋、ナデ 外：列点紋、ハケ
506	第58図 PL.	第4層	2O182 2O181	14	弥生土器	壺	16.6	(8.3)	外：簾状紋、ヨコナデ、棒状貼付 浮紋？ 内：列点紋
507	第58図 PL.	第4層	2Y189	15 拡	弥生土器	壺	20.0	7.6	外：凹線紋（3本）、円孔
508	第58図 PL.42	第4層	2U190	15	弥生土器	壺	15.2	(7.5)	外：凹線紋 口縁部2本、頸部3本
509	第58図 PL.	第4層	2W188	15	弥生土器	壺	24.0	(7.2)	外：凹線紋（1本）
510	第58図 PL.	第4層	2W188	15	弥生土器	壺	18.6	(9.1)	外：凹線紋（3本）
511	第58図 PL.	第4層	2W188	15	弥生土器	壺	17.4	(6.9)	外：凹線紋（1本）
512	第58図 PL.	第4層	2Y189	15 拡	弥生土器	壺	24.1	(4.6)	外：凹線紋（3本）、ヨコナデ
513	第58図 PL.	第4層	2V187	15	弥生土器	壺	21.7	(11.5)	外：貼付突帯（2条）
514	第58図 PL.	第4層	2V187	15	弥生土器	壺	22.0	(9.8)	外：波状紋？、ヨコナデ、ナデ貼 付突帯（2条）
515	第58図 PL.42	第4層	2V190	15	弥生土器	壺	15.2	(8.3)	外：貼付突帯（2条）
516	第58図 PL.	第4層	2W187	15	弥生土器	壺	21.0	(8.2)	外：ヨコナデ
517	第58図 PL.	第4層	2V187	15	弥生土器	壺	31.6	(3.6)	内：円形浮紋、ヨコナデ
518	第58図 PL.	第4層		15	弥生土器	壺	9.2	(4.1)	外：ヨコナデ、ナデ、貼付突帯（ 1条） 内：ヨコナデ、ナデ
519	第58図 PL.	第4層	2Y189	15 拡	弥生土器	壺	21.8	(5.6)	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ

出土遺物一覧表

遺物 番号	挿図番号 図版番号	遺構等	地 区	区	種 類	器 種	口 径 底 径	器 高	技 法 等 の 特 徴
520	第59図 PL.42	第4層	2W187	15	弥生土器	壺	17.4	(11.0)	外：貼付突帯（1条） 内：シボリ目
521	第59図 PL.	第4層	2V189	15	弥生土器	壺	19.2	(7.8)	外：貼付突帯（1条）
522	第59図 PL.	第4層	2T189	15	弥生土器	壺	13.4	(6.0)	外：ヨコナデ、貼付突帯、棒状貼付 浮紋、波状紋、直線紋 内：ナデ
523	第59図 PL.	第4層	2W188	15	弥生土器	壺	16	(9.4)	不明
524	第59図 PL.	第4層	2U190	15	弥生土器	壺	17.8	(9.4)	外：凹線紋（3本）
525	第59図 PL.	第4層	2Y189	15 抔	弥生土器	壺	14.0	(11.5)	外：凹線紋（3本）
526	第59図 PL.42	第4層	2W188	15	弥生土器	壺	12	(8.3)	外：凹線紋（9本以上）
527	第59図 PL.	第4層	2V187	15	弥生土器	壺	14.3	(8.0)	外：刻み目、直線紋（2帯）、 貼付突帯
528	第59図 PL.42	第4層	2U190	15	弥生土器	壺	17.6	(17.5)	外：凹線紋 口縁部5本、頸部4本
529	第59図 PL.	第4層	2Y189	15 抔	弥生土器	壺	24.8	(7.2)	外：凹線紋（5本）、円形浮紋、 円孔
530	第59図 PL.	第4層	2W187	15	弥生土器	壺	26.4	(3.5)	外：竹管円形浮紋、ヨコナデ、ナ デ 内：列点紋
531	第59図 PL.	第4層	2Y189	15 抔	弥生土器	壺	19.8	(6.5)	外：凹線紋、円形浮紋、ヨコナデ 内：列点紋
532	第59図 PL.	第4層	2T190	15	弥生土器	壺	19.0	(3.4)	外：凹線紋、円形浮紋 内：列点紋
533	第59図 PL.51	第4層	2W188	15	弥生土器	壺	17.9	(4.1)	外：凹線紋、竹管円形浮紋、ヨコ ナデ 内：ナデ
534	第59図 PL.	第4層	2T189	15	弥生土器	壺	20.4	(4.3)	外：波状紋、ナデ 内：ヨコナデ
535	第60図 PL.	第4層	2W187	15	弥生土器	壺		(13.4)	外：凹線紋（7本）、直線紋（4帯 以上） 内：ナデ
536	第60図 PL.	第4層	2O178	14	弥生土器	壺		(15.6)	外：直線紋（3帯以上）、斜格紋
537	第60図 PL.	第4層	2Y188 2Y189	15 抔	弥生土器	壺		11.5	外：ナデ、貼付突帯（2帯） 内：ナデ
538	第60図 PL.43	第4層	2W188	15	弥生土器	壺	26.8	(11.3)	外：ハケ、指頭圧痕紋突帯 内：ナデ
539	第60図 PL.	第4層	2Y189	15 抔	弥生土器	壺		(9.8)	外：凹線紋（5本）
540	第60図 PL.51	第4層	2Y188	15 抔	弥生土器	壺	11.4	(8.2)	外：綾杉状列点紋、凹線紋（6本） 内：ナデ
541	第60図 PL.	第4層	2O180	14	弥生土器	甕	11.6	(5.0)	不明
542	第60図 PL.	第4層	2W188	15	弥生土器	甕	30.0	(9.5)	不明
543	第60図 PL.	第4層	2W187	15	弥生土器	甕	30.0	(4.2)	外：ヨコナデ
544	第60図 PL.	第4層	2Y188	15 抔	弥生土器	甕	36.0	(5.3)	外：ヨコナデ
545	第60図 PL.	第4層	2P183	14	弥生土器	甕	28.0	(4.6)	不明

出土遺物一覧表

遺物 番号	挿図番号 図版番号	遺構等	地 区	区	種 類	器 種	口 径 底 径	器 高	技法等の特徴
546	第60図 PL.	第4層	2Y189	15 拡	弥生土器	甕	28.0	(9.1)	外：ヨコナデ
547	第60図 PL.	第4層	2Y189	15 拡	弥生土器	甕	36.0	(4.8)	不明
548	第60図 PL.	第4層	2W188	15	弥生土器	甕	35.4	(5.7)	不明
549	第60図 PL.	第4層	2W188	15	弥生土器	甕	36.0	(7.1)	不明
550	第60図 PL.	第4層	2W187	15	弥生土器	甕	40.0	(6.3)	ヨコナデ
551	第61図 PL.43	第4層	2U189	15	弥生土器	高杯	15.3 7.9	11.6	外：凹線紋（3条以上） たて位の把手？、円孔5穴
552	第61図 PL.43	第4層	2N177	14	弥生土器	鉢	13.8	(8.2)	外：ミガキ、ヘラケズリ 内：ミガキ、ナデ
553	第61図 PL.	第4層	2T190	15	弥生土器	高杯	22.8	(3.7)	内：ヨコナデ、ナデ
554	第61図 PL.	第4層	2Z194	16	弥生土器	高杯	29.0	(3.5)	
555	第61図 PL.	第4層	2W188	15	弥生土器	高杯	23.4	(6.5)	
556	第61図 PL.43	第4層	2W188	15	弥生土器	高杯	10.8	(12.1)	円孔6ヶ所
557	第61図 PL.	第4層	2W187	15	弥生土器	高杯		(11.3)	外：凹線紋（15本以上）、円孔 内：ヘラケズリ
558	第61図 PL.43	第4層	2U190	15	弥生土器	高杯	8.4	(10.1)	内：ヘラケズリ、シボリ目、円孔5穴
559	第61図 PL.	第4層	2W187	15	弥生土器	高杯	15.0	(8.0)	内：ヘラケズリ、シボリ目
560	第61図 PL.	第4層		15	弥生土器	台付鉢	12.8	(7.1)	外：凹線紋（6本）、円孔3段
561	第61図 PL.	第4層	2W187	15	弥生土器	器台	32	(11.4)	外：凹線紋（4本+2本）、円孔
562	第61図 PL.	第4層	2O182 2N182	14	弥生土器	底部	8.0	10.5	外：ヘラケズリ、ナデ
563	第61図 PL.43	第4層	2U189	15	弥生土器	底部	8.4	(8.8)	内：ナデ
564	第61図 PL.	第4層	2W188	15	弥生土器	底部	5.8	(5.5)	内：ハケ、ナデ
565	第61図 PL.	第4層	2M177	14	弥生土器	底部	5.2	(2.7)	外：指押え後ナデ
566	第61図 PL.	第4層	2Y189	15 拡	弥生土器	底部	5.0	(3.7)	外：ナデ 内：ナデ
567	第61図 PL.43	第4層	2M179	14	弥生土器	底部	10.2	(16.0)	外：ヘラケズリ、ナデ
568	第66図 PL.44	C761	2N178	14	弥生土器	壺		(25.2)	外：凹線紋、波状紋、直線紋、貼付 突帯 内：指おさえ、ナデ、シボリ目
569	第66図 PL.	C735	2N179 2O179	14	弥生土器	甕	24.8	(8.8)	不明
570	第66図 PL.	C761	2N178	14	弥生土器	甕	35.0	(17.2)	外：ヨコナデ、ハケ 内：ハケ
571	第66図 PL.	C739	2M180	14	弥生土器	壺	15.6	(5.6)	外：円形浮紋、貼付突帯（2条以上）

出土遺物一覧表

遺物 番号	挿図番号 図版番号	遺構等	地 区	区	種 類	器 種	口 径 底 径	器 高	技法等の特徴
572	第66図 PL.	C 739	2M180	14	弥生土器	底部	7.2	(4.8)	外：ナデ
573	第66図 PL.	C 735	2O179	14	弥生土器	甕	15.9	(4.2)	外：ヨコナデ、ヘラケズリ 内：ヨコナデ
574	第66図 PL.	C 735	2O179	14	弥生土器	杯	14.4 4.8	7.4	外：ヨコナデ、ヘラミガキ、ナデ 内：ヘラミガキ
575	第66図 PL.	C 735	2M178	14	弥生土器	高杯		(8.0)	外：ヘラミガキ 内：シボリ目
576	第66図 PL.	C 735	2O179	14	弥生土器	底部	5.5	4.0	不明
577	第66図 PL.	C 735	2N179	14	弥生土器	底部	10.3	3.0	内：ナデ
578	第66図 PL.	C 750	2M179	14	弥生土器	高杯		(7.9)	内：シボリ目
579	第67図 PL.44	C 725	2Q183	14	弥生土器	壺	21.4	(18.0)	外：沈線(2本)、ヨコナデ、ナデ、板 ナデ後ヘラミガキ 内：ナデ、板ナデ
580	第67図 PL.44	C 725	2Q183	14	弥生土器	壺	23.0	(10.2)	外：ヨコナデ、ナデ 内：指押え、ナデ
581	第67図 PL.	C 725	2Q183	14	弥生土器	甕	11.2	(8.6)	外：ヨコナデ、ヘラケズリ 内：ヨコナデ、ナデ
582	第67図 PL.44	C 725	2Q183	14	弥生土器	高杯	11.6	(9.4)	不明
583	第67図 PL.44	C 725	2Q183	14	弥生土器	高杯	12.5 7.5	13.0	外：ナデ
584	第67図 PL.	C 799	2U189	15	弥生土器	壺	25.8	(5.3)	外：凹線紋、円形浮紋、ヨコナデ、 ナデ 内：列点紋
585	第67図 PL.44	C 799	2U189	15	弥生土器	高杯	29.4	(9.8)	不明
586	第67図 PL.44	C 799	2U189	15	弥生土器	壺	7.0 4.0	9.1	外：ヘラミガキ、ナデ？ 内：指押え、ナデ、円孔2ヶ所
587	第67図 PL.	C 722	2R183	14	弥生土器	甕	16.4	(11.8)	外：ヨコナデ、ヘラケズリ
588	第67図 PL.44	C 800	2V188	15	弥生土器	壺	22.2	(13.3)	不明
589	第67図 PL.45	C 800	2V188	15	弥生土器	底部	8.2	(20.7)	内：ナデ
590	第68図 PL.	C 706	2V187	15	弥生土器	壺	13.4	(9.3)	外：貼付突帯
591	第68図 PL.	C 706	2V187	15	弥生土器	壺	9.8	(4.3)	外：ヘラミガキ
592	第68図 PL.45	C 706	2V187	15	弥生土器		13.8	12.2	内：ナデ、ヨコナデ
593	第68図 PL.	C 706	2V187	15	弥生土器	台形 土器	16.2	(4.4)	外：ナデ 内：ハケ目、ナデ
594	第68図 PL.	C 706	2V187	15	弥生土器	甕	26.2	(14.8)	不明
595	第68図 PL.	C 706	2V187	15	弥生土器	壺	6.2	(18.5)	外：ミガキ 内：ナデ
596	第69図 PL.45	C 703	2Y189	15 拡	弥生土器	壺	12.1 5.4	35.0	外：ヨコナデ、ハケ、ヘラケズリ 内：ヨコナデ、ハケ指押え、円孔
597	第69図 PL.	C 703	2Y188	15 拡	弥生土器	壺	14.8	(4.8)	外：貼付突帯（1条）

出土遺物一覧表

遺物番号	挿図番号 図版番号	遺構等	地 区	区	種 類	器 種	口 径 底 径	器 高	技法等の特徴
598	第69図 PL.	C 703	2Y189	15 抔	弥生土器	壺	24.0	(11.5)	外：ヨコナデ、指頭圧痕紋突帯
599	第69図 PL.	C 703	2Y188	15 抔	弥生土器	壺	20.0	(8.3)	外：列点紋 内：ヨコナデ、ナデ
600	第69図 PL.45	C 703	2Y189	15 抔	弥生土器	壺	12.8	(16.0)	不明
601	第69図 PL.45	C 703	2Y189	15 抔	弥生土器	壺	17.6	(7.5)	外：凹線文、棒状貼付浮紋 内：列点紋
602	第69図 PL.	C 703		15 抔	弥生土器	蓋	18.2	5.5	外：ヨコナデ
603	第69図 PL.	C 703	2Y188	15 抔	弥生土器	甕	25.0	(3.8)	不明
604	第69図 PL.	C 703	2Y189	15 抔	弥生土器	甕	26.4	(7.4)	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ
605	第69図 PL.45	C 703	2Y189	15 抔	弥生土器	高杯	8.4	(10.6)	外：ミガキ、ヨコナデ、3穴1組 の円孔4ヶ所 内：シボリ目
606	第69図 PL.	C 703	2Y188	15 抔	弥生土器	高杯	8.2	(11.1)	脚裾部穿孔
607	第69図 PL.45	C 703	2Y188	15 抔	弥生土器	台付鉢	11	(5.2)	外：ヘラミガキ、ヨコナデ、刺突紋 内：ナデ、ヨコナデ、シボリ目
608	第69図 PL.	C 703	2Y188	15 抔	弥生土器	高杯	7.2	(11.5)	外：ミガキ、ヨコナデ 内：シボリ目
609	第69図 PL.	C 703	2Y189	15 抔	円板		3.0	厚 0.7	8.31g 弥生壺
610	第69図 PL.	C 703		15 抔	円板		2.0	厚 0.5	3.21g 弥生？
611	第72図 PL.46	第3層	3B196	16	須恵器	甕		(6.2)	回転ナデ、突帯（1条）、波状紋、 沈線（1本）
612	第72図 PL.	第3層	3B197	16	須恵器	甕		1.6	外：タタキ後ナデ 内：あて具痕
613	第72図 PL.	第3層	3C200・ 3D200	16	須恵器	壺	6.4	(3.8)	外：回転ヘラ削り 内：回転ナデ
614	第72図 PL.	第3層	3G199	16	陶磁器	備前 擂鉢		(4.4)	内外：回転ナデ
615	第72図 PL.	第3層	3F203	17	陶磁器	備前 甕		(5.4)	内外：回転ナデ
616	第72図 PL.	第3層	3R212	19	瓦器	椀	4.2	(1.7)	外：ナデ、指押え 内：ナデ
617	第72図 PL.	第3層	3H202	17	瓦器	椀	5.2	(1.9)	内：ミガキ、暗紋ジグザグ
618	第72図 PL.	第3層	3B197	16	土師器	皿	8.0	1.1	外：ヨコナデ、指押え後ナデ 内：ヨコナデ、ナデ
619	第72図 PL.	第3層	3E199	16	陶磁器	白磁 碗	6.6	(2.2)	内：沈線
620	第72図 PL.	第3層	3Q212	19	陶磁器	青磁 碗	4.6	(1.3)	外：蓮弁紋？、高台内露胎 内：沈線
621	第72図 PL.	第3層	2L205	17	陶磁器	美濃・瀬 戸系碗	5.4	(1.8)	外：全面施釉、骨付部ケズリ取り
622	第72図 PL.	第3層	3E201	17	円板		5.5	厚 2.4	91.36g 瓦
623	第72図 PL.46	暗渠	3J206	19	陶磁器	染付 碗	9.4 3.9	5.3	外：高台部圈線

出土遺物一覧表

遺物 番号	挿図番号 図版番号	遺構等	地 区	区	種 類	器 種	口 径 底 径	器 高	技 法 等 の 特 徴
624	第72図 PL.	用水路	3S217	18	陶磁器	唐津 皿	4.0	3.0	外：回転ナデ 内：回転ナデ、ヘラケズリ、自然釉
625	第72図 PL.34	第3層	3H204	17	銭貨	北宋銭	2.45	3.02g	天禧？通寶（初鑄1017）
626	第72図 PL.	第4層	3U213	18	弥生土器	壺	15.8	(4.7)	外：ヨコナデ、凹線紋（2本）、 ハケ 内：ヨコナデ、ナデ
627	第72図 PL.	第4層	3S211	18	弥生土器	壺	18.4	(7.5)	不明
628	第72図 PL.	第4層	3H200	16	弥生土器	壺	17.8	(8.9)	不明
629	第72図 PL.46	第4層	3U213	18	弥生土器	壺	7.3	(24.5)	外：波状紋、直線紋、下半ヘラミ ガキ 内：ハケ
630	第72図 PL.46	第3・4層	3H200 3G203	16・17	弥生土器	高杯	28.0	(8.7)	外：凹線紋（4本）
631	第72図 PL.46	第3・4層	3G200	16	弥生土器	底部	8.7	(9.2)	不明
632	第72図 PL.	第4層	3S216	18	弥生土器	底部	15.2	(11.5)	不明
633	第72図 PL.	第4層	3T214	18	弥生土器	底部	4.8	(3.0)	外：タタキ 内：ナデ
634	第72図 PL.	第4層	3G202	17	弥生土器	底部	5.4	(2.0)	不明
635	第72図 PL.46	第4層	3U213	18	弥生土器	壺	4.6	(6.9)	内：ナデ
636	第77図 PL.	D794	3J201	17	弥生土器	壺	21.0	(8.3)	内：列点紋
637	第77図 PL.	D802	3T215	18	弥生土器	壺	15.0	(12.2)	外：ヨコナデ、凹線紋（1本）、 ナデ、ヘラミガキ 内：ヨコナデ
638	第77図 PL.	D794	3J202	17	弥生土器	壺	15.0	(8.4)	不明
639	第77図 PL.	D801	3S216	18	弥生土器	壺	11.6	(6.6)	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ナデ、シボリ目
640	第77図 PL.	D798	3S212	18	弥生土器	壺	22.0	(57.6)	外：下半ヘラミガキ
641	第77図 PL.	D790	3P208	19	弥生土器	ミニチュア 土器	4.6 3.5	2.3	内外：指押え後ナデ
642	第77図 PL.46	D790	3R213	19	須恵器	杯？		(0.5)	回転ナデ
643	第77図 PL.46	D790	3R213	19	須恵器	杯？		(1.4)	回転ナデ
644	第77図 PL.	D790	3M204	17	黒色土器 (A)	碗	7.0	(2.8)	外：指押え後ナデ、ナデ 内：ミガキ？
645	第77図 PL.	D790	3Q212	19	瓦器	碗	6.4	(1.6)	外：ナデ、ヨコナデ 内：ミガキ
646	第77図 PL.	D790	3R208 3Q209	19	瓦器	碗	16.4	(6.3)	外：ヨコナデ後ミガキ、指押え後 ミガキ 内：ミガキ
647	第77図 PL.46	D790	3O210	19	土師器	皿	8.7	1.3	内外：ヨコナデ、ナデ
648	第81図 PL.	第3a層	4F225	12	弥生土器	甕	5.6	(3.5)	外：タタキ、指押え後ナデ 内：板状工具によるナデ
649	第81図 PL.	第3a層	4E221	11	弥生土器	甕	4.5	(2.0)	外：タタキ 一部2次焼成

出土遺物一覧表

遺物番号	挿図番号 図版番号	遺構等	地区	区	種類	器種	口径 底径	器高	技法等の特徴
650	第81図 PL.	第3b層	4L232	11	土師器	鍋		(3.1)	不明
651	第81図 PL.	第3b層	4K233	11	瓦器	碗	4.6	(1.8)	外：指押え後ナデ 内：ミガキ
652	第81図 PL.	第3層	3V216	13	陶磁器	備前 揃鉢		(5.0)	内外：回転ナデ
653	第81図 PL.	第3層	3V217	13	陶磁器	備前 壺		(5.8)	内外：回転ナデ
654	第81図 PL.	第3b層	3W218	13	陶磁器	青磁 碗	7.0	(3.3)	内：二条圈線
655	第81図 PL.47	第4b層	4F226	11	弥生土器	壺	16.5	(4.8)	外：凹線紋、竹管円形浮紋
656	第81図 PL.	第4b層	4G227	12	弥生土器	壺	17.0	(5.4)	外：凹線紋（3本）、円形浮紋？
657	第81図 PL.	第4b層	4F225	12	弥生土器	高杯	15.2	(3.3)	不明
658	第81図 PL.	第4b層	4H228	11	弥生土器	高杯	10.0	(6.3)	円孔2穴
659	第81図 PL.	第4層	3Y232	12	弥生土器	器台	15.4	(10.0)	外：凹線紋(3本+1本)、ナデ 内：ナデ脚部5段の(3+2+3+2+3)穿孔
660	第81図 PL.	第4c層	4H229	11	弥生土器	高杯		(6.2)	不明
661	第81図 PL.	第4b層	4G227	11	弥生土器	底部	5.6	(2.7)	外：ヘラミガキ、ナデ
662	第81図 PL.	第4b層	4F225	12	弥生土器	底部	4.0	(2.0)	ナデ
663	第81図 PL.	第4b層	4F227	12	弥生土器	底部	4.5	(1.8)	内：板状工具によるナデ
664	第81図 PL.	第4層	4F225	12	弥生土器	底部	4.0	(2.5)	外：ナデ
665	第81図 PL.	第4c層	4K233	11	弥生土器	底部	5.7	(4.5)	外：タタキ 内：板状工具によるナデ
666	第81図 PL.47	第4b層	4F225	12	弥生土器	底部	4.5	(4.5)	外：ヘラミガキ、指押え、ナデ 内：ナデ
667	第81図 PL.	第4b層	4H227	12	弥生土器	底部	3.6	(5.3)	不明
668	第81図 PL.47	第4b層	4F225	12	弥生土器	底部	4.5	(3.0)	外：タタキ、ナデ 内：板状工具によるナデ
669	第81図 PL.	第4b層	4H228	11	弥生土器	底部	4.7	(2.0)	不明
670	第81図 PL.	第4b層	4F225	12	弥生土器	底部	4.0	(1.8)	外：タタキ、ナデ、2次焼成
671	第81図 PL.	第4c層	4G226	12	弥生土器	底部	4.2	(3.2)	外：指押え、2次焼成 内：板状工具によるナデ
672	第81図 PL.	第4b層	4J228	11	弥生土器	底部	5.1	(2.5)	外：指押え
673	第81図 PL.	第4b層	4H228	11	弥生土器	底部	4.1	(2.1)	外：タタキ、指押え、ナデ
674	第81図 PL.	第4b層	4H227	11	弥生土器	底部	4.3	(2.4)	不明
675	第81図 PL.	第4b層	4F225	12	弥生土器	底部	4.0	(1.7)	外：指押え

出土遺物一覧表

遺物 番号	挿図番号 図版番号	遺構等	地 区	区	種 類	器 種	口 径 底 径	器 高	技法等の特徴
676	第82図 PL.	第5層	4C224	12	弥生土器	壺	15.5	(8.8)	外：ヨコナデ、ヘラミガキ
677	第82図 PL.47	第5層	4C226	12	土師器	壺	4.0	(10.6)	不明、黒斑
678	第82図 PL.	第5層	4B226	12	弥生土器	甕	17.0	(7.9)	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ヘラケズリ
679	第82図 PL.	第5層	4J231	11	弥生土器	甕	14.0	(10.5)	外：ヨコナデ、タタキ後板状工具 によるナデ 内：ヨコナデ、ナデ
680	第82図 PL.	第5層	4C223	12	弥生土器	甕	18.5	(11.0)	外：ヨコナデ、タタキ 内：ヨコナデ
681	第82図 PL.	第5層	4C224	12	弥生土器	甕	14.5	(5.6)	外：ヨコナデ、タタキ 内：ヨコナデ、ナデ
682	第82図 PL.	第5層	4D226	12	弥生土器	高杯	19.6	(5.4)	不明
683	第82図 PL.	第5層	4B225	12	弥生土器	高杯	16.7	(3.3)	外：ヘラケズリ、ヨコナデ、円孔 内：ナデ、ヨコナデ
684	第82図 PL.47	第5層	4B225	12	弥生土器	高杯	11.3	(6.6)	外：ヨコナデ、ヘラミガキ 内：ヘラケズリ、ヨコナデ
685	第82図 PL.	第5層	4E227	11	弥生土器	底部	4.0	(3.6)	外：ヘラミガキ、ナデ
686	第82図 PL.47	第5層	4D223	12	弥生土器	底部	15.8	(4.2)	外：ナデ、ケズリ後ナデ
687	第84図 PL.47	E 630	3V221	12	縄紋土器	壺	24.0	(26.8)	外：ヨコナデ、ナデ、貼付突帯(1 条) 内：ヨコナデ、ヘラケズリ
688	第84図 PL.47	E 630	3W221	12	縄紋土器	底部	14.5	(22.2)	外：ヘラケズリ、ナデ
689	第84図 PL.48	E 618			弥生土器	壺	6.6 4.5	17.2	外：ヨコナデ、ヘラミガキ 内：ヨコナデ、指押え？
690	第84図 PL.	E 618			弥生土器	壺	7.1	(4.9)	外：ヘラミガキ 内：ヨコナデ
691	第84図 PL.	E 618			弥生土器	壺	7.1	(4.5)	不明
692	第84図 PL.47	E 618	4E229	11	弥生土器	鉢	12.3 3.8	8.2	外：タタキ、指押え、ナデ 内：板状工具によるナデ
693	第84図 PL.	E 618	4E229	11	弥生土器	鉢	14.6 4.4	8.7	外：タタキ、ナデ 内：板状工具によるナデ
694	第84図 PL.	E 618			弥生土器	壺	4.7	(8.0)	外：タタキ、ナデ 内：板状工具によるナデ
695	第84図 PL.	E 618	4C228	11	弥生土器	高杯		(6.7)	外：ナデ、ヘラミガキ？
696	第84図 PL.48	E 618			弥生土器	鉢	25.6 6.0	18.1	不明
697	第84図 PL.	E 618	4E230	11	弥生土器	底部	5.0	(3.4)	不明
698	第84図 PL.	E 618	4D230	11	弥生土器	底部	3.6	(2.7)	外：タタキ、ナデ
699	第84図 PL.	E 618	4E229	11	弥生土器	底部	4.0	(4.5)	外：タタキ、指押え、ナデ
700	第84図 PL.	E 618	4D228	11	弥生土器	底部	3.6	(3.1)	不明
701	第84図 PL.	E 618	4E229	11	弥生土器	底部	4.6	(3.7)	外：タタキ、ナデ 内：板状工具によるナデ

出土遺物一覧表

遺物 番号	挿図番号 図版番号	遺構等	地 区	区	種 類	器 種	口径 底 径	器 高	技法等の特徴
702	第84図 PL.	E 618	4E229	11	弥生土器	底部	4.4	(4.3)	外：タタキ、指押え、ナデ
703	第85図 PL.48	E 622	4F229 4F230	11	縄紋土器	深鉢		(3.5)	外：沈線紋、波状口縁
704	第85図 PL.48	E 622	4F229 4F230	11	縄紋土器	深鉢		(6.0)	外：沈線紋、波状口縁
705	第85図 PL.48	E 622	4F229 4F230	11	縄紋土器	深鉢		(4.0)	外：沈線紋（4本）
706	第85図 PL.48	E 622	4F229 4F230	11	縄紋土器	深鉢		(5.0)	外：沈線紋（4本）
707	第85図 PL.48	E 622	4F229 4F230	11	縄紋土器	深鉢		(6.7)	外：沈線紋、波状口縁
708	第85図 PL.48	E 622	4F229 4F230	11	縄紋土器	深鉢		(3.9)	外：沈線紋、波状口縁
709	第85図 PL.48	E 622	4F229 4F230	11	縄紋土器	深鉢		(6.9)	不明
710	第85図 PL.48	E 622	4F229 4F230	11	縄紋土器	深鉢		(3.7)	不明
711	第85図 PL.48	E 628	4E223	12	弥生土器	高杯	11.0	(7.5)	外：ヘラケズリ、ハケ、ヨコナデ 内：ナデ、シボリ目
712	第85図 PL.	E 628	4E223	12	弥生土器	底部	4.0	(5.0)	外：指押え、ナデ 内：板状工具によるナデ
713	第85図 PL.	E 628	4E223	12	弥生土器	底部	5.1	(4.8)	外：タタキ、指押え
714	第85図 PL.	E 628	4E225	12	弥生土器	底部	4.4	(3.8)	不明
715	第87図 PL.48	E 619	4J232	11	弥生土器	壺	18.4	(10.5)	外：凹線紋、竹管円形浮紋 内：ヨコナデ
716	第87図 PL.49	E 619	4J232 4J230	11	弥生土器	壺	18.9	(7.6)	外：ヘラミガキ
717	第87図 PL.49	E 619	4J232	11	弥生土器	壺	12.2	(8.5)	外：ヨコナデ、ヘラミガキ 内：指押え
718	第87図 PL.49	E 619	4J230	11	弥生土器	壺	18.3	(4.8)	不明
719	第87図 PL.49	E 619	4J232	11	弥生土器	甕	24.6	(26.0)	外：ヨコナデ、タタキ 内：ヨコナデ
720	第87図 PL.	E 619	4J232 4J230	11	弥生土器	甕	15.4 4.2		外：タタキ 内：板状工具によるナデ
721	第87図 PL.	E 619	4J232 4J230	11	弥生土器		12.8	(5.0)	外：ヨコナデ、指押え、ナデ 内：ナデ
722	第87図 PL.	E 619	4J232 4J230	11	弥生土器	甕	17.5	(5.5)	外：ヨコナデ、タタキ 内：ヨコナデ
723	第87図 PL.	E 619	4J232	11	弥生土器	甕	16.0	(6.0)	外：タタキ
724	第87図 PL.	E 619	4J232 4J230	11	弥生土器	甕	14.4	(6.0)	外：タタキ
725	第87図 PL.	E 619	4J232	11	弥生土器	甕	15.0	(5.5)	外：ナデ、タタキ
726	第87図 PL.49	E 619	4J232 4J230	11	弥生土器	甕	15.4	(7.3)	外：タタキ、口縁にキザミ目
727	第87図 PL.49	E 619	4J232 4J230	11	弥生土器	甕	4.7	(13.1)	外：タタキ

出土遺物一覧表

遺物 番号	挿図番号 図版番号	遺構等	地 区	区	種 類	器 種	口 径 底 径	器 高	技 法 等 の 特 徴
728	第87図 PL.	E 619	4J230	11	弥生土器	底部	4.4	(3.3)	外：タタキ、ナデ 内：板状工具によるナデ
729	第87図 PL.49	E 619	4J232	11	弥生土器	高杯	19.4	(12.9)	円孔 3 穴
730	第87図 PL.49	E 619	4J232	11	弥生土器	高杯	14.0	(6.0)	円孔 4 穴
731	第87図 PL.	E 619	4J232	11	弥生土器	高杯		(5.7)	円孔 4 穴

報告書抄録

ふりがな	あまがつじいせき・あらたいせき はつくつちようさほうこくしよ							
書名	尼ヶ辻遺跡・荒田遺跡 発掘調査報告書							
副書名	県道泉佐野岩出線道路改良工事に伴う発掘調査							
編著者名	佐伯和也・井石好裕							
編集機関	財団法人 和歌山県文化財センター							
所在地	〒640-8268 和歌山県和歌山市広道20番地 TEL 073-433-3843							
発行年月日	西暦 2001年 3 月							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	° . ' . "	° . ' . "			
あまがつじ 尼ヶ辻	わかやまけんながぐん 和歌山県那賀郡 岩出町尼ヶ辻	32670	24	34度 16分 26秒	135度 18分 26秒	19960717～ 19970116	3,143	県道泉佐野岩出 線道路改良工事 に伴う事前調査
あらた 荒田	わかやまけんながぐん 和歌山県那賀郡 いわでちようほりぐち もり 岩出町堀口・森	32670	6	34度 16分 05秒	135度 18分 33秒	第1次調査 19960815～ 19970131 第2次調査 19970128～ 19970327 第3次調査 19970602～ 19980326 第4次調査 19980106～ 19980326 第5次調査 19980702～ 19990319	1,831 490 2,500 1,017 3,280	同上
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
尼ヶ辻	散布地 田畑	中世	井戸 土坑 柱穴 溝	1基 1基	瓦器・土師器・陶磁器 瓦		中世集落の西側縁辺部か？	
		近世以降	土坑 溝	10基	陶磁器・瓦			
荒田	散布地 集落 田畑	縄紋	遺物包含層 土坑	4基	縄紋土器 後期・晩期 石器		土器は約500点出土、 土坑の時期は後期。	
		弥生	竪穴住居 土坑 土器棺 井戸？ 溝	1基 20基以上 3基 1基 10条以上	弥生土器 中期(多量) 後期 石器 石鏃・石包丁 石斧等		弥生土器は、Ⅲ～Ⅳ様式が 中心。 石器は300点以上出土、内石鏃 は212点を占める。 集落の中心地は、調査地の北 東部か？	
		中世	掘立柱建物 井戸 土坑 溝 谷状地形 流路 鋤溝	6棟 2基	瓦器・土師器・陶磁器 須恵器・瓦・石製品 銭貨（北宋銭）		遺構は今回調査範囲の中央 部に集中、 中世後期には水田化される。	
		近世			陶磁器・瓦		水田耕作に伴う遺構が主。	

図 版



1. 遺跡遠景（北から）



1. 尼ヶ辻遺跡（イ～ハ段 西から）



1. A区 (南から)



2. C区 (北西から)



B区(第1次・2次合成 北西から)



2. D区（北西から）



2. E区（南西から）



1. A区A501西壁面土層



2. B区柱穴検出状況 (B80他)



3. B区柱穴断面 (建物1)



4. B区柱穴断面 (建物1)



5. B1区南東壁面土層



6. D790土層



7. E区上面遺構 (中世溝) 検出状況



8. E630土層



1. イ〜ハ段全景（北から）



2. イ133・142・143（西から）



3. 北195土層



4. イ133（西から）



1. ハ31 (南西から)



4. ハ31 土器出土状況 (南西から)



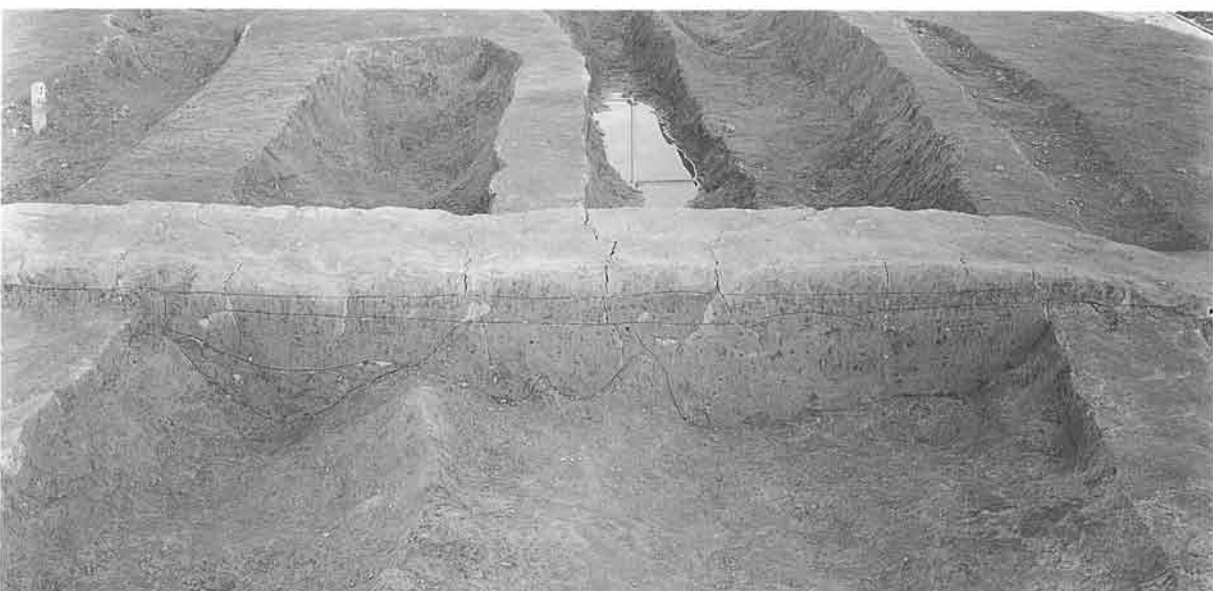
2. ハ段溝状遺構 (西から)



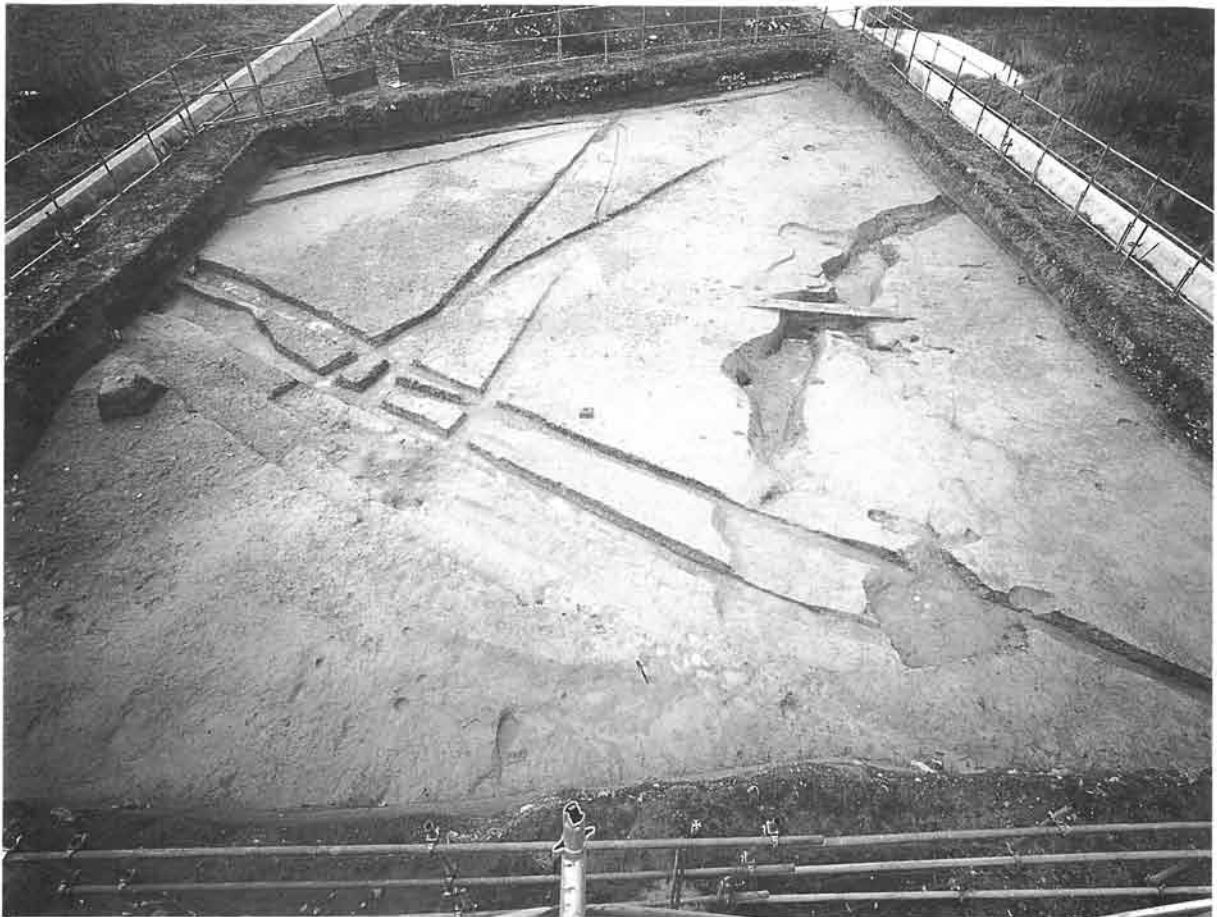
3. 南203土層



5. 南拡張区土層



6. ハ段セッションベルト土層



1. 北拡張区（北から）



2. 南拡張区北半部（南から）



1. A区全景（南から）



2. A501（南から）



1. A 6区全景 (北東から)



2. A 5 0 6 (南東から)



3. A 5 0 6 断面 (南東から)



4. A 5・6区拡張部 (南東から)



1. A 5 1 3 土層



2. A 5 5 6 (北西から)



3. A 5 5 8 (南東から)



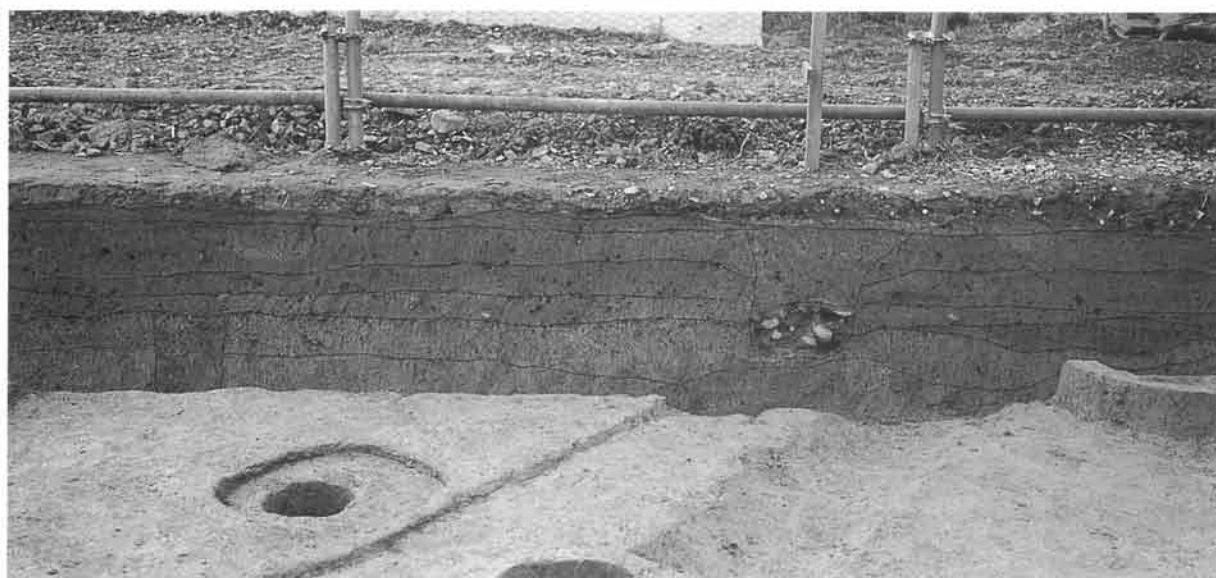
4. A 5 5 6 土層



5. A 5 5 9 土層



1. B区全景（南東から）



2. B1区土層



1. B1区北半部（南東から）



2. B2区全景（東から）



1. B 1 (北西から)



4. B 1 3 (西から)



2. B 1 4 (南東から)



5. B 1 4 土層



3. B 4 0 1 出土状況 (北西から)



6. B 4 0 3 出土状況 (北から)



1. B142・161土層



2. B141 (北東から)



1. B 3 8 1 (北から)



3. B 3 1 5 (北東から)



2. B 3 8 1 土層



4. B 3 1 5 土層



5. B 1 1 8 土層



6. B 4 区全景 (北西から)



1. B1区 建物1・2 (南から)



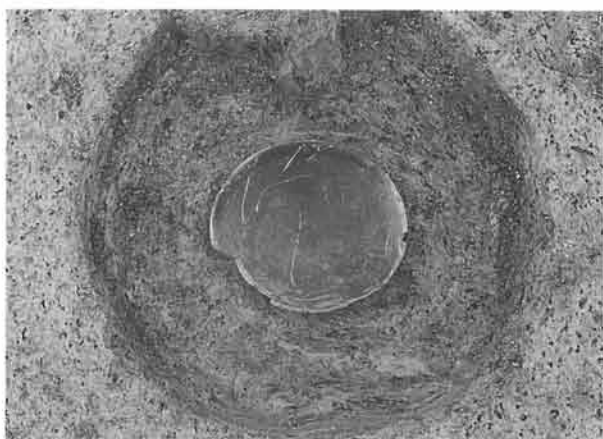
2. B64断面



3. B255断面



4. B87瓦器椀出土状況 (西から)



5. B90瓦器椀出土状況 (東から)



1. B 3 区南半部（北西から）



2. B 3 区 建物 5（北から）



1. B 2 3 2 (南東から)



2. B 2 3 2 断面 (南東から)



4. B 3 0 2 (南から)



3. B 4 0 4 出土状況 (南から)



5. B 3 0 2 土層 (南北方向)



6. B 3 0 2 土層 (東西方向)



1. C区全景（北西から）



2. C14区全景（南東から）



1. C 8 0 5 (南東から)



2. C 7 3 5 (南東から)



1. C701 (東から)



5. C725 土器出土状況 (南から)



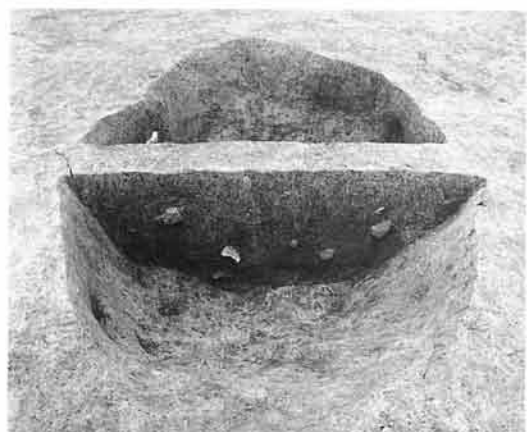
2. C701 土層



6. C15 区拡張部 (南東から)



3. C735 中央部Pit 土層 (南から)



4. C739 土層



7. C703 土器 (596) 出土状況



1. C 7 0 6 (南西から)



2. C 1 5 区第 4 層落込み (南西から)



3. C 7 9 9 土器出土状況 (東から)



4. C 8 0 0 土器出土状況 (北東から)



1. D区全景
(南東から)



2. D区全景
(北西から)



1. D794 (北西から)



2. D794土層



3. D784 (東から)



4. D784土層



1. D790 (南東から)



2. D790土層 (N-N')



3. D790土層 (S-S')



1. D18区南半部（北から）



2. D802土層



3. D798土層



4. D796・797（南から）



1. E区全景（北西から）



2. E11・12区上面遺構（北西から）



1. E 6 3 0 (南から)



2. E 6 3 0 土層 (B-B')



3. E 1 1 区第4C層 土層



1. E 6 1 7 土層 (D-D')



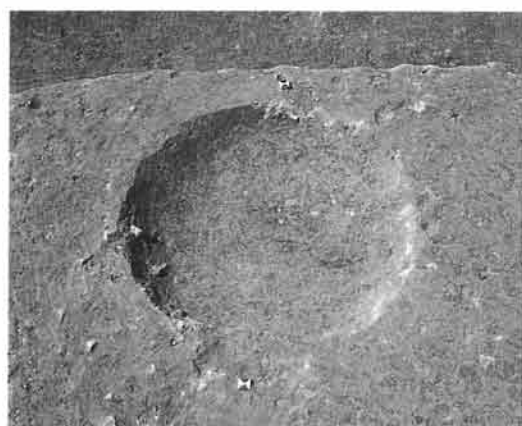
4. E 6 1 7 (北西から)



2. E 6 1 9 (東から)



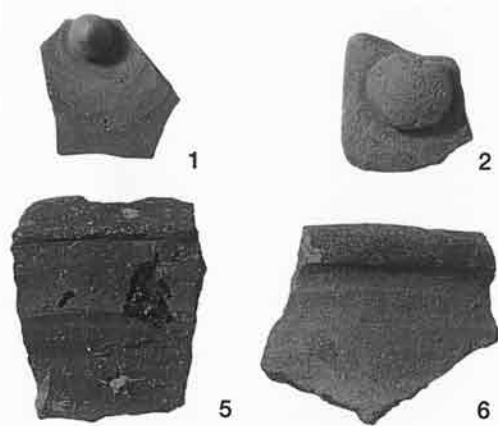
5. E 6 1 9 土器出土状況 (西から)



3. E 6 2 2 (北東から)

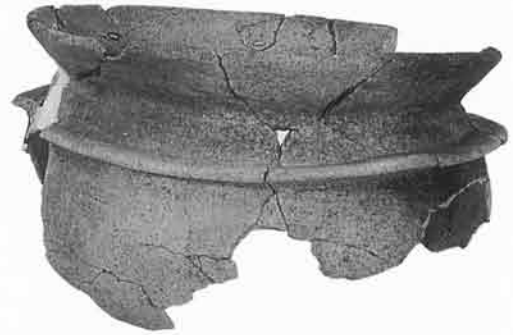


6. E 6 1 8 土層 (C-C')





38



40



43



45



46



46



19



20



21



48



50



23



24



25



49



22



26



47



51



46



51



49



50



52



53



56



65



75



69



91



98



100



104



111



110



119



114



124



126



135



83



84



625



132



133



134



145



150



151



154



155



153



162



164



173



185



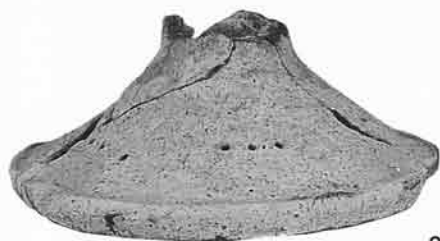
186



227



231



235



255



261



279



278



288



290



293



302



303



304



305



306



308



350



312



351



353



354



355



366



368



367



371



384



380



363



394



395



396



403



413



408



409



411



415



416



423



427



430



434



449



477



482



483



495



494



500



501



502



503



487



515



520



508



526



528



538



551



552



556



563



567



558



568



579



580



582



583



586



585



588



589



592



596



601



600



605



607



611



629



630



631



635



623



647



642



643



655



666



668



677



684



687



686



692



688



689



696



715



711



703



704



705



708



706



709



707



710



716



718



717



719



726



727



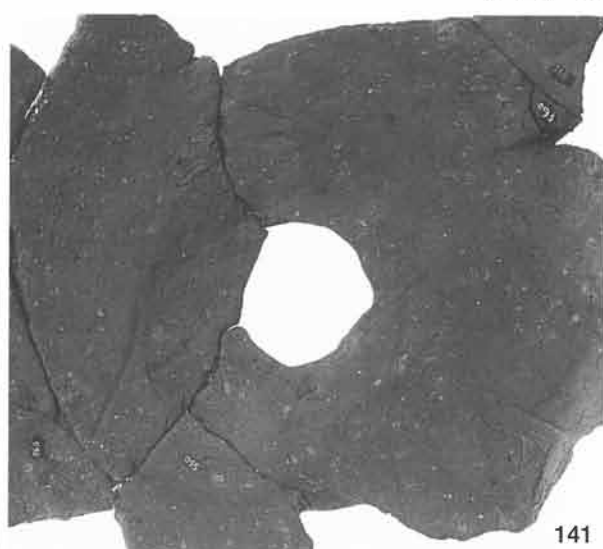
729



730



125



141



220



265



227



337



175



283



396



533



540



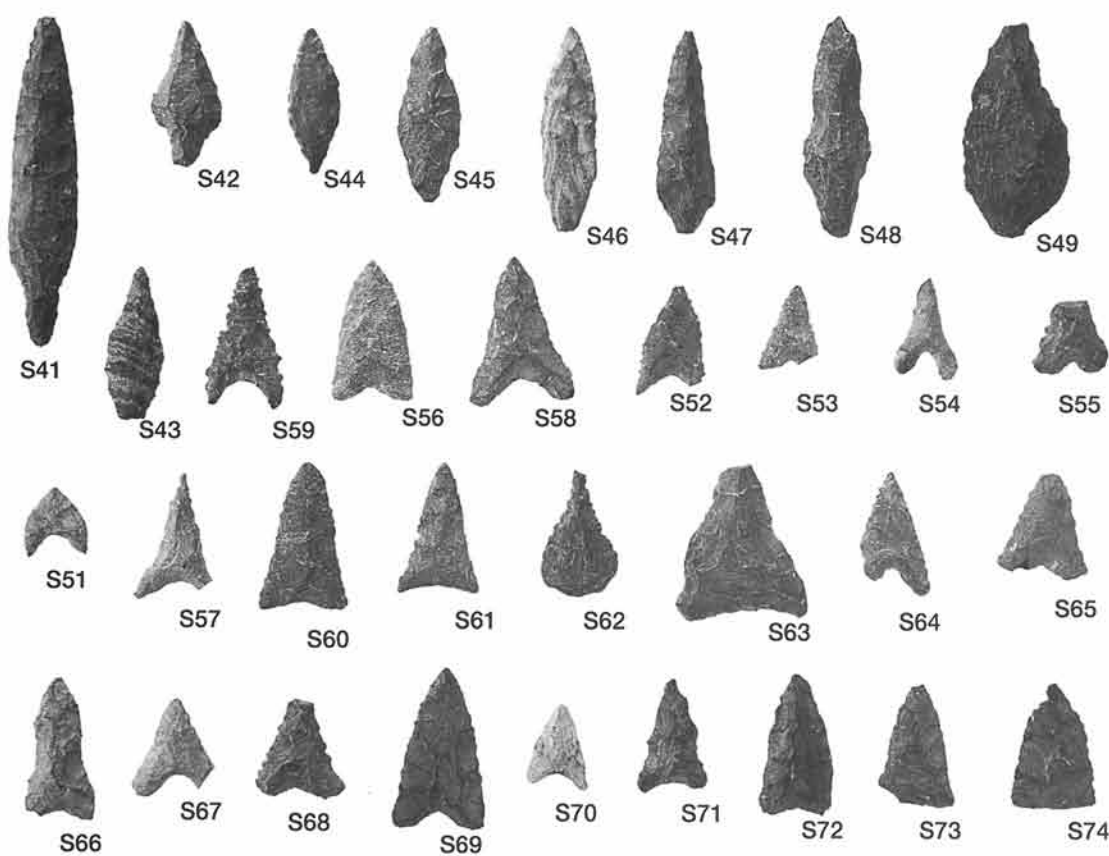
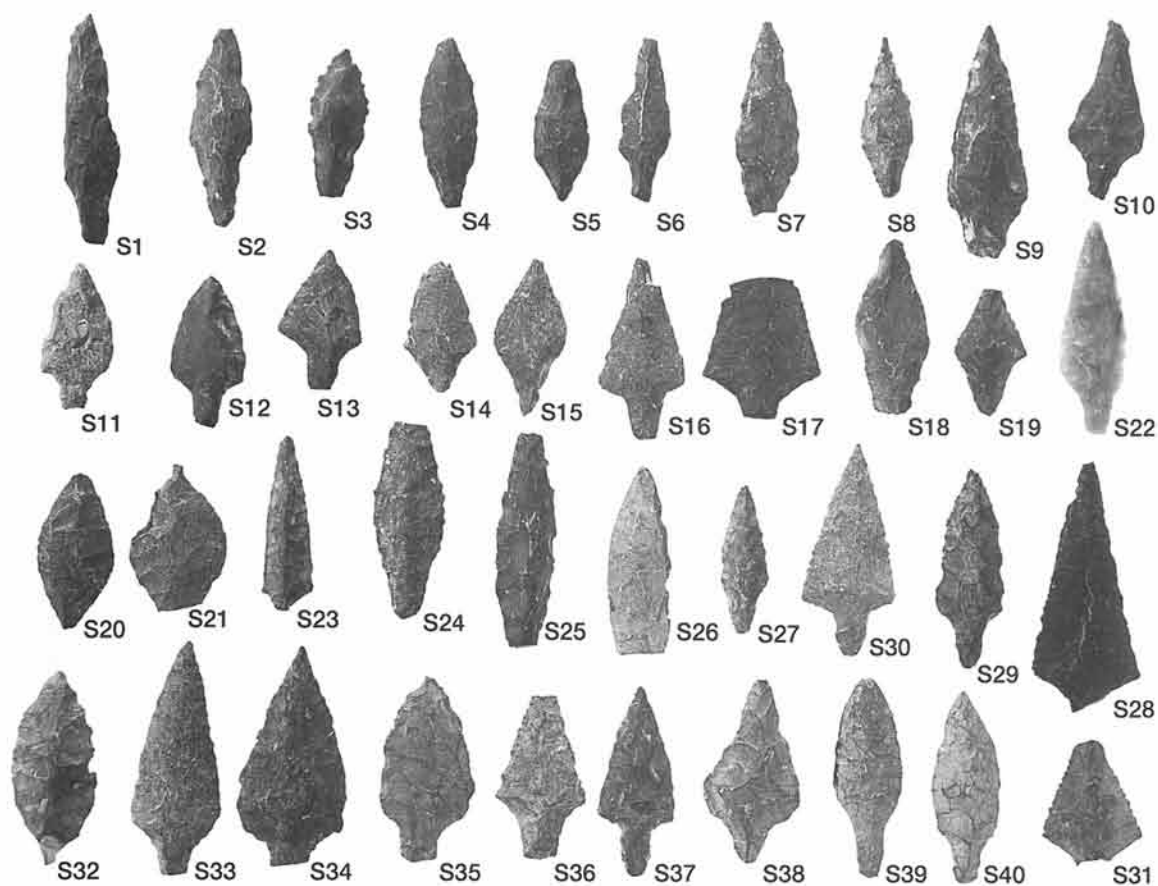
568

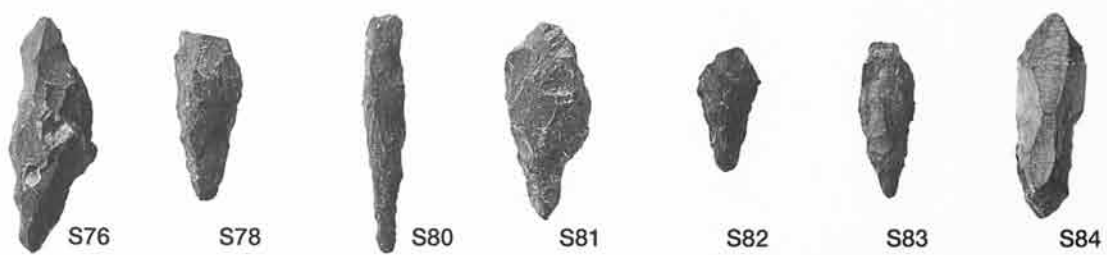


258



538







S114



S115



S116



S117



S118



S119



S89



S109



S122



S123



S121



S125



S129



S132



S128



S130



S131



S103



S134



S136



S139



S140



S141



S147



S146



S143



S144



S145

尼ヶ辻遺跡・荒田遺跡発掘調査報告書

－県道泉佐野岩出線道路改良工事に伴う発掘調査－

2001年3月

編集
発行

財団法人 和歌山県文化財センター

印刷
製本

西岡総合印刷株式会社